大妻コタカ著

毛絲編物全集



東京
女子教育社

メートルを鯨尺に換算した表

一耗 分.3	二耗 分.5	三耗 分.7	四耗 1.分	五耗 1.2分	六耗 1.5分	七耗 1.7分	八耗 2.分	九耗 2.3分	一〇耗 2.5分	
一糎 分2.5	二糎 5.分	三糎 8.分	四糎 10.分	五糎 13.分	六糎 16.分	七糎 18.5分	八糎 21.分	九糎 24.分	一〇糎 28.分	
一一糎 29.分	一二糎 33.分	一三糎 34.5分	一四糎 37.分	一五糎 40.分	一六糎 42.分	一七糎 45.分	一八糎 47.5分	一九糎 50.分	二〇糎 53.分	
二一糎 55.分	二二糎 58.分	二三糎 60.分	二四糎 63.分	二五糎 66.分	二六糎 68.5分	二七糎 71.分	二八糎 74.分	二九糎 77.分	三〇糎 79.分	
三一糎 82.分	三二糎 84.5分	三三糎 87.分	三四糎 90.分	三五糎 92.分	三六糎 96.分	三七糎 98.分	三八糎 100.分	三九糎 103.分	四〇糎 106.分	
四一糎 108.分	四二糎 111.分	四三糎 113.5分	四四糎 116.分	四五糎 119.分	四六糎 121.分	四七糎 124.分	四八糎 127.分	四九糎 129.分	五〇糎 132.分	
五一糎 135.分	五二糎 137.分	五三糎 140.分	五四糎 143.分	五五糎 145.分	五六糎 148.分	五七糎 150.5分	五八糎 153.分	五九糎 156.分	六〇糎 158.分	
六一糎 161.分	六二糎 164.分	六三糎 166.分	六四糎 169.分	六五糎 172.分	六六糎 174.分	六七糎 177.分	六八糎 180.分	六九糎 182.分	七〇糎 185.分	
七一糎 187.分	七二糎 190.分	七三糎 193.分	七四糎 195.分	七五糎 198.分	七六糎 200.分	七七糎 203.分	七八糎 206.分	七九糎 209.分	八〇糎 211.分	
八一糎 213.分	八二糎 217.分	八三糎 219.分	八四糎 222.分	八五糎 224.分	八六糎 227.分	八七糎 230.分	八八糎 232.分	八九糎 235.分	九〇糎 238.分	
九一糎 240.分	九二糎 243.分	九三糎 245.分	九四糎 248.分	九五糎 251.分	九六糎 253.分	九七糎 256.分	九八糎 259.分	九九糎 261.分	一〇〇糎 264.分	
一米 264.分	二米 528.分	三米 792.分	四米1056.分	五米1320.分	六米1584.分	七米1848.分	八米2112.分	九米2376.分	一〇米2640.分	
一一米2904.分	一二米3168.分	一三米3432.分	一四米3696.分	一五米3960.分	一六米4224.分	一七米4488.分	一八米4752.分	一九米5016.分	二〇米5280.分	

婦人子供服標準寸法表

（メートル尺）

年齢	胸圓	背丈	着丈	裄丈	スロース丈
ベビー	42糎	20糎	90糎	32糎	———
	1R1寸	5寸3分	2R4寸	8寸5分	
2	45糎	23糎	43糎	38糎	20糎
	1R2寸	6寸	1R1寸	1尺	5寸5分
3	47糎	24糎	46糎5耗	40糎	23糎
	1R2寸5分	6寸2分	1R2寸	1R0寸5分	6寸
4	49糎	25糎	50糎	42糎	26糎
	1R3寸	6寸5分	1R3寸	1R1寸	7寸
5	51糎	26糎	53糎5耗	44糎	29糎
	1R3寸5分	6寸8分	1R4寸	1R1寸5分	8寸
6	53糎	27糎	57糎	46糎	32糎
	1R4寸	7寸1分	1R5寸	1R2寸	9寸
7	55糎	28糎	60糎5耗	48糎	35糎
	1R4寸5分	7寸4分	1R6寸	1R2寸5分	9寸5分
8	57糎	29糎	64糎	50糎	37糎
	1R5寸	7寸7分	1R7寸	1R3寸	1尺
9	59糎	30糎	67糎5耗	52糎	39糎
	1R5寸5分	8寸	1R8寸	1R3寸5分	1R0寸5分
10	61糎	31糎	71糎	54糎	41糎
	1R6寸	8寸3分	1R9寸	1R4寸	1R1寸
11	63糎	32糎	74糎5耗	56糎	43糎
	1R6寸5分	8寸6分	2尺	1R4寸5分	1R1寸5分
12	65糎	33糎	78糎	58糎	45糎
	1R7寸	8寸9分	2R1寸	1R5寸	1R2寸
大人一号	76糎	34糎	81糎5耗	60糎	47糎
	2R0寸1分	9寸2分	2R2寸	1R5寸5分	1R2寸5分
大人二号	78糎	35糎	85糎	62糎	49糎
	2R0寸6分	9寸5分	2R3寸	1R6寸	1R3寸
大人三号	81糎	36糎	88糎5耗	64糎	51糎
	2R1寸4分	9寸8分	2R4寸	1R6寸5分	1R3寸5分
大人四号	84糎	37糎	92糎	66糎	53糎
	2R2寸2分	1尺	2R5寸	1R7寸	1R4寸

594.3
089

大妻コタカ著

毛絲編物全集

大妻コタカ氏寄贈



東京
女子教育社

大妻学院図書館

33521
61.4.1

東京都千代田区
33521
昭和 41・4・1
大妻学院図書館

毛絲編物全集 目次

一、編物編

編物……一
用具の種類及び用途……二
基礎編
鉤針編
鎖編……四
短編……五
長編……五
すじ編（短編應用）……七
鎧編（短編應用）……七
松編（長編應用）……八
鹿の葉編……九
笹編……一〇
鈴蘭編……一一
疊編……一二
横松編……一三
しがらみ編……一四
棒針編
目の作り方……一五
表編（メリヤス編）……一六
裏編……一六
ガーター編……一七
ゴム編……一七
市松編……一八
鹿の子編……一八
バスケット編……一九
シャツ編……二〇
時雨編……二〇
たづな編……二一
袋編……二一
玉編……二二
引返し編……二二
ピコットの編み方……二三
增目の仕方……二三

目の減し方……二四
伏目編（一名かぶせ目止め）二四
裏二つ一度の仕方……二五
表編の耳の拾ひ方……二五
ガーター編の耳の拾ひ方……二六
鈎針のとぢ合せ方……二六
メリヤス編のつなぎ方二六
ガーター編のとぢ合せ方……二七
ガーター編の接ぎ方……二七
メリヤス編に刺繍の仕方……二八
糸の替へ方……二八
應用編
ペビーコート……二九
嬰兒帽子（其の一）……三四
同（其の二）……三七
同（其の三）……三九
嬰兒用靴下……四一
おむつカバー……四二
二三歳用ヅロース……四四
二三歳用コンビネーシヨン……四五
ねびえ知らず……四七
二三歳用ねびえ知らず五〇
二三歳用ロンパース……五二
二三歳用袖付マント……五
疊編麻の葉マント……五八
疊編麻の葉帽子……六二
二三歳女兒用ドレス……六三
同じく帽子……六七
二三歳用花形編ドレス六九
二三歳女兒用マガレツトオーバー……七四
オチヤン〳〵……七七
二三歳用チヤンチヤンコ（斜横松編）……七九
二三歳女兒用藤編袖なしセーター……八四
四五歳用指付靴下……八六
四五歳用洋服下着……八九
五六歳女兒用春向き袖なしセーター……九一
五六歳用袖なしセータ……九六
六七歳女兒用網代模様セーター……九九
七八歳男兒用セータ……一〇六
七八歳男兒用オーバ……一〇八
八九歳女兒用セータ……一一〇
七八歳用半セーター……一一三
七八歳用筋入ガーター編のチヨツキ……一一五
十四五歳用スポーツ型セーター……一一八
女學生用セーター……一二三
婦人及び女學生向セーター……一二五
大黒帽子……一三二
ベレー帽子……一三三
十三四歳用ベレー帽子……一三五
お辨當袋……一三七
背中布團……一三八
スキー用手袋……一四〇
クッションカバー……一四三
大人用ヅロース……一四六
大人用靴下……一四八
靴下カバー……一五一
保温足袋……一五三
同（指附）……一五四
手拭を利用した食卓掛……一五六
レースの袖口編（その一）……一五八
同（その二）……一六一
ハンカチーフ入……一六三
洋服の衿カバー（その一）……一六六
同（その二）……一七〇
同（その三）……一七二
小テーブルセンターの飾編……一七八
もみぢ形テーブル掛……一八〇
二重丸のテーブル掛……一八四
菊花模様テーブル掛……一八九
桔梗形テーブル掛……一九六
盛花模様テーブル掛……二〇八
春向きショール……二一二
桔梗形花瓶敷……二一六
矢筈模様花瓶敷……二二〇
風車形花瓶敷……二二三
菊形花瓶敷……二二八

タツチング

タツチングについて……二三一
用具……二三一

糸の巻き方 ……二三二
シャッターの持ち方と糸の掛け方 ……二三二
編み方 ……二三三
ピコットの作り方 …二三五
輪にする場合の編み方 ……二三六
ピコットの接ぎ方 …二三七
基礎編
基礎編（その一）……二三八
同（その二）……二三九
同（その三）……二四〇
同（その四）……二四一
同（その五）……二四二
同（その六）……二四三
應用編
羽織紐 ……二四三
花瓶敷 ……二四五

角形手提袋 ……二四八
マクラメレース
マクラメについて …二五五
用具 ……二五五
基礎編
糸のかけ方 ……二五六
七寶結び ……二五六
巻き結び ……二五七
鎖結び ……二五七
應用編
電燈カバー ……二五八
クローバの柴 ……二六〇
ネクタイ ……二六二
手提袋 ……二六五
ドロンウオーク
材料 ……二七一
用具 ……二七一

糸の抜き方 ……二七三
穴かゞりの仕方 ……二七三
基礎縢り
ヘムステッチ ……二七四
千鳥ヘムステッチ …二七四
鼓形縢り ……二七五
鼓形四本結び別け縢り ……二七五
格子縢り ……二七六
石目縢り ……二七六
籠の目縢り ……二七七
應用編
遠足用手提袋 ……二七八
テーブル掛 ……二八二
鏡掛 ……二八五

毛絲編物全集

大妻コタカ著

一、編物編

編物

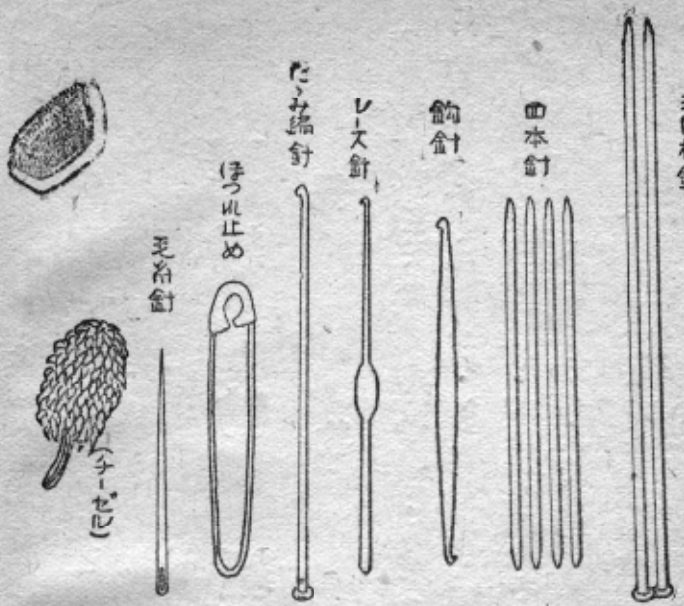
従來趣味の手藝として、觀賞されて居りました編物も、時代の要求と共に、急激な進歩と發達とを示し、ことに、服裝の變遷に伴ひ、衛生上より、また經濟上より、必要缺くべからざるものとなりました、と同時に、近代人の趣味、嗜好に合致し得る點に於て、亦著しく實用價値を高めたことは眞に驚くの外ありません。

しかも編物は、學習に比較的たやすく、婦人の家庭に於ける家政、育兒の餘暇にも充分習得せらるゝもので、用具の簡單であるのと、場所を要さないことが繁雜な家庭婦人の手藝として實に絶好なものであります。

本編は初めて編物を手にせらるゝ方々の便利の爲、特に多くの圖解を附し、基礎編に充分力を注ぎましたから、どんな初學者でも一讀了解の出來るやうに致してあります。たゞ編物は功を急ぞがず、撓ゆまざる根氣をもつて、

其の一日一日をもおろそかにしない注意が肝要であります。

用具の種類及び用途



第一圖　編物に用ふる用具

編物に用ふる用具の種類には鉤針、棒針、ほつれ止め、毛糸針、起毛器等があります。

鉤針　鉤針には角製、象牙製、セルロイド製鐵製、竹製等がありまして、其の中、鐵製はレース糸及び絹糸の類を編む時に用ひられ、其の他は多く毛糸編に用ひられます。

太さにも大小がありますが、これは毛糸の太、細によつて選びます。又鉤針に玉の付いたのがありますが、是は多く扇編に用ひられます。

棒針　これにも矢張り角製、象牙製、セルロイド製、竹製、鐵製等があります。

棒針には〇號より十號位までの番號がありまして、〇號が一番細く、一號、二號とだん〳〵に太くなつて行きます。一番多く用ひられる番號は〇號より五號位までありまして、〇號と一號とは極細編、中細編に用ひられ、二號より三號位迄は並太編、四號五號は極太糸を編む時に用ひられます。

鐵製の針は他の針と異り番號順に段々細くなつて居ります。主に十號、十二號、十四號、十六號位が用ひられます。用途は靴下、手袋等に用ひられますが、細い方は絹糸類の時に使用されます。

ほつれ止め　これは安全ピンの大きい物で、編みかけの目を別の針に移して置く時に是を用ひるのであります。

毛糸針（一名とぢ針）　これは穴の長い先の丸い針でありまして、用途は編、袖下、衿付等をとぢる時用ひ、其の他はガーター編や、メリヤス編等を接ぎ合せる時、又毛糸刺繍等に用ひられます。

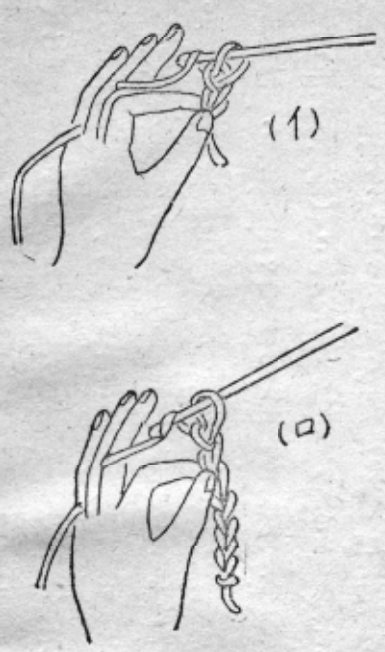
起毛器（ブラシ）　是は植物製のものと、金屬製のブラシとあります。植物製のものはチーゼルと申しまして、穂の先が皆まがつて居ますので、毛起てするには都合が宜しうございます。ブラシは細い針金が毛のかわりになつて針金の先がまがつて出來て居ります。毛立てをする時にはチーゼルか、又ブラシを持つて品物をこすらずに引き上げるやうにして毛を立てるのであります。

基礎編

編方には、次に說明するやうに種々ありまして、基礎編を全部習得してから實物にかゝるのが順序でありますが、實物製作を急ぐ場合は、その一つ〳〵に當つて必要な基礎の編方だけを練習して直ちに實物にかゝつてもよろしうございます。

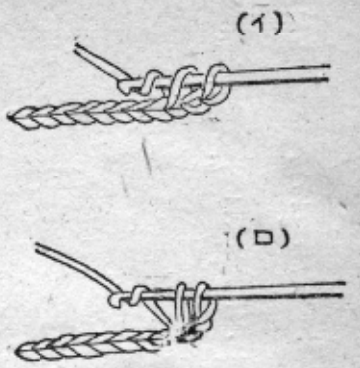
鉤針編み

鎖編



第二圖　鎖編

第二圖(イ)のやうに糸をかけては拔きかけては拔きして(ロ)のやうにあんでまいります。目が堅くなり易いものですから、出來るだけ弛くあむやうに注意いたします。





第三圖　短編

短編

初め必要の數だけ鎖を編み、(イ)のやうに二ツ目に針をさして糸を引き出し、(ロ)のやうに二ツ一度に引き出します。これをくり返して(ハ)の如く編み進みます。

長編

必要の數だけ鎖編をし、更に第四圖(イ)のやうに鎖編を三ツ編んで、針に糸をかけて鎖編の四ツ目に針を通し、糸を拔いて(ロ)のやうに二ツを拔き、更に殘りの二ツを拔きます。

中長編　第四圖(イ)のやうに引き出した



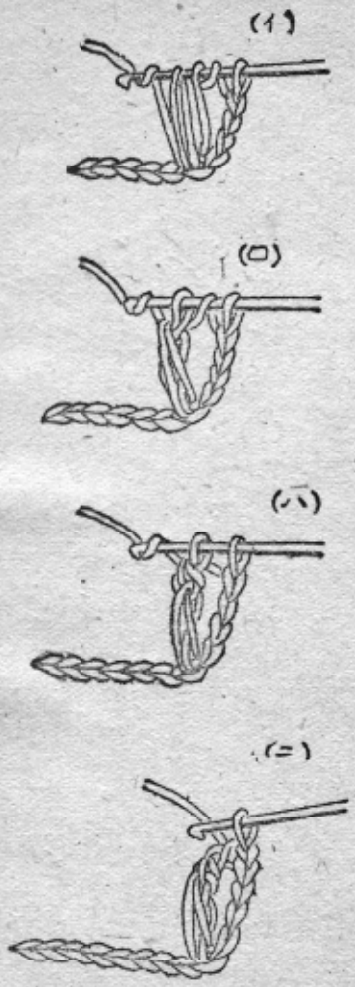




第四圖　長編

三本の糸を一度に引き抜いて、鎖一ツ編みます。

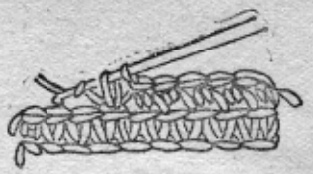
長々編　長々編は、長編をすつと長くする場合に使ふ編方で、長々編の長短によつて鉤針にかける糸の度數が變



第五圖　長々編

りますが適當に糸を二ツ又は三ツ、針にかけて鎖の目に通して糸を引き出し、第五圖(ロ)、(ハ)、(ニ)のやうに二ツづゝ順々に引きぬいて一目になるまではづして參ります。

すじ編（短編應用）

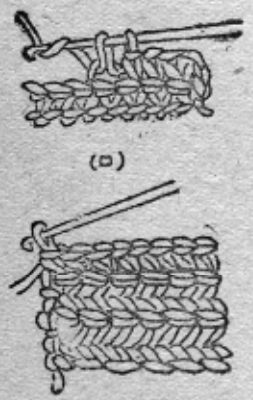


第六圖　すじ編

この編方は短編を重ねて編む時に、第六圖のやうに前段の向ふ側の目だけを抄つて編みます。

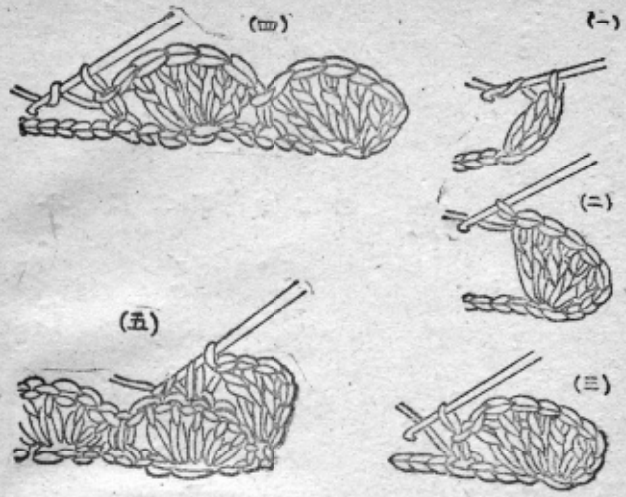
鎧編（短編應用）

これは短編の上に裏返して又短編を重ねて編む時、第七圖(イ)のやうに向ふ側の低い目を抄つて編みます。表側から編み、次に裏返してあんで、表裏交互に(ロ)のやうにあんで行きます。



第七圖　鎧編

松編（長編應用）



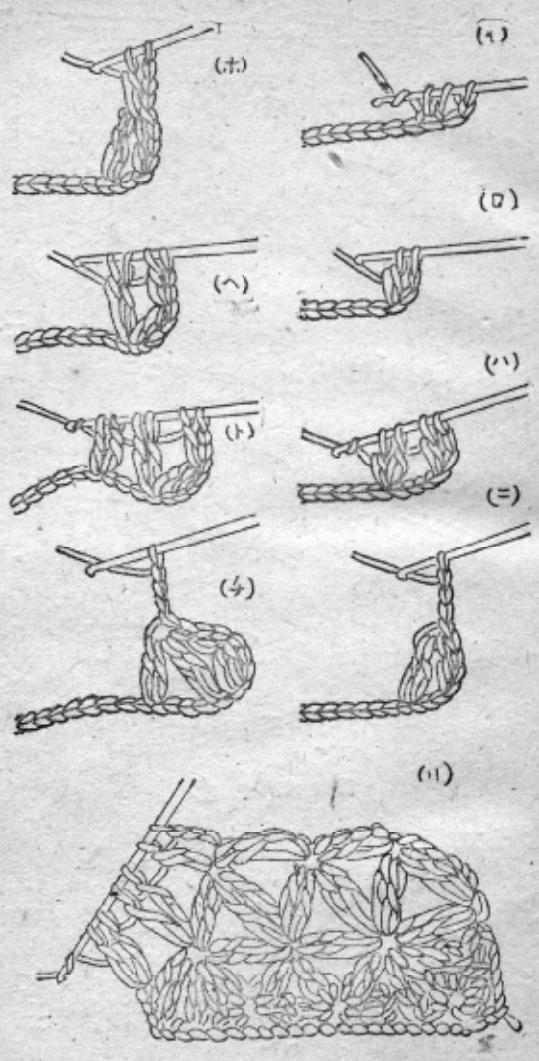
第八圖　松編

六の倍數に一目多く鎖編をいたします。

一段——鎖四ツ目に「長編五」あみ、更に鎖編の三ツ目に「短編一」をあみます。

二段——鎖編三ツあみ、根元へ長編二ツあみまして、次の短編は前段の長編五ツ目の中央に編みます。これを第八圖(五)のやうにくりかへします。

麻の葉編



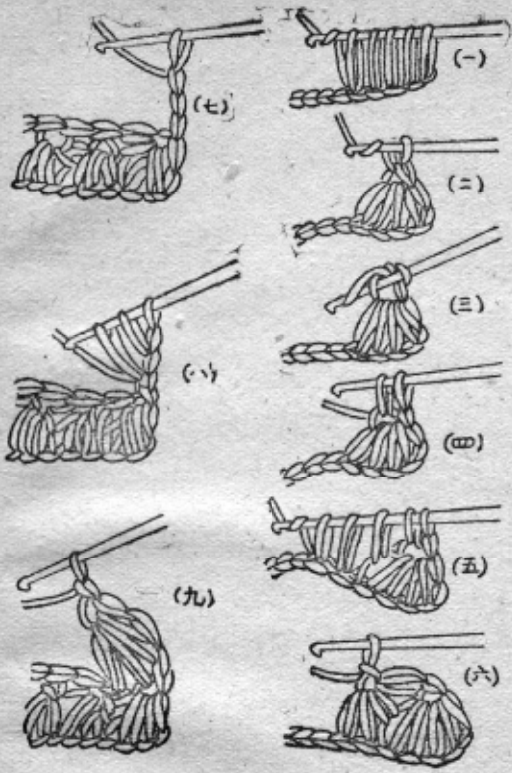
第九圖　麻の葉編

四の倍數に目を造ります。

一段——更に鎖三あみまして四ツ目に長編を一ツして、鎖編でしめます。鎖編三ツして、その根元に半長編一ツして更に初めの長編の根元に半長編二つ編み、最初の鎖の四ツ目に半長編を二ツ編みますと棒に六ツ目がありますて

からこれを全部一度に抜いて鎖編一ツでしめます。更に鎖編三ツしてその根元に半長編を一ツして、前のやうに二段はくりかへします。

二段——裏返して鎖編三ツあみ、その根本に長編一ツ編み更に鎖三ツあみ、その根元に又半長編を編み第二段目の最初の長編の根元に半長編を二ツ編み更に前段の引きしめた中心、即ち鎖四ツの根元に半長編を二ツ編みこれを一度に抜いてあみます。これを第九圖の順にくりかへします。



第十圖　笹編

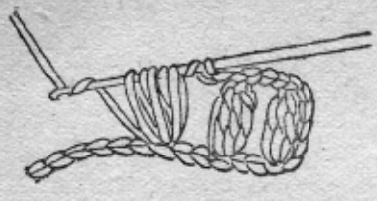
笹編

二目の倍數に鎖編をいたします。

一段——更に鎖三ツして、一目とばして鎖の中から糸を引き抜き四目つづけて四本引き出し、五目一緒に抜き鎖編一ツして引きしめます。次はこの鎖の目を稍長くして、その目の根元から一目拾ひ出し次は前の笹の終りの裏から引き出し、次は鎖二ツ目から引き出して五目一緒に引抜いて鎖編を一ツいたします。

二段——鎖編を二ツして裏側からあみます。

鎖編を引きのばして次の目から引き出し、前段笹の芯（五目引抜いて引しめた鎖）から引き出し芯と芯の間から一ツ引き出して第十圖のやうに順々に編んで行きます。



第十一圖　鈴蘭編

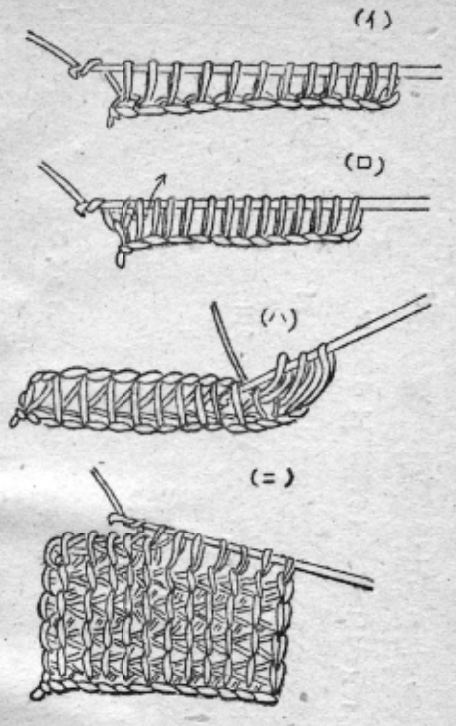
鈴蘭編

三の倍數に鎖を編みます。

一段——鎖四ツ目に、長編のやうに糸を掛けて抜くこと三度つづけて一緒になし、糸をかけて一度に抜いて鎖編を二ツし、二目とばして三ツ目に同様につづけます。

二段——前段の鈴蘭編の上に鎖編五ツあみ前段の鈴蘭編の間の鎖を抄つて一段と同じ編方をします。

疊編



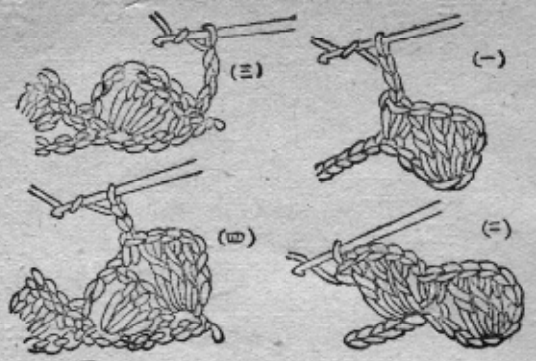
第十二圖　疊編

一段――巾全部の鎖の目から順次に輪を引き出し最初輪の一ツを鎖編して外し、次は順々に二ツづゝ外しながら(イ)、(ロ)の順序に編んで行きます。

二段――(ハ)の様に表に縦に出ている目の間から針を出して前段のやうに糸を引き出して、二ツづゝ抜いて行きます。

疊編に模様をあらはす時は、(ロ)圖のやうに戻る中途で鎖四ツ編んで、(ハ)圖のやうに縦の目を拾ふ時に鎖を前に出して編みますと、ピコットのやうな瘤が出來て、模様によつてこれを適當な箇所に出すと模様が出來ます。

横松編



第十三圖　横松編

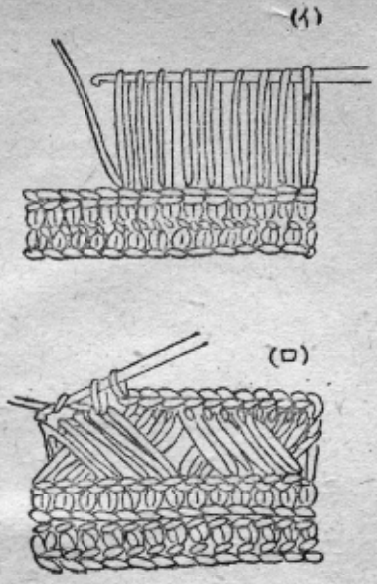
四の倍數に鎖編をいたします。

一段――鎖編四ツ目に長編四ツあみ、鎖編の四ツ目に短編一ツあみます。次に鎖編三ツあみましたら短編一ツあんだ所に長編を四ツあみ鎖四ツ目に短編でとめ、これをくりかへします。

二段――鎖編を四ツあみます。根元に長編四ツあみ、前段の鎖編の山に短編一ツして鎖編三ツあみ、前段の鎖の中に長編四ツをあみます。これを十三圖のやうにくりかへします。

しがらみ編

六の倍數に一を加へた目を作ります。



第十四圖　しがらみ編

一段——短編一段あみます。

二段——鎖編を一段あみます。

三段——短編のやうにして糸をのばします。第十四圖(イ)のやうに一目に一目づゝの糸を長く引きぬいて置きます。

四段——長く引き出してある糸目を三ツづゝ分けて、最初(右側)の三ツの目の中に次の(左の)目を、三ツをくゞらせます。第十四圖(ロ)からして全部を組み合せて置きます。そして裏返して、組み合せた目を一目づゝ拾ひながら短編をいたします。

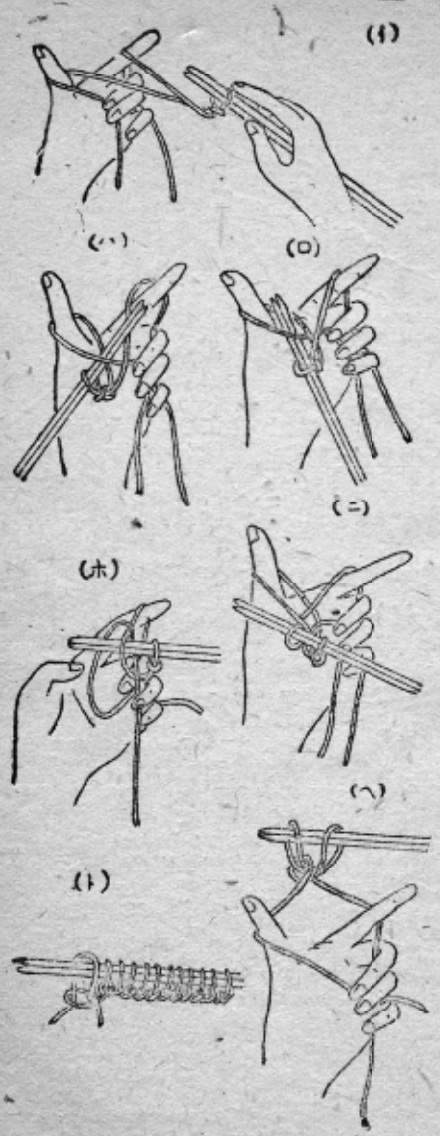
五段——前段のやうに鎖編を三回いたします。

六段——第二段目以下と同樣にあみます。

棒針編

目の作り方

第十五圖の順に棒針を二本揃へて目を作ります。

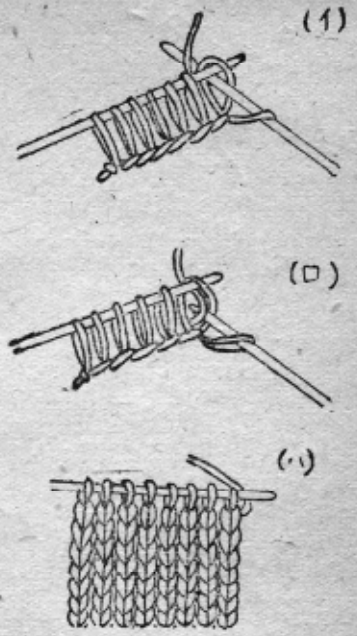


第十五圖　目の作り方

表編（メリヤス編）

第十六圖のやうに右手の針を左の目手前から向の方にさして下より糸をかけ（イ）圖のやうにして、次に糸を（ロ）圖のやうに抄ひ出して左の目をはづします。（イ）（ロ）をくり返すと（ハ）圖のやうに出來ます。

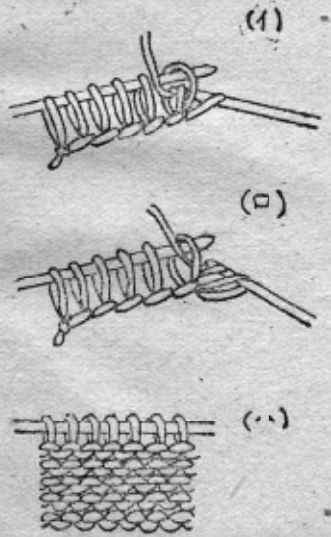
第十六圖　表編



裏編

第十七圖（イ）のやうに左針の上に右針を出して向ふより糸をかけ（ロ）圖のやうに針を抜き右針の輪をはづします。（ハ）圖

第十七圖　裏編

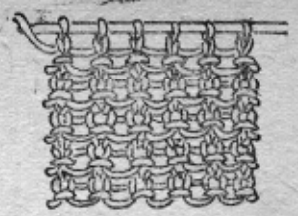


ガーター編

ガーター編は、初め表編を一行し、裏返して歸りも表編をいたします。これをくり返すと第十八圖のやうになります。ガーター編に限つて一往復を一山、又は一段と云ひます。

段毎の終りの一目は、編まずにそのまゝ右針にうつす事もあります。

第十八圖　ガーター編



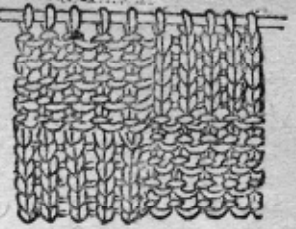
ゴム編

ゴム編の表裏の目數は好みによつて定めます。一目おき、二目おきのゴム編は一番廣く用ひられております。二ツおきのゴム編を說明いたします。第十九圖のやうに表編二、裏編二と交互にあみます。次段は表編の二の上には表編二ツをあむやうにいたします。

第十九圖　ゴム編



市松編



第二十圖

この編方は五の倍數にいたします。

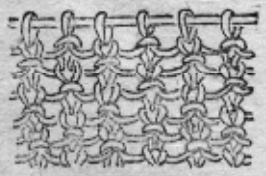
五段目毎に變つてあみます。

市松　第二十圖のやうに表編五、裏編五を交互にあみ同じ模樣になるやうにあむ、六段目は表編の上に裏編をして反對にあみます。五段あみましたら又第一段目のやうに編みます。これは五つでございますが二、三、四、六、七、いくつでも良ろしいのです。

編

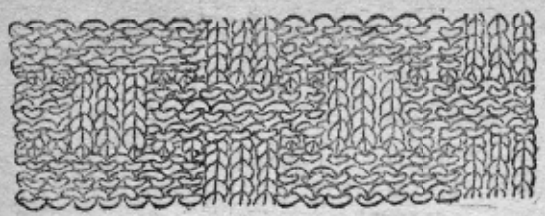
鹿の子編

第二十一圖のやうに市松編を一ッづつにしまして一段おきにかへますと鹿の子編になります。



第二十一圖　鹿の子編

バスケット編



市松編と似ておりますが、バスケット編はガーター編の中に表編で模樣を遺つて行くのであります。

第二十二圖のやうに、十の倍數に目を造ります。

第二十二圖

一段——裏編七、表編三編みます。

二段——裏編三、表編七、編みます。

三段——一段に同じ。

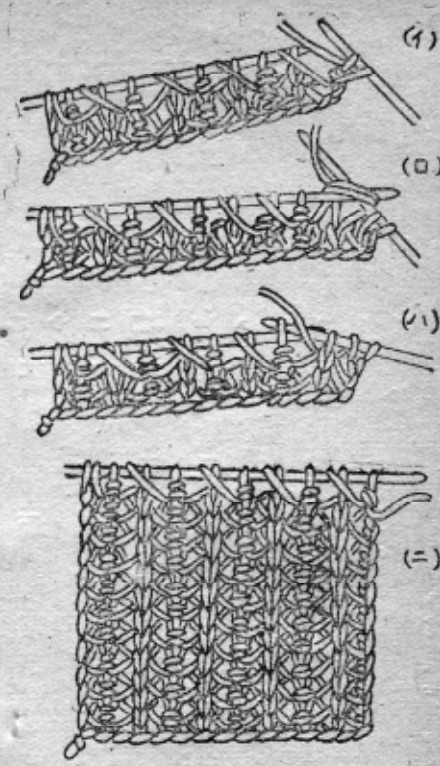
四段——二段に同じ。

五段——二日裏編をして「表編三、裏編七」終り裏編七あみます。（前段の表編の中央に表編が三つあめる事になります）

六段——表編五、「裏編三、表編七」終りに裏編二つ、七、八段は、五、六段をくり返します。

九段——一段に戻つて模樣を交互に編みます。

編



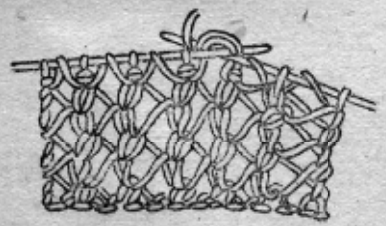
第二十三圖　レヤツ編

シヤツ編

三の倍數に目を造ります。

一段——一目編ませずにうつして糸を手前によこして二ツ一度、「糸をかけて一日うつして二ツ一度」を繰返す。

二段——第一段と同樣にあみます（第二十三圖參照）



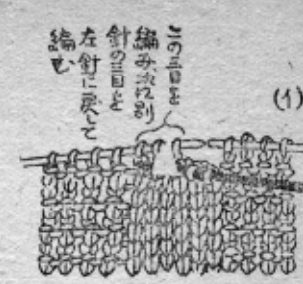
第二十四圖　時雨編

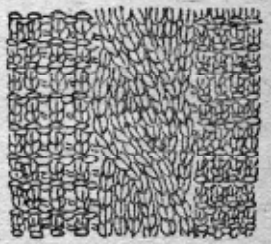
時雨編

偶數に目を造ります。

右針をかけ糸の下より出して左針の二目を一度に表編をいたします。

「かけて二日一度をつゞけます。各段同じく繰り返します。（第二十四圖參照）





第二十五圖　たづな編

たづな編

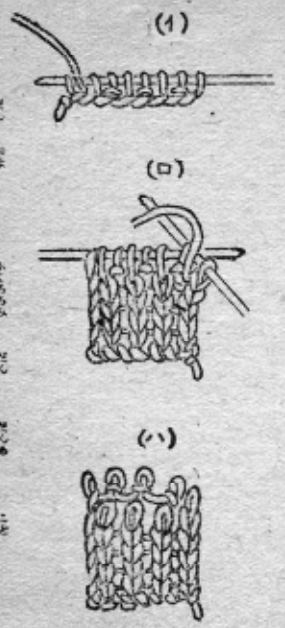
十の倍數に目を造ります。

一段——「ガーター編四、表編六」をくりかへします。

二段——裏編六、ガーター四を繰り返します。

八段まで一段、二段を繰り返します。

九段——表編の六ツを三ツづゝに分けて右の方の三ツを下から左に移し、左を右の方に上から持つて來て目を入れ替へて前段と同樣にあみます。以上八段毎に表編の目を交互にかへて行きます。（第二十五圖(イ)(ロ)參照）

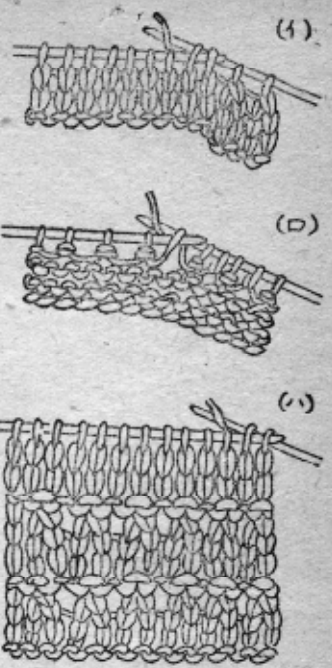


第二十六圖　袋編

袋編

一段——表編を一ツし糸を手前によこして、左針の一目を編まずに右針にうつし、糸を向ふへまはして表編一ツあみ、次は編まずにうつす。これをくりかへします。

二段——一段と同じ。この袋編は二段で一段編める事になります。



第二十七圖　玉編

玉編

偶數に目を遣ります。

一段——表編全段あむ。

二段——裏編全段あむ。

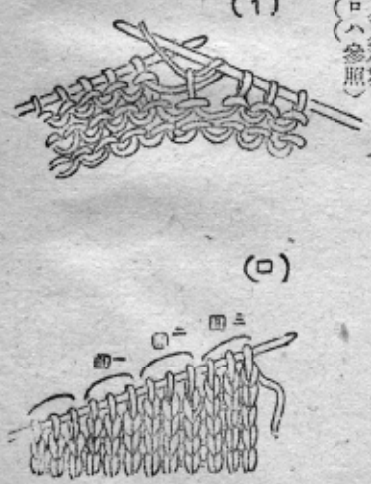
三段——二目一度に全段あみます。

四段——表編を編む時に前段の二目一度の間の目を一目づゝ拾つて表編を一段あみます。

五段——第一段にもどつて以上くりかへします。（第二十七圖イ）（ロ）（ハ參照）

引返し編

是は肩の下り或はチヨツキの前先などを作る時に此の編方を用ひます。下りの多い少いに依りまして異ひますが、先づ普通は三目位づゝ殘してあともどりを致します。第二十八圖（イ）（ロ）のやうにもどる時には



第二十八圖　引返し編

一目編まずに右の針に移して次の目から編んで行きます。此次もこゝで引返す時は前の三目共六目殘して後戻りします。其時も始めの目は一目右の針に移して次の目より編んでゆくので、其の目數に依つて繰り返すことになります。

ピコットの編方

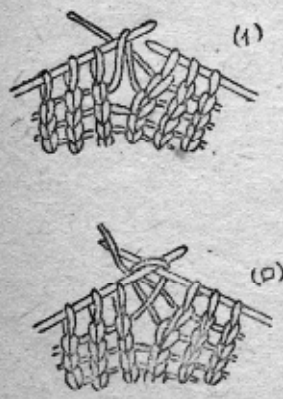


第二十九圖　ピコットの編方

第二十九圖（イ）のやうに三ツ鎖を編み、（ロ）のやうに根元に短編で綴けますと（ハ）のやうなピコットが出來ます。

增目の仕方

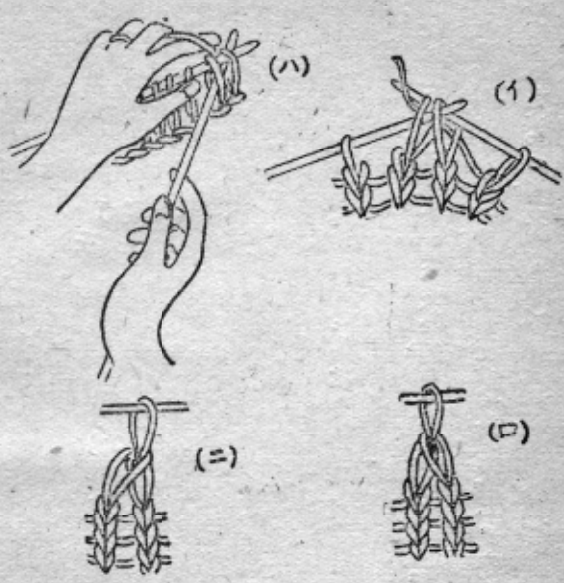
目の增し方には色々な方法がありますが、編みながら目の間々で增し目する時には、目と目の間の糸を左の針にすくひ取り、一ツねじつて編むのであります。（第三十圖參照）



第三十圖　增目の仕方

目の減し方

是も色々の方法がありますが、目を一ツ減す時は、二ツ一度を表します。それは左と右がありまして、左は第三十一圖(八)のやうに左の方から針を通して二ツ一度に編みますと、(二)圖のやうになります。又右二ツ一度は、右の方より針を左の方に(イ圖)向つて通して(ロ)圖の様に編みます。



第三十一圖　目の減し方

伏目編(一名かぶせ目止め)

是は主に目を止める時に用ひます。又衿肩を止める時などに用ひます。第三十二圖のやうに今編んだ目に、前に編んだ目をかぶせて、又次の目を一目編んで、前の目をかぶせて順々に止めるのであります。



第三十二圖　伏目

(一)右裏二つ一度



(二)左裏二つ一度



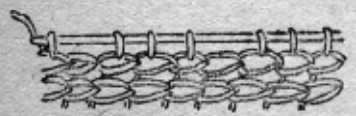
第三十三圖　裏二つ一度の仕方

裏二ツ一度の仕方

普通の裏編で二ツ一度に編みますのは、右の方より左の方に向つて第三十三圖(一)の如く針を通して編みます。又左裏の時には左の裏方より(第三十三圖の(二)右の方に向つて二ツ一度に編むのであります。

表編の耳の拾ひ方

第三十四圖のやうに、おもにメリヤス編の時に用ひるのでありまして、例へば、袖を編む時に目を拾ふ時、又は衿まはりの目を拾ふ時などは皆此の方法にいたします。圖は一目とんだ處がありますが編んで居るものに依り又目數の都合に依つては一目も飛ばさずに拾ふ場合もあります。



第三十四圖　裏編の耳の拾ひ方



第三十五圖
ガーター編の耳の拾ひ方

ガーター編の耳の拾ひ方

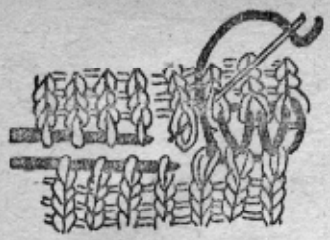
此拾ひ方もメリヤスと同じ場合に同じやうに致します。（第三十五圖參照）

鉤針のとぢ合せ方

鉤針で兩耳をとぢ合せる時は兩耳を揃へて第三十六圖のやうに引ぬき編を致します。



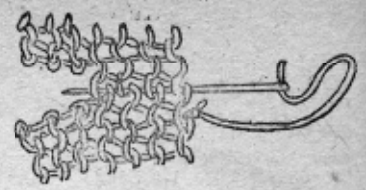
第三十六圖
鉤針のとぢ合せ方



第三十七圖
メリヤス編のつなぎ方

メリヤス編のつなぎ方

メリヤス編を編ぐ時は、編み終りの糸を續がうとする巾の數倍に切り、とぢ針に通して、反對側の目の裏側から表に出し、向ふ側の表から裏に入れ、隣の目の裏から表に出し、反對側の始めに糸を出した目にもう一度表から裏に入れ、隣の裏から表に出します。これを繰返して第三十七圖の如くとぢて行きます。終りは裏に針を出して一針かゞつてとけないやうにとめて置きます。



第三十八圖
ガーター編のとぢ合せ方

ガーター編のとぢ合せ方

耳のガーターの場合には第三十八圖のやうに兩耳のこぶ〳〵を互ひ違ひにとぢ針で拾つて合せるのであります。

ガーター編の接ぎ方

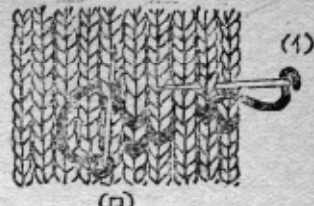
第三十九圖　ガーター編の接ぎ方

きづ始めはガーター編の一山編んだものと、もう片方は一山の內を半山だけ編んだものとをつき合せるのであります。半山編んだ方を手前の方におき、表目の出た方を向側にまはしておきます。始めは右端の手前側の目の裏から表へ針を出し、向側の目の裏から表へ、次の目の表から裏へとすくひ出すのであります。手前側の今くゞらせた目の表から裏へ、次の目の表から裏へと順々にくゞらせて、第三十九圖のやうに右から左の方へと接合せるのです。

メリヤス編に刺繍の仕方

メリヤス編に變色糸で模様を表はすのであります。刺繍する圖案と變色糸は編んだ地色と調和する色を選びます。

始め、とぢ針に變色の糸を通して、縫ふ模様の左下の方の、目の裏から表に針を出して、其の目の上の方から右より左向きに一目横に抄つて針をぬきます。次は其の目の中央を縦に抄ひ出します。これで一目の刺繍が出來たのであります。（第四十圖參照）此の方法を續けて好みの模様を圖案通りに縫ふのでありますが、縫ふ順序は下から上へと順々に刺しますと、奇麗にも出來、又刺し易いのであります。



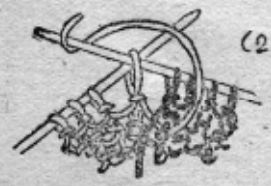
第四十圖　刺繍の仕方

糸の替へ方

地糸の間に變色糸を入れようとする場合は、變色糸で一目作り地糸の目に結びつけ、變色糸で編んで行きます。變色糸を編む幅の廣い時は、休んで居る地糸を二種置き位に、編糸に絡げながら編んで行きます。二段目からは糸を變へる時に、一つ捻つて編みます。

メリヤス編、裏編、ガーター、何れの場合も同じ方法でいたしますが、ガーターの時は、表から編む時に糸を替るやうに注意を要します。第四十一圖(1)、(2)、を御參照下さい。





第四十一圖　糸の替へ方

備考

以下説明中に鎖編を鎖と、表編を表、裏編を裏と略して書く事があります。

應用編

ベビーコート

材料　白中細毛糸六オンス、一糎幅リボン五十糎位。

用具　角の鈎針細いもの一本。

編み方　このコートは首廻りから編み初めます。

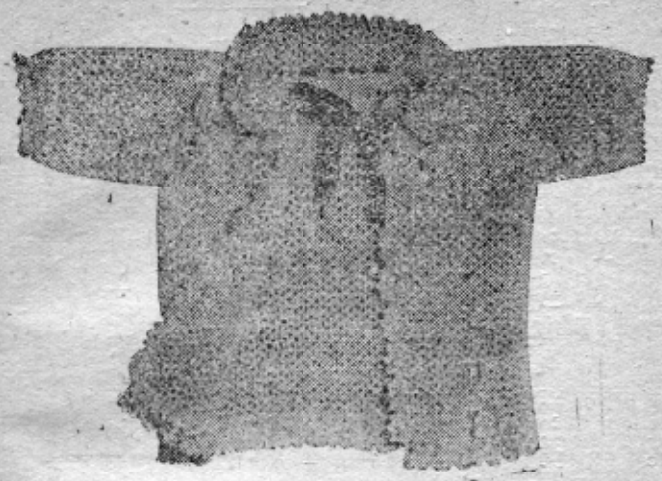
編め鎖を百一ツ作り、こゝから後戻りて次の目から短編をして十五目の處まで編んで參りましたら、この目に三

ツ短編を入れます。又次の目より短編をして、二十目の處まで編みましたら、又三ツ入れます。其の次は三十目の處に三ツ入れ、次は又二十目の處に三ツ入れて、次は十五目で終りになります。其處で鎖一ツをして後向きに返へし、又短編を續けて參ります。

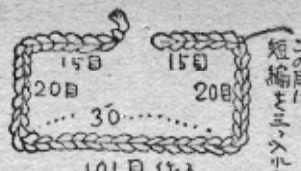
前段の一目に三ツ入れた處には、三ツの眞中に、又三ツ入れるのであります。そして二段目からは、目の向側の一筋に針を通して編むのであります。さうしますと、編目に高低が出來て、鑑の樣になります。これを八段編みまして（第四十三圖參照）次は胴廻りにうつります。

第四十四圖の如く、（イ）の部に糸を付け三ツ鎖を編み、目を二ツとばして、三ツ目に長編一ツを入れ、鎖二ツを編み、同じ處に長編一ツを入れる、又二目をとばして長編一ツを入れ、二ツ鎖を編み、同じ處に長編を入れる。これを繰り返して（ロ）の部まで編みましたら鎖を二十四編みます。さうして（ハ）の部に長編で附け、又鎖二ツを編み、同じ處に長編を入れる。

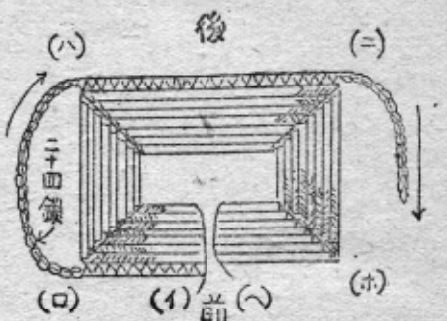
（ハ）から（ニ）までを（イ）から（ロ）までと同じ編み方で編み、これを繰り返して（ニ）の部まで編み、又二十四の鎖を編み、（ホ）の部まで編みます。それより（イ）から（ロ）の間と同じく（ヘ）の部まで編みましたら、（ヘ）の部の處で鎖三ツして、第四十五圖のやうに、裏に返し、前段の長編も長編の間に鎖二ツ入れた處に長編を一ツ入れ、鎖二ツを編み、同じ處に長編一ツを入れる。これを繰り返して後戻りをして前に二十四鎖を編んだ處は二目とばして同じ編方を續けます。これを三十段編みます。三十段出來上りましたら裾の飾りを編みます。



第四十二圖　出來上り圖



第四十三圖



第四十四圖

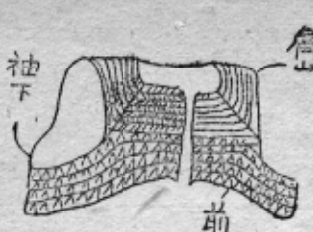
（二十四目の鎖は自分の分と袖附のみとなる）

裾飾りの編み方

三ツ鎖を編み裏に返して鎖二ツの中に長編一ツを入れ三ツ鎖を編み、元の目に短編で附ける。又同じ處に長編を一ツ入れる。これを裾全體に編みまして糸を切ります。

袖の作り方　袖は前に二十四鎖編みした處の袖附明に編みつけるのであります。

始め第四十六圖のやうに、身頃を正しく二ツ折りにして前側肩山から袖付明きの三分の一の處に糸を付け、付けた處から二日とばして長編をなし、鎖二ツを編み、同じ處に長編を入れる。これを繰り返して、後側袖附の三分の一の處まで編み前側と同じ形になるところまで編みます。



第四十五圖



第四十六圖

さうして二目とんで短編で付ける。裏に返して前段の鎖二ツの處に長編を一ツ入れ、鎖二ツを編み同じ處に長編一ツを入る。これを繰り返して向側の終りに短編で付けた處まで長編を入れます。さうして次の目を二目とばして短編で付けます。又裏に返して今の長編と長編の間に鎖二ツ入れた處に長編一ツを入れ二ツ鎖を編み、同じ處に長編を入れる。この段は三回目でありますから、返らずに全體の廻りを一周します。袖下の鎖の處は胴廻りにならつて、胴の長編が編んである所に入れるのであります。これを十二段ぐる〳〵廻りましたら袖口に移ります。

袖口の作り方　袖口は前の長編と長編の間々に短編を一ツづゝ入れて一段編みますと、袖口が半分の廣さになります。これを繰り返して四段編みます。それから袖口飾りをいたします。袖口飾りは胴や袖と同じ編み方ですが、是迄長編と長編の間を二目おきに編んだ處を袖口丈け一目おきに今までの長編をいたします。長編と長編の間の鎖は矢張り二つづゝ編みこれを四段いたしますと口の處が少し廣がり加減になります。最後の緣飾りは裾飾りと同じやうに致します。

衿の付け方　衿は一番初めの鎖編の處に糸を付け、鎖五ツを編み、二目とばして長編一ツ鎖二ツ、二目とばして長編一ツ、これを一段してリボン通しといたします。次は鎖三ツして最初の桝目に長編一ツ鎖二ツ、又同じ桝目に長編一ツ、次の桝目に長編一ツ、これを繰り返して四段編みます。

五段目は裾や袖口と同じ緣飾りを付けておきます。

前巾の飾の付け方は長編を一ツ置きに丁字編の飾を付け、前に用意して置きましたリボンを衿のあみ初めのリボン通しの長編を一ツ置きに通して前の方で結んで置きます。

丁字編の編み方　丁字編は上前の首きはりの鎖編の初めの處に糸を付け、鎖編の二段目の處に長編を入れ、鎖二ツを編み長編の頭に短編で付け、長編と同じ處に長編を入れて鎖三ツして長編の頭に付ける。これを四回編み

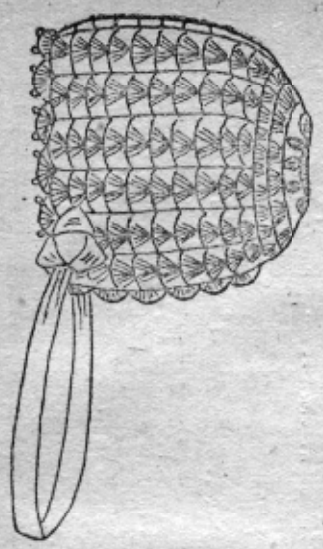
まして鎖編の二段目に短編で付けます。つまり松編の頭にピコットのついたものです。鎖編の處が終りましたならば、長編の所は長編の横目を一つ置きに丁字編を入れて、一ツおきに短編で付けます。右前の方は裾の方より紐を付けて編み上げます。

嬰兒帽子（其の一）

材料　極細毛糸一オンス二本合せ、リボン二糎幅五十糎内外。

用具　毛糸用鉤針

編み方　後頭部よりぐる〳〵丸くあみ、後頭の所だけ殘して、表、裏交互に漸次前へ編んで參ります。



第四十七圖　出來上り圖

一段——鎖編五ツ編み、編み初めの日に引き抜きで止めて輪にいたします。

二段——鎖編三ツして輪の中に長編を二十編みます。

三段——鎖編三ツして、その根元に鈴蘭編を編み、鎖三ツして前段の長編の日を一ツおきに鈴蘭編を編みます。これをくりかへして一周しますと、鈴蘭編（玉編）が十出來る事になります。鈴蘭編は基礎編の中にも說明してあるやうに「かけて抜き」を長編のやうにして三回し、それを最後に一度に引き抜いて鎖編一ツで止めます。

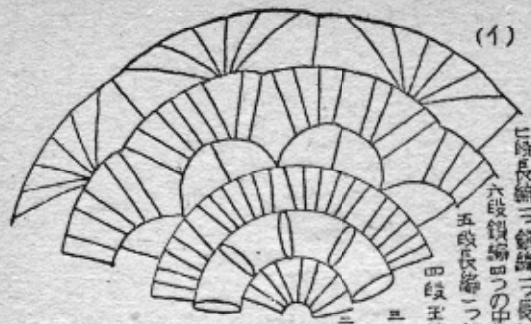
一周編んだ終りは、段變りの時編んだ鎖三ツの頭に引き抜きにいたします。

四段——鎖三ツして鈴蘭編の間に「長編六ツ、鎖編一ツ」を一段あみます。

五段——鎖編三ツして更に「鎖編四ツ編み前段の長編三ツ目に短編を編み鎖四ツして前段の鎖編一ツの中に長編一ツ」編みこれをくりかへします。

六段——鎖三ツして前段の鎖編四ツの中に長編を四ツづゝ編み一周します。

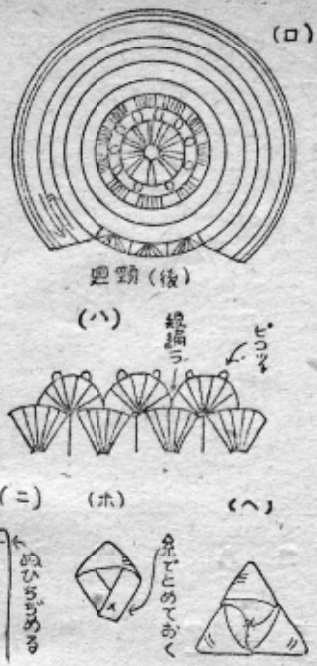
七段——前段の長編四ツの上に引き抜きを二ツして、四ツの眞中まで來て、鎖三ツ編み、更に鎖一ツして次の長編



第四十八圖

四ツの中央に「長編六ツ鎖編一ツして又次の四ツの間に長編一ツ鎖編を一ツ」ゑみ「／」の中をつゞけて一周りします。（第四十八圖參照）

八段——裏側にむけて逆に引返して引き抜きを二ツ編み前段の長編一ツの上まで來て又表側に向け、鎖編三ツあみ前段の長編六ツの中央に前段と同樣長編六ツ編みます。第四十九圖（ロ）のやうに「長編六ツを三ツ、長編一ツ」を二ツを殘して九段にうつります。



第四十九圖

九段——裏側に向けて鎖編三ツして前段の通りに編んで八段から先を十段あんで飾り編をいたします。

飾りの編み方　頭の方は第四十九圖（ハ）のやうに長編一ツの上に「長編二ツ、ピコット一ツ、長編二ツ、ピコット一ツ、長編二ツ」をあんで松編の上には短編を一ツあみ、これをくりかへして飾りといたします。

頭の方は長編の角々を一ツおきに松編と短編とを交互に一段あみます。編み方はこれで終りました。

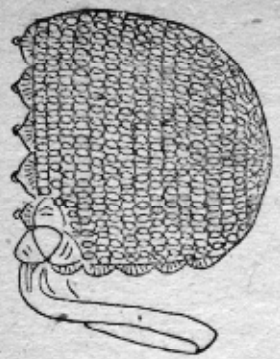
リボンの結び方は種々樣々ありますが此處では第四十九圖ニ以下のやうなのをいたします。

飾り花の造り方　凡そ二糎半巾のリボンを、巾の三倍の丈に六枚取り、その一枚づゝを（ホ圖のやうに、三角にして糸でとめておき、六枚共出來ましたら、（ニ）圖のやうに三枚づつ合せて眞中を糸でとめておきます。別に長いリボンの兩端を（ヘ）圖のやうに一糎折つてぬひちぢめ花の裏側の中心にあてゝ出來上り圖（第四十七圖）のやうにつけます。

嬰兒帽子（其の二）

材料　極細白毛糸一オンス二本合せ、リボン二糎巾五十糎內外。

用具　毛糸用鉤針一本。



第五十圖　出來上り圖

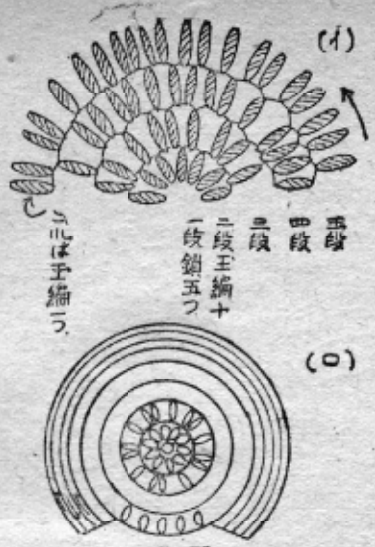
編み方　後頭の中心より丸く編み、だん〳〵前に向つてあみます。

一段——鎖編を五ツあんで最初の目に引き抜きを一つして輪にいたします。

二段——初め鎖編三ツあんで、前段の輪のなかに鈴蘭編を十あみまして、最後の鈴蘭編の時、最初の鈴蘭編の山へ引き抜きをして置きます。

三段——段變りの準備として鎖三ツあみ、前段の鈴蘭編と鈴蘭編との間へ、鈴蘭編を一ツ二ツ一ツ二ツと交互に入れて行きます。都合十五編まれる事になります。

四段——前段の鈴蘭編二ツの間には鈴蘭編を一ツ編み、一ツの前後には二ツづゝ鈴蘭編を編みますと全部で廿五になります。



第五十一圖

五段——前段のやうに一ツの前後には鈴蘭編を二ツ編んで、二ツの間には鈴蘭編を一ツ編みます。(第五十一圖(イ)參照)

六段——第五十一圖(ロ)のやうに一所で鈴蘭編を五ツだけ殘して裏側から編み、又表から編み表裏交互に編んで、凡そ十五段位あみます。丈と巾と同寸位になりましたらそこで飾りをつけます。

飾りの編み方　顏の方は短編を一段あみ「長編三ツ、ピコット一ツ、長編三ツ」をあみ、四ツ目に短編一ツして止めます。これをくりかへします。

頸の廻りの飾りは、長編五ツの松編を一と廻りいたします。

リボンの結び方は前の帽子と同樣にいたします。

嬰兒帽子（其の三）

材料　極細白毛糸一オンス二本合せ、變り色少々。

用具　毛糸用鉤針

編み方　筆編で前の帽子と同樣に頭の中心から顏の方に編みます。

一段——鎖編を五ツして輪にいたします。

二段——鎖編三ツ編み輪の中に長編二十編んで最初の長編の山に引き拔きをして止めます。

三段——この段から筆編をいたしますが、普通の筆編と異つた方法でいたします。基礎の筆編の三針までは同樣で四針目は前の筆編の根本に入れ五針目は初めて前段の目を拾ひます。ですから一目づつ前段の目を編む事になります。全段編めましたならば、最初の筆編の中心の所に引き拔きで留めます。

四段——前段のやうな筆編を一ツし、普通の基礎の中にある筆編を一ツして一ツおきにいたします。おしまひは引き拔きで止めます。

五段——普通の筆編を編んで、最後に第五十二圖(イ)のやうに筆編を四ツ殘して六段にうつります。

六段——鎖三つ編んで裏側から前段の筆編の中心に長編を二ツづゝで一段あみます。

七段——鎖三ツあみ表から筆編を一段あみます。

八段——鎖三ツあみ六段と同じやうに裏から長編二ツづゝあみます。



第五十二圖　出來上り圖

九段——七段に同じ。

十段——八段に同じ。

十一段——七段に同じ。

十二段——八段に同じ。

十三段——七段に同じ。

十四段——變り糸で八段と同樣にあみます。ここから顏の出る方の飾りになります。

十五段——前段の四ツ目に長編五ツを編みますが、その長編と長編の間には一ツづつピコットを編みます。そして四ツ目に短編で止めます。更に四ツ目に「長編とピコットを五回して短編でとめる」これをくりかへします。

頸廻り飾りの編み方　一段短編をいたしまして「長編一ツ、鎖編二ツ」前段の目を一ツ飛ばして二ツ目に長編

二ツをくりかへしてリボン通しの穴を作ります。

次はリボン穴に「長編四ツ」をあみ長編四の中央にピコットを一ツ編み、次のリボン穴には短編一ツ編んでこれをくりかへします。最後にリボン穴にリボンを通します。

嬰兒用靴下

材料　極細白毛糸一オンス（三本合せ）

用具　毛糸用鉤針一本。

編み方　上部からぐる〳〵と輪に編み、足首の所まで編みましたら甲をたたみ編とし、次は足圓に向つてすじ編をいたします。

一段——鎖編四十を編み輪にして鎖三ツ編み、目數だけ長編をし、最初の鎖編みの頭に引きぬきでとめます。

二段——鎖編三ツ編み「長編三、鎖編一」一ツとんで、長編一、鎖編一、一ツとんで一をくりかへして一段あみます。

三段——前段の通りに全部あみます。

四段——前段の長編三ツの上に長編一ツを編み、次に鎖編一ツあみ更に前段の長編一ツを中心に前後一ツづゝの長編を編み、都合長編三ツになります。つまり前段と反對の模樣になります。

五段——四段と同様。

六段、七段——二、三段と同様。

八段、九段——四、五段と同様。

十段——第五十三圖(イ)のやうに全體の目を三等分して、三分の一だけ畳編にして九段あみます。(共通編參照)

次に畳編の周圍と後側の踵の方をぐるりと短編いたします。

次は第五十三圖(ロ)のやうにすじ編を(共通編參照)いたします。

すじ編が五糎位になりましたら糸をとめます。

そして底合せをとお針でとじて合せます。

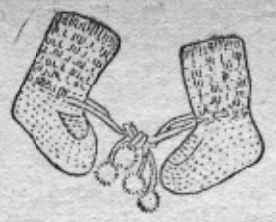
紐の編み方　四十糎位のぐさり編をしてそれを上から七段目の穴に通して前で結ぶ樣にいたします。紐の先には、房又は玉をつけて飾りといたします。

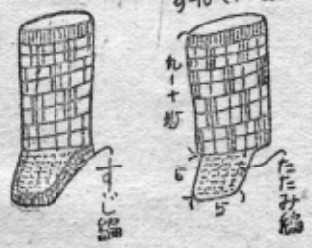
おむつカバー

材料　太毛糸四オンス、スナップ五個。

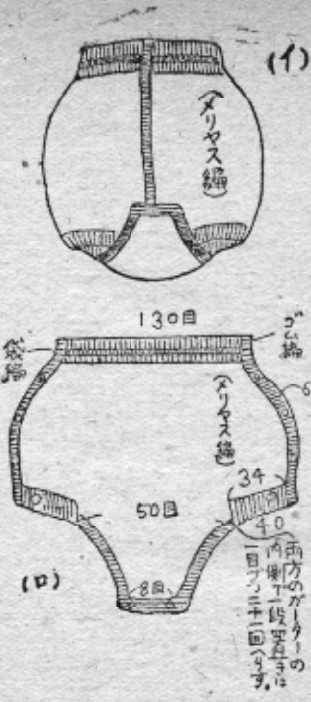
用具　三號玉付針。

編方　始め目數百三十を掛けます。編み初めの六目をガーターに次から一ツ表、一ツ裏のゴム編みに編みまして、終りの六目を又ガーター編にして二糎編みます。次は袋編を三糎、ゴム編を二糎編みます。ゴム編が出來ましたならこん度は兩側のガーターの處は其のまゝガーターで續けて中は全部メリヤス編にいたします。メリヤス編を十二糎編みましたらば、兩方のガーターは其のまゝにして、ガーターの次の目より內側三十四目づゝは第五十四圖の如く表一裏一のゴム編にいたします。殘り中央五十目の間はメリヤスに編むのであります。これを三糎編みましたらば、こん度は兩方のガーターとゴム編の處丈けを伏せ止めにいたします。(片方のゴムとガーターは又向側から返る時に止るのであります。)さうすると中丈けがメリヤスが五十殘つて居りますから、五十の中兩側五ツづゝを又ガーターにして、中はメリヤスで五糎編みま





第五十三圖



第五十四圖

す。それが出來ましたら、左右のガーター編の内側で、メリヤス編の方を二ツ一度に編んで一ツづゝ減します。これを表側の時丈け減しますと一段置きに減すことになります。左右のガーター編はそのまゝでメリヤス編の所が八目殘るまで減します。其の先きは全部をガーター編にして五糎編んで止めます。

第五十四圖（ロ）のやうにスナップを前の合せ目のガーターの處へ三個、下のガーター編の處へ二個付けますと出來上りであります。

二三歳用ヅロース

材料　並太毛糸五オンス、ゴムテープ一米。

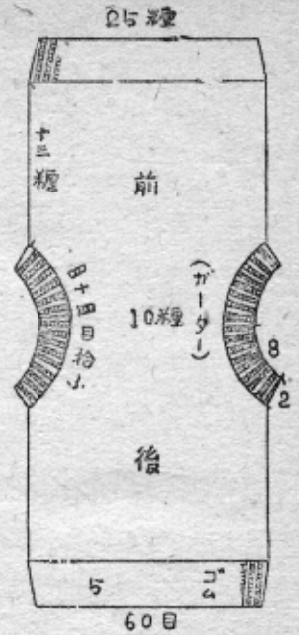
用具　五號二本針、とじ針。

編み方　後より編み初め前へ編みつゞけます。最初目數を六十作り、一日表一目裏のゴム編を五糎あみ、つゞけてガーター編を十三糎編みます。

次は一段おきに、初めと終りの一目の内側で、一日づゝ目を減らし、巾が十糎になるまで減して行きます。この十糎巾が股になり、後片面が出來たのであります。

前はこの反對に同じ形に編んで行くのであります。即ち、今まで初めと終りで減らして來た所で、一日づゝ増し

日をして、全部の目數が六十になりましたら眞直ぐに十三糎あみます。つゞいて一日づゝのゴム編を五糎あんで最後をかぶせ止めにしてしまひます。



第五十五圖

股下の編み方　次は股になるべき巾の狹い所の裏側の弓形の間で四十四目を拾つて、こゝも一日づつのゴム編を二糎編みます。

それから後と前とを合せて、とぢ針に毛糸を通して兩脇をとぢゴム編の目にゴムテープを通して出來上りといたします。（第五十五圖參照）

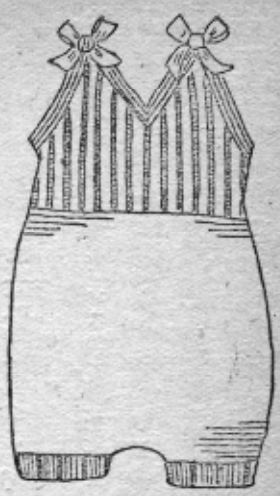
二三歳用コンビネーション

材料　極細白毛糸九オンス（三本合せ）、スナップ二個、リボン二糎巾四十糎。

用具　三號二本針二組、とぢ針一本、三號四本針一組。

編み方　二枚同樣な物を編んで兩脇を合せて肩でスナップで留めるのであります。

最初七十目を造つて、ガーター編で腹部を眞直に二十三糎編みます。



第五十六圖　出來上り圖

それから「表編四裏編二」をくりかへして凡そ五糎になるまで編みます。

全體の目數を半分に分けます。

兩方別々な針で編んでもよいのですが糸を二つ使つて一緒に編んでもよいのです。

先づ片方だけ說明いたします。第五十七圖(イ)のやうに兩方で一段毎に一目づゝ減らして行きます。へらし初めた所から八糎位になりましたらば糸を留めます。殘してある半分もこの通りに編みます。

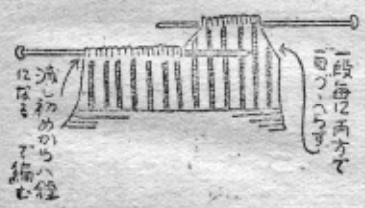
これで前半分が出來上りましたから後半分を同じやうに編みます。

これで前後が出來上りましたら圍脇をとぢつけます。

次に股下を遣ります。

下の方は第五十七圖(ロ)のやうに中央で五糎だけとぢ針でとぢ合せ、そして兩足の出る所の目數を拾つて

(イ)



(ロ)



第五十七圖

編みます。凡そ六十目ありますから四本針に通してゴム編「表二つ裏二つ」でぐるりと二糎編み、糸を留めてしまひます。

もう一方の足を同樣に編みます。

袖刳、衿刳を一段ぐる／＼と短編をいたしまして次にすじ編を四段編んで糸をとめます。兩側の肩にスナップをつけておきリボンを蝶形にむすび前の肩につけます。

ねびえ知らず

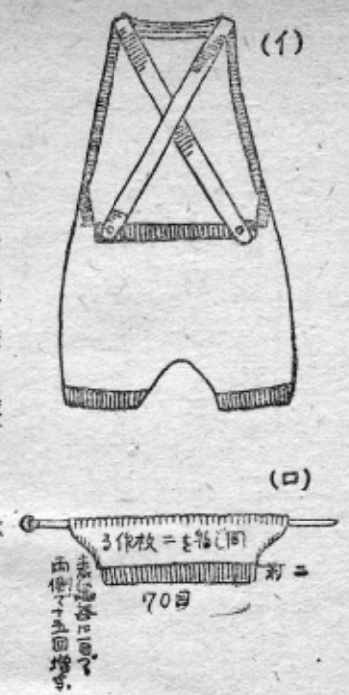
材料　中細毛糸六オンス。スナップ二個。

用具　一號玉付二本針一組、とじ針一本、一號四本針一組。

編み方　始め二本の針に目を七十掛けます。

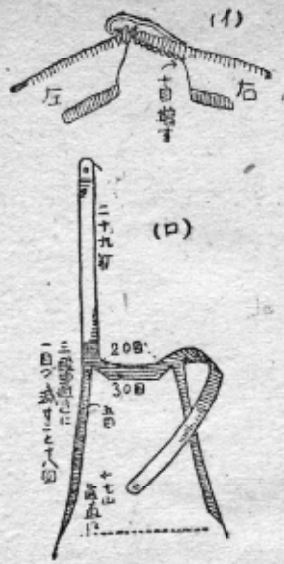
一本を抜きとり端の糸を良く結んで一ツ表、一ツ裏のゴム編を二糎編みます。次より第五十八圖(ロ)のやうに、メリヤス編にして、編み初めと編み終りの一ツ内側で一目づゝ增し目をいたします。メリヤス編は一段表編、一段裏編でありますから表に向つた時丈け增し目をいたします。これを十五回增します。そして五十九圖(イ)の如く片方だけ十目一度に增目いたします。

次は同じ番號の別の針に七十目を拾ひ上げをして前と同じものを作ります、出來上りましたなら、增目の終つた所が股下になりますから其處で四本針に取替ながら第五十九圖(イ)のやうに、兩方共突き合せをしてぐる〳〵と眞直に十一糎編みます。次に前に增した十目の中央を中心として二段おきにその兩側で一目づゝ都合二目を五回減します十前後共同樣にいたします。これが凡そ五糎位になりますから其處で減した所をそれ〴〵前後の中心にして二等分して、半分は前に半分は後といたします。さうして前の分は其のまゝ針に殘しておき、後になる方は袋編を三糎編んで全部をかぶせ止めにいたします。この所は袋編にしますと後巾が半分位に縮んでゴムテープなどを入れる必要がなくなります。次は前の方を三糎メリヤス編にいたします。



第五十八圖

こゝで第五十九圖(ロ)のやうに兩側五目づゝをガーター編にして中はメリヤス編に編み、ガーターが十七山出來るまで眞直に編み續けます。其の所より兩側のガーターとメリヤスの境目の所でメリヤスの方を一目づゝ減します。これを三段おきに兩方で減すこと十八回、次は全部の眞中三十目をガーター編にして三山編み、出來ましたならこの時は兩方が別々のものになりますから片方づゝ編むやうになります。この時兩側に五目づゝのガーターが殘ります中の二十目をかぶせ止めにして止めておきます。さういたしますと中の兩側に五目づゝのガーター編が殘ります



第五十九圖

りまして中はメリヤス編になつて居ります。

これを編み續けて內側のガーター編を段毎に內側から外側の方に向つて減します。さうしますと內側が三角形になります。內側のガーター五目を減し終つたらこゝからメリヤス編の所も全部ガーター編にして後側の紐を編み續けます。これを二十九糎編みましたら兩側で一目づゝ減し乍ら丸味を付けて止めておきます。片方も亦同じ寸法に編みます。

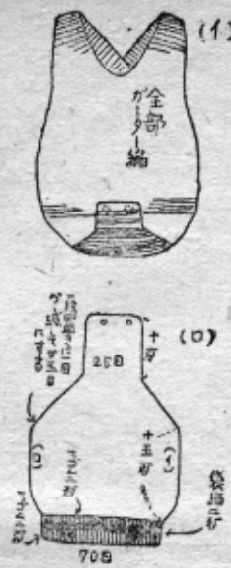
後の袋編と脇のメリヤス編の所が三糎はなれて居りますから、これをとお針で裏の方でとぢ付けておきます。兩方をたすきにして第五十八圖(イ)のやうに兩側へスナップを二ツ付けてボタンは飾りボタンにいたします。出來上りましたら良く形を整へて湯伸をして使用いたします。

二三歳用ねびえ知らず

材料　白の中細毛糸四オンス、スナップ六個。

用具　二號玉付二本針、とぢ針一本。

編み方　最初後の腰から下へ編み下り、第六十圖(ロ)、別に第六十一圖(ロ)の如く、前下から上へ編み、胸から左右に分れてたすきを編み、兩脇をとぢ合せます。

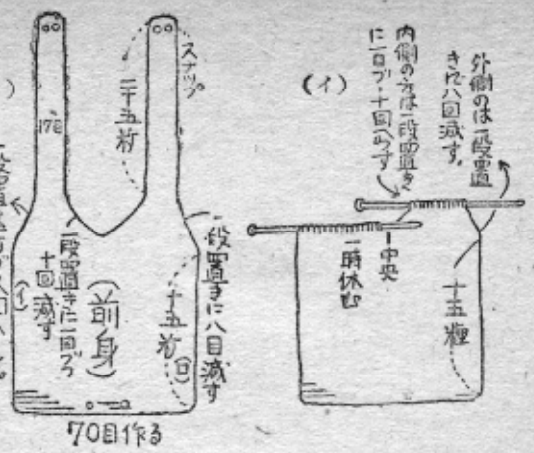


第六十圖

始め二本の針に目を七十掛けます。一本をぬきとり糸を結んで、第六十圖(ロ)のやうに一ツ表、一ツ裏のゴム編を二糎編みます。

次に袋編を二糎編みます。又表一ツ、裏一ツのゴム編を二糎編みます。さうしてこれよりガーター編で十五糎編みます。それより兩側で一段置きに一目づゝ減して二十五の目になりましたら、其のまゝ十糎位編み、こゝで糸を切つて置きます。これは後の分になるのであります。

前身の編み方　第六十一圖のやうに針に目を七十掛けてガーター編で十五糎編み、そこから胸明きを作ります。全體の目の中央から第六十一圖(イ)のやうに、外側の方に戻ります。其時内側の方で二ツ一度に編みます。外側の方へ編んで參りました時も同じく二ツ一度に編みます。これを一段置きに外側の方は十回、内側の方は八回、さうしますと殘りが十七の目になりますから、其の殘りの目で其のまゝ二十五糎編みまして糸を止めます。これがたすきになるのであります。



第六十一圖

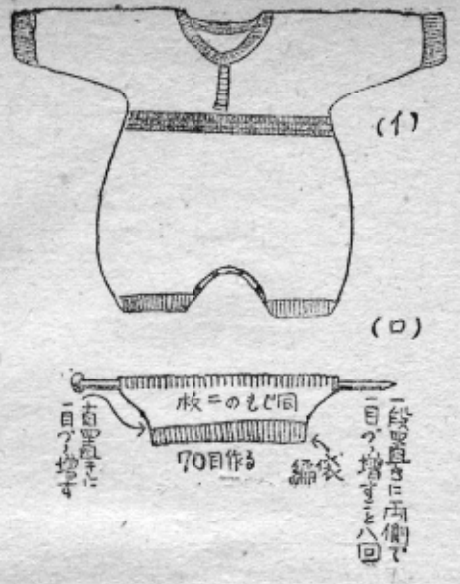
あとの片方も同じやうにして十七になるまで減します。さうして二枚出來上りましたら、前身と後身を合せ、(イ)と(イ)、(ロ)と(ロ)をとぢ合せて置きます。後の編み初めゴム編の處一糎内の兩側にスナップを付け、たすきの方にも片方に二ツづつ付けて止めます。後の目を減して編み終つた所から一糎程の所と、前の編み初めとにも、スナップをつけて出來上ります。

二三歳用ロンパース

材料 太毛糸八オンス、スナップ七個。

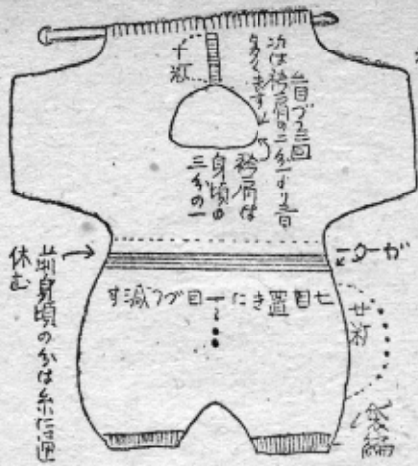
用具 三號四本針、同二本針各一組。

編み方 始め二本針に目を七十掛けて一本を抜き、袋編（基礎編參照）を二糎編み、次は裏編を一段編み、裏に返して表の時に、十目に一ツづゝ目を増します。其の増し方は目と目の間の糸をすくひ、ねじつて編みますと増し目の處が穴があかずにきれいに出來ます。次は全部メリヤス編にして兩端の一ツ手前の處で第六十二圖（ロ）の如く一日づゝ増すこと八回いたします。これは表側丈けで増しますから一段置きになります。これと同じものを二ツ作り、二枚出來ましたら兩方合せて丸く編みまはるのであります。



第六十二圖

これを二十糎編み、こゝで七日おきに一日づゝ減します。減らしたまゝで三糎編み、次はガーター編で六山程編みます。次は又メリヤス編にして五糎編み、こんどは後と前とを分けて第六十三圖の樣に後の方を眞直に三糎程編みます。



第六十三圖

前の分は別の針に通して其のまゝにしておきます。袖の目の出し方は編み終りの處で三日一度に増し、これを三回、五日づゝを三回増し尚終りの一回は十日一度に増しまして、このまゝ増減なしに十糎編み、それより袖として増した目數に關係なく後巾の三分の一が衿肩になり、殘りの分が左右兩前身頃になるのであります。衿肩と片身頃を別の針に通して、片身頃を編んで行きます。

眞直ぐに三糎編み腕明きの方で一段置きに二日づゝ三回増し、次は衿肩の二分の一よりも三目多く増しておき、増した三日はガーター編にして其のまゝ又眞直ぐに十糎編みます。衿肩で三糎編んだ半分はくりこしになりますから山を定めて袖下は後袖と良く合せ、増した目數を反對に順々にかぶせ止めにして、いつも袖口の方から

返るときに止めて行きます。止め終りましたら其のまゝにして置いて、他の一方の袖及び前身を編み、衿肩の分丈けは別の針に殘して置きます。そうして前に編んだ片方と同じやうに増し目をして減す處も同じにいたします。これが出來ましたら後と同じにメリヤス編を五糎編みます。そうして前に袖を作る時殘して置いた前巾とつなぎ合せます。

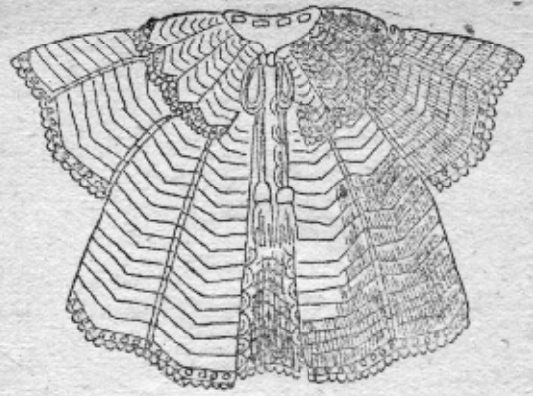
このつなぎ方はメリヤスのつなぎ方であります。（基礎編第三十七圖メリヤスのつなぎ方を御參照下さい。）これが出來ましたら袖口の端の處に糸を付け横の目を一ツづゝ拾つて目を作り、一ツ表一ツ裏のゴム編を三糎して止めます。片方も同じことをします。

衿廻りは前の端の處に糸を付け、衿肩の處までは袖口と同じやうに目を作りますが後の方は前に目を殘して置きましたから、一緒にして編んで行くことになります。

これも一ツ表、一ツ裏のゴム編を二糎編んで止めて置きます。下の方のあいて居る處は、鉤針で一段短編をあんでおきますと丈夫でスナップを付けるのにしつかりいたします。

スナップはオムツ等がおちない位の程度に付けます。

二三歳用袖付きマント



第六十四圖

材料　極細毛糸六オンス（二本合せ）又は中細毛糸八オンス

用具　成る可く細い毛糸用鉤針一本。

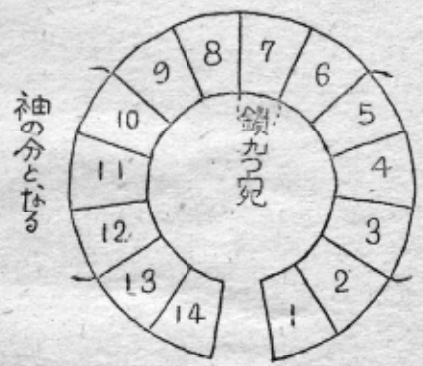
編み方　このマントは首廻りから編み初め、中途で袖の部を殘して胴を下へ編み下り、袖と衿は後から編み足します。

一段——初め丸の十四倍の鎖を百二十六作り、後に戻つて、四ツ目に長編を一ツ編み次の目に又長編一ツを編むと始めの鎖と共に三本の長編が出來た事になります。四ツ目には長編五ツを編みまして、又次の目より長編を一目に一ツづゝ三ツ揃へて編みます。次は目を二ツとばして、二ツ目より長編三ツ揃へて四ツ目には五ツの長編を編みます。又長編三ツ揃へて次の二目をとばします。（第六十五圖參照）

さうしますと山形のものが終りまでに十四出來ることになります。

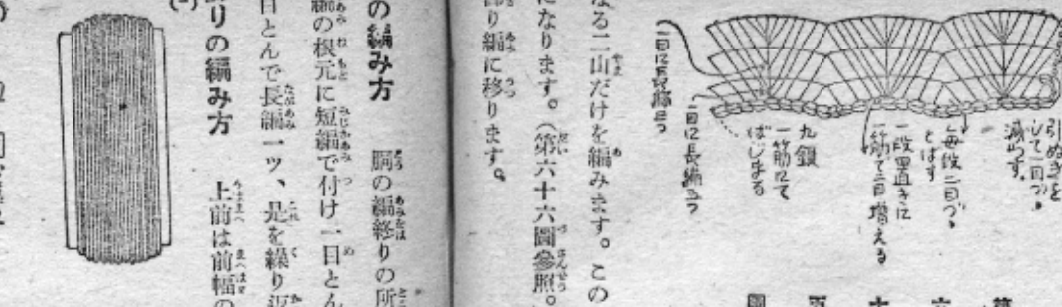
二段——裏に返して次の目に引きぬき編みをいたします。この引きぬき編は、裏に返した時に必ず一目編むのであります。

りさす。鎖三ツ編んで前段の向側の目に針を通して長編を致します。是を三ツ編み、前段の五ツの眞中の目には長編を三ツ入れて、次は一ツづゝ四ツ長編を編みます。是を繰り返しまして、山の中央に三ツ入れる段と、五ツ入れる段を一段置きにいたしますから、一段置きに山の兩側で一ツづゝ殖えて行く事になります。是を繰り返して十六段編みます。



第六十六圖

十七段——前二山丈け編みまして三山目から六山目へ飛び、六山目から又四山を編みます。さうして又三山飛ばして終りの前と同じに編みます。



第六十五圖

袖の分となる

飾りの編み方　胴の編終りの所で鎖三ツ編み、目を一ツ飛ばして次の目に長編を一ツ入れ、三ツ鎖を編み前の鎖編の根元に短編で付け一目とんで、次の目に長編を入れますと一ツのピコットが出來ます。ピコット一ツあみ一目とんで長編一ツ、是を繰り返して裾の飾りとします。前巾の飾りは六山の編み方に致します。

前飾りの編み方　(一)　上前は前幅の上の角から、下前は裾の脇から糸をつけて、身頃の長編の根元に長編を九ツか十一位編み、次の長編の根元に短編でつけて行きます。つまり大きな松編で飾るのであります。

(二)



(三)



第六十七圖　房の作方

鈴の編み方　首廻りの端の處に糸を付けまして眼の反對に向つて首廻りの編方に合せて同じ十四の模樣を編むのであります。是を八段編みまして裾と同じ飾りを付けて置きます。袖口の處も同じ飾りを付けるのであります。

紐の作り方　全部分來上りましたらば紐を編んで首廻りに通します。

中細毛糸ならば六本位、又極細の場合は十四本位を合せて、極くゆる目の鎖編一メートルを編むのであります。

一メートルの鎖を編みますには糸を鎖の六倍位の長さに致しておきます。紐が出來上りましたら身頃の首廻りに模樣を一ツ置きに通しに、大きの方

に房を付けておきます。

房の作り方　十六糎位の平たい巾のものに糸を百回位巻いて、それを抜きとり、前に通した紐の先きを百回の中程に入れて糸を固むやうにして其の中を別の丈夫な糸で堅く結びます。第六十七圖(二)のやうにして上の半分を折り曲げて房の上の方を堅く結んでおき、房の尖きを良く揃へて切ります。

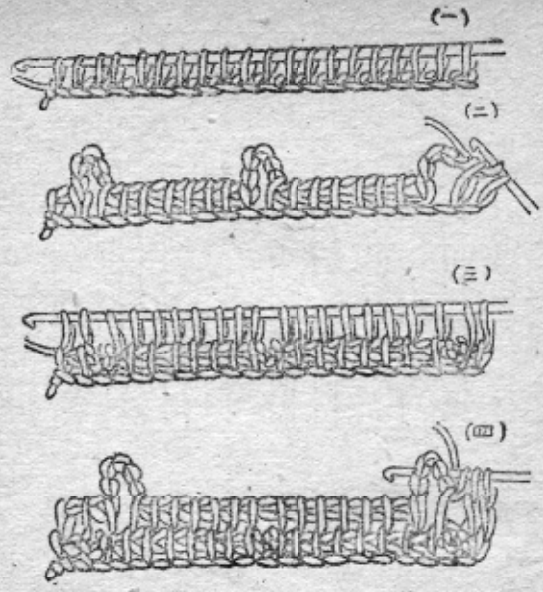
疊編扉の葉マント

材料　白太毛糸十四オンス（極細毛糸ならば十オンス）

用具　毛糸用鉤針又は疊編用鉤針。

編み方　此のマントは大體疊編で裾の方だけに模様を入れた細い物を何本もつなぎ合せたものであります。疊編はかたくなりやすい編方でありますから、編みながら注意しなければなりません。

一段——始め鎖二十編み、次の目より一目に二ツづゝ糸を引出して、二十目を第六十八圖(一)のやうに針に掛けておきます。其儘後もどりをしながら、一目づゝ引きぬいて行きますが、第六十八圖(二)の如く二目編んで三ツ目を編む前に鎖を四ツ編みます。次に其儘八目引抜きをして鎖を四ツ編みます。又八目引抜きをして、終りの二目手前で四ツ鎖を編み、殘り二目を引抜きます。



第六十八圖

二段——縁の目を一目に一ツづゝ引出して第六十八圖の(三)の如くに三目の時に前段の四ツ鎖を手前の方に出すやうにして縁の目だけを抄ひ、糸をかけ針に目が二十揃りましたら、三目引ぬいて四ツ鎖を編みます。次より引抜いて終りの目の三ツ手前で鎖を四ツ編み、第六十八圖(四)のやうにすつかり引抜いてしまひます。此様に致しますと、鎖四ツは丸く玉のやうになつて疊の所から飛び出して模様となつて行くのであります。

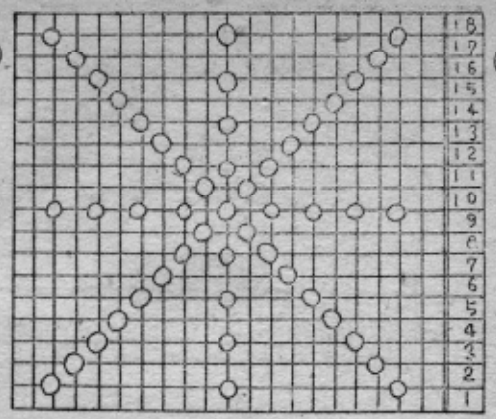
三段——二段目と同じく縁の目を一目づつ引出して針に二十の目を掛けて、戻る時には四目引抜いてから四ツ鎖を編み、次に六ツ引抜いて四ツ鎖を編みますと、丁度中央に玉が出ます。中央の玉は一段おきに出す事になります。又六ツ引抜いて四ツ手前で鎖四つ編み、殘りの四ツの目を引抜いて終ります。

此の方法で中央は一段おきに玉を出し、兩側は段毎に一目づゝ內側に玉を出しながら、八段まで編み、九段目に

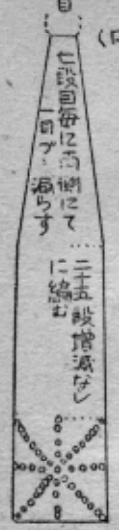
は二目おきに玉を出して行きます。第六十九圖(イロ)の如く、これが模様の段の中央になるのであります。次からは是を反對に十段は八段に同じく、十一段は七段と同じくを繰り返します。

模様が終りましたならば疊編ばかり二十五段編み、それから七段おきに兩側で一目づゝ減します。これを六回して糸を切ります。これを十五枚編んでつなぎ合せるのであります。

(イ)



(ロ)



第六十九圖

接ぎ合せ方　麻の葉の模様をよく合せて中表にして鉤針で引抜きで、全部つなぎ合せますと胴が出來上ります。

衿の編み方　胴の狹い方即ち衿肩廻りの端に糸を付けて、鎖五ツ編み二目とばして三ツ目に長編一ツ入ます。次には鎖二ツあみ三ツ目に長編一ツ、鎖二ツ長編一ツを繰り返して一段編み紐通しにします。



(四)衿の皆

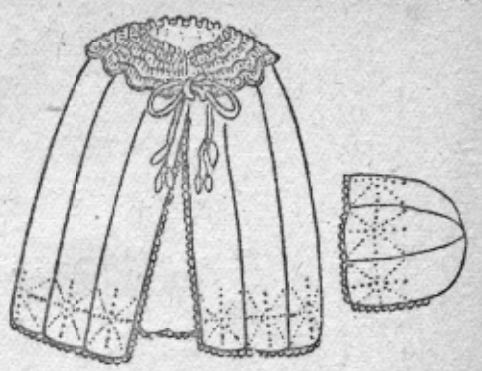
第七十圖

十　周圍の飾りの編み方　飾りは前と衿全部に三ツ鎖を編み、根元にとめ、次の目に短編でとめる。即ちピコットを付けておきます。

紐の編み方　紐のあみ方は極細ならば十六本位合せて、糸の丈は編上げ丈の約六倍の長さに用意して一米六十糎位で鎖編をいたします。そしてその先に玉を編んで付げるのであります。

玉の編み方　始め鎖三ツあみ、丸くして其の中に短編を六ツ入れます。二段目は一目に三ツづゝ短編を入れてまはり、あとは增減なしに三段まはつて、其の中に綿を入れて、一目おきに一ツづゝ減じて二段まはり、なるべ

く穴のあかないやうにして糸を切ります。これを六ツあんで紐の先に三ツづゝ付けます。（第七十一圖「出來上り圖」參照）



第七十一圖

疊編麻の葉帽子

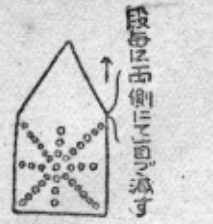
材料　白の太毛糸二オンス、リボン一米位。

用具　毛糸用疊編針一本。

編み方　マントと同じ編み方で五枚作り、六つ接ぎ帽子の要領で接ぎ合せ一ケ所だけ明けて置いて後頭部といたします。

マントと同じく二十目の疊編で麻の葉が編み終りましたらば、次の段より兩側で一段置きに三回、次に二段置きに一回目を減して、第七十二圖の樣に次の段からは段毎に減して一目になる迄減して行きます。是を五枚作ります。

そしてマントのやうに麻の葉をよく揃へて、裏の方でつなぎ合せるのであります。後頭部になる處一ケ所だけは上の方で六目丈けつなぎ合せます。つなぎ合せ終りましたらば、前の方も後の方もマントと同じやうに三ツ鎖のピコットを第七十一圖の帽子出來上り圖の如く一段



第七十二圖

編んで置きます。次に前の兩角にリボンで花結びをして飾りを付け、花結びの余りを紐にして置きます。此のリボンは一米位の長さの物を用ひます。

これで第七十一圖の出來上りマントと一對になります。

二三歳女兒用ドレス

材料　中細毛糸六オンス。

用具　一號二本針、一號四本針、ほつれ止め、とぢ針、毛糸用鉤針。

編み方　後スカートの裾口から編み初め、胴へきましたら兩袖をあみ出し、衿肩を明けて前身の胴を編みます。前スカートは別に裾口から編み上げ、これと前身の胴とはぎ合せます。衿と袖口は後から編み付けます。

後スカート　二本の針に百十一目作り、一本を抜いてメリヤス編を八段あみましたら、「掛けて二ツ一度」の時兩編を一段編み、又メリヤス編八段編んで次から山路編をいたします。

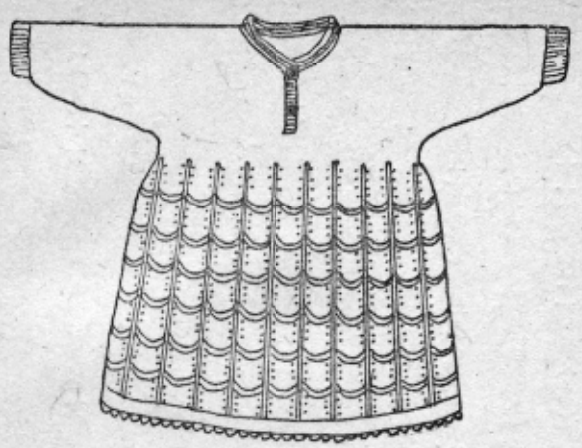
山路編み　（十一の倍數に一目加へる）

一段——「表一ツ、一ツ作る表三ツ、二ツ一度（左）、二ツ一度、表三ツ。一ツ作る」「」を繰り返し最後は表一ツ。

二段——全部裏編。

山路編は二段で一くぎりになつて居ますからこれを六度繰り返します。（合計十二段になります。）

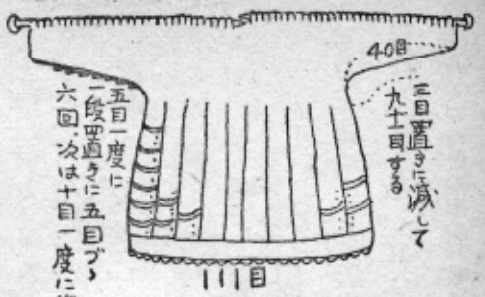
次はガーター編を二山編みます。山路編六度（十二段）、ガーター二山、これを代る代る繰り返して、模様編を七回、ガーター編二山が六回出來ましたら、全體をメリヤス編にいたしますが、胴の所を縮め加減にするため三目編んでは二目一度、三目編んでは二目一度として參りますと全體で二十目減りますから計九十一目となります。



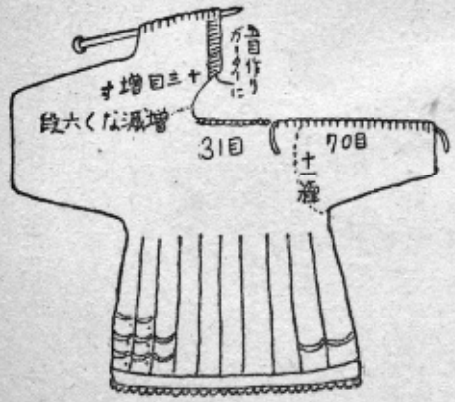
第七十三圖　出來上り圖

身頃　胴はメリヤス編ですから九十一目を增減なく五糎編み、次から袖を編み出して參ります。

先づ第七十四圖のやうに、最初の段の兩側で五目づゝ新目を作り、次から一段置きに同じく五目づゝ六回作るのであります。さうして新目が三十になつたら、今度は袖下の日を一度に十目作り出します。これで片方の袖の目は全部で四十となりますから其のまゝで袖付が十一糎になるまで編みます。この時針の上の目數は片袖四十目づゝで兩袖で八十目身頃は九十一目合せて百七十一目かゝつて居ます

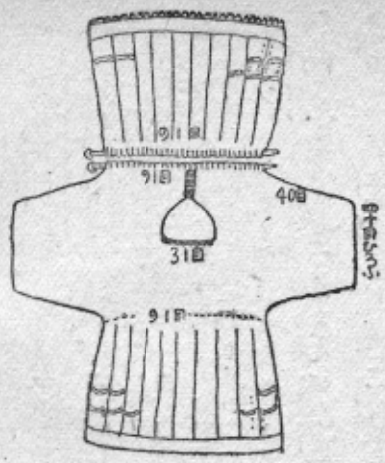


から、右端から七十目編みましたら、第七十五圖のやうに、次の三十一目を衿肩明として、かぶせ止めにいたします。編んだ七十目はほつれ止めにうつし、殘りの七十目を左前身頃としてあみ續けます。それで左前身頃を七十目增減なく六段あみます。（この內の三段は繰り越しとなります）次の段からは、衿ぐりの側で一段置きに一目づゝ增目して十三目增して、前の持ち出しとして一時に新目五目作り、この五目はガーターに編み、新目から十糎になるまで眞直にあみます。袖の方は後袖に合せて袖口の方から十目かぶせ止めにし、次に一段置きに五目づゝ六回かぶせ止めをし後袖に揃へます。さうしてこゝは共のまゝにして置いて、前にほつれ止めにうつして置いた右身頃をこれと同じにあみます。



第七十五圖

かうして左右共前明十糎になりましたら、左右を一緒にしてあみますが、持ち出しの五目の所は上前の下に下前を重ねて上下の目を一緒にあみますと、衿ぐりの方で十三目増してありますから左右合せて二十六目、それに持ち出し五目づゝを重ねて五目、合せて三十一目になり、衿肩明三十一目と同數になつて前後の身巾は同寸法になります。



第七十六圖

これで胴は編めましたから、次は前スカートですが、續けて編みますと模様がさかさまになりますから、別に後スカートと同じやうに裾から編み上げて參ります。

前スカート　前スカートは初め百十一目掛け、メリヤス編八段、時雨編一段、メリヤス編八段して全部後のスカートと同じ編方で、山路編とガーター編を交互に繰り返し模様七回、ガーター六回出來ましたら、目數を九十一に減らして終ひます。さうして第七十六圖のやうに、メリヤス編を二糎程あんで前身頃の編み終りとを基礎編卷三十七圖のメリヤスつなぎの方法によつて手際良くつなぎ合せます。

衿　右前身頃の持ち出しの角から左前身頃の持ち出しの角まで周圍全部目を拾ひます。目數は衿肩明が三十一目、衿ぐりは二十目づゝ都合七十一目をガーター編で五山編んで止めます。

袖口　袖口まはりから四十目拾ひ一目表、一目裏のゴム編を十五段編んでかぶせ止めにいたします。

一袖口は時雨編の所から折つて裏へ綴付け脇から袖下は續けて裏からとぢます。終りに特出しスナップを付けます。

同じく帽子

材料　中細毛糸二オンス。

用具　一號二本針、とぢ針、毛糸用鉤針。

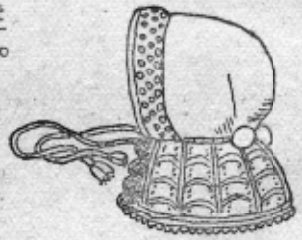
編み方　この帽子は前の折返しがイボ編、あと全部ガーター編で、後の飾はドレスと同じ山路編とガーター編であります。

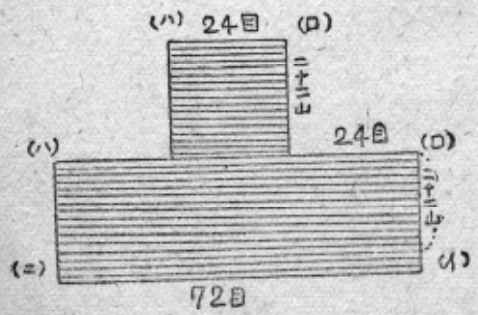
イボ編み

一段——一號の針に七十二目作り、表編を全段編みます。

二段——裏編を全段編みます。

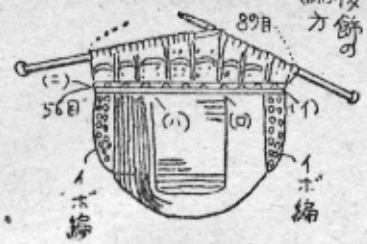
三段——二目一度に編みます。


第七十七圖　出來上り圖



第七十八圖

四段――表一ツ、次の目との間の目をひろふ、表一ツ、間の目を拾ふ。これで、イボ編の一模様になります。以下それを四回繰り返します。さうしますとイボが四ツ出來ますから、次からは全體をガーター編にして、二十二山出來るまで増減なく編みます。二十二山（十糎）編めましたら、中央を二十四目丈け殘し、兩側の二十四づゝはかぶせ止めに致します。殘しました二十四目は其のまゝ續けて二十二山あみましてかぶせ止めにいたします。さういたしますと丁度丁字型となりますから、第七十八圖の(ロ)と(ロ)、(ハ)と(ハ)と接ぎ合せます。



第七十九圖

後飾り　首廻りから少し縮め加減に目を拾ひます。

第七十九圖のやうに、イボ編は前飾りとして上に折り曲げて二重にして、首廻りから目を拾ひ初めます。先づ圖の(イ)、(ロ)の間は二十二目、眞直ぐ後の(ロ)、(ハ)の間は一目置きにとばして拾ひ十二目、(ハ)、(ニ)の間は(イ)、(ロ)の間と同じく二十二目、合計五十六目となります。五十六目拾ひましたら時雨編を一段いたしまして、紐通しを作ります。次はガーター編を編みながら八十九目になるまで約二目置きに増して十二山、次は前のドレスと同じく模様を四回繰り返します。山路編を繰り返しまして、ガーター編三度、模様編三度、出來ましたら最後はガーター編四山編んで止めます。これで全部出來上りましたから、最後に紐通しに紐を通します。

紐の作り方　初め二本の糸で鎖三十糎の長さに紐を二筋編んでおきます。

玉の作方



第八十圖　房の作り方

玉の作り方は第八十圖(イ)(ロ)のやうに左手二本の指に糸を三十位巻き、其のまゝ抜きとつて、眞中を堅くしばつて紐の先きに付け、輪になつて居る方を切つて丸く形を付けます。玉が二つ同じやうに紐の先きに付きましたら、紐通しに通して後でこま結びにいたします。

房の作り方　第八十圖(1)(2)のやうに左手四本の指に七八圖巻いて其のまゝ抜きとり、紐の一番先きの目に通して二つに折り、折り目から三糎位の所を堅くしばり、先きを良く揃へて切つておきます。

二三歳用花形編ドレス

材料　中細毛糸五オンス。

用具　一號二本針、ほつれ止め、とお針。

編み方　このドレスは裾をガーター編に、スカートを花形編に、胴はメリヤス編として、衿及び前明はガーター編、袖口はゴム編に致します。

先づ最初に後スカートから編み初め、胴と袖とをあんで前スカートに編み下ります。衿と袖口は後からあみつけます。



第八十一圖　田来上り圖

後スカートの編み方　一號の針に百二十九目作りまして、ガーター編を五山致します。其の上にメリヤス編を二段編んで置き、次からは模様編をいたします。

花形編み　（十二の倍數に九を加へる）

一段——「表九ツ、一ツ作り、三ツ一度、一ツ作り」表九ツ。

二段——全部裏編。

三段——表七ツ、「二ツ一度、一ツ作り、表三ツ、一ツ作り、二ツ一度、表五ツ」。

「」の中を繰り返して、最後は七ツ表で終ります。

四段——二段に同じ。

五段——一段に同じ。

六段——二段に同じ。

七段——全部表編。

八段——全部裏編。

九段——三ツ表、「一ツ作り、三ツ一度、一ツ作り、九ツ表」「」の中を繰り返して、最後は表三ツで終ります。

十段——二段に同じく全部裏編。

十一段——一ツ表、「二ツ一度、一ツ作り、三ツ表、一ツ作り、二ツ一度、五ツ表」二ツ一度、最後は一ツ表で終ります。

十二段——二段、八段に同じ。

十三段——九段に同じ。

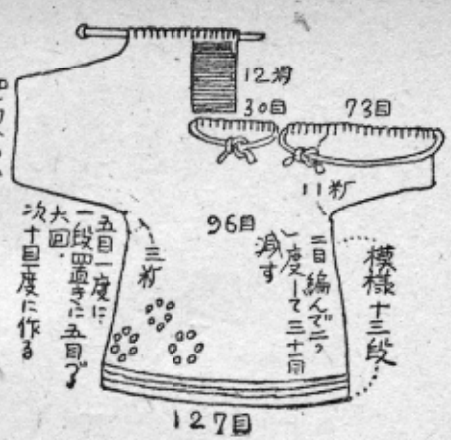
十四段——八段に同じ。

十五段——全部表編。

十六段——全部裏編。

二段から十六段迄を繰り返しますと、いつも模様が交互に編み出されて行きます。

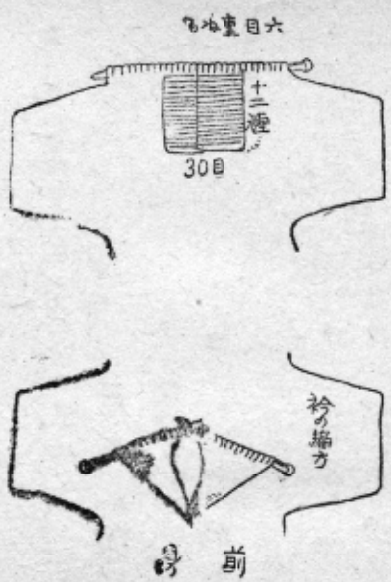
この模様が縦に十三並びましたなら、全體をメリヤス編にいたします。其の時に少し縮めるために、二ツ編んでは二ツ一度をして、中央で二ツ一度を三ツ揃へて、又二ツ編んでは二ツ一度を致しますと、全體で三十一目減りまして、合計九十六目となります。



第八十二圖

身頃　胴はメリヤス編ですから九十六目を増減なく三糎あみまして、次から第八十二圖のやうに袖を編み出して參ります。

先づ、最初の段から兩端で五目づゝ新目を作り、次から一段置きに五目づゝ六回作るのであります。かうして新目が三十になりましたら今度は袖下の目を一度に十目作り出します。これで片方の袖の目は四十となります。このまゝ袖付が十一糎になるまであみます。この時針の上の目數は、片袖四十目づゝで兩袖の目が八十目、身頃が九十六目合せて百七十六目かゝつてゐますから、右端から七十三目と中央の三十目とをほつれ止めに取つておきます。そして左身頃丈けを編んで參ります。



第八十三圖

身頃は衿肩の方に參りました時、一度に衿肩の半分より二目多く　即ち十八目増します。其の十八目丈けはガーター編で十二糎になるまであみます。一方袖の方は後袖に合せて袖口の方から十目かぶせ止めにし、次に、一段置きに五目づゝ六回かぶせ止めをし、後袖に揃へます。さうしてこゝは此のまゝにして置いて、右身頃を左身頃と同じに編みます。

かうして前明十二糎になりましたら、第八十三圖のやうに、左右を一緒にしてあみますが、衿肩を増す時、三目づゝ多く増してありますから上前の下に下前を重ねて、六目を重ねたまゝあみます。

重ね合せましたら、次は全體をメリヤス編にして模様のある所まで編み、次から後の模様に合せて模様を十三段、終りにガーター五山編んで止めます。

衿　衿肩明の十八目一度に増した端から端まで、第八十四圖のやうに目を拾つて、ガーター編二十山位あんで止めます。

袖口　袖口廻りから四十目拾ひ、一目表、一目裏のゴム編を十五段あんでかぶせ止めにいたします。袖下から脇を裏から細かくとぢます。持ち出しの所にはスナップを付けます。

二三歳女兒用マガレットオーバー

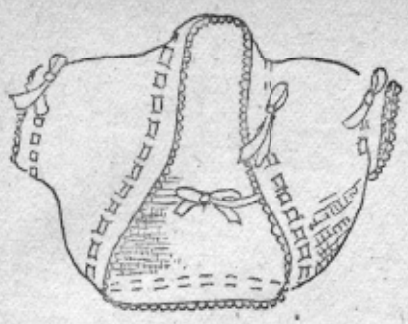
材料　白の極細毛糸六オンス(三本合せて編む。)　人絹刺繍糸とき色一把、白の一絹巾リボン四米。

用具　鍵編用の鉤針(元の方に玉の付いたもの、)と縫針一本。

編み方　此オーバーはかさり編の他は全部鍵編にして右前身の肩の方より編み初めます。

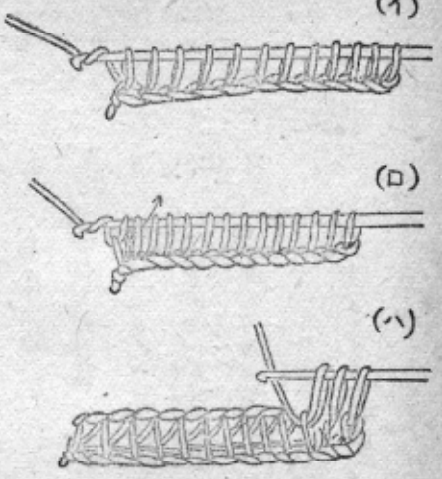
たゝみ編み　第八十六圖(イ)の如く鎖の度を一目づゝ全部八糎位の長さに引みぬき、返りは(ロ)圖の如く、糸をかけ初めの一目だけ一目はづし、次からは二目づゝはづして返るのであります。

二段——(ハ)圖の如く、前段にはづした鎖の糸を一目づゝ全部八糎の長さに引きぬき、返りは(ニ)圖と同じにいたします。



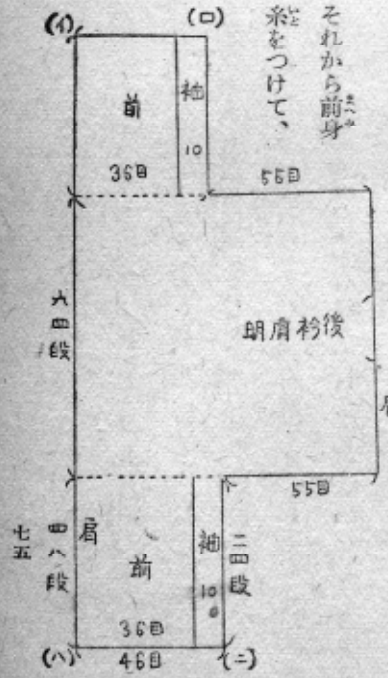
第八十五圖

最初四十六鎖編をし、第八十六圖(イ)、(ロ)の如く編みます。



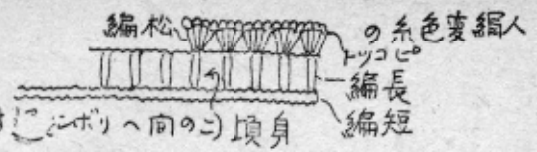
第八十六圖　たゝみ編の編方

二段目は又(イ)圖の如く目を拾ひ(ロ)の如く引き抜く時、二十六目丈け引きぬき袖口となる可き方を十目引きぬかずに針に殘し、三段目は一段と同じく全部編み、四段目は又二段目と同じく十目殘すと云ふやうにして袖口の方が二十四段、前身頃の方が四十八段となるまであみます。そして今度は身丈として鎖を五十五編み足しまして後身を眞直ぐに六十四段増減なしにあみます。六十四段編みましたら、一旦目を全部止めてしまひます。それから前身の分として、右端から五十六目のところへ糸をつけて、四十六目だけ目を拾つて疊編をし、右前身と同樣に十目は一段おきに編み、右方の段數に合せて同じ形に編み糸を止めます。



第八十七圖

次は兩肩を第八十七圖のイとい、ロとろ、ハとは、ニとにを合せておとぢておき、袖口の方の縮め方をいたします。袖口は前身頃の方はそのまゝ一目に一ツづゝ入れ後身頃の方は一目とばして短編を一段いたします。



第八十八圖　飾編の仕方

二段目は初め鎖三ツして、次の目に長編を一ツ入れ、鎖一ツして一目とばし長編を二ツ揃へて編む。これを繰り返し、三段目は鎖三ツして、次の目に長編四ツ、次から二ツ並んだ長編の終りの一目の上に五ツづゝ長編を入れてかさり編といたします。そして最後のふち飾りは、變り糸で三ツ鎖のピコットを付け、一目とばして短編をいたします。（第八十八圖）

裾まはり及び裾　全部袖口と同じやうに飾り編をいたします。

次にリボンの付け方ですが、四米を最初に袖口用に九十糎づゝ二本を、端が斜になるやうに切り、兩方の袖口の、二本並んだ長編を一ツおきに通し上の方でリボンを第八十五圖のやうに結びます。

次に、三十糎餘の長さを二ツ切つておき、殘り全部で衿と裾まはりにかさりを付け左の上の方で結んでおきます。

次に前に切つた三十八糎餘りのリボンを前を合はす紐と致しますから適當な所にかさりの内側へ結び付けて下げておきます。

オチャン〳〵

材料　極細毛糸白四オンス、（三本合せ）變色毛糸一オンス、リボン二糎巾四十糎。

用具　毛糸用鈎針、とぢ針各一本。

編み方　裾巾全部の寸法で上に向つて編み、襟上の所で前身と後身とを別々に編み、肩で接ぎ合せあとから衿を編みます。

後巾、前巾、襟巾の二倍の寸法で六で割りきれる數だけの鎖編をいたします。

普通百六十二が適當であります。

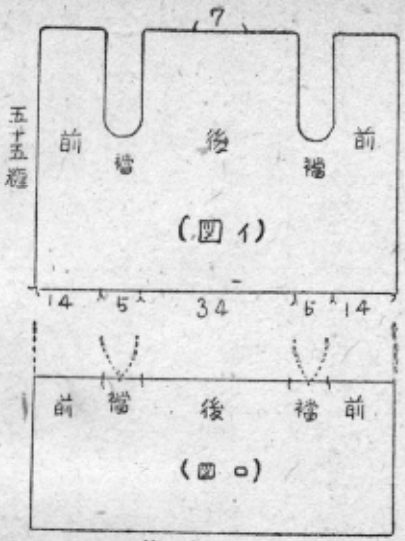
一段——編み初めに鎖編三ツ編み三ツ目に「長編二ツ編み、二ツ飛ばして三ツ目に短編でとめて、次は三ツ目に長編五ツして、三ツ目に短編一ツ」で止める。つまり松編をくりかへします。

二段——變色毛糸（三本合せ）で一段全部短編をいたします。

三段——地色の毛糸で一段と同樣に鎖編三ツして根元に長編二ツあみ、第一段の長編五ツの山に短編で止め、一段目の短編一ツの上に長編五ツを編みます。

四段――二段目と同様に變色毛糸で短編を一段全部編みます。

一段、二段を交互にくりかへしながら二十五糎あみましたらば、變色毛糸の短編をやめて松編を地色毛糸で六糎編みます。短編をやめてからは一段毎に糸を切ります。



五十五糎

錢162回

第八十九圖

第八十九圖(イ)(ロ)の寸法に後巾、前巾、褄巾と糸標をつけます。褄のへらす所は段々とへらして丸くしなければなりませんから松編の五ツを三ツに三ツを一ツに減します。前は前で編み、後は後で別々に編みます。

前を編む時は、褄の方だけ一方で松編をへらします。

後を編む時は、兩方で褄の方をへらします。

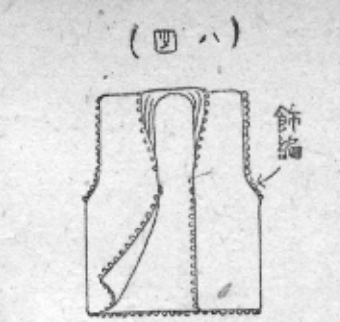
前後共減らし初めてから二十三糎だけ編みましたら、糸を切ります。

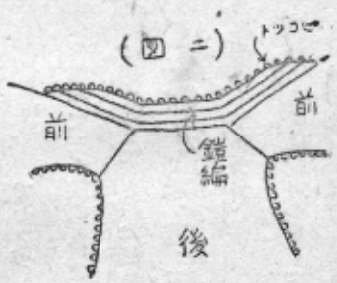
次に肩を裏からとぢ針でとぢ合せます。

次は第九十圖(ハ)のやうに袖ぐり、裾、前にビコツトを一段ぐるりと編んで飾りといたします。

袴の編み方

袴は變色毛糸で鎖編(基礎編參照)にあみます。肩から八糎下つた所まで短編で一段編み、次に裏から編みますが第九十圖(ニ)のやうに兩端で一ツづゝ減らして編みます。五糎位編みましたら、まわりにビコツトを一段編みます。





第九十圖

飾のつけ方

肩から十七糎下つた所にリボンを嬰兒帽子のやうに結んでつけて紐といたします。

二三歳用チャンチャンコ　(斜横松編)

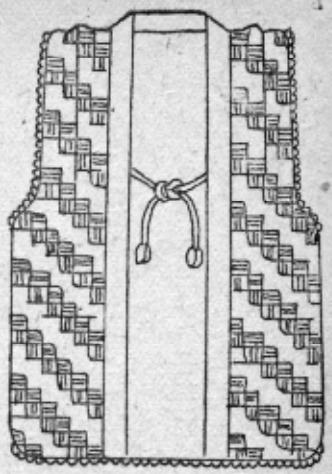
材料　中細八オンス(四オンス宛二色)

用具　毛糸用鉤針。

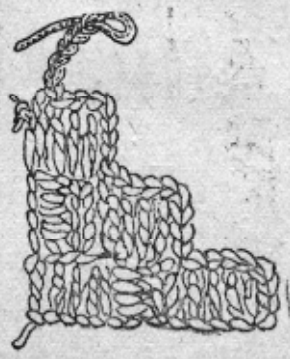
編み方　此の編み方は前巾の角の處から編み初めます。始め鎖を七ツ編み、後に戻つて四ツ目より長編を鎖の終るまで編みます。さうしますと長編が四本出來ます。こゝで又七ツ鎖を編み、四ツ目より長編を四本入れ、裏返

して始めの鎖編の處に短編で付けます。三ツ鎖を編み今付けた處に長編四ツを入れます。この時第九十二圖の如く長編を一度引ぬいた處で糸を取りかへます。又鎖三ツを編み四ツ目より長編を四ツ入れます。裏に返して前の鎖の中に短編で付けます。鎖三ツを編み同じ根元の鎖の中に長編を四ツ入れます。次の鎖の角に短編でとめて又くるり三ツ編んで根元の鎖の中に長編四ツを入れます。このやうにして兩側で七ツづゝ鎖を編みますと、一段で一ツづゝ長編が増して行くことになります。これを二段づゝ糸を替へて三十段編みます。ここが前巾になるのであります。次は裾の方から松編を十二編みましたら、十三目に進まうとする時、鎖を編まずに十二目の鎖の中に付けましたら、直ぐに今編んだ松編の山に引ぬきをしながら後に戻りますこゝから下の方に編み下がります。

この襠上で松編の上に引ぬきをして編み下る時は、いつもくさりを三ツ編んで戻ります。裾の方は前の樣に七ツ鎖を編んで松編一ツづゝ増して編んで參ります。襠上は引ぬきにして返る事を二度致しますと丁度松編五ツ丈け襠巾になります。これが出來ましたら前巾の上の方は第九十三圖(い)のやうに三角のまゝにして置いて、次は後身頃を上の方も裾の方も七ツづつの鎖を編んで續けてゆきます。兩方共七ツ鎖で十五段編みましたら后の方を引きぬき止めにして、五段出來ましたら下の方も引きぬきで止めます。

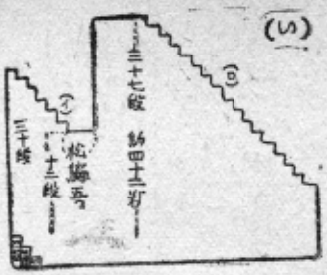


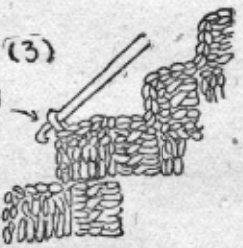
第九十一圖　出來上り圖



第九十二圖

次は兩方共引きぬきにして肩の方で十段出來ましたなら次にまちを作ります。前のまちと同じやうに下から十二の松編の處で引きぬきにして戻ります。これを二度引きぬきにして戻りますと丁度横松が五ツで襠が出來ることになります。





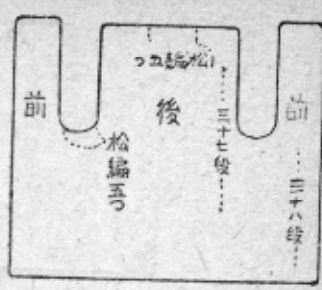
第九十三圖

後身は第九十三圖(ろ)の如く其のまゝにしておきまして、一方の前巾の方を伸ばして參ります。其の段數は襠上から十七段まで伸ばすのであります。それから兩方共引きぬきで止めまして肩の方は四角になるまで止めて參ります。さうしますと、前が十七段、後身が十五段になります。これで一度糸を切つて置きます。

今度は後身であります。

後側のまちの上の處に糸を付けて、後身の三角を四角になるまで編んで參ります。又こゝで一度糸を切りさして

今度は初めに殘して置きました前巾を四角にするのであります。始めのきちの前側に糸を付け、三ツ鎖を編み、兩方共引きぬいては三ツ鎖をして返し、第九十四圖の如く四角になるまで編んで參ります。

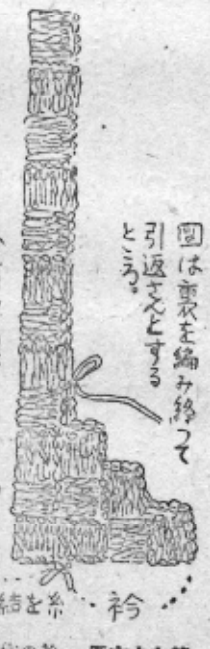


第九十四圖

肩の合せ方　次に前身頃の肩と後身頃の肩を第九十五圖のやうに突合せ、模様を合せて裏の方から引き抜きではぎ合せて置きます。


（平たくした圖）
第九十五圖

衿の作り方　衿を作ります時には左前の裏を見まして第九十六圖に示すやうに下三角の處に糸を付けて、七ツ鎖を編み同じ處に長編四ツを入れます。七ツ鎖を編み四ツ目より長編四ツを入れます。これを初めの鎖三ツの中に付けます。三ツ鎖を編み同じ處に長編四ツを入れます。こんどは身頃の方の二ツ目の松編の中に付けます。鎖



第九十六圖　衿の作り方

三ツ編んで次の松編の一番初めの長編の上に付けます、三ツ鎖を編み、前に三ツ鎖を編んだ中に長編を四ツ入れます。さうして次の松編の鎖の中に付けます。又三ツ鎖を編み長編を四ツ入れます。これが三回出來ましたら、衿は松編三ツの巾でありますから片方は身頃に付け片方は引きぬき止めにして衿肩廻りから右前の下の處まで付けて參ります。そこの處で三角にして糸を切ります。脇明と裾とにピコットの飾を付けて置きます。これは廻りをきれいにするためでありますから餘りたるまないやうに、又ちゞまないやうにいたします。ピコットの付け方は短編をして三ツ鎖を編み鎖編の根元に針を通して短編で付けるのであります。

紐の作り方　紐はまち丈より五糎上の處の衿と身頃の處に短編で付けて鎖三十編みます。糸を少し長くして針に糸をからんでは同じ目より糸を引き出し、又糸を針にからんでは糸を引き出し、これを四回いたしますと鎖編が出來ます。

これを引きぬいて結んだ中に又針に糸を絡んでは同じ目に引きぬくこと四回、これを引き締めて元の鎖の目に引きぬきで付けます。それから鎖の目毎に引ぬきをして鎖の終りまで編みます。衿の裏側の方へ糸を引込んで良く止めて糸を切ります。衿の外側も餘りきれいでないやうでしたらピコットを廻りに付けて置きますときれいになります。

肩上げは普通のヂヤン〳〵と同じ仕方で恰好よくいたします。

二三歳女兒用籐編袖なしセーター

材料　白太毛糸六オンス、中細又は絹レース少々、一糎巾リボン一米。

用具　三號二本針一組、とぢ針一本、鉤針。

編み方　始め二本の針に八十六の目をかけます。（この籐編は二十一目を一模様と致しますから籐四模様と最後の二目とを加へて八十六になります。）



第九十七圖　出來上り圖

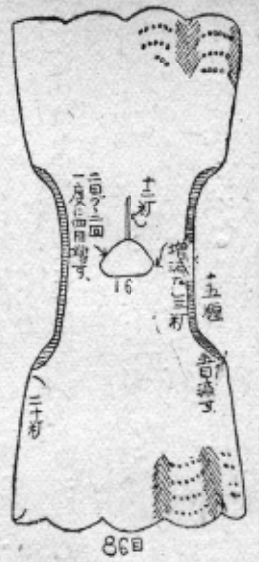
一段——「裏二ツ、表一ツ、二ツ一度を三回、次にかけて表一ツを五回あみまして、それから二ツ一度これを三回、表一ツ、」これが籐編一ツの編方でありますから、これを四回續けて、終りに裏二ツで終ります。

二段——表二ツ、裏十九、終りに表二ツで終ります。

三段——裏二ツ、表十九、終りに裏二ツで終ります。

四段——二段目に同じであります。

五段目からは一段に返ります。一段から四段までを繰り返して、第九十八圖のやうに、二十糎編みます。二十糎あみましたら、全部をメリヤス編にして、表編の時に全體の目が六十六になるまで、ところ〴〵で減します。この減し方は二ツ一度に編みます。それより兩方五ツづゝをガーター編にして、ガーターの内側で二目一度に編んで目を減し、始めの方はかぶせ目とし、終りの方は二目一度にいたします。これを表編の時又け減して兩方共五回續け、それより眞直ぐに十五糎編みまして衿刳を明けます。



第九十八圖

六十六目の内兩側で、五ツづゝ十目減しましたから殘り五十六になります。其の三分の一よりも二ツ少くして中央十六目をかぶせ止めにいたします。かうして兩方はガーター編共で二十目づゝ殘ります。そこで前身頃が兩方に分れ、片身頃はほつれ止め又は別針にうつして置き、片身頃を三糎共のまゝ眞直ぐに編みまして、衿ぐりの方で増し目をいたします。その増し方は衿肩明の方に來ました時に二ツ増目をし、これを二回繰り返し、後は四ツ一度に増目をいたしますと丁度衿肩明きの半分の目數が片方から出たことになります。それより十二糎眞直ぐに編みまして一度糸を切り、片方も同じやうに十二糎まで編みましたなら、其處で兩方共續けて三糎編み、兩側で増目いたします。其の増し方は後身の減した分を前で増すのですから其の反對に後と同じくガーターの内側で一段置きに一ツづゝ五回兩方で増

し目をいたします。増し終りましたなら、こんどは後身で二十目減したのと反對に二十目増します。其の増し方はところ〴〵で目と目の間の糸をすくひ、一ッねじつて編みます。

さうして全部の目が八十六になりましたら、藤編をいたします。其の寸法は後身丈と同寸に編み、編み終りましたら全部の目をかぶせ止めにします。そして衿廻り前明の處を鉤針で一廻り短編で編んでおきます。胸に付けます、玉は中細か又は絹レースで二糎位の丸さのものを編んで二ツ作り前明の外側の二ケ所に縫ひつけます。輪の方は鎖編で玉の通る位よりも少々長くして二ツに折り、右の内側の方に縫ひ付けて、前後の脇をとぢ合せます。それから胴廻りの藤編の目に一糎巾の飾りリボンを通して出來上りとします。

四五歳用指付靴下

材料　太毛糸二オンス。

用具　一號四本針一組。

編み方　始めに二本の針に四十四目を掛け、表二ツ、裏二ツのゴム編を八糎編み、次にメリヤス編みを十二糎編みます。

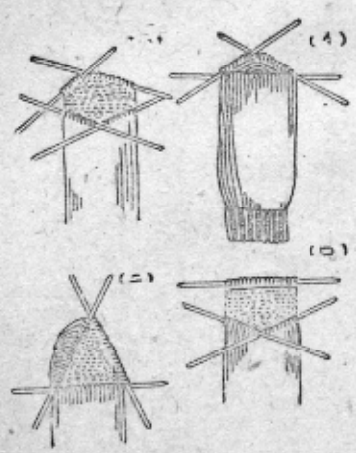
こむらの減し方　何處か一個所に糸じるしを付けて、しるしの右側はかぶせ目左側は二ツ一度を致します。

これを五段宛きに二回致しますと、丁度殘りが四十目になります。この四十目を眞直に三糎編みます。



第百四十九圖

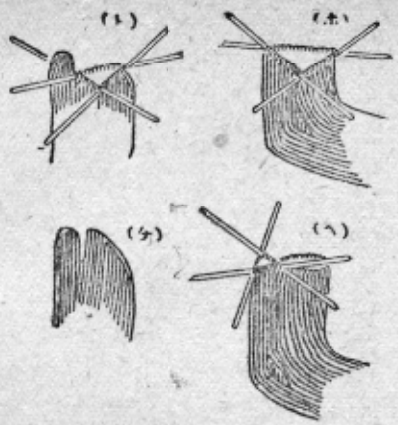
踵の作り方　全部の目の半分を、脾のところで減した糸幅を中心にして、一本の針に移し、殘りの半分を二本の針に通して置きます。（第百圖イ參照）それより一本の針の方の、二十目だけを十二段編みます。（第百圖ロ參照）次に今編んで來た二十目を針の上で凡そ三ツに別けます。兩端を六目づゝ中央を八目として、初めその三分の二（六目と八目）を表編で編みます。裏返して、今編んで來た最後の目はそのまゝ一目右の針にうつし、次から裏編に八目編みます。又表に返して一目うつし、次から表編を編んで、前段で編んだ目より一目多く編んで、後戻りいたします。このやうにして往復いたしますと兩端の六目は段毎に一目づゝ中央の部へ編み込まれて仕舞ひます。（第百圖（八參照）もう一段編んで、先に十二段編んだ兩側の目を拾つて（第百圖（ニ參照）二本の針に通して置いた所の、二十目も共に輪に編みます。其の時二本の針の二十目の兩端の目で、十二段の横目を拾つた目にかぶせて、



第百圖

二段おきに一目づゝ減して行き、拾つた目を全部減らして仕舞ひます。（第百一圖（ホ）參照）それから眞直に八糎編みます。（第百一圖（ヘ）參照）

拇指の作り方　上下の目を端から數へて六目づゝ都合十二目を三本の針に分け、それを拇指として丸くし、合せ目の處で二目增し十四目とします。殘りの目は他の糸に通して置きます。拇指の十四目は其儘增減なしに二糎位編み、次より一目置きに二ツ一度を二段して糸を五糎位殘して切り、今の編み目に別の糸を通して、殘した糸と共に內側に入れ、しつかり結んで切つて置きます。



第百一圖

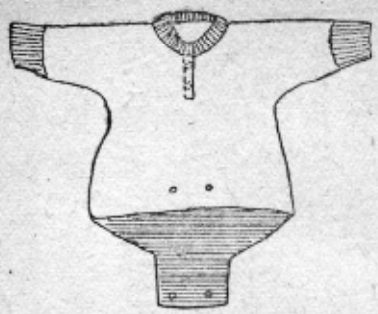
四本指の編み方　別に糸を通して置きました殘りの目を三本の針に移し、合せ目の處は拇指の時に增した目の處と共に穴のあかないやうに目を四目位拾ひます。其儘一廻り編んで小指の方で目を減します。上下を良く揃へて小指の側の一番端の目を上下共一目づゝを中心として、其の兩側の目で次の目をかぶせて減します。一段置きに二回へらしましたら、三回目からは每段へらして親指の長さだけになるまで編みます。（第百一圖（チ）參照）編み上りの糸の先を針に通して、爪先きをメリヤスつなぎ（第百二圖參照）にして、中の方で糸を止めて切ります。

四五歲用洋服下着

材料　太毛糸六オンス、スナップ四個。

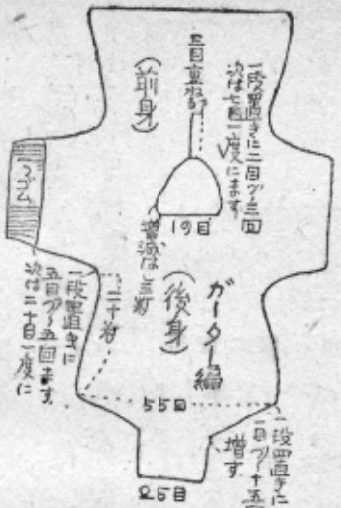
用具　三號二本針、とぢ針。

編み方　この下着は後身の下の方から編み初めます。始め目を二十五掛けて十五糎ガーター編をします。それより兩側の一目內側で一段置きに一目づゝ十五回增します。これで全部の目が五十五になり、これが後巾になるのであります。それより增減なしに袖下迄二十糎編み、兩側で一山每に五目づつ五回增します。次は一度に十目增し、終りましたらそのまゝ袖付の所で十糎乃至十一二糎編んで衿肩を明けます。後巾の目數を三等分にいたします。衿肩が十九で兩前身が十八づつになります。衿肩明の十九をかぶせ止めにして片身頃を別の針にうつして置き片身丈け三糎（半分肩のくりこしとなる）編み、胸の方で一段置きに二目づゝ三回增し目を致し四回目は七ツ一度に增し目いたします。袖の方はそのまゝ續けて袖丈を編み、袖



第百二圖　出來上り

だけ編めましたら、二十目をかぶせ止めにし、一段置きに前に増し目した反對に、五目づゝ五回かぶせ止めにいたします。袖を止め終りましたらそのまゝ中止して置き肩山で別針に預けて置いた片方の前身を編みます。胸の增目、袖の止め方等、片方と同樣に、同じ所まで編みます。（第百三圖參照）出來上りましたら胸明きの處を三目重ねて、二目一度に三回編みます。女兒なれば左前に、男兒は右前にして重ねます。次は二十糎眞直ぐに編んで止めて置きます。



第百三圖

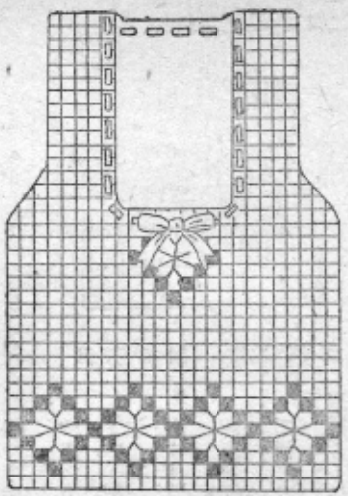
袖口の編方　袖の端の處に糸を付け一目に一ツづゝ目を拾ひ、三目拾つたら一目とばし、それを繰り返し拾ひ終りましたら、一ツ表一ツ裏のゴム編を七糎編んでかぶせ止めにして糸を切ります。兩袖同じに袖口を編みます。

衿の作り方　前衿明の端に糸を付け一目に一ツづゝ目をすくひ出して一ツ表一ツ裏のゴム編を二糎程してかぶせ止めをいたします。次は兩側の袖下と脇とを良く揃へてとぢ針できつるやうにしてとぢ合せます。スナップは後身の裾の兩側に付け前は後に合せて付けます、胸明の處は上の處と中程とに付けて置きます。

五六歳女兒用春向きの袖なしセーター

材料　中細三オンス、一糎巾リボン一米十五糎。

用具　鉤針使用。



第百四圖　出來上り圖

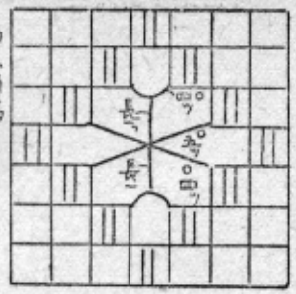
編み方　花びし編。

一段——始め鎖八十を編み、八ツ目に長編一ツを入れ、鎖二ツを編み、目を二ツとばして三ツ目に長編を入れます。鎖二ツ、目を二ツ飛して長編を一ツ入れます。この段は全部これを繰り返します。

二段——返る時に鎖二ツと長編の分が三ツで都合五ツの鎖を編んで、裏に返して前段の長編の上に長編を編みます。この拵目が三ツ出來ましたなら四ツ目には前段の拵目の中へ長編二ツ編み、前後の長編と合せて長編を四ツ揃へます。又次よりは拵目が五ツ出來ましたなら六ツ目には長編を四ツ揃へます。拵目五ツ置きの六ツ目、長編を四ツ揃へる。これを繰り返しますと終りは拵目が三ツ出來ることになります。

三段——鎖五ツをして裏に返し次の長編の上に長編を入れます。次に鎖二ツ長編一ツの桝目を二ツ編み、次の桝目の上に長編四ツを揃へます。

鎖二ツを編み前段の長編の目の揃つて居る所をとばして、その次の桝目に長編を四ツ揃へます。鎖二ツを編み長編の桝目ですゝみ、前段の四ツ揃へた長編の兩側にきました時に四ツ揃へるのであります。これで終りは桝が二ツとなります。



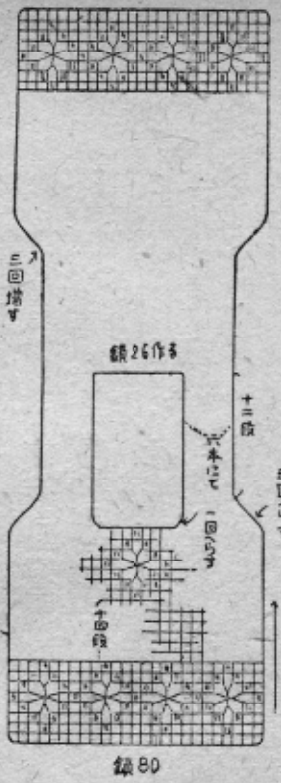
第百五圖　模様線圖案

四段——鎖五ツを編み、裏に返して桝目一ツ作り、次の長編より四ツ揃へます。鎖四ツ編んで前段の長編と長編の間の鎖に長編で付けます。又鎖四ツを編み次の長編の終りの目より長編を四ツ揃へる。これを繰り返して終りに桝目が一ツ出來ることになります。

五段——この段は模様の一番廣くなつた處でありますから始めから模様を入れることになります。それで始め三ツ鎖を編み裏に返して續いて三ツ長編を揃へることになります。

六段——鎖五ツ編み、裏に返して、前段の長編の終りの目より長編を四ツ揃へます。四ツ鎖を編み前段の短編三ツの中央の目に長編一ツを入れます。次に四ツ鎖を編み、前段の五ツ鎖の中に長編三ツ、長編の頭に一ツ、都合四ツを揃へることになります。

七段——鎖五ツを編み、次の長編の上に長編を入れ、二ツ鎖を編み、次の長編の頭より長編を四ツ揃へます。鎖二ツを編み前段の鎖四ツの中に三ツの長編を入れ長編の上に一ツ、都合四ツ揃へることになります。この段はこれを繰り返します。



第百六圖

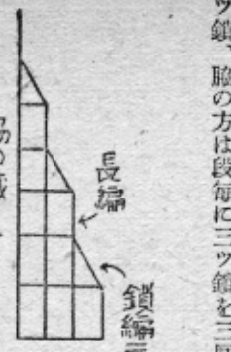
八段——鎖五ツを編み裏に返して次の長編の頭に長編一ツを入れる。鎖二ツを編み次の長編の頭に長編を入れる。鎖二ツを編み、模様の中央の處に長編四ツを入れる、第二段目と同じであります。これを繰り返しますと一模様全部が終るのであります。

第百六圖のやうに、九、十、十一、十二、十三、十四、の各段は桝目ばかり、十五段より前中の中央の處に菱形

模様を一ツだけ入れるのであります。この模様が出來上りましたら胸明きを作るのであります。

胸明きを作ると同時に脇の減し方をいたします。

脇の減し方は第百七圖のやうに、毎段前側で裏返す時五ツ目鎖を編む處を三ツ目鎖を編みます。一模様の終つた處から三ツ鎖をして脇の方に返ります。又脇の方でも三ツ鎖をして胸明きの方に戻ります。胸明きの方は一回三ツ鎖、脇の方は段毎に三ツ鎖を三回して減しますから、結局脇の方は三回減すことになります。胸明きの方は一回減すことになりますし兩方で減しました殘りの目が鎖を入れまして長編の數が六ツになり網目は五ツになります。これを脇の別れ目から十五段編んで糸を切つて置きます。

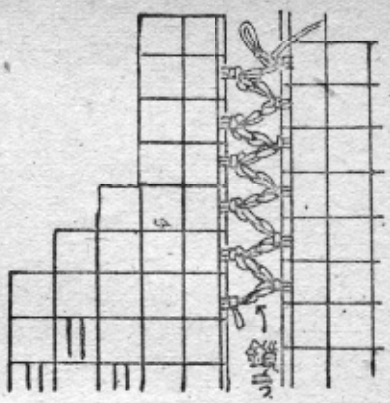


第百七圖　脇の減し方

これで、前巾の片身頃が出來上りますから、次は片方の前巾にうつります。

脇の方へ糸を付けて、三ツ鎖を編み、裏に返して、胸明の一模様の終つた處まで編みます。そこで三ツ鎖して又外側の方へ編み、片方のやうに三ツ鎖をしては胸の方へと三回減します。（胸明きでは一回）鎖共長編六ツになりましたら片方と同じく、分れた所から十五段編みます。

十五段の編み終りが内側の方になりますから、そこで衿肩明として二十六の鎖を編みます。そうして一方の五ツ鎖の三ツ目に長編で付けます。それより網目編を續けてその段の終りまで編みます。これより網目ばかりを六段編みます。七段目より兩方で一目づゝを增します。增方は段の初めに、五ツ鎖を編み裏に返して今の鎖の根元に長編を一ツ入れますと目が一ツ增した事になります。同じ段の終りで同様に增しますから終りは三ツ鎖を編んで再び同じ目に長編を入れますと一目增した事になります。これを一段置きに三回增しますと丁度前巾の三回減した處と同じやうになります。次からずつと網目で編み下り、裾で前の模様に合せて同じやうに編みます。



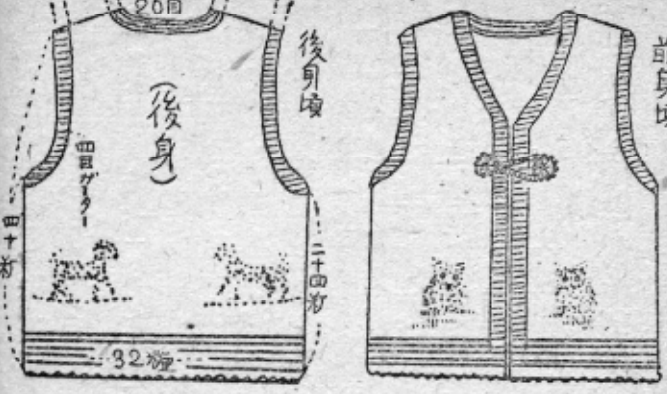
第百八圖　脇の合せ方

脇の合せ方

後前をよく揃へて第百八圖のやうに模様の上の段に糸を付けて、二ツ鎖を編み片方の模様の上の段に姫紳で付けるのであります。馬乘はあけて置きます。

又鎖二ツを編み、一方の次の段に付けます。これを繰り返して上の減し目の所まで付けて糸を切つて置き、堅く糸を止めて置きます。さうして前に用意して有るリボンを首廻りに通して前の方で花結びにしておきます。

五六歳用袖無セーター



第百九圖　出來上り圖

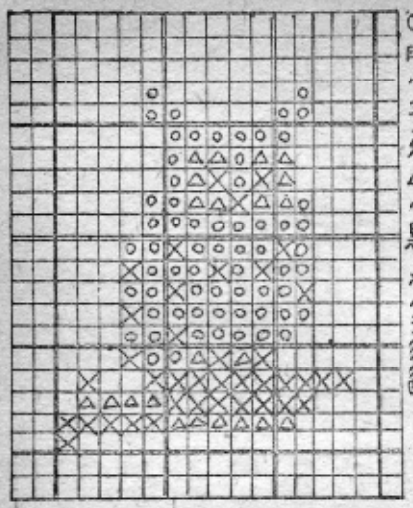
材料　中細水色毛糸五オンス、臙脂半オンス、黒緑鉈少々。

用具　二號玉付二本針、とぢ針。

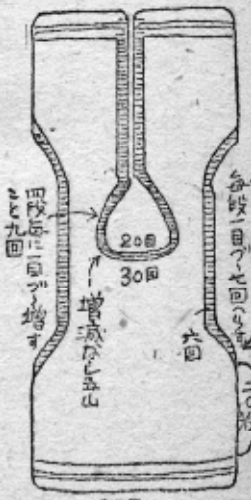
編み方　後身より編み始め、裾をガーター編に、胴はメリヤス編に、袖明きと衿をガーター編に致します。刺繍は全部出來上りましてから刺します。

始め二本の針に目を九十掛けます。地糸でガーター編を二山（ガーターは二段で一山）編み、えんじ色で一山、地糸で二山、えんじ色で一山、地糸で二山、編みますから都合八山出來ます。ガーター編が八山出來ましたならば第百十圖のやうに、後はメリヤス編にして二十糎編みます。次は兩脇で三目づゝガーターにして內側の方へ一目づゝガーターを增して行き、ガーターの目が十になりましたら、端から四目かぶせ止めにして、次の段からはいつも端の方で二つ一度をして脇の刳りをつけます。

これを七回減しますと十一目減ることになります。これを兩方共同じことに十一日づゝ減しますと後はガーターが六つづゝ殘ることになります。それより減し初めから十五糎眞直ぐに編みまして衿肩を明けます。



第百十一圖　圖案（參）



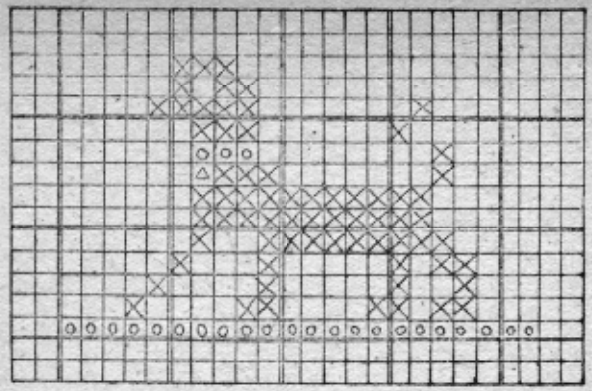
第百十圖

衿肩は全部の中央三十目だけガーター編にして、地はみなメリヤス編であります（兩側のガーターは共のまゝ續けます。）三十目のガーターが五山出來ましたら中二十目だけかぶせ止めにいたします。これが衿肩明であります。

そこから前を片身頃づゝ編むことになります。

眞直ぐに增減なくガーターの處が五山出來ましたならば前側のガーターとメリヤスの間の糸をすくひとり、それを一つねじつて目を一つ作ります。衿刳りは三段おき四

○印 エンヂ
△〃 黒
×〃 ラクダ色



第百十二圖　圖案（犬）

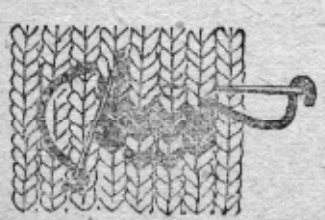
段目毎に一目づゝ増して九目増します。前明は増減なく下まで編みますが脇の方は後幅で減した反對に増目して行きます（一ツづゝ七回と四ツ一度に増し目いたします）

前の下の方は後と同じやうにガーター編をいたします。

兩方共同じやうに出來ましたら後前共に刺繍をして終ります。

刺繍はとお針に配色用の糸を通して圖案に從つて第百十三圖のやうにメリヤスの目を拾つて刺して參ります。刺した糸がつれますと見苦しくなりますからなる可くゆる目に刺すやうにいたします。

紐及釦掛　紐は糸で二本にして八糎位ゆるめに鎖を編み、其の上へ引きぬきで返へります。釦は短繻で編みまして、芯には木釦又はボール紙の上に綿を被せたものを二個作ります。そして前の紐を輪にして右前につけて紐の附け根を釦で覆ひ、左前の釦は少しゆるめに附けます。



第百十三圖

六七歳女兒用網代模様セーター

材料　太毛糸ラクダ色八オンス、同白色二オンス、アストラカン白色一オンス、スナップ二個。

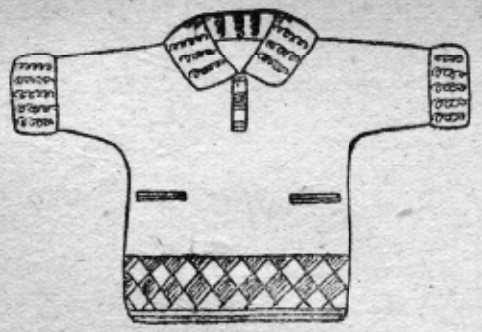
用具　三號四本針二組、三號玉付二本針一組、とお針一本。

此のセーターは地色糸の外に變色糸を用ひます。あじろの組合せの一模を變り色に致しまして、袖はアストラカンを用ひます。

編み方　始め四本の針に百四十四の目を作ります。此の目數は八目の十八倍であります。あじろは六の倍數でありますが、ガーターよりあじろに移りますとあじろ編の方が少し廣がりすぎるやうになりますので、二目づゝの余分を作つておきます。

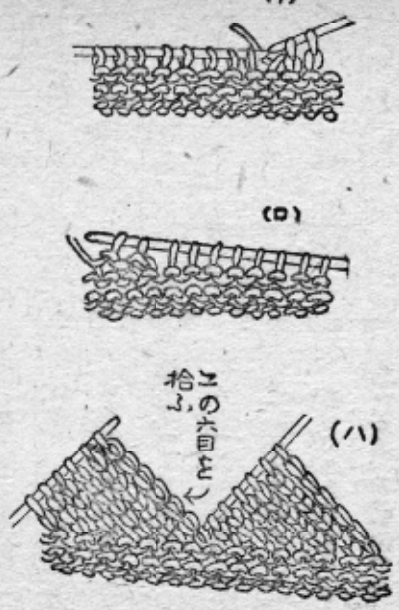
あじろ編の初めの作り方　始めガーターを二山編みます。こゝで八の倍數を模様の目數の六の倍數に直すために、二目おき、即ち三ツ目毎に二ツ一度を編み、全部を百八目とします。

次に模様にうつります。表を二目編み、第百十五圖(イ)、裏に返し、一目を右の針に移し、次の一目を裏編に致し



第百十四圖　出來上り圖

ます。第百十五圖(ロ)、又表に返し、一日右の針にうつし、次を二目表編になし、裏に返して始めの一日は右の針に移し、其の次より移した目と共に三目裏編みにします。又表に返し始めの移した目と共に四目表編とし、次に裏に返し移した目と共に四目裏編に致します。表に返して移した目と共に五目表編に致します。裏に返して移した目と共に五目裏編をします。表に返し移目と共に六目表編にします。表に返し六目表編に致します。



第百十五圖

是で第百十五圖(ハ)のやうなあじろの三角の一模様が出來た事になります。いつも模様の編み始めは二目編み、次の段からは表の時だけ一目づゝ四回編み進む事になります。(都合六目になるのでありますが、始め一度に二目進む爲に横の鎖目になつて居る所は、五目だけあらはれて居る事になります。それが爲に次の段の模様の時に、表に出て居ない下の目を一目すくひ取るのであります。つまり五目の處を六目作るのであります。是を繰返します。最初の一段は模様が半分で三角になります。

こゝまでは平らに編んでまいりますが、次の二段目の模様にうつる時から、全部の目數を五六本の棒針に分けて輪にして編みます。

二段——編み終りの針で編み初めのあじろ模様の右側の横目を、變色糸で、裏を見て拾ひながら六目かけます。次に表に向けて、最初の一目を編まずに右針にうつして、うつした目と共に六目表編をし、裏返して初め一目移目とし、それと共に五目裏編、六ツ目にはつぎの地色糸の目と一緒に二目一度の裏編としします。又表に向けて六目表編をし、裏に返して五目裏編をし最後の一目と共に地色糸の目と二目一度の裏編とし、順々に地色糸の目を減じて全部なくなるまで編みます。

次は、今、目をだん〳〵編み消した一段目の地色模様の右側の横目を、變色糸で裏側から六目かけて前の編み方と同じに編ます。編物は右から左へ續で行きますが、この模様編四、六と偶數の段は左から右へと編で參ります。

三段——地色糸に更へて、二段目のあじろの横の目を六目拾ひ、表目に五目編み　六ツ目の目と次の變色糸の一目と共に二目一度に編んで、裏に返して裏編をし、又表に向けて前と同じく表編五ツ、六ツ目と變色糸の一目とで二ツ一度をします。これを六回くりかへして變色糸の目を全部減します。次は又變色あじろ模様の横目を拾つて前と同じく編みます。

このやうにして一段(地色)二段(變色)三段(地色)四段(變色)五段(地色)六段(變色)七段(地色)八

段（變色）まで模様が編めましたら、九段目は地色糸で半模様の三角を一段と反對に編んで模様を終ります。

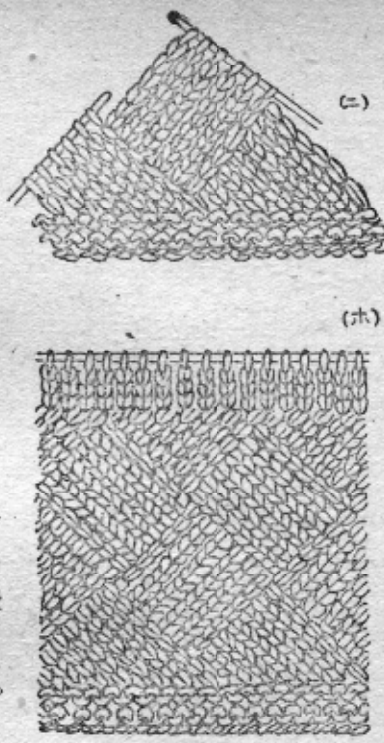
九段——八段目の横目を地色糸で拾ひ、そのまゝ裏編で返り、最後の一目を編まずに表に返し、表編で地色の最後の目と變色糸の目を二つ一度にあみ、裏編で返ります。その時終りの二目を編まずに表に返して裏編の終りに一ツ一度を編みます。順々に一段毎に、裏編の時一目づゝ多く殘して六回くり返しますと、三角模様が出來ます。かうして、この三角の模様を一段いたしますと、總目數百八が平らに針の上に揃ひます。

二本針の網代編の仕方　以上のやうに網代編は四本針で輪にしてぐる〳〵と編むのが普通でありますが、かうしますとこのセーターのやうに模様の所だけ輪にして編み、途中から後身と前身とを分けて編まなければなりませんが、次のやうに偶數の段だけを別法で編めば、片側づゝ編むことが出來ます。

偶數段　地色で左の三角の下角に鎖六ツを編みつけて糸を切り、その鎖の根元の目から二目抄ひ出し、裏に返して一目うつして變色の一目と、地色の一目を二ツ一度の裏編にします。

表に返して一目うつし、一目表、更に前の鎖の一目を抄ひ、裏に返して一目とり、一目裏編、變色と地色と二目一度の裏編、表に返して一目うつして二目表、更に鎖の一目を抄ひ、裏に返して一目とります。かうして順々に目數を増して終りに裏に返して一目うつし、裏四ツ、二ツ一度の裏編をして三角の一ツが終ります。次に一段の模様の横の六目を裏で拾つて四角を編むのですが、こゝからは普通の網代編の二段と同じであります。それから

最後の三角は右三角の横目を裏から六目抄ひ、表に返して一ツうつし、五ツ表、裏に返して一ツ取り、三ツ裏編、二ツ一度の裏編、表に返して一ツ取り三ツ裏編、二ツ一度の裏編表に返して一ツうつして四ツ表、かうして終りは裏に返して二ツ一度の裏編で終ります。模様が編めましたら次にうつります。

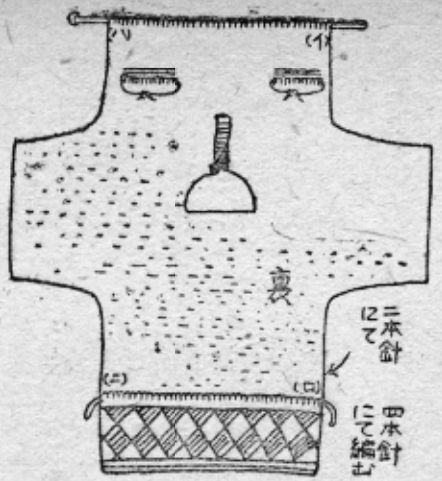


第百十六圖

次は是を半分宛にわけて片方は後身頃とし、片方は前身ビとします。全部の目を二本の針に取替て後身頃より編み始めます。これより袖下まで三十經増減なしにメリヤス編をします。

袖の目の出し方　編み終りで五目一度に出し、次の編み終りで又五目出します。是を繰り返して五目づゝを六回、七回目は二度に十目出します。兩方共四十目づつ出た事になります。是より増減なしに袖口の方で十二經になる迄編みます。それより袖肩をあけて身頃を兩方に分けます。袖肩の目は中央二十目をかぶせ止めにして、片方を二經増減なく編みます。それより袖肩の方の一目内側で、目と目の間の糸をすくつて一度ねじつて編みますと一目を増した事になります。是を

二段置きに十回増し、次は四目一度に増し目をするのであります。此の四目はガーター編にして十二糎編みます。袖口の方は衿肩の二糎を繰り越しとして二ツに折り、後と袖丈が同じになる迄編み続けます。丈が同じになりましたならば袖口の方で、此度は後身の時の反對に、袖口の方より返る時に十目かぶせ目をして次よりはいつも袖口の方より返る時に五目づゝ六回かぶせ止めにして、前の衿の方はガーターが十二糎出來ましたらばしばらく休ませて置きます。

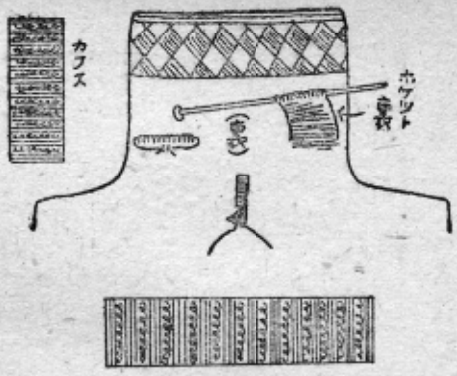


第百十七圖

ポケツト　其處でポケツトを付けます。其の付け方は兩方共脇から六目內側で二十二目づゝほつれ止めに通して置きます。通しましたならばすぐ二十二目作ります。二十二目だけを一目表、一目裏のゴム編にして二糎編みます。あとは全部メリヤス編みにして、兩袖下を合はせて後身と同寸に編み、下のあじろの處でメリヤスつなぎを致します。（基礎編參照）

肩の所で休ませてある片方の前も同樣に編みます。兩前が出來ましたならば前のガーターの四目を左前（右を上）に重ねて、上前と下前と各一目づゝ二目一度に編みます。

それから先はメリヤス編にして十八糎編みます。（第百十七圖參照）



第百十八圖　衿、カフス、ポケツト

衿の作り方　新しく目を三十かけてガーターを二山あみ、次にアストラカンで一山あみます。三山縁にアストラカンを入れて、首まはり全部に合はせてまつすぐに衿まはり丈け編んで止めます。（第百十八圖、衿）

袖口の作り方　衿と同じやうに袖口明に合はせてアストラカンを入れて、ガーターを編んであとからとぢ合せます。（第百十八圖、カフス）

とぢ付け方は衿も袖口も共に表の方からとぢ針でとぢ合せます。

ポケツトの作り方　前に二十二目殘してある目より、兩側で一目づゝ余分にすくつて二十四目にして、十二糎メリヤス編みにしてかぶせ目止めに致します。（第百十八圖、ポケツト裏）、そして表の方に表はれないやうに裏からとぢ付けて置きます。

脇のとぢ合せ方　兩袖下より脇にかけて裏の方からとぢ合せますと全部編み終りました。前衿の四目のガーター編の處に、スナツプを二個付けます。そして上前の表に配合の良い飾りボタンを二個付けて仕上げます。

七八歳男兒用セーター



第百十九圖　田來上りの圖

材料　舶來太毛糸地色濃茶八オンス、配色紺二オンス、ボタン、スナップ。

用具　三號二本針一組。

編み方　掛け目六十六を作り、二目二目のゴム編を五糎、中程で地色に二段いたします。次から變りゴム編で編みます。

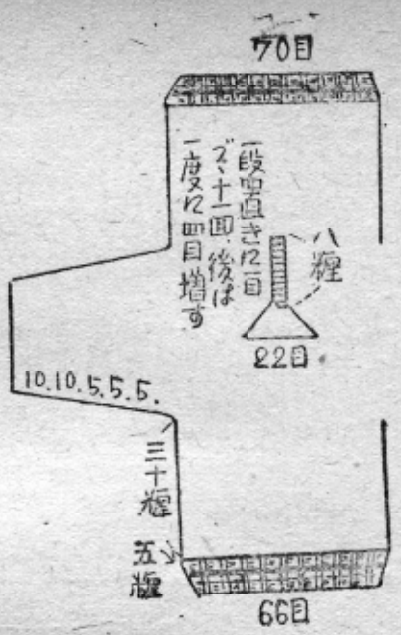
變りゴム編

一段――表一ツ、裏一ツをくり返す。

二段――全部表編。以下一段二段をくり返します。

後身を袖下まで眞直、三十糎編んで袖を編みます。

袖は五ツ目づゝ三度増し、十目づゝ二度、都合三十五目を増し終へてから、付けのところで袖丈が十三糎になるまで編み、背の中央で衿肩明を二十二目伏せ止めして前身頃にうつります。



第百二十圖

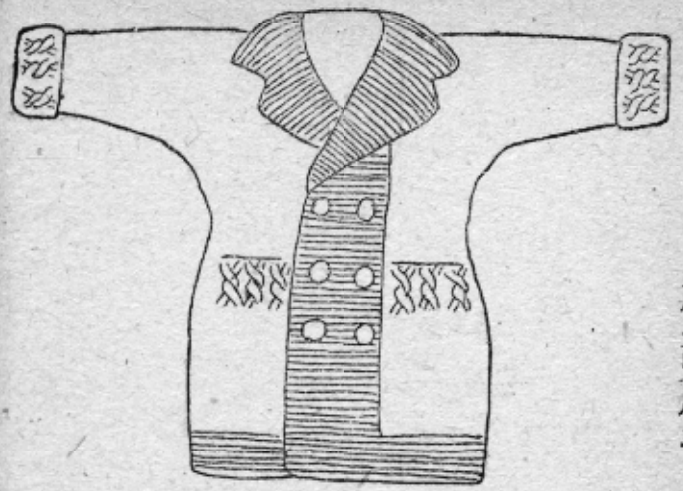
前身頃　前は左右別に編みますが、肩でくりこしとして三糎眞直に編みます。袖の方は、後袖口に合せて目のずん法が出來ましたら十目づゝ二回と五目づつ三回止め、前衿刳の方は一段おきに一目づゝ増して衿肩明の半分即ち十一目が増せましたら、今度は一度に四目を増し、この四目はガーターにして、八糎ほど編んで、他の片身頃にうつります。

他の片身頃も同樣に編みましたら、ガーターの部分の四目は重ねて、前身頃全體を變りゴム編で、後と同寸法になるまで編みます。この時前身頃の目數は後の六十六目より四目だけ増して七十目になる筈であります。裾にゴム編をいたしますことは、後と同樣であります。（第百二十圖參照）

袖口は裾と同じやうにゴム編を八糎程いたします。

衿の編み方　衿肩廻りの目を、一目に一ツづゝ拾つて、衿肩明の兩角で三目位余分に拾つて置きます。拾ひ終りましたらガーター編に致しますが、其の時兩端で二段目に一目づゝ増して十二山出來ましたら糸を切ります。

七八歳男兒用オーバー



第百二十一圖　出來上り圖

材料　並太毛糸十八オンス、釦六個、スナップ四個。

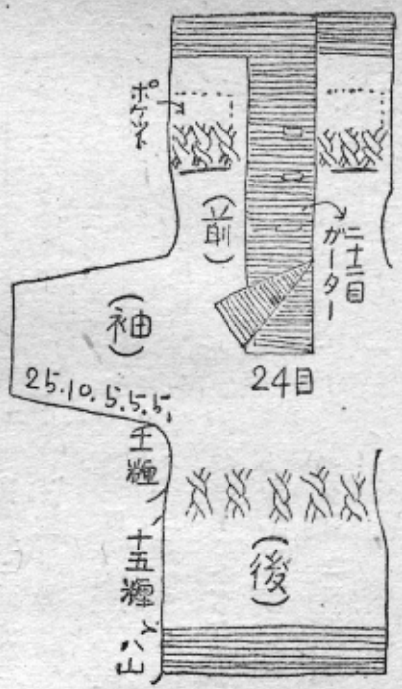
用具　三號二本針一組、同四本針一組。

編み方　裾目（後幅）九十目でガーター八山、鹿の子編十五糎編み、次は縄編にうつります。

縄編は裏二ツ、表六ツを四段しましてから、表六ツの前の三ツを別針にとり、後の三ツを先きに編んで、前の別針にとつた三ツを後から編みますと、目がねじれて縄のやうになります。これを四段おきに二回して又眞直に鹿の子編を十一糎編み、それから袖にうつります。

袖は五目づゝ三度、十日一度、最後に二十五目を一度に都合五十目を増して、袖口の所で十一糎だけ、編めましたら背幅の中央で二十四目伏目いたしまして衿刳明といたします。

前身頃　衿刳明の分に減した目の半分即ち十二目に十目足した二十二目を新らしく作つて、後身頃と同寸まで編んだら、縄編にうつります。（但し衿の二十二目だけは、模様にかまはず、ずつとガーターにいたします。）



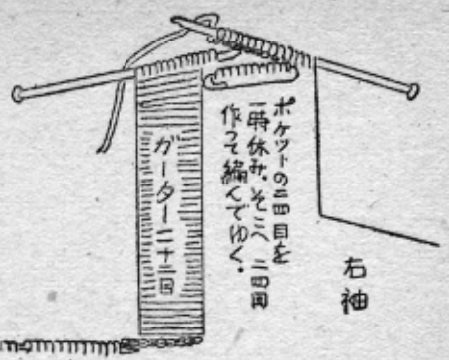
第百二十二圖

ボタン穴　上前（左前身）を編むとき前の増し目より二十糎位編んだ所で、端から四目内側で二目被せ目に致します。そして次の段で、前段で止めた所で二目作るのであります。

これを八糎置きに三ツ明けます。（第百二十二圖參照）中の方は飾ボタンを付けます。

ポケットの作り方　ポケットは縄編に移る時に、前のガーターの次の目より、二十四目を別の針、又はほつれ止めに通し置き、第百二十三圖のやうに二十四目を新しく作り目して、編みつゞけて來た針で編んで行きます。身頃が出來上りましてから、ほつれ止めに通して置きました二十四目を、眞直に十糎程編みまして糸を止め、身頃

の裏側に合せて、かぎ針で三方をとぢつけます。



第百二十三圖　ポケットの作り方

衿　前項セーターの衿のつけ方と全く同じで、衿廻りの兩端十目宛を殘し、他の部を四本棒に拾つてガーターを編みますが、この時兩端で二段おきに一目宛ふやし、十目増しましたら糸を切ります。

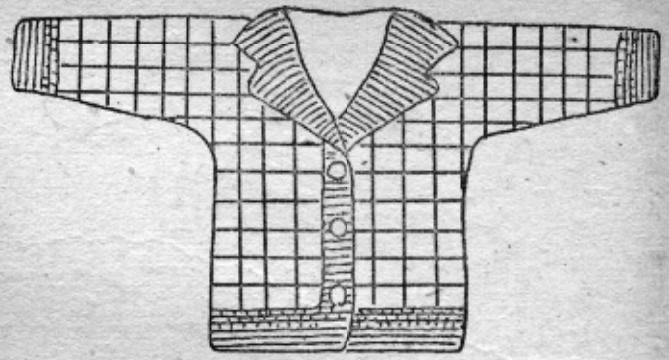
袖口　袖口の目を拾つて身頃の縄編と同じだけ縄編をして折り返しておきます。

脇袖下のとぢ合せ方　とぢ針に糸を通して兩方よく揃へてまつり縫ひを致します。

ボタン　二糎直徑のボタン六個を出來上り圖の位置につけ内側に四個スナップをつけます。

八九歳女兒用セーター

材料　地糸一ポンド、變り糸二オンス。

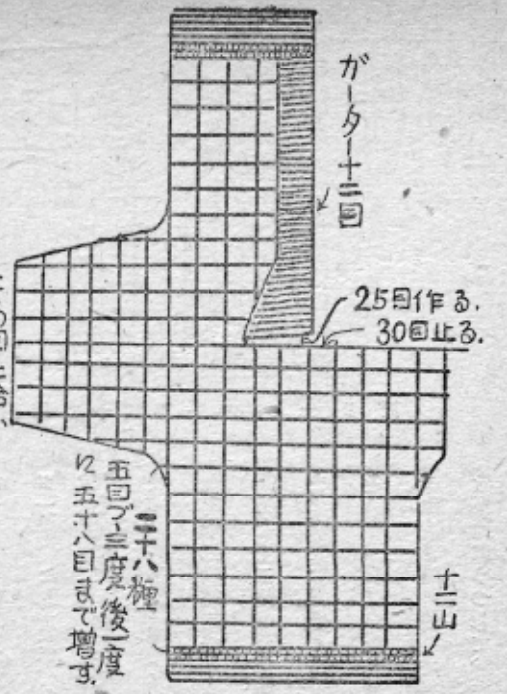


第百二十四圖　出來上り圖

用具　三號二本針一組、綴針。

編み方　掛目八十八を地糸でかけまして、ガーターを十二山、糸を替へてイボ編を三段（イボ編は表編一段、返りは裏編、第三段は二ツ一度。これだけがイボ編の一段となります。次の表編の時は間の目を拾つて元の目數にいたします。）又地糸にかへて格子編にうつります。格子編は圖に示してありますやうに表編八ツ、裏編二ツ、これを十二段編んでからガーターを二段、又前の表編八ツ裏編二ツの編方を十二段これを繰り返して二十八糎編みましたら袖の目を増します。袖は五目づゝ三度、次に四十三を一度に増して袖の分の總日數を五十八目にいたしましてつゞいて編み、袖附の所で十三糎になりましたら背の眞中で衿肩明を三十目あけ、この衿肩明と右身頃の分を別針にうつして、左前身頃を編みます。前身頃は衿の方で一度に二十五日を増しこの目數だけをガーターに編み、三段おきにガーターを一目づゝ前身頃の格子編にかへて行き、ガーターの部が十二目になりましたら眞直ぐに格子編とガーターと

を後身と同じ丈だけ編み、イボ編、ガーターも後と同寸にして糸を止めます。袖の方は後袖にならつてだん〳〵目を減らすことは他の場合と同じであります。次に右身頃も左身頃と同じく編みます。（第百二十五圖參照）



第百二十五圖

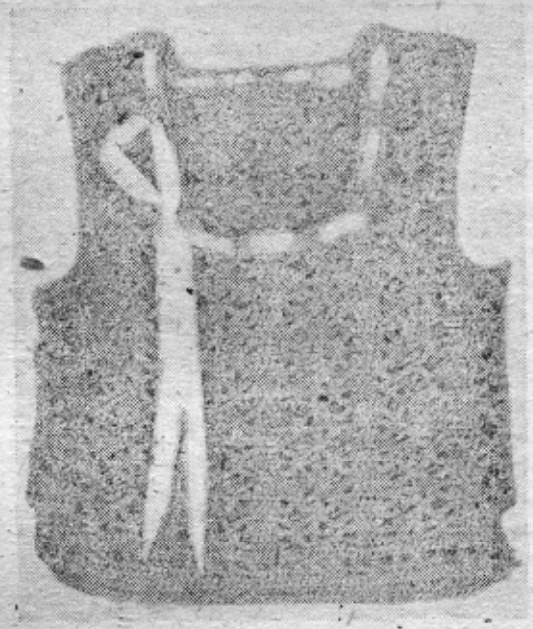
袖の先は裾と同じやうにガーター十山（折り返して出るガーターは四山）イボ編三段、ガーター四山を編みます。

衿　衿肩明の目數三十目と、前で一度に増した目數二十五目の中、端の方の十二目を殘した十三目をすくつて（全體が五十六目になります。）三段おきに兩端で一目づゝ増し、十二三段編んで止めます。

脇、袖下のとぢ合せ方　脇をとぢる時には後前をよく揃へて、裾の所に糸を付けて兩方一筋づゝまつるやうにしてとぢ合せます。

七八歳用半セーター

材料　リリヤーン小束十六束。一糎巾リボン一米五十糎。


第百二十六圖　出來上り圖

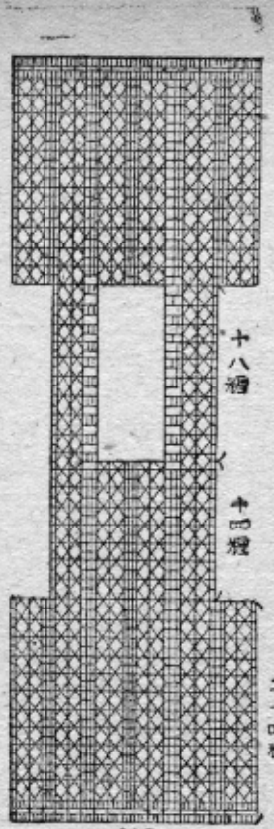
用具　鉤針一本。

編み方　このセーターは袖なしで後身頃から編み初め、衿肩明をあけ前身頃は左右別々にあんで胸の所で一緒にします。

後身頃　後巾として鎖九十目（十五の倍數）をかけ、更に次の段に移る長鎖の分として鎖三ツ編み、一段長編九十いたします。二段目は、鎖二ツして二目とばして長編一ツの拼目編を一段し、三段目は二段と同じ長編をし、四段目から模樣編をします。

四段――鎖三ツして長編一ツ編み、次より（鎖三ツ、二目飛して短編一ツ、鎖三ツして二目とばして長編一ツ、鎖三ツして二目とばして短編一ツ鎖三ツして二目とばして長編四ツ）をくり返して最後の長編は二ツで終ります。

五段――一ツ鎖、長編の上に短編一ツ、（鎖七ツして前段の長編の上に短編一ツ、鎖七ツ編み、次の長編四ツの上に短編四ツ）



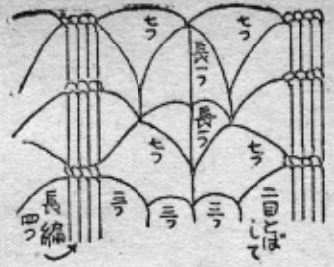
第百二十七圖

六段――三ツ鎖、次の短編の上に長編一ツ（鎖三ツ、前段の鎖七ツの四ツ目に短編一ツ、鎖を三ツ編み前段の短編の上に長編一ツ、鎖三ツ、七ツ鎖の四ツ目に短編一ツ、三ツ鎖で次の短編の上に長編）

七段――三ツ鎖をあみ、長編の上に長編、（鎖三ツして前段の短編の上に短編一ツ、鎖三ツして前段の長編の上に長編一ツ、鎖三ツ、短編の上に短編一ツ鎖三ツ、次の長編の上に長編）

以下四段から七段までを繰り返します。（第百二十八圖參照）、二十四糎編みましたら糸を切つて、左右兩端で襠の分として一模様宛だけ除いて前段終りの長編の上に糸をつけて模様を續けます。そして十四糎編みましたら中央で衿肩明の分として一模様と透し模様一通りを殘して引返し、兩端の長編の間を往復して、片身頃づゝ十八糎

二四二一
段段段段



第百二十八圖

（二糎は繰越）編みます。この時胸明の方と袖附の方の長編は鎖編みにしてリボン通しのために一段おきに桝目に編みます。左右の前身が十八糎づゝ編めましたら中央で鎖二十六目編み、兩方を接ぎ合せてなほ左右兩端に襠の分として鎖十五づゝ編み足して、後裾巾に合せて眞直ぐに編み、最後に長編一段、桝目一段、長編一段で二十四糎になるやうに編みます。そして後身と前身とを合せて裾から五糎位は馬乘として殘し、上の方を引き抜きでとぢ合せます。袖ぐりと馬乘に短編を一段編み、衿廻りにはリボンを通し圖のやうに結んで置きます。

七八歳用筋入ガーター編のチヨッキ

材料　並太毛糸十オンス。

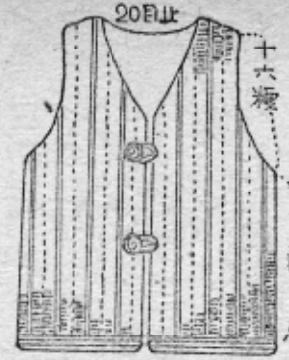
用具　三號二本針一組、とぢ針、鉤針。

編み方　始め二本の針に百〇三ツ（八の倍數から一を減す）の目を作ります。一本を抜きとり、端を結んでガーター編を五糎編み、それより筋入ガーターの模様に移ります。

一段――表三ツ（裏一ツ、表七ツ、裏一ツ、表七ツ）（ ）の中を繰り返して、終りに裏一ツ、表三ツ編みます。

二段――（表七ツ、裏一ツ）（ ）の中を繰り返しますと、終りは表七ツで終ります。この一段二段を繰り返して、十九糎出來るまで編み續けます。

次は兩側で目を減します。其の減し方は針の始めで減す時には針の内側の方に向つて二ツ一度に編みます。終りの方は普通に、つまり外側から内側に向けて二ツ一度に編むのであります。これを繰り返して片方で十五目宛減しますと、兩方で三十目づゝ減すことになりますから殘り七十目になります。この七十目を眞直ぐに十二糎編みまして衿肩に移ります。



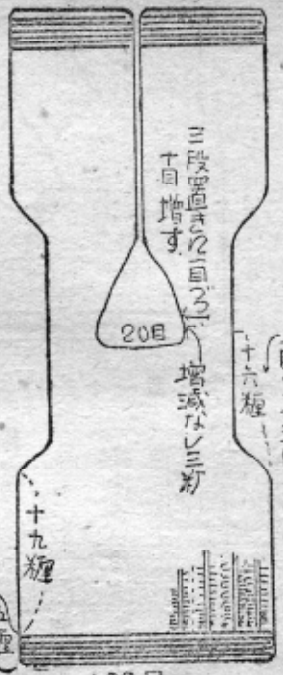
第百二十九圖　出來上り圖

衿肩の明け方　七十目の内中央の二十目丈けをかぶせ止めにいたします。其のまゝ片方の二十五目をほつれ止めにかけて他の一方を眞直ぐに三糎あみます。これを半分だけ繰り越しとして、二ツに折ります。

さうして前の方で三段おきに一目づゝ目を增して參ります。これを片方で十目增しますと衿肩明の半分だけ增したことになります。脇側の方は後の減し方と反對に增し目して參ります。增し終りましたら眞直ぐに、其のまゝ下のガーターの所も同じく編みましてかぶせ止めにいたします。

片方の前身頃も同じやうに編んで參ります。（第百三十圖參照）、全部編めましたら、兩脇をとぢ針に糸を通してまつり縫ひにいたします。衿廻りから前中全部を、鉤針で短編を一段編んでおきますと、編目が良く揃つてきれいになります。

玉の作り方　玉は始め鎖三ツを編み輪にして其の中に短編を六ツ編みます。其の次は一目に短編を二ツづゝ編み乍ら廻ります。次は一目に一ツづゝ入れて二段廻ります。



第百三十圖

其の次は中に綿を入れて丸くなし、一目おきに目をとばして減して參ります。

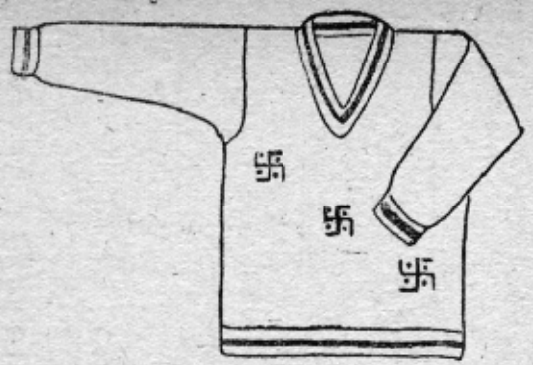
かういたしまして二三日になるまで減して參ります。

紐の作り方　胸明きの增し終りの所に糸を付け鎖編を前の玉の通る位まで編んで、次の目に引ぬきにして付けて置きます。これを八糎おき位に二ツ付けておきます。（出來上り圖參照）、玉はそれに合せて付け、脇の袖通しの所も一度短編で編んでおきます。出來上りましたら一度湯伸しをして使用いたします。

十四五歳用スポーツ型セーター

材料　白中細毛糸十オンス、外に青磁色中細毛糸一オンス。

用具　一號玉付二本針一組。



第百三十一圖

編み方　このセーターはメリヤス編を主にいたしまして、裾廻りをガーター編にして袖と衿ぐりをゴム編にいたします。

袖は後から付けたものであります。

始め白の糸で二本の針に目を百二十掛けます。後身の裾から編むのであります。

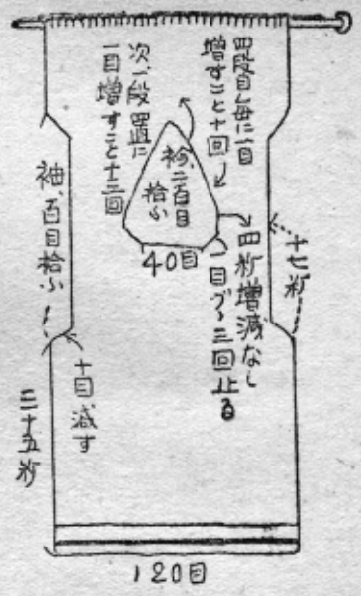
ガーター編を八段、往復で一段としまして夫れを長さ三糎あみましたならば、こん度は青磁色に取り代へます。夫れよりガーター編で二段の縞を入れます。又白に取り代へまして前と同じ寸法の七段を編みます。

今度は編目の良く揃つたきれいな方を表にいたしましてメリヤス編にいたします。

共のまゝ眞直ぐに袖下の所まで編みます。

凡そメリヤス編が三十糎出來ましたら、次は第百三十二圖のやうに袖ぐりにかゝります。袖ぐりは始めかぶせ止めにして三目一度に止めます。丁度裏編の時の止め方のやうになります。今片方は返りに止めます。其次からは兩方共一目内側で一ツ宛減します。これを一段置きに七回減しますと片側で十目宛減る譯であります。さうして全部の目が百となりましたら眞直ぐに十七糎編みます。これで後身頃は編めたのであります。

次は中央で衿肩明の分として四十目をかぶせ止めにいたします。右手に殘りました三十目の右前身頃となる可き目を其のまゝ他の針にうつし取つて置きます。移し取つた目は其のまゝ編まずに休ませて置きます。さうして左前身頃の方を續けて編みます。一度往復いたしましたなら、衿肩明の角で一目止めるのであります。この所で一目宛止めるのを三回いたしますと衿肩廻りが程良く丸みが付くのであります。そこから眞直ぐに四糎編みまして繰り越しといたします。袖付の方の側は其のまゝ眞直ぐにあみ、衿肩明の側で段々に斜にスポ



第百三十二圖

一ツ型の衿の付くやうに胸明を作ります。其の増し方は、編の一目を編み其の目と其の次の目の間の糸を抄ひ取り一度ねじつて目を一ツ作ります。さうしましたら三段置直ぐに編みまして四段目の表に向つた時に又一目増します。これを繰り返して四段目毎に十回増し目をいたします。

十回出來ましたら、今度は一段置きに十三回増し目いたします。増し終りましたなら上の繰り越しを二ツに折つて肩山を定めます。後身に合せて前身頃の袖附も同様にいたします。前は後と同じ形でありますが反對に表側で二目編んで、次の目と目の間の糸をすくひ取つて増し目をいたします。これを一段置きに七回増し次は一度に三目掛け目して増します。其の間衿ぐりの方は絲に十三回となるまで續けて參ります。さうして袖ぐりの方で十日衿ぐりの方で十三目增へましたら糸が衿ぐりの方に參りました時糸の先を三十糎位殘して切つて置きます。肩の所で止めて置いた右前身頃を左の方と同じやうに編みます。出來上りましたら左右共中央で突き合せにして全部メリヤス編で後と同じ寸法になるやう下のガーターの所まで全部後身頃の色に合せて編み續けます。これをかぶせ止めにして身頃の方は終りました。次に衿付を致します。

衿の附方　先づ全體の衿ぐりを四ツに分けて、夫れを三本の針に取ります。其の取る目數は衿肩明より下へ八十目、首廻りは一目に一ツ宛四十目衿肩のまはる所で穴のあかないやうに少し余分に目を拾つておきます。そして一目表、一目裏のゴム編にいたしまして前の三角の所で返ります。三角の作り方は端一ツ編み、次の目二ツ一度に編んで減します。三角の所に參りましたら一目内側で減しまして、一糎編みましたら、糸を赤褐色に切り替へて二段の筋を入れます。又白糸に取りかへて一糎あみ、かぶせ止めにして糸を切ります。三角の所は身頃を合せた時に三十糎ばかり殘しておいた糸をかぎ針に通して裏の方から手際良く赤褐色の筋を良く合せて細かく綴じ合せます。これで衿は出來上りました。

袖の作り方　まづ袖付で百目拾ひます。其の時に袖ぐりの所に穴のあかないやうにいたします。拾ひ終つたら眞直ぐに十糎同じメリヤス編にして、次に兩方の一目内側で二目一度に編んで目を減します。これを十段目毎に同じやうに減して十回繰り返します。次は袖付より計つて凡そ四十糎になりましたら、其の段で四目おきに二百一度に編んで目を減します。殘りの目が六十位になりましたなら、衿と同じやうに一ツ表、一ツ裏のゴム編を長さ六糎になるまで編みます。中程に衿と同じやうに赤褐色で筋を四段入れてかぶせ止めにいたします。これで片方が出來ました。あと片方も同じやうにして作ります。

前の模様の入れ方　圖案は成る可く容易なものを選んで配置いたします。一糎上は袖付より少し下つた所、一

第百三十三圖　圖案（四）

番下は裾のガーターより少し上つた所の左右に置き、中程は衿下三角の所より十一糎下つた所を中心として位置を定め、（第百三十二圖及び第百三十三圖參照）、糸で印を付けておきます。青磁色の糸をかぎ針に通して二目四角のクロース・ステッチで圖案に合せて刺して參ります。（フランス刺繍、基礎縫クロスステッチ參照）次は袖下より脇の綴じ合せをいたします。地色をかぎ針に通して良く身頃、袖下共合せてまつり縫ひをいたします。この時糸の引き加減を注意して、伸び縮みの自由に出來るやうに加減いたします。全部出來ましたら形を整へて湯伸しをいたします。

女學生用セーター

材料　太毛糸十八オンス、針三個、スナップ三組。

用具　三號玉付二本針一組、とぢ針一本。

編み方　此セーターは、ガーター編とメリヤス編との應用でありまして、始め後身頃裾より編み初め前身頃へ移り、袖と衿は後で付けます。

後身頃の編み方　初め八十四目作りガーター編で十一糎編みます。次にメリヤス編をします。共の時一度に目をふやします。共目のふやし方は表九ツ編み、次の目と今の目の間の糸をすくつて、一度ねじつて編みますと穴があかずに奇麗に増し目が出來ます。此のやうにして九ツ目毎に七回増し目を致します。最後は十一目をそのまゝ表編に致しますと目數は全部で九十一目になります。あとはメリヤス編で二十七糎いたします。袖付で初め兩側で四目づゝ止め、次の段から段毎に兩側で一目づゝ四回都合八目減します。さうすると七十五目になりますから共のまゝ増減なしに二十糎あみます。

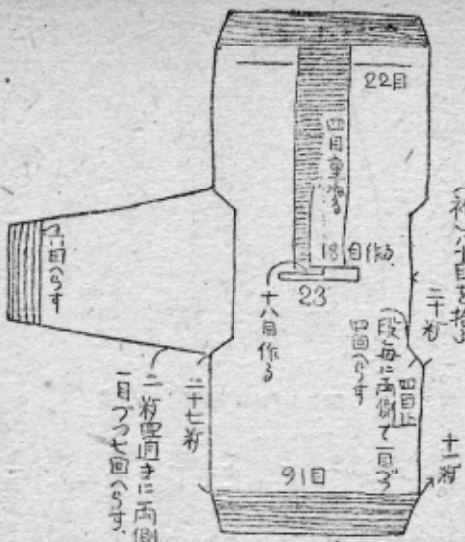


第百三十四圖　出來上り圖

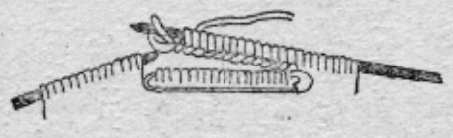
前身頃の編み方　右肩二十六目を別針に預けて置き、衿肩明として眞中で二十三目をかぶせ止めにして止めて、左肩から編み始めます。左の二十六目を共のまゝの目數で八段編み、衿の方で一度に十八目ふやします。共のふやした十八目丈はガーター編にして、眞直に衿肩より二十糎編みましたら、うしろの袖ぐりと同樣に一段毎に四目増し次の段で一度に四目を増して、衿の増した方が二十二糎になるまで増減なしに編んで共のまゝで置きます。

次に右肩に移り左と同樣にして、同じ丈だけ編みましたら、眞中のガーター編を四目重ねて一緒にして、兩側がメリヤス編、中央三十二目だけガーター編にいたします。この編方で袖刳の所から十八糎編みましたら、ガーター編の兩側でポケットを作ります。（第百三十五圖參照）

ポケットの作り方　第百三十六圖のやうに眞中のガーターの兩側で、ポケットの口巾二十二目づゝ別の針に移して置き、次の段で其所まで編んで來ましたら、二十二目を作り、眞直ぐに二糎あみます。別の針に移した二十二目をメリヤス編にして十糎あみます。そしてこのポケットと前身頃にポケット巾だけ作つた二十二目と、二枚重ねて上、下二目一度に編みますと、前身頃にポケットの底が編みつけられます。これでガーターが全部で十一糎になるまで編んで糸を切ります。ポケットの底はすでに前身頃について居りますから、兩側丈けをかゞり針で表に糸の出ないやうにかゞつて置きます。



第百三十五圖



第百三十六圖　ポケットの作り方

袖の作り方　袖刳の所から前後で八十目拾ひ、兩端を二目づゝガーターにして、あとはメリヤス編みにいたします。兩側で二糎おきに一目づゝ減して、七回いたしましたら、あとは袖丈三十五糎內外になるまで增減なしにあみます。

着る方によつて袖丈は加減致します。

袖口はガーター編にして、一段で所々で六目減し、あとは其のまゝ丸糎あみます。

衿の作り方　衿は前身の角から角まで衿屑廻りを七十五目拾ひ、ガーターを十二糎して糸をとめます。

袖下、脇下をとぢ合せ、前の明きにスナップを付け、表側に飾ボタンを付けて終ります。

婦人及び女學生向セーター

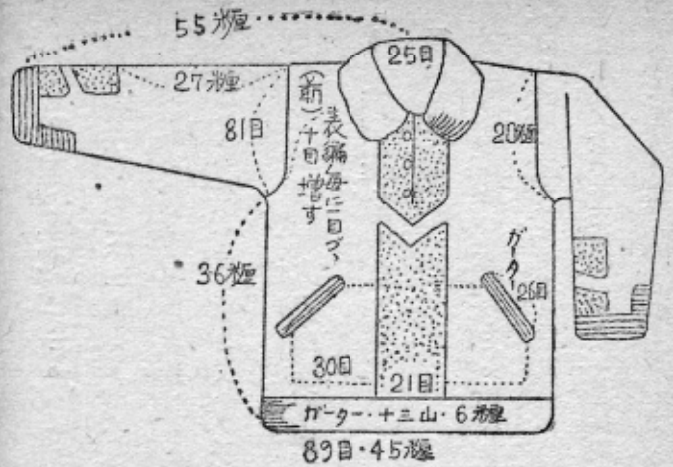
材料　並太毛絲十八オンス。

用具　五號の玉付針一組。

編み方　後身頃の裾から編始めます。先八十九目を作り、ガーター十三山、約六糎編みます。このガークーは編始めに、編絲を編まうとする目の右外側から向側へ廻して一目編まずに右針に移して編みます。(一名外滑らしと云ひます)。そして十三山編んだら、全部表編一段、裏編一段のメリヤス編に替へて、裾から三十六糎に成るまで增減なしに編みます。

袖刳の作り方　それから袖刳をするのでありますが、一方は表編の始めに、一つ一度に

して、片方が十日、兩方で二十の目を減して刳を付けて行きます。



第百三十七圖　肩

そして減し初めから二十瓩の處が肩山になりますから、そこに、前身を編むときの爲に、一寸色絲で印を付けて置きます。

肩下りの付け方

兩端の袖刳で十目宛都合二十目減つてゐますから六十九目の肩巾に成つた譯であります。それで左肩山の分として第百三十八圖(い)の如く二十二目を殘し、他の四十七目は、ほつれ止又は糸に通して置きます。この二十二目を編み、袖刳の方から編むとき七目を止め、次の十五目を編み、又持換へて引返すときに七目づゝ止めて第百三十八圖(い)のやうに二十一の目を止め一目だけ殘します。次に止めた二十一の鎖の表側へ左から第百三十八圖(ろ)のやうに編針を通して、前に止めたときと反對に、七目づゝ編み加へます。こうして肩下りの恰好を付けます。

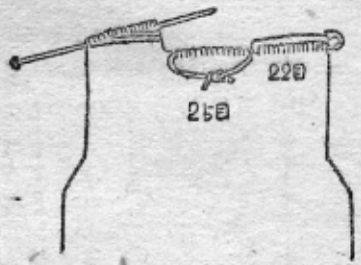
衿刳の仕方

肩下りが出來ましたら增減なしに四山編み、次に衿刳の爲に衿の方の編始め毎に一目づゝ六目を增し、次に九目一度に作出し、右から十三目だけ鹿子編みに編替へ、後身の袖刳で減らし終つた段になるまで肩山から數へて增減なしに編みます。それから後身とは反對に袖刳の爲に表編のとき最後の目の手前で一目づゝ十目增し、編み絲が胸明の方へ來たとき、ほつれ止めに通して絲を切つて置きます。次にほつれ止に通してある四十七目のうち衿肩明として左から二十五目に絲を通して置きます。殘の二十二目を左肩と同じやうに、袖付の方から七目づゝ止め、又その目を七目づゝ引返す度に編み加へ、四段增減なしに編み、衿刳の爲に表編のとき一目づゝ六目增し、次に一度に七目作出します。そして左から十一目を鹿子編にして、後身の袖刳の段へ來ましたら、一目づゝ十目增し、左前と同じ段數になつて編絲が胸明の方の緣から三目手前の處で、左前をほつれ止から編針に移し、第百三十九圖(いろ)の如く右前を上にして、その三目を重ねて一目づゝ左前の目に右針の先で重

(い)



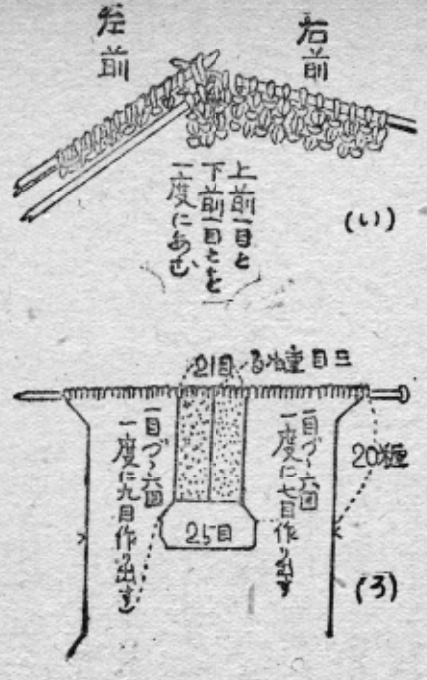
(ろ)



第百三十八圖

ねて、二ツを一度に編みつゝ胸合を致します。

このとき鹿子模様の目は二十一目、全部の目數は八十九目に成ればよいのであります。それから鹿子編の二十一目に、胸飾を裏を編むときに始めます。



第四十三圖

胸飾の編み方

一段——裏編二ツ「表編一ツ裏編一ツ」括弧内を八回繰返し、表編一ツ裏編一ツで終ります。

二段——表編三ツ「裏編一ツ表編一ツ」を七回繰返し、裏編一ツ表編三ツ。

三段——裏編四ツ「表編一ツ裏編一ツ」を六回繰返し、表編一ツ裏編四ツ。

四段——表編五ツ「裏編一ツ表編一ツ」を五回繰返し、裏編一ツ表編五ツ。

五段——裏編六ツ「表編一ツ裏編一ツ」を四回繰返し、表編一ツ裏編六ツ。

六段——表編七ツ「裏編一ツ表編一ツ」を三回繰返し、裏編一ツ表編七ツ。

七段——表編一ツ裏編七ツ『表編一ツ裏編一ツ』を二回繰返し、表編一ツ裏編七ツ表編一ツ。

八段——表編二ツ裏編一ツ表編を七ツ、裏編一ツ表編一ツ裏編一ツ、表編七ツ、裏編一ツ表編一ツ。

九段——表編一ツ裏編一ツ表編一ツ、裏編七ツ表編一ツ裏編七ツ、表編一ツ裏編一ツ表編一ツ。

十段——『表編一ツ裏編一ツ』を二回繰返し、表編十三目、『裏編一ツ表編一ツ』を二回。

十一段——『表編一ツ裏編一ツ』を二回、表編一ツ、裏編十一目、『表編一ツ裏編一ツ』を二回、表編一ツ。

十二段——『表編一ツ裏編一ツ』を三回、表編を九ツ、『裏編一ツ表編一ツ』を三回。

十三段——『表編一ツ裏編一ツ』を三回、表編一ツ裏編七ツ、『表編一ツ裏編一ツ』を三回、表編一ツ。

十四段——『表編一ツ裏編一ツ』を四回、表編五ツ『裏編一ツ表編一ツ』を四回。

十五段——『表編一ツ裏編一ツ』を四回、表編一ツ裏編三回『表編一ツ裏編一ツ』を四回、表編一ツ。

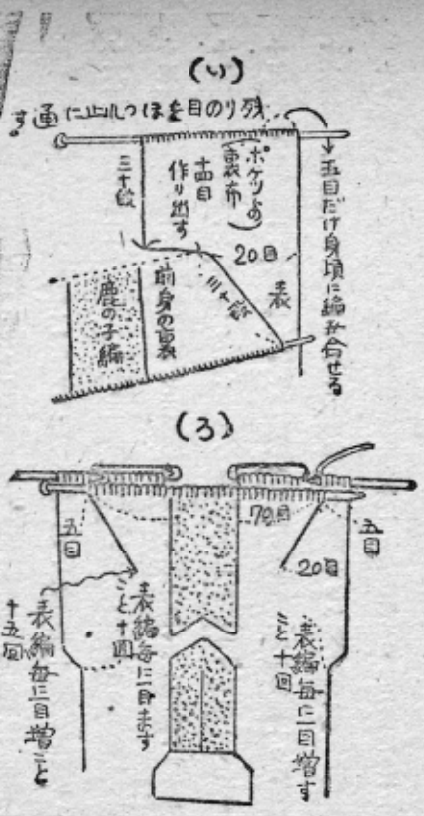
十六段——『表編一ツ裏編一ツ』を十回繰返し表編一ツで終ります。

十七段目からは中央二十一目を鹿の子編みに、左右をメリヤス編にして五糎編みます。

それからポケットの口を斜めに作り初めます。

ポケットの作方　ポケットの裏布の爲に第百四十圖(い)のやうに兩端で二十目づゝほつれ止めに通して別に取つて置きます。そこで鹿子編を眞中にして四十九目を編むことになりますが、其のとき兩端は、編始め毎に一目づ

丁一目と二日の間で、十五回増しますと、三十段編むうちに七十九目になります。これを今度は、ほつれ止に通して一時編むことを中止して置きます。次に兩端のほつれ止に通してある二十目づゝをポケツトの裏布として編むのでありますが、先づ右の方は右端に編絲を結び付けて二十目を編み、新らしく十四目を作出して都合三十四目を三十段編みます。左ポケツトは初めに十四作目して二十の目の右へ編み足し、同じく三十段になつたとき、先きに編んである七十九目と編み合せるのであります。このとき第百四十圖(ろ)の如く兩端の五目だけ裏布の方を編み、眞中の七十九目が八十九目になるやうに編み合せます。そしてポケツト裏の殘の二十九目づゝはほつれ止に通して置き後で六、七糎編み足して止め、表へ緩絲を出さないやうに段を合せ、目を合せながら緩付けます。



第百四十圖　右ポケツトの作り方

ポケツトの口は絲に増してある三十段を孔のあかないやうに、二十六目程拾つてガーターに堅めに編み、四山目で裏を見て止め、兩耳を適宜に緩つけます。

袖の編み方　袖刳してある處から八十一目を拾ひますが、增減なく編んである處は三段拾つては一段をとばして拾ひます。增したり減したりしてある處からは、孔の明かないやうに拾ひ、十段毎に兩端で二目と三目を二ツ一度して減すこと六回、六段毎に減すこと八回、袖付の處から二十七糎の處で肩山を眞中にして二十一目を裏編をするとき鹿子編に替へて編み、六糎に成つたら腕飾と同じ模樣を致します。そして第七段目のとき袖の內側になる端で見返しの爲に二目作り出し、ガーター八目、他の端は五目ガーターに編み三十六糎になつたら全部ガーターにして六山目のとき裏を見て止めます。

衿の編み方　衿肩明の二十五目と增目作目の衿廻りから、裏を見て左から編針を通しながら七十四目を拾ひます。このとき左前は鹿子編のところを見返として五目、右前は二目を殘して置きます。そして衿肩明の兩角兩端の四ケ所で、ガーター二山毎に百二目まで增し、衿先の丸味を付ける爲に兩端で一目づゝ二目減し、十七山約八糎に成つたら裏を見て綴く止めます。

仕上方　編んだ物を裏返して兩脇を裾から袖口へ向つて減し目を綴り付け、前衿には飾ボタン及びホツクを三個づゝ付け、カフスにもホツクを付けると出來上ります。

大黒帽子

材料　色物並太毛糸二オンス、配色毛糸少々。



百四十一圖　出來上り圖

用具　毛糸用鉤針一本、とぢ針一本。

編み方　端から山のやうにつゞけて編み、山だけつぎ合せて中央に房をつけます。

一段——鎖編二十目いたします。

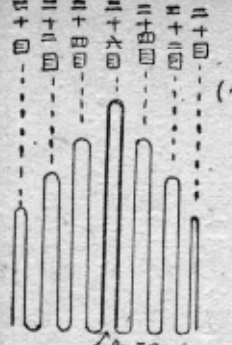
二段——短編で一段返ります。

三段——鎖編を一ツして裏に向け、鎖編で端まで編み、終りに鎖編三ツ編み足します。

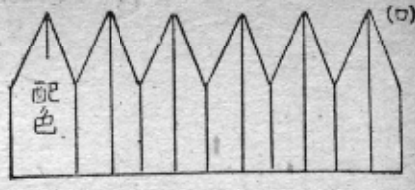
四段——裏に返して鎖編二ツに短編をあみ、つゞいて前段のやうに鎖編で返ります。

五段——三段と同じやうに鎖一ツ編んで裏に向け、鎖編で端まであみ終りに鎖編三ツ編み足します。

六、七、八段——鎖一ツ編んで又鎖編で返ります。（六段）こゝで糸を變へて五段のやうに二目增し、（七段）その糸で返り（八段）こゝで糸を地色にかへます。



第百四十二圖（イ）



第百四十二圖（ロ）

九段——以下各奇數段の上で二目づゝ減して第百四十二圖（イ）のやうに二十目になるまで編みます。

これと同樣のものを同ロ圖のやうに六枚つゞけて編みます。

次に山と山とをとぢ針で合せ、編み初めと編み終りをもとぢつけます。

ロべりは短編を八段あみ、終りの一段は、引き拔きにいたします。

房は地色毛糸と配色毛糸を半分位づゝにして八寸巾位の厚紙に卷きます。糸を澤山卷た方が丸くなります。眞中をカタン糸で堅くしばつて丸くなるやうに鋏で切つて帽子の中央にしつかりと結びつけます。

ベレー帽子

材料　並毛糸二オンス。

用具　毛糸用鉤針一本。

編み方　中心から丸く編みます。

一段——鎖編三ツあみ、引き拔きをして輪にします。

二段——鎖の目一ツの中に二ツづゝ短編を編みます。

三段——前段の短編に一目おきに三ツづゝの短編を編み、一目三目と交互に編みます。

四段——前段の目數通りに一目に一目づゝ短編一段編みます。

五段——前段の短編四目毎に短編三ツづゝ入れます。

六段——前段の目數通りに短編を編みます。

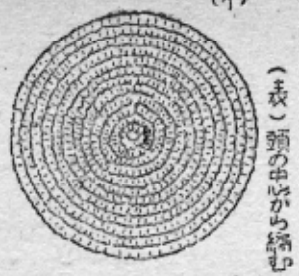
七段——六目毎に短編三ツづゝ編みます。



第百四十三圖　出來上り圖

八段——前段の目數通りに短編一段編みます。

（表）頭の中心から編む



(イ)



(ロ)

第百四十四圖

九段——八目毎に短編三ツづゝ編みますと角が八ツ出來ます。

十段——前後の目數通りに短編を一段あみます。次からは例へば十目、十二目、十四目、と云ふやうに偶數の段毎に角々で三ツづゝ編み奇數の一段は、その目のまゝ短編にし直徑十八糎位に頭の大きい人は二十糎位になるまで編みます。

次は三段位は增し目をせずに、そのまゝの目數で編みます。その時細い針金を一本くるみながら編んでもよろしいのです。

四段目からは、十目に一ツづゝ減らして七段編みましたら編み終りに第百四十四圖(ロ)のやうにビコットを一段編んで留めます。

飾の編み方　鎖編十位編み引き抜きをして戻ります。それを出來上り圖のやうに中央編み始めの輪に表から裏に出して共糸で裏にしつかりとつけておきます。

十三四歳用ベレー帽子



第百四十五圖　出來上り圖

材料　白中細二オンス、青磁色少々。

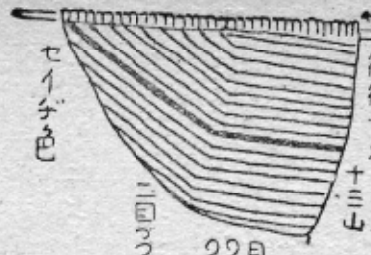
用具　一號四本針一組、とぢ針一本。

編み方　この帽子は横の方から木の葉に似たやうなものを七枚續けてガーダー編で編み、山をとぢ合せて後緣を編むのであります。

最初二本の針に白毛糸で二十二目作りガーター編を一山編みます。

終りに針に糸を掛けて目を二ツ作ります。

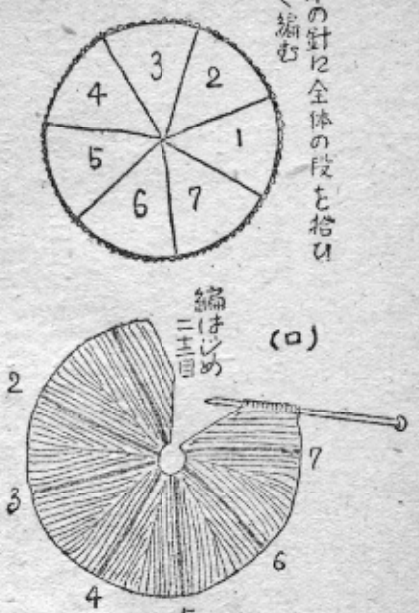
裏に返して又ガーターを一山編み、又日を二日作ります。ガーターを一山編んでは二日作り、第百四十六圖のやうに編んでガーター十三山出來るまで編んでまゐります。さうして目數が四十八となるまで編みましたら、糸が下の方に來た時に、青磁色と取り替へて、ガーターを一山編みますと五十日となります。又白糸と取り替へて、ガーターを編みながら上の方に參ります。其の時上の方で二目編み殘して裏に返し、最初の一目を編まずに右の針に移し取り、次の日より下の方に編んで參ります。これを上の方で二目づゝ殘して返ることを十三山繰り返します。さうしますと青磁色が中心になつて最初の掛け目と同じやうに目數が二十二となるまで編みます。これで一角が出來上りました。二角目は下の方から一段全部の目を往復いたします。次に下から二十二目編んで返ります。この時も矢張り初めの一目だけ編まずに右の針に移して次は二十四目編んで返ります。



第百四十六圖

次は二十六目と二十八目で返ります。

とのやうにしていつも二十二目を振り出しに、段毎に二目づゝ編み上り、又二目づゝ編み下ることを續けまして山の中央の一段は青磁色で往復して取り替へます。かうして第百四十七圖(イ)(ロ)のやうに七枚つらねましたら終りを、なるべくゆるくかぶせ止めにいたします。つぎは裏に返して最初と最後を良く合せて、とち針で綴ぢ合せますと、帽子の眞中に親指の通る位の穴が開きます。こゝには慈姑の芽のやうなものを付け中の方で丸くとぢ付けます。次は緣を編みます。



第百四十七圖

緣　緣の周圍の目を一目づゝ拾つて全體を三ツに分けて四本の針で丸く編みます。一段目は裏編を編み廻るのですが、三ツ目に二目一度を編みこれを繰り返して、二段目からは一目裏、一目裏のゴム編を二糎編んで全部をかぶせ止めにして出來上りとします。この帽子は大小に拘らず初めの掛け目は十八から二十二止まり位にして大小は增し目で加減いたします。

お辨當袋

材料　並太毛糸二オンス、スナップ一個。

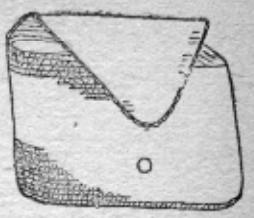
用具　毛糸用鉤針一本。

編み方　底を丸く編みまして三角形の被せをつゞけて編みます。

鎖編を四十編み、鎖編の兩側に一周り短編をいたします。第百四十九圖(イ)のやうに兩端の角には短編を三ツあみ平らな所は、その目の通り編みます。

次の段には端の三目だけに二目づゝ編み、前段のやうにして初めより五段目であみます。六段目から何處も目をふさないで、そのまゝで十糎位編みます。

被の編み方　全體の目數の半分だけを被せとしてつゞけて編み、三角になるやうに第百四十九圖(ロ)の如く兩方で二目づゝ減して行き最後に目が三ツ位になりましたら止めます。被せのまはりに鎖三ツのピコットを編んで飾りとし被せの三角の角と袋のこれに合ふ所とにスナップをつけて出來上りといたします。



第百四十八圖

出來上り圖





第百四十九圖

蓋の編方

兩方で二目づゝ減らす。

背中布團

材料　並太毛糸七オンス、ゴムテープ又はテープ五十糎內外。

用具　三號二本針一組。

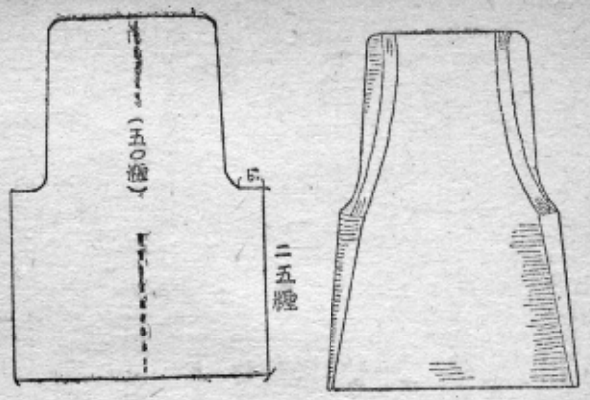
編み方　全部鹿の子編で裾から編みはじめ兩脇で袖ぐりをして肩山で角に少し丸みをつけてとめます。

最初目數を八十作り、基礎編に說明してあるやうに表編一ツ裏編一ツの鹿の子編を各段くりかへしてあみます。

第百五十圖(ロ)のやうに眞直に二十五糎編みましたら兩端で一度に五糎づつ減します。

次の段から一段毎に一ツづゝ三段減して、その目數のまゝ二十二糎編みます。

肩で丸味を作る爲に兩端で一段毎に一目づゝ減し五目減して糸をとめます。



第百五十圖

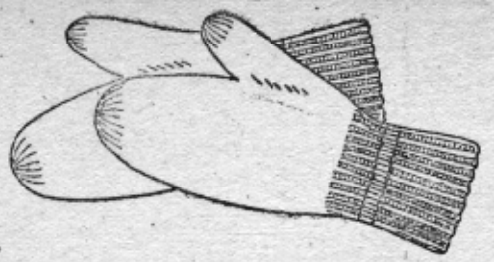
(イ)　(ロ)

テープのつけ方　用意したテープを二ツに切り(イ)圖のやうに一方の端は肩に一方の端を袖の上につけて仕上げます。

スキー用手袋

材料　太毛糸四オンス。

用具　二號四本針一組。

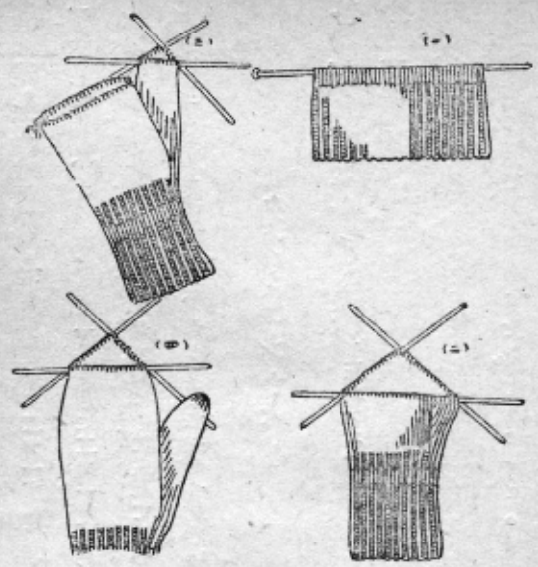


第百五十一圖　出來上りの圖

編み方　此の手袋は手首の處に袋編を入れましたので、ゴム編と袋編の處を平に編み、手首から先を輪に編んで行きます。

手首までの編み方　目數四十八掛けます。次は表一ツ、裏一ツのゴム編を十糎編みます。次に袋編（基礎編參照）を二糎編み、又ゴム編を二糎編みます。次に三本の針に分けて丸く輪に編みます。メリヤス編を二糎して拇指の增し方を致します。

拇指の增し方　今輪にした付目の處を內側にして二ツに折り、折つた處を拇指の增し目をする中央とし、中央より二目手前の目と目の間の糸をすくつて一ツねじつて編みますと一目增します。次に四目編んで又一目增します。其のやうに致しますと第百五十二圖（二）のやうに四目の兩側で增した事になります。今增し目した外側で、一段置きに一目づゝ六回增しますと都合中央の目と共に十六目出來ます。全體の目を增し目と共に丸く編んでゆくのであります。



第百五十二圖

拇指の作り方　今出來ました十六目を三本の針に移し、殘りの目は別の糸に取つて置き、三本の針に移した目を丸く編んでゆきます。其の時合せ目の處で目を二ツ作り、合せて十八目を丸く致します。一廻りして二廻りの合せ目の處に來た時、二目一度を二回して、初めに作つた二目をなくして十六目に致します。次に增減なしに五糎編んで指先を編みます。（第百五十二圖（三）參照）

指先きの減し方　一目置きに二ツ一度を二段繰り返しますと終りの目が七ツ程になります、此の目に別の糸を通し、今編んで來た糸は十糎位先を切り、共に中側に入れてしつかりと結び合せて切りはなします。

四本指の編み方　別糸に移して置いた目を三本の針に分けて通し、拇指の合せ目の二目增した處は、二目と共

の裏側とで目を作り、全部を丸く編んで三度目に合せ目に廻はつて來た時二ツ一度を二回位して、元の目になるまで減します。次より增減なしに七糎編みます。（第百五十二圖四參照）

指先きの減し方　四目編んで五ツ目毎に二ツ一度を繰り返して一廻りなし、次の段に今減した目と目の間で二ツ一度をして廻り、次の段よりは一目置きに二ツ一度をして、それを三回繰り返して丁廻り、別の糸を全部の目に通し、今編んで來た糸を十糎位に切り共に中に入れてしつかり結びます。

平に編んだゴム編と袋編の所を、かぎ針で糸のつれないやうにかぎり合せます。

クツシヨンカバー

材料　中細毛糸（白若しくは桃色）三オンス。

用具　毛糸用鉤針一本。

編み方　中央から六角に編みます。

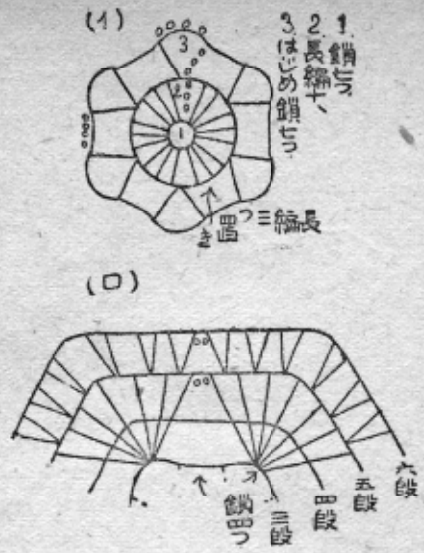
一段——鎖編七ツ編んで引き抜きをして輪にいたします。

二段——鎖編三ツ編み輪の中に長編十八編み最初の鎖編三ツの山に引き抜きで止めます。

三段——最初鎖編三ツ編み更に鎖編四ツ編み、鎖編の根元に長編一ツを編みます。又鎖四ツ編み前段の目を二ツと

ばして三ツ目に長編一ツを編み、第百五十三圖(イ)のやうにくりかへし最後も鎖編四ツ編んで最初の鎖編三ツの山に引き抜きで止めます。

四段——鎖三ツ編み前段の長編と長編の間の鎖編四ツ中に長編七ツを編み、その間は鎖編二ツ編みます。



第百五十三圖

五段——鎖三ツ編み前段の長編七ツの頭へ長編七ツを入れ鎖編二ツの所は三ツ編んで一周します。

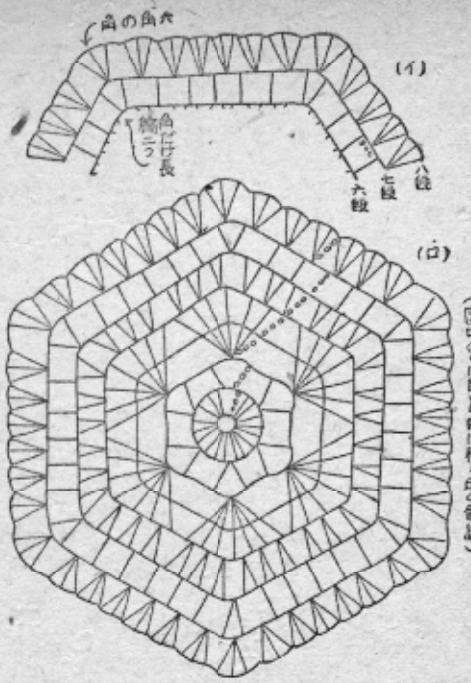
六段——第百五十三圖ロのやうに鎖三ツ編み前段の長編と長編の間に長編を二ツづゝ編みますと長編十二編むことになります。その間は鎖編二ツづゝ編みます。

七段——鎖三ツ編み長編二ツおきに長編を一ツ入れ長編の間は鎖編を三ツ編み、前段十二の中央には長編一ツ鎖編一ツ長編一ツを編んで六角の角を作ります。

八段——鎖三ツ編み第百五十四圖の如く前段の鎖編の中に長編二ツ編み、次から三ツづゝ入れて一周り編みます。

九段——鎖四ツして前編の長編を一ツおきに長編一ツ鎖編一ツを編み六角の山には同じ編方を四ツ編みます。

十段——鎖四ツ編み前段の鎖編一ツの中に長編一ツ鎖一ツを編み角では鎖編の中に「長編二ツ鎖編一ツ長編二ツ」をくりかへします。

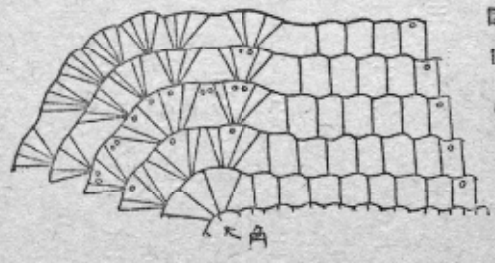


（図中の○は段から段に移る時の鎖線）

第百五十四圖

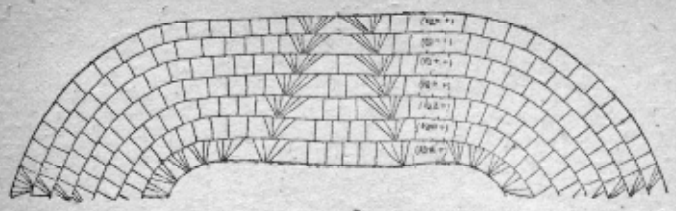
十　九段
十一　八段
十二　七段
十三　六段

（図中○は鎖の数）



第百五十五圖

十一段——鎖四ツして前段と同様に編み角は前段の長編二ツの間の鎖編の中に「長編二ツ鎖編二ツ長編二ツ」を編み、次は長編四ツ目、即ち角の中心に「鎖編二ツ長編二ツ鎖編一ツ長編一ツ鎖編一ツ長編一ツ鎖編一ツ長編二ツ鎖編二ツ」をいたします。



第百五十六圖

更に「長編二ツ鎖編二ツ長編二ツ」を編みます。後は「長編一ツ鎖編一ツ」を前段の長編の間に編みます。

十二段——鎖四ツして前段の角の兩端に編んだ松編は終りまで同様で中間だけが變つてだん〳〵擴がり、枡目が一段毎に一ツづゝ少なくなつて行きます。

前段角の長編二ツと二ツの間の鎖編二ツの中へ長編二ツ鎖編二ツ長編二ツの松編を編み、次の鎖二ツとんでは鎖一ツの中へ長編四ツづゝ入れることを三回次の鎖二ツをとんで次の二ツ鎖の中に長編二ツ鎖二ツ長編二ツの松編をあみます。

十三段——鎖三ツ編み角の模様の前段の長編と長編の間の鎖二ツの中に長編を四ツづゝ編みます。

十四段——鎖三ツ編み、角模様の兩側の松編はそのまゝ松編を重ねて編み前段の長編四ツの所に「鎖編一ツ長編一ツ」を二ツ目毎に編みます。（第百五十六圖參照）

十五段——角の兩側の松編の間は鎖一ツ長編一ツを十二いたします。この段から兩側の松編は長編三ツ鎖一ツ長編三ツの、松編を終迄續けます。そして一段毎に一ツづ

（一）拱目がふへて六角の角松様の間の拱目は二ツになります。

十六段――六角の斜めの拱目は一ツになり角の中心は拱目が十三になります。

十七段――六角の斜めの拱目はなくなり松編と松編の間に長編一ツ編み松編と松編の間の拱目は十四になります。

十八段――この段では松編と松編は全く隣り合ひ拱目は十五になります。

十九段――松編二ツ並んだ間の拱目は十六になります。

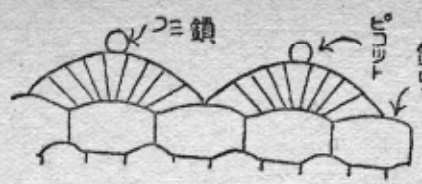
これでカバーの片側が編めましたからこれと同じものをあと一枚編みます。裏表の色を替へてもよろしいでせう。

バンヤの入つたクツションを中に入れてこの二枚を合せて周圍に飾りを編みます。

飾の編み方　兩側の目をよく合せて第百五十七圖の如く「長編一ツ鎖四ツをくりかへします。

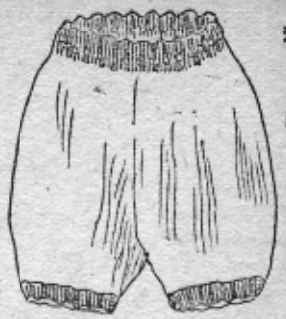
前段の拱目の中に「長編四ツのピコット一ツ、長編四ツ」編み、次の拱目に短編で止め、これを一廻りします。

大人用ヅロース



第百五十七圖

材料　中細毛絲四オンス、二糎巾ゴムテープ五十糎　內外。



第百五十八圖　出來上り圖

用具　三號二本針二組、とぢ針一本。

編み方　据口の方から股上の方に編み、兩足同樣に編んで中央でつなぎ合せます。

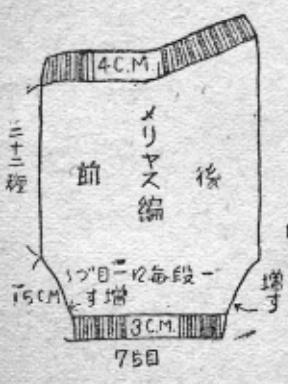
七十五目作り「二ツ表二ツ裏」のゴム編を二糎編みます。

次にこの目數のまゝメリヤス編を三糎編みます。次に兩側で一段おきに一目づゝ增して、（基礎編參照）、股下が十六糎位になるまで編みます。

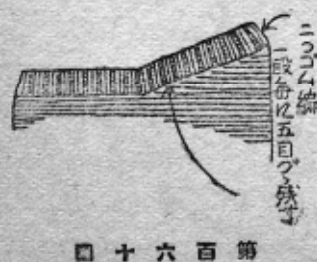
次は增減なしに股上を二十二糎編みます。

（第百五十九圖參照）

全體の目數の半分を別の針にうつしておき、後の半分を後の分として端が四糎になるまで一段毎に五目づゝ殘して編んで行きます。（第百六十圖參照）、殘して編み時は前に別の針に殘して置いた針に一段毎に五目づゝうつして行きます。



第百五十九圖



第百六十圖

全段目を表二ツ裏二ツのゴム編に四糎編みます。

これで片方の分だけ編めましたから、これと向ひ合ふようにもう一枚同様に編みます。

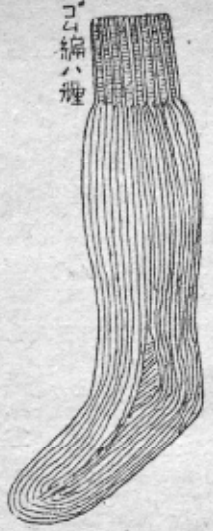
即方出來ましたら後と後ととち合せ、前は前でとち合せまして、股下は二本糸でしつかりとかがりつけます。

用意してあるゴムテープをゴム編四糎の中央に通して前で結んでおきます。

大人用靴下

材料 スコッチ六オンス。

鳩渓は二十糎、八段毎に三目づゝ四回へらす。



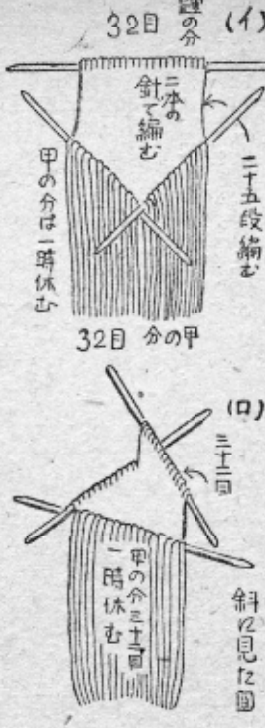
第百六十一圖 出來上り圖

用具 鐵製四本針十二號一組。

靴下の大小の差は、一文を増す毎に二糎、目數で四ツでありますから、それによつて增減いたします。この靴下は十文を標準にしてあります。

編み方 七十二の目をかけてこの目數を、三本の針に分けて通し、次に表編二ツ、裏編二ツのゴム編を、八糎程編みます。次に表編ばかりを、十糎程編み、こゝから減します。其の減し方は、一廻りの終りの針に、目を三ツ殘しておいて、二ツ一度、表編一ツを編み、又次の針の始めで、表編一ツ、一目うつす、(一目うつすと言ふのは、一目を編まずに、左針から右の針にうつすことです。)又表編一ツ編んで、移した目を、其の上にかぶせます。これで目數二ツ減したことになります。

次に增減なしに、七段編み、八段目毎に、同じ所で前と同樣にして減します。これを初めから、四度繰り返して編みます。そうしますと目數は六十四となります。更に又增減なしに、八段編んで、次に踵に移ります。



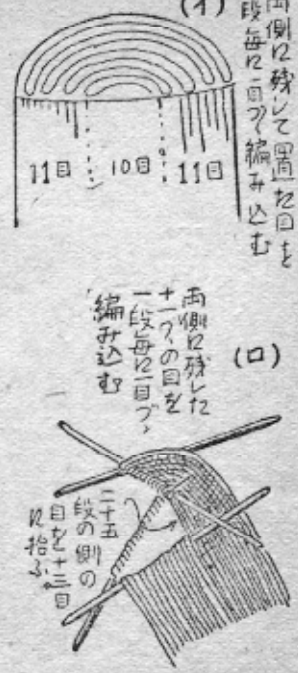
第百六十二圖

踵の編み方 第百六十二圖(イ)(ロ)のやうに六十四の目を、二等分して、その一方の三十二目を踵にいたします。(目を減した方を踵の中央とします。)

三十二目を表から編み終つて、裏返して、編み初めの目一ツとり、(左針から、右の針に、そのまゝ編まずに移します。)あとは全部裏編にして又表に返し、始めの目一ツとつて、皆表編にいたします。これを繰り返して、六糎位(約二十五段)編みます。

二十六段目は、終りまで編まずに、第百六十三圖(イ)(ロ)のやうに左の針に目を十一だけ殘して、裏に返し、後戻りをいたします。裏に戻る時には、編み初める時に、目を一ツ右の針に移して、次の目から編むのであります。

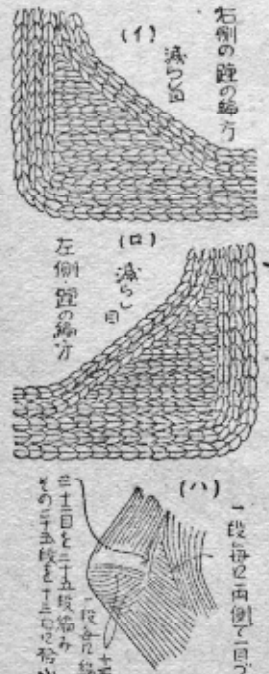
第二段よりは、前に十一づゝ殘して置いた目を、十目殘るまで編みます。裏に返して、次の目を右の針に移して、前の十一の目を十目殘るまで編みます。このやうにして、前に兩側に、十一目づゝ殘しておいたのを、全部なくなるまで一段毎に一目づゝ中に編みます。兩側の目を、全部編み込んで終ひましたら、前に半分編まずに殘して置いた目數の兩側の目に他の色糸で印を付け、前に二十五段編んだ所の兩横の目を拾ひますと都合十三宛になります。



第百六十三圖

前に殘した目と、兩横の目と、踵の目と一緒にしまして、つゞけて丸く編むのであります。其の時に印をつけた目で、横の目を一段毎に、兩側で一ツづゝ減します。

減す時には、印の目で、横の目をかぶせるやうに、針を踵の方に向けて通して、二ツ一度に編みますと第百六十四圖(イ)(ロ)のやうに編目が出來ます。全部横の目がなくなりましたならば其のまゝ眞直ぐに約十五糎編みます。

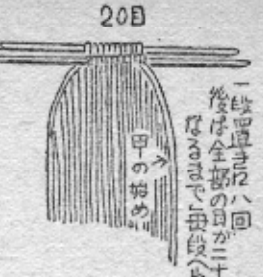


第百六十四圖

爪尖の減し方

一段——甲の方と、底の方は、目を二等分にいたします。

甲の始めの方は一ツ編んで、針を目の內側の方に向つて、二ツ一度に編みます。次は甲の方の終りの三目になつた時內側向きに二ツ一度に編み、殘り一ツ編んで、甲の部を終ります。底の方の目も甲と同じく一ツ編み、內側の方にむかつて針を通し、二ツ一度に編みます。裏底の終りの一ツ手前で二ツ一度に編み、殘り一ツを編みます。つまり一回編むと、目數が甲で二ツ、底で二ツ、都合四ツ減る譯であります。これを一段おきに八回減し、あとは段毎に減らして、全部の目が二十（甲十、底十）になるまで減します。（第百六十五圖參照）



第百六十五圖

爪尖の止め方

基礎編、メリヤス接ぎの方法で接ぎ合せます。

靴下カバー

材料　太毛糸四オンス。

用具　毛糸用鉤針一本。

編み方

足底より編み始め足首の方に編み上つて行きます。始め五十の鎖を作り、あとに戻つて鎖の日に一ツづゝ短編で終りまで編み、終りの一日に三ツ短編を入れます。次に其の鎖の向ふ側に廻り短編を一ツづゝ入れて編み廻ります。この時編み初めの目と終りの廻る山には一日に三ツ短編を入れて、その間は一日に一ツづゝ編んで行きます。そして五段編み廻ります。



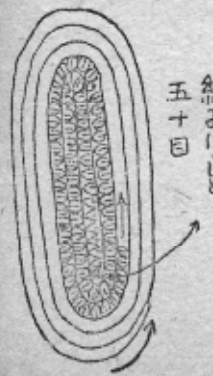
第百六十六圖　出來上り圖

（第百六十七圖參照）

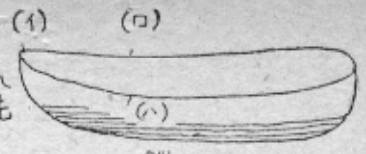
それより一目に一ツづゝ入れて五段編み、全部で十段になりましたら、一方を爪先きにして、一方を踵といたします。十一段目を編む時に第百六十八圖のやうに爪先きの方は一目とばします。其所を(イ)といたします。

(イ)より(ロ)の所まで十九目編みまして、二十目の所の目を一ツとばして編み(ロ)の反對側(ハ)の所でも爪先きから十九目手前で一目とばし段毎に爪先きの方は前にとばした上の所で一ツづゝとばし、(ロ)の所でも、(ハ)の所でも一目とばして參ります。

これで五段編み、六段目より爪先の今とばした目を眞中にして、其の兩側で目を一ツづゝとばして五段續けます。(ロ)(ハ)の所はいつも前と同じくとばします。



第百六十七圖



第百六十八圖

全部で二十段になりましたら、(イ)の所より二目手前の所で三ツ目の(イ)の所に長編五ツ入れ、次を二目とばして短編で付け、次の目に引きぬき止めにして、裏に返します。前の五ツの眞中の目に一日に三ツ入れて、終りに一日とばして引きぬき止めで付けます。又次の目に引きぬき止めにして裏に返し、前の五ツの日を短編で一日に一ツづゝ入れて、終りに一目とばして短編で付け、それより短編で一廻り編んでとめます。

これで出來上ります。これは十文の靴下の標準ですから一文毎に編み初めの鎖で四ツ、段數で一段づゝの增減をいたします。

保溫足袋

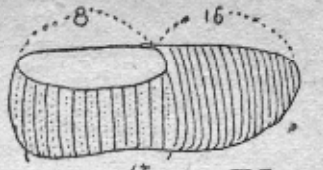
材料　並太毛糸三オンス。

用具　毛糸用鉤針一本、とぢ針。

編み方　指先きから短編で甲に編み、つゞいて踵の方を編みます。

初めに、鎖編三ツして輪を作り短編を八ツ編み、次から一目おきに一目づゝふやして二廻り編みます。次は二目

おきに一目づゝふやしながら二廻り編みます。



第百六十九圖

短編八つ
一目置きに二目づゝ增して三廻り
二目置きに二目づゝ增して三廻り
四目置きに二目づゝ增して二廻り
併四十目

往復え編む

次は四目おきに一目づゝふやしながら一廻りあみますと目數が四十で直徑が約八糎位になります。この目數のまゝで爪先から十六糎になるまで、ぐる〳〵と丸く編みます。

次に八目だけ殘して裏からと引き返し往復して更に八糎程編みます。

踵の方になりましたら、兩端一目づゝ二回程ふやして止めます。編み終りを二つに折りまげてとぢ針でとぢつけ、その糸のつゞきで口のまわりに短編を一段編んで出來上りといたします。（第百六十九圖參照）之は左右目形に編みます。

保溫足袋（指附）

材料　並太毛糸三オンス。

用具　毛糸用鉤針一本、とぢ針一本。

編み方　短編で拇指を編み、次に四本指の方も編んで兩方合せて甲から足底へ輪に編みすゝみ、足の入る口を殘して引返しに編み踵の所で合せます。

拇指の編み方　鎖編三ツ、引き抜きで輪にして、短編八ツ編みます。

次に、前段の短編八ツの上に短編を二ツづゝ編んで十六にいたします。そのまゝ九段ばかり編みますと拇指のつけねまであめますから引きぬきにして糸を少し殘して置きます。

(一) 初め鎖八ツ次に一目に二目づゝを編み十六目にして九段まで編む
(拇指)

(二) 兩側で一目に三目編むこと二回
片側で二段おきに一目に三目編むこと二回
(四本指)

(三)
(イ)
(ロ)
十三目
八目
一段目四目
二段目三目
三段目一目
(甲)

第百七十圖

次に四本指の方を編みます。（第百七十圖（一）參照）

四本指の編み方　鎖編三ツ編み引き抜きで輪にし、短編を十編んで、二つに折つて兩側の角で一日に三ツづゝ短編をいたしますと、全部で十四出來た事になります。

次に編む時は增目した一方の角だけに三ツ短編を編みます。他は前段の目の通りに編みます。次に一段おきに今增目した方にだけ角に三ツづゝ短編を編んで、この方法で九段まで編みます。（第百七十圖（二）參照）

四本指の方が編めましたら、增目の反對側へ來た時、前に編んで置いた拇指と一緒にして、その目のまゝぐるぐると編み、拇指の先から十三糎半位になつたら止めておきます。

そして甲になる方の目を八ツだけ殘しまして第百七十圖(三)の(イ)から足底へ向つて(ロ)までの間を表から又裏からと交互に編みます。

凡そ八糎位編んで、一度足に合せて見ます。

次に足底の中心で、一目づゝ飛ばして四目へらします。次の段では二目減らし、又その次の段で一目へらして糸をとめます。

編み終りの目數を中表に二ツに折り、とぢ針でとぢます。そして緣に短編を三段、その上に鎖編二ツあんでピコットを一段いたします。

手拭を利用した食卓掛

材料 手拭二本、レース糸一玉。

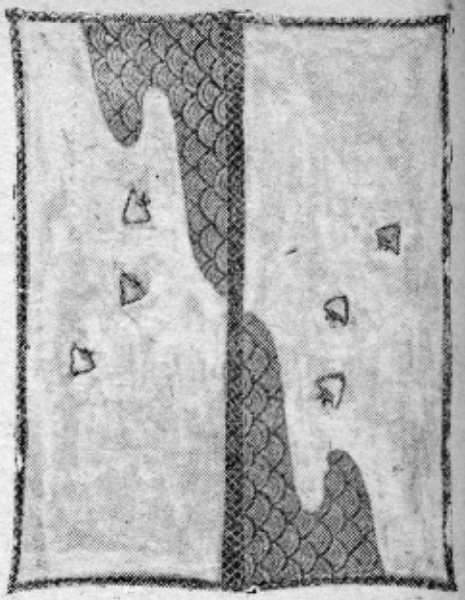
用具 レース針及び鉛筆。

編み方 最初二本の手拭を重ねて兩端の寸法を正しく裁切り、兩端の裁目を細く三ツ折縫にしておきます。次に一枚を少しづらして重ね合せ、二糎毎に鉛筆で印をつけておきます。

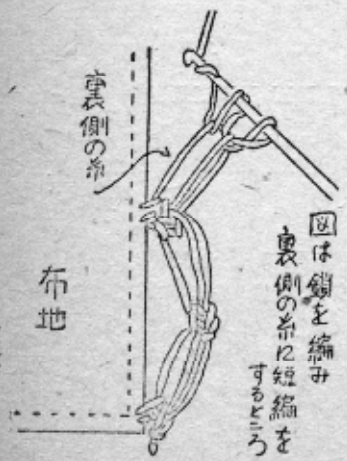
二枚の接ぎ合せを七寶編でいたします。第百七十二圖のやうに印をつけて置いた所に糸をつけ、一ツ鎖を編み、目を其のまゝ一糎半の長さに伸して裏側の糸に短編をし、今一度これを繰り返し次の印の所に短編で付けます。これを繰り返して一段を終り、二段目は端の方で同樣なものを三ツ編んで裏に返し前段の頭へ短編でとめます。

あとは前段と同樣に終りまで編みます。

三段目は第百七十三圖のやうに別の手拭の片側に付け乍ら編んで參ります。かうして二枚を編み接ぎましたら廻りの飾りに移ります。



第百七十一圖

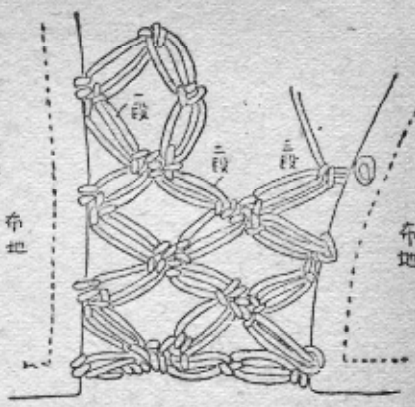


第百七十二圖
七寶編の編方

図は鎖を編み裏側の糸に短編をするところ

廻りは同じ七寶編で編みますが角の所に來ましたら第百七十四圖(イ)のやうにしますと角の所が丸くならずに角が出來ます。これを二段繰り返して飾編にうつります。

飾の編み方 飾編は第百七十四圖(ロ)のやうに七寶の間



第百七十三圖　布の編み合せ方部分圖

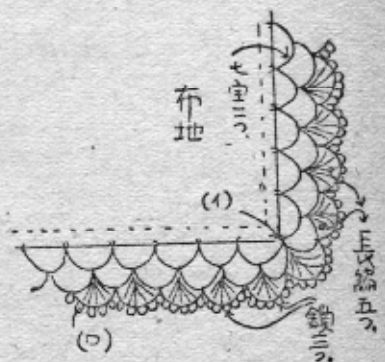
を切り、其の切端はよくかくしておき、アイロンを掛けて仕上げをいたします。

レースの袖口編（其の一）

材料　新カタン三十番一くり。

用具　レース針一本。

編み方　初め必要な袖丈の二倍だけの鎖編をし袖奥の方から袖口の方へ編んで行きます。模様の鎖の目數は四の倍數だけ編みます。



第百七十四圖
角の七寶編の仕方及飾の編み方

一段——逆に戻つて更に鎖五ツ編み九ツ目に短編で付けます。五ツ鎖を編み四ツ目に短編で付ける。五ツ鎖を編み四ツ目に短編でつける。これを繰りまで續けます。

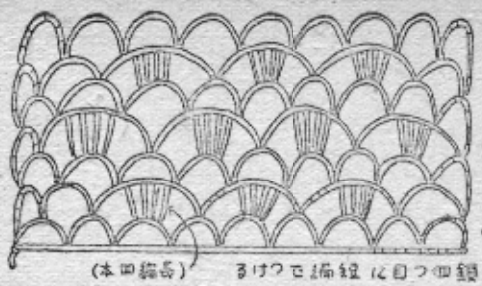
二段——二段目にうつる時に五ツ鎖を編み、次の鎖五ツの中に短編で付ける。又五ツ鎖を編んで次の鎖五ツの中に短編でとめます。

次は鎖三ツ編み、其の次の五ツ鎖の中に長編四ツを入れる。三ツ鎖を編み次の五ツ鎖の中に短編でつける。これを繰り返します。

三段——五ツ鎖で前段の鎖の中に短編でつけ又五ツ鎖で第百七十五圖の如く前段の長編の兩側に短編で付けます。

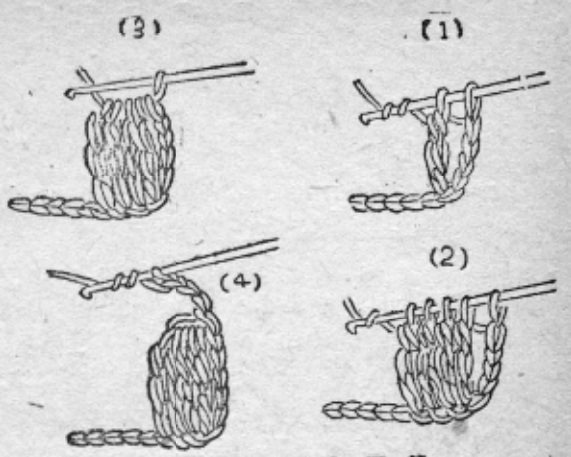
四段——二段目と同じやうに長編四ツが二段目の、長編と長編との間々に行くやうに入れます。

此の一段から四段までを一回として、この編方を繰り返して、三回目の四段目の時には、五ツ鎖を編み、前段の五ツ鎖の眞中の目に長々編を四ツ入れます。（基礎編の長々編參照）、又次の

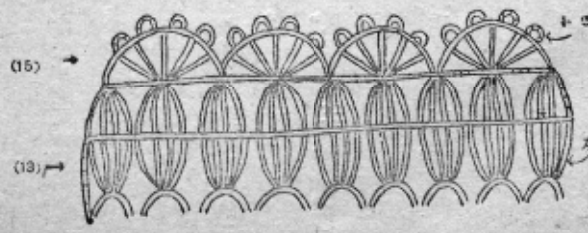


第百七十五圖　首まわりの編み方

五ツ鎖の中の目に長々編を四ツ入れます。これを繰り返し一段編みます。次の段には五ツ鎖をして針に糸を二ツからみ、前段の長々編の頭に針を通して糸を引き出し、針に糸をかけて二ツ引き抜き、又針に糸をかけて二ツ引きぬき第百七十六圖(1)のやうに殘つた二ツの糸の輪は引きぬかないで、又針に糸を二ツからみ、前段の次の長々編の頭に針を通して糸を引き出し、針に糸をかけて二ツ引きぬき、又針に糸をかけて二ツ引きぬき殘つた糸の輪は其のまゝにして今と同じことを



第百七十六圖



第百七十七圖

繰り返して、初めから四回目には同(3)圖のやうに針に糸をかけて針にかゝつて居る糸の輪を全部一度に引きぬきます。さう致しますと前段の長々編のさかさまの形になります。次に(4)圖の如く三ツ鎖を編み次の長々編の頭に今と同様な編方をいたします。これを繰り返して一段といたします。

次の段は三ツ鎖をして長々編の頭に長編一ツ入れピコットを作るために三ツ鎖を編み長編の頭に引きぬきで止め同じ長々編の頭に又長編を一ツ入れて鎖三ツ編み長編の頭に引きぬきでとめます。第百七十七圖のやうにして長編四ツ、ピコット四ツ、長編一ツを同じやうに長々編の中に入れて次の長々編の頭に短編でつけます。これを一段しますと飾りが出來上ります。

レース袖口（其の二）

材料　三十番新カタン糸。

用具　レース針一本。

編み方　鎖の目數は四の倍數で袖口巾の寸法だけ鎖を編みます。**レース巾ですから三糎幅でも十糎幅でも自由にいたします。**

一段——鎖を四の倍數で適宜の寸法だけ編み更に九ツ鎖を編み、九ツ鎖の最初の目に短編で付ける。五ツ鎖をして

ハンカチーフ入れ

材料 白レース或は三十番新カタン糸一ツ。

用具 レース用鉤針。

編み方 此のハンカチーフ入れは始め丸く輪にして口の方から底へ向つて編み、両方をへらし始める時から二枚を平にしてぐる〳〵編み、被せは後から編み、紐は其の後で付けるのであります。

一段——鎖百二十六を編んで輪にします。

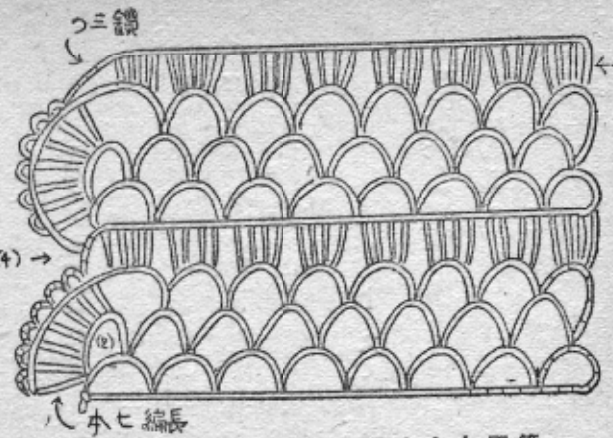
二段——鎖三ツして前段の鎖一目へ一ツづゝの長編をして一廻りします。

三段——二段からのうつり目に鎖三ツと、つぎいて二ツ、都合五ツの鎖を編んで、二段の長編の目二ツをとばして三ツ目に長編をします。そして又鎖二ツしては二目とばして長編と之を繰り返し一廻りいたします。

四段——三段と同じ編方を繰り返すのですが、初めと終りで目を増すことだけが違ひます。この増し目は表側の初めと終り、裏側の初めと終りでいたしますから一廻りする間に四ツ宛増すことになります。そしてなほこの目を増すことは一段置きに三回致します。



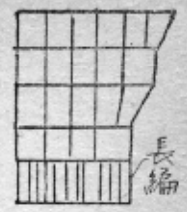
第百七十九圖 出來上り圖



第百七十八圖 編み方略圖

四ツ目に短編で付ける。これを三段繰り返しますが、二段目からは五ツ鎖の中に短編で付けて行きます。そして三段目の終りになりましたら前段の最後の五ツ鎖の中に長編を七ツ入れて一番初めの鎖の目に短編でつけます。裏に返して三ツ鎖をなし長編の六ツ目の頭に短編で付ける。三ツ鎖をして次の長編の頭に短編で付ける。これを繰り返して長編全部の頭の上に鎖三ツのピコットを作ります。三ツ鎖をして次に三段目の五ツ鎖の中に長編を四ツ入れる。次の五ツ鎖の中にも長編四ツ入れる。この長編四ツを一段いたします。

一段から四段までの編方をくり返して袖丈の寸法だけ編んで行きます。（第百七十八圖編方略圖參照）

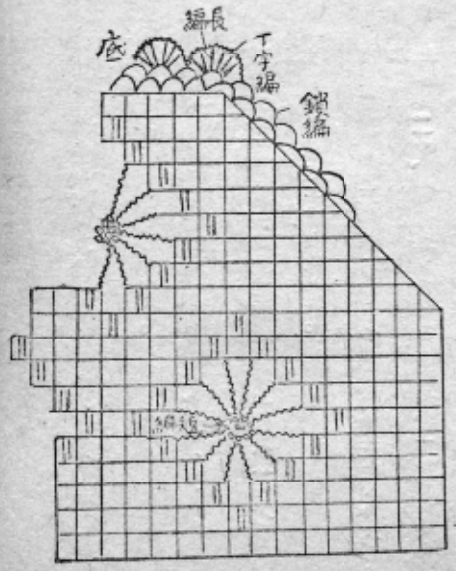


第百八十三圖　目の増し方

五段、七段――は三段に同じ。

六段、八段――は四段に同じで兩横で目を増します。かうしますと袋の口よりもだんだんと廣くなつて來ます。

目の増し方　この増し方は第百八十圖のやうに、始め増す時には、鎖五ツ編んで前段の長編と長編の間の鎖二ツの中に長編を一ツ編むと、そこで一ツ増し目が出來ます。此の増し目が出來てから、又長編が二十目出來ましたならば、次の二ツ鎖の中に長編を一ツ入れて目を増します。又次は長編の頭に長編を編んで、其の次は又鎖二ツの中に増し目致します。これより又二十目編みますと終りになります。これを繰で又一ツ増し目を致します。始めの五ツ鎖の三ツ目に引ぬきで止めます。此の方法で一段置きに三回増し目をします。始め増す時には鎖の兩側で次に増す處が二十一目の兩側で増します。



第百八十一圖

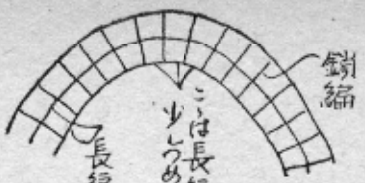
九段――この段から模様を入れます。模様は第百八十一圖のやうに花菱を片側に三ツ入れます。三ツ目の模様の二段目から左右の端で一段づゝ圖のやうに減じて袋の底を段々とせばめて參ります。そして模様を編み終へましてから、一段編んで止めますと、底に六糎程穴のあいた袋が出來ます。

今度は上の被せをあみます。今迄編みました袋の口の片側だけへ長編を一通り編み、二段目からは袋の方と同じ編方で九段編みますが、こゝは袋になつてゐませんから裏表から編んでまいります。そしてなほ二段目から巾の中央に前と同じ花菱の模様を一ツ編みます。

次は飾りを編みます。飾は鎖五ツを編んで短編で止め、また鎖五ツしては短編と、之を繰り返します。底は二枚一緒に合せて編みます。二段いたしまして三段目は前段の鎖の輪の中へ長編を六ツして次の鎖の中へ短編で止め、又長編六ツしては短編で止める編方を一廻りします。そしてその上に丁字編を一通り編んで終ります。丁字編は長編を編みながら、その頭へピコットを編んで行きます。

被せも同じやうな飾編をして、ボタンを付けます。

ボタンは全部短編で直徑八粍位の玉を作り蕊には脫脂綿を入れ、被せの模様の中央下へつけます。

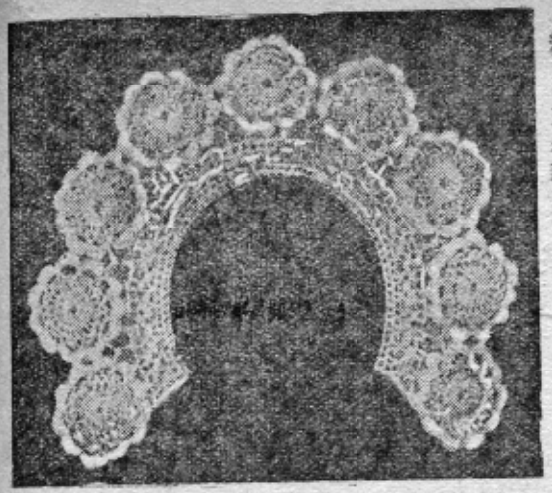


第百八十二圖　紐の編み方

次は編ですが第百八十二圖のやうに全部鎖と長編で、拂目編を袋の一方の端から編み初め他の一方で止めます。

洋服の衿カバー（其の一）

材料　二十番新カタン糸一くり。



第百八十三圖　出來上り圖

用具　レース用鉤針。

編み方　初め九枚の花を編んでこれを出來上り寫眞のやうに編みつなげるのであります。

一段——七ツ鎖を編み輪にして引きぬき止めにいたします。

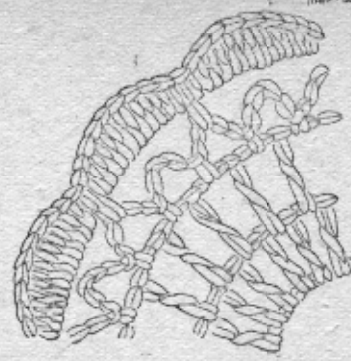
二段——四ツ鎖を編み、前段の輪の中に長編を入れ、鎖一ツを編み、又同じ中に長編を入れる。これを繰り返して始めの鎖四ツも長編一ツと數へて二十二本になるまで同じ所に長編を編み、終りに初めの鎖四ツの中に引きぬきで止めます。

三段——鎖五ツを編み第百八十四圖の如く、前段の長編と長編の中の鎖一ツの中に長編を入れます。これを繰り返して終りは初めの五ツ鎖の三ツ目に引きぬきで止めます。

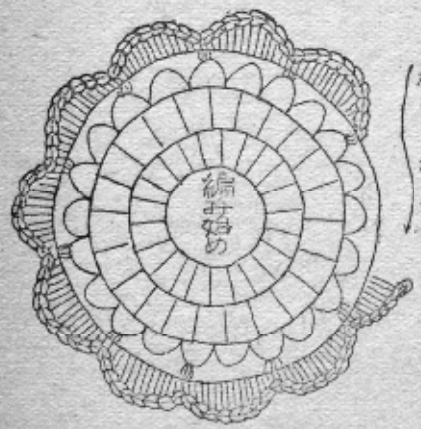
四段——鎖四ツを編み、次の二ツ鎖の中に短編で付けます。この段は鎖四ツ短編でとめる。これを繰り返して終りに始め編んだ鎖の二ツきで引きぬきにします。

五段——鎖六ツを編み前段の鎖の輪を一ツとばして二ツ目の鎖に短編でつけます

六段——前段の六ツ鎖の中に短編を一ツ入れ次は長編を九ツ入れ短編の頭に短編で止める。これをくり返します。これで花形一枚出來たのであります。（第百八十五圖參照）、これと同じものを九枚作ります



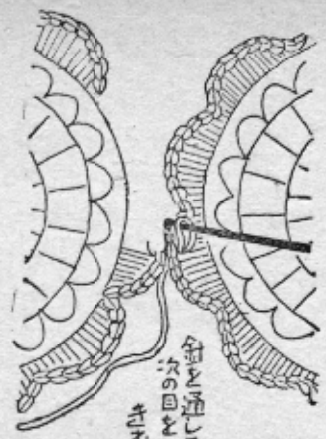
第百八十四圖



二枚目切り松編二半殘して置く。

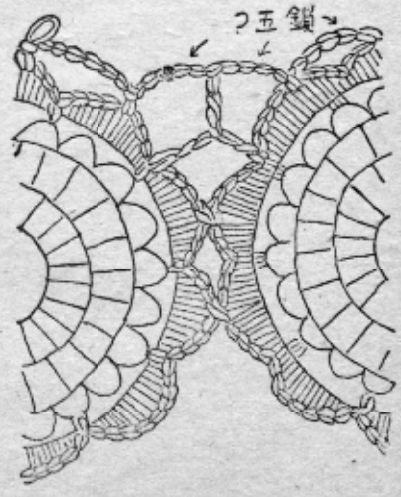
第百八十五圖

が、二枚目からは終りの松編を一ツ半殘して第百八十六圖のやうに始めの一枚の花辨（長編九ツ）の中程に針を通して、次の目を引き出して後の半分を長編にいたします。又次の花辨の半分まで長編を編んだ時に、一枚目の次の花辨の中央に針を通して付けます。



第百八十六圖

三枚目からは外側になる方を四ツの花辨にして内側は三ツにいたします。兩方共二ツづゝ付けます。これを九枚つなぎ合せて中の首廻りを編みます。（出來上り圖參照）



第百八十七圖

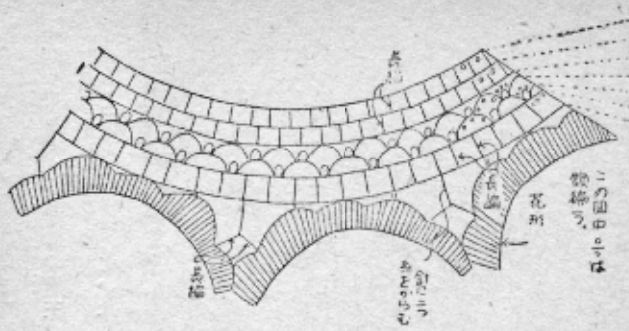
接ぎ方及び首廻の編み方

一段――內側の花辨の始めに糸を付け、第百八十七圖のやうに鎖五ツを編み、次の花の花辨の中央に短編で付けます。これを繰り返して次の花に移る時は、其の間が廣くなつて居ますから鎖五ツを編み、針に糸を四ツからみ（長々編）花の時に短編でつけた處のひくい處に長編を入れ一度引きぬき針に糸が三ツかゝつて居る上に又針に糸をからみ次の花の低い處に長編を入れ一度引きぬき編をいたします。かういたしますと長編の足を兩方にかけ逆さのY字型になります。そうして五ツ鎖を編み、次の花に付けます。

二段――鎖五ツを編み前段の鎖五ツの中央に長編一ツ入れ、鎖二ツ編み次の短編の頭に長編一ツを入れ、鎖二ツ編んで鎖五ツの中央に長編を編み、鎖二ツ編んで短編でつけた所に長編を編み、これを繰返します。

三段――鎖三ツを編み、前段の鎖二ツの中に短編でつけ、三ツ鎖を編み同じ處に短編でつけます。次は三ツ鎖を編み長編二ツとばして、次の鎖の中に短編でつけます。又三ツ鎖を編み同じ處に短編でつけます。

四段――前段の鎖三ツとばした處に三ツ鎖を編んで、短編でとめ、もう



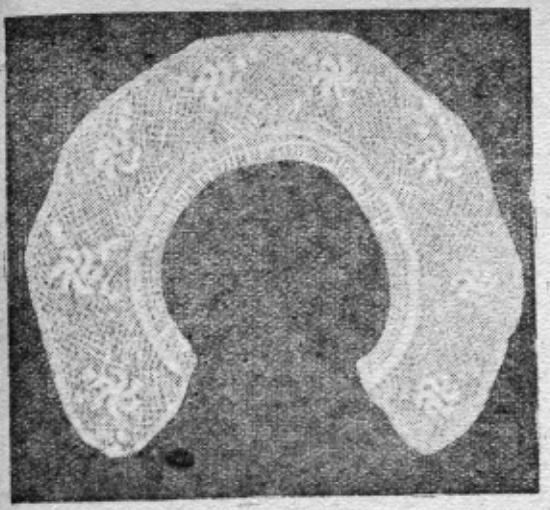
第百八十八圖　首まわりの編み方

一度これを編んで同じ處に入れます。前に二度付けた處は今度はとぶことになります。

五段——鎖四ツをあみ、前段の鎖三ツの中央に短編でつけて、又鎖四ツを編んでは一ツ飛んで次の三ツの鎖に付けます。これを繰り返して編みます。

六段——四ツ鎖を編み、前段の鎖三ツの中に長編一ツを入れ、次からは前段の目を一目おきに桝目編をいたします。

七段——六段と同様に桝目編をいたします。（第百八十八圖參照）



第百八十九圖　出來上り圖

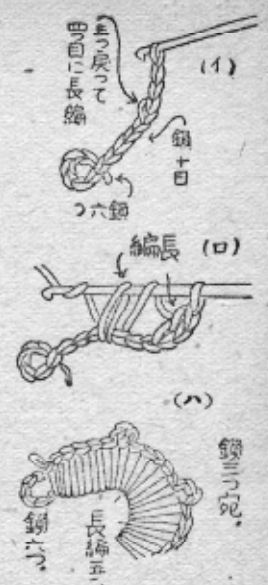
洋服の衿カバー（其の二）

材料　新カタン三十番一玉の三分の一位。

用具　レース用鉤針一本。

編み方　この衿カバーは第百八十九圖のやうに、小さい模様を八枚接ぎ合せ、其の周圍に飾編をいたしたものであります。

最初鎖六ツを編んで輪にします。つゞいて鎖十を編んで、第百九十圖（イ）のやうに三ツ戻つた四ツ目に長編一ツ、次は鎖をまくやうに長編四ツ（同圖）（ロ）を編んでから、鎖三ツ編み、鎖の根元の長編の頭に止めるやうに針を通して、一目抄ひ出し、（この時針に二目かゝつたまゝ）次の長編に移り、又長編を五ツ、鎖三ツのピコットを編み、次は長編五ツを編んで、最初の輪の中に止めます。（同圖（ハ）參照）

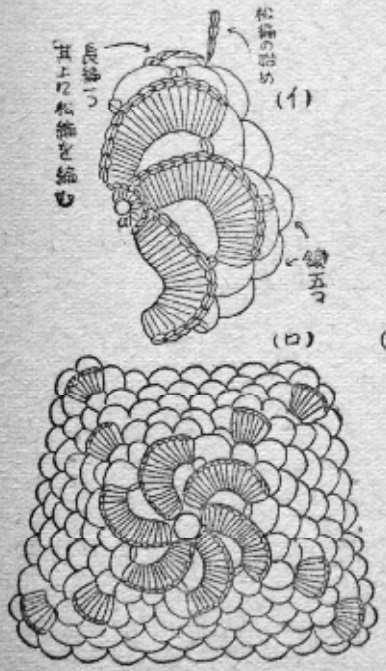


第百九十圖

鎖七ツ編んで裏に返し、前段の終りのピコットに短編で止め、鎖三ツ、長編五ツ、ピコット一ツ、長編五ツを二回編んで最初の輪に止めます。かうして順次第百九十一圖（イ）の如く編みます。

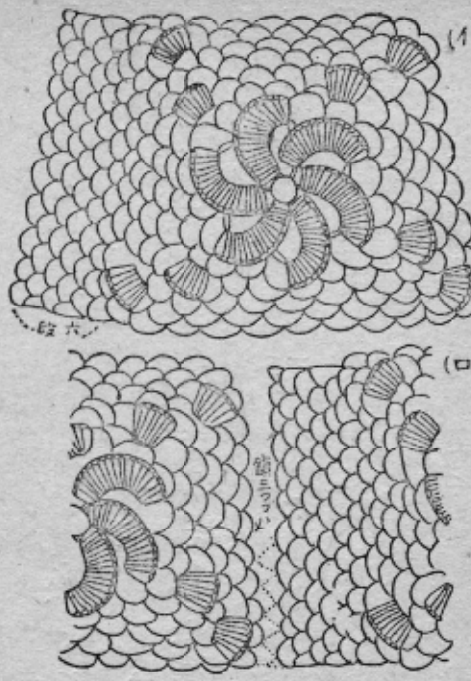
このやうに、ピコットのついた長編の片を六ツ編んで糸を切ります。最後の一片の二ツ目のピコットを編むとき、最初の一片の尖端を抄つて編み、又長編を五ツ編んで初めの輪に止めて糸を切ります。

切つた糸を第百九十二圖（イ）のやうに、一片の初めの方のピコットにつけて、鎖五



第百九十一圖

ツを編んで、次の長編の目を一ツとばした所へ短編で止め、又鎖五ツして次の片の端に止め、又鎖五ツして其の片の初めのピコットに止め、つゞいて前の片のやうにして一周しますと鎖の網目が十八になります。



第百九十二圖

けれどこの場合十八では都合が悪いので十九にするために、最初糸をつけたピコットと、その片の端との間へ一ツ止めます。

次の段は四隅に松編を入れて前のやうに波編で一周します。(四隅と云ひましても眞四角でなく、十九の網の目を四ツ、七ツ、四ツに分けて、其處で松編を入れます。)この松編は第百九十一圖イのやうにはじめ次の鎖の中に、鎖三ツして其の前段の波編の中に長編七ツを編むのであります。第百九十二圖(イ)次の段は波編だけ一まはりしますが長編七ツの上と兩側と眞中は短編で付けてまはります。その次の段は四隅に松編を入れる編方をし、終りに波編で一周して糸を止めます。(第百九十二圖)(ロ)

四段——同樣に八枚編むのですが、二枚目からは最初のと同じ所まで編んで糸を切らずに、第百九十二圖(イ)のやうに四角の一邊(巾の廣い方が衿カバーの外廻りになるやうに)に波編を六段編み、七段目を編むとき、同(ロ)圖の如く別の一片と綴ぢつけます。

以下全部同じ仕方で編みますと衿廻りの丸味が出來ます。

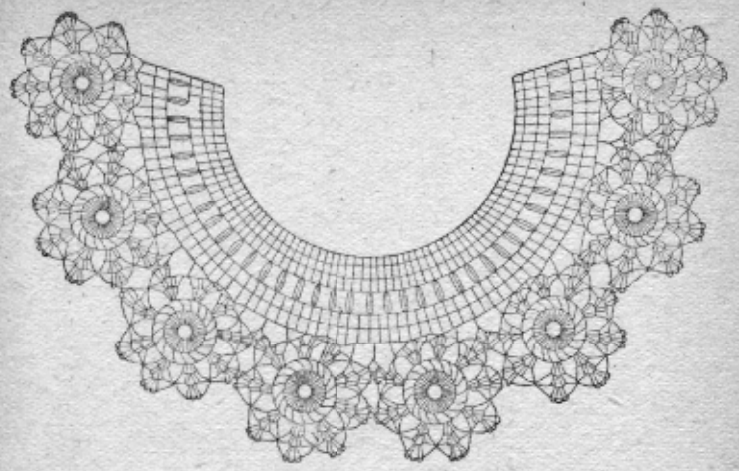
五段(周圍の飾り)——外廻りと左右とに、一段、鎖五ツと短編の波編します。次に內廻りに裏を見て、鎖三ツしては長編一ツを一段し、裏返して鎖三ツしては長編四ツを編んで、次の波編に短編で止める編方を一段いたします。次に鎖三ツ編んでは前段で四目づゝ編んだ長編の初めの目に短編で止める編方を一段します。それから鎖二ツと長編一ツの編み方(枡目編)を三段して糸を止めます。

最後に兩横と外廻りにピコット附の松編の飾をします。出來上りましたなら洗濯をして、薄のりを付けて、生乾きの時にアイロンをかけます。

洋服の衿カバー (其の三)

材料 三十番新カタン糸。

用具 レース針。



第百九十三圖　出來上り圖

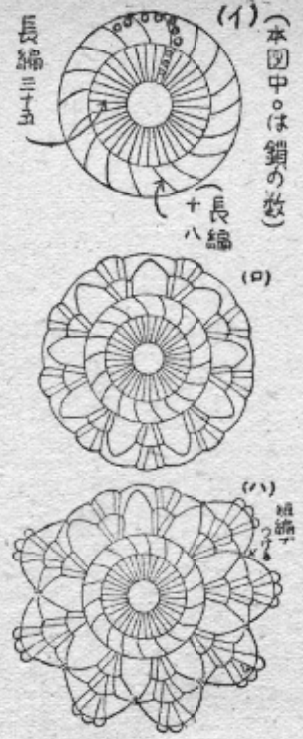
編み方　初め花形を一ツあみ、次の花形から飾りのピコツトを編む時に前の花のピコツトにつゞけて編んで全部がつなぎ合さつてから内側を第百九十三圖の如く拵目編します。

一段——鎖十編んで輪にして引きぬきでとめます。次に鎖三ツして其の輪の中に長編三十五編み、鎖の頭に引きぬきでとめます。

二段——鎖五ツ、一段の長編を一目とばして、長編一ツを編み、鎖二ツして一目とばして長編一ツを繰り返へし、終りは長編一ツして鎖二ツあみ、五ツ鎖の三ツ目に引きぬきでとめます。（第百九十四圖）（イ）

三段——鎖三ツあみ、二段の最初の長編と長編の間に長編二ツ、鎖二ツ、長編二ツを編みます。次は鎖四ツして前段の長編を二目とばし、長編二ツ、鎖二ツ、長編二ツ（松編）を繰り返へし、終りは松編をしてから鎖四ツ、前段の鎖三ツの上に引きぬきでとめ、更に前段の長編と長編の間の鎖の所まで引きぬきで參ります。

四段——鎖三ツして前段の長編と長編の間の鎖二ツの中に、長編一ツ、鎖二ツ、長編二ツあみ、鎖四ツして三段と同じ松編を繰り返します。（第百九十四圖）（ロ）、終りは鎖三ツして、前段の鎖を四ツのところに短編でとめ、更に鎖三ツして五段に移ります。

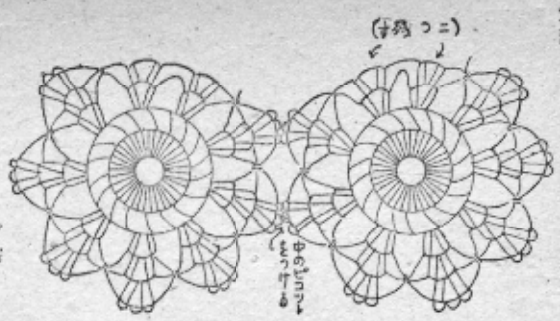


第百九十四圖

五段——前段の松編の中央に長編一ツ、鎖三ツ編んで長編の頭で引きぬき、ピコツトを作り、長編一ツ、ピコツト一ツ、長編一ツ、ピコツト一ツ、長編一ツを同じ處に入れ、鎖三ツして三段四段の鎖の中央を一緒に短編で付ける仕方を、松編二山だけを殘して一段して糸を切りますと、一模様出來たわけであります。（第百九十四圖）（ハ）

同様の編み方で花形模様を一ツ編んでは續けながら八個の模様を編みますが、二ツ目からの模様は、ピコツト附の飾編を三山だけ編まずに置いて、四山目はピコツトのついた長編を二ツしてから續けます。

接ぎ方　二ツ目の模様の編み續けの糸で、最初の模様の終りから二ツ目の飾編のピコットの中央に、鎖一ツして短編でとめ、又戻つて鎖一ツして短編でとめ、ピコットの附かぬ長編を一ツ編み、鎖四ツして三段四段の鎖編を短編でとめ、又鎖四ツ、ピコット附の飾編を二ツ編んでから、前と同様の方法で花形模様を繼ぎ合せます。（第百九十五圖）



第百九十五圖

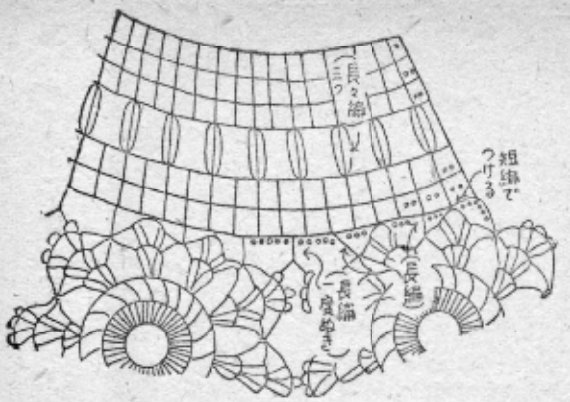
注意　模様を繼ぎ合せるとき模様が裏表にならぬやうにします。

頸廻りの編み方

一段——全部繼ぎ合せてから、鎖六ツして短編を松編の間に編み、鎖三ツして長編で、三段四段の鎖編を一所に編んで長編で束ね、鎖三ツして短編で松編の間にとめ、又鎖三ツして三段四段の鎖編を短編で束ね、次は鎖五ツして花形模様の端のピコットに一度かけて、二目だけ引きぬき針を引き出し、殘りの目數を二ツづゝ引きぬきます。（長々編で續くことになります）、次は鎖五ツして、三段四段に二目かゝつたまゝ更に、次の花形模様の端のピコットに一度かけて糸を長編で一所に束ね編みにします。

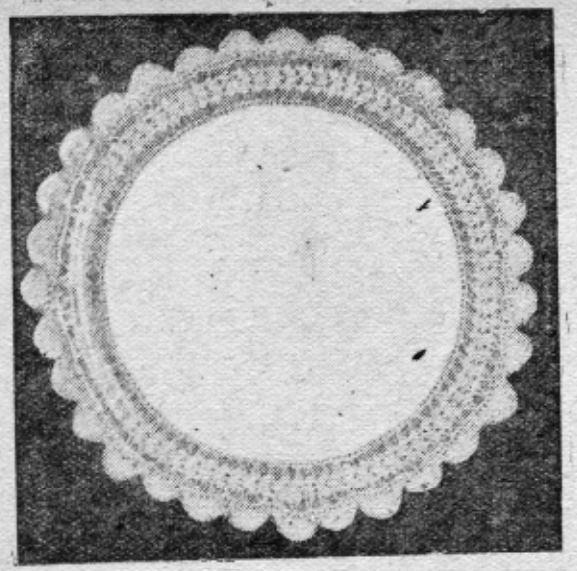
又鎖三ツ、短編、鎖三ツ、長編といふやうにこの編み方を一段いたします。

二段——裏返へして鎖六ツ、二目とんで長編一ツ、鎖二ツ、二目とんで長編を繰り返します。（桝目編）


(長2編)
一度ぬき
(長編)
(三つ)
(長編)
一度ぬき
(長編)
(三つ)
(長編)
一度ぬき
(長編)
(三つ)
(長

小テーブルセンターの飾編

材料 新カタン二十番糸一くり。



第百九十七圖 出來上り圖

用具 レース用鉤針一本。

編み方 始め鎖八ツ編み七ツ目に長編二ツ入れます。二ツ鎖を編み、同じ目に長編二ツ入れます。鎖六ツして、裏返して、前の二ツ鎖の中に長編二ツ入れます。鎖二ツして、同じ所に長編を二ツ入れます。これを繰り返して七回いたします。鎖三ツ編み、前段の六ツ鎖の中に、短編で付けます。鎖十編み、あとにもどつて、六ツ目に短編で付けます。鎖八ツして、四段の鎖六ツの中に、短編で付けます。鎖二ツをなし、裏に返して第百九十八圖のやうに八ツ鎖の中に、長編を十五入れます。

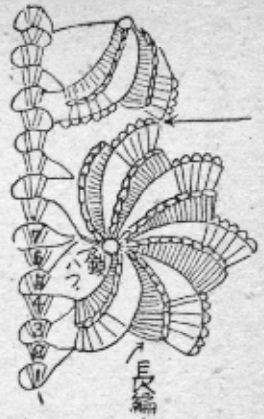
前に、鎖六ツで作つた輪の中に、短編で付けます。鎖八ツして同圖のやうに、裏にかへして前段の長編十五の中の十目に長編一ツ編み一ツ鎖して、長編一ツ、鎖一ツ、このやうにして六回繰り返します。

鎖二ツ編み、二段目の鎖六ツの中に短編で付ける、鎖二ツして、裏返して、長編と長編の間の、鎖一ツの所に短編で付ける、鎖三ツして、次の長編の間につける」。これを終りまで繰り返して、鎖八ツの中に、長編十五を入れ終りに鎖の中に短編で付ける。鎖八ツ編み裏にかへし前の長編十五の内、十目より、長編一ツ鎖一ツを六回繰り返します。鎖二ツ編み裏かへして前段の長編と長編の間に入れます。この花辨を六回くり返して、六回の終りに鎖四ツの所に短編五ツ入れる鎖三ツ編み、次の長編の間に、長編二ツ入れ、鎖二ツあみ長編二ツ同じ所に入れる。長編二ツの松編をして、裏返して鎖六ツ松編をして鎖二ツ編み、花辨の長編十目の所に短編で付ける。又鎖二ツ編み、前の松編の上に又松編を入れます。是で風車形の花が一ツ出來ました。第一の松編から初めて花びらを繰り返して六回同じことをいたします。二ツ目からは是を連續させるために、第百九十九圖のやうに、花びらの二番目のところに、前の花のをはりに二ツ鎖して、短編で付ける、いつも二番目の花びらのときに、前の花の終りに付けるのであります。是を繰り返して、花が三十六出來る迄致します。終りは編初めとつなぎ合せる爲に、終りの花の松編の時



第百九十八圖

に第一段目の鎖を切りますと松編の下の處がバラ〳〵になります。これを終りの長編二ツして鎖二ツします時に一ツ鎖をして置きまして針を抜き、前のバラ〳〵の松編の下を四本一度に針を通して、今鎖一ツした目を引き抜きます。鎖一ツして長編二ツ入れ、鎖六ツして上の松編のはしの處に引抜きで付け、終りの糸をきらずに五ツ鎖を編み、片方の六ツの中に短編で付ける。次も又五ツ鎖を編んで付ける。是を最後まで繰り返します。五ツ鎖を編み、前段の鎖の目二ツとばして三ツ目に長編一ツ入れ、又鎖二ツ編み、二ツ目をとばして長編二ツ入れる。これを繰り返して、同じことを二段繰り返して止めます。布をつける時は、終りの長編の所を、ミシンか、手縫で付けます。



第百九十九圖

鎖四つの上に
短編五つ

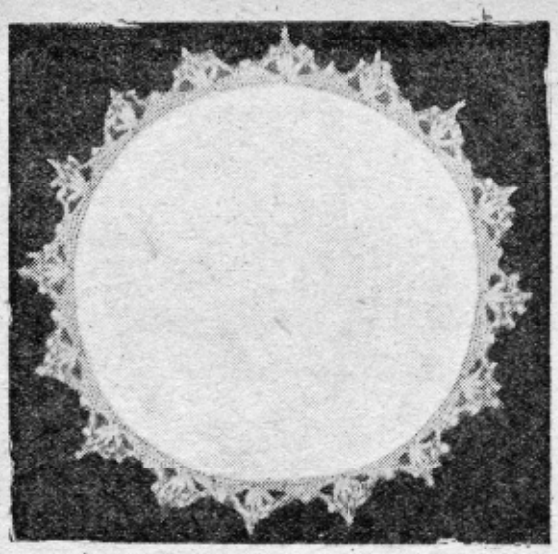
もみぢ形テーブル掛

材料 十六番新カタン糸一くり。外に麻布又はボプリン五十糎角。

用具 レース用鉤針一本。

編み方 先づ一模様に對して鎖を五十四の割合に致します。

一段——鎖を八百六十四作り、輪にして引きぬき止めにいたします。



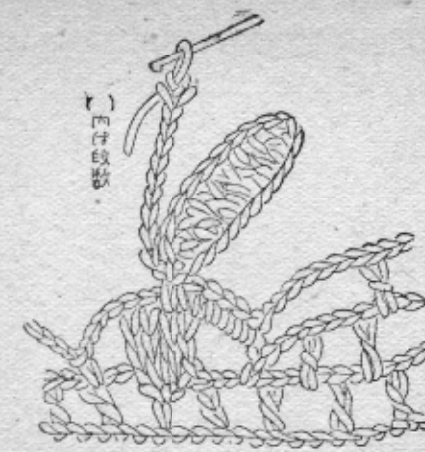
第二百圖 同來上り圖

二段——三ツ鎖を編み、次の目より長編を一目に一ツづゝ入れて一周し、終りに、始め三ツの鎖の頭に引きぬき止めに致します。

三段——鎖五ツを編み、目を二ツとばして三ツ目に長編一ツを入れ、鎖二ツ編んで三ツ目に長編をあみ、これを繰り返して終りは、始め編んだ鎖五ツの三ツ目に引きぬき止めにいたします。

四段——五ツ鎖を編み前段の鎖二ツの中に長編一ツ入れ鎖二ツを編み、次の鎖二ツの中に長編一ツを入れ、長編が七ツ出來ましたら、三ツ鎖を編み、次の鎖二ツの中に短編みで付け、又鎖三ツを編み、長編一ツとんで、次の長編の頭に長編を四ツ入れる。三ツ鎖を編み、長編一ツとんで次の鎖二ツの中

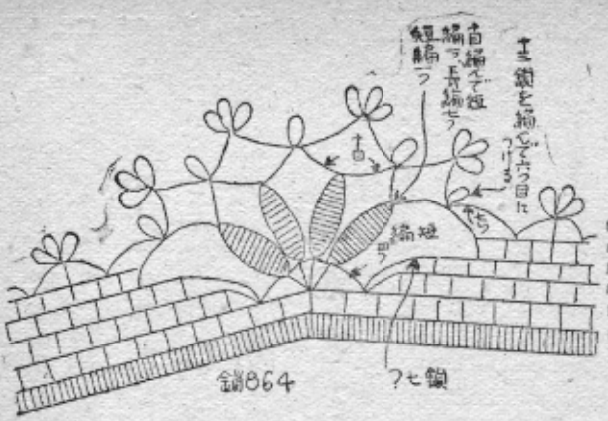
に短編で付け、鎖三ツを編み、次の鎖二ツの中に長編を入れます。（第二百一圖參照）、鎖と長編と交互に編んでその拵目の長編が十四出來ましたら、三ツ鎖を編み、長編一ツ編んで次の鎖二ツの中に短編で付け、又三ツ鎖を編み、次の長編の頭に長編を四ツ入れ、これを繰り返して段の終りに、始め編んだ五ツ鎖の三ツ目に引きぬき止めにいたします。



第二百一圖

五段——鎖五ツを編み、長編一ツとばして次の長編と長編の間に長編を入れ、この長編が始めの鎖共に、五ツ出來ましたら鎖七ツを編み、前段の長編四ツの兩側の鎖三ツの中に短編を四ツ入れます。長編の初めの目にも短編を一ツ入れて「鎖を十編んで次の目に短編を一ツ入れ、次の目よりは長編を七ツ編みます。八ツ目は短編を入れて下の長編の頭に短編で付ける」これを四回繰り返します。四回の終りには同じ處に二回付くやうになります。續いて四ツ短編を入れて、鎖七ツを編み、前段の長編二ツとばして、鎖二ツの中に長編を入れ乍ら、長編が十一出來ましたら、鎖七ツ編んで前段の長編四ツの兩側に短編を四ツ入れ、次よりは前に鎖十編んだ處と同じやうにして一段廻りま

す。そうして終りに鎖の三ツ目に引きぬき止めにいたします。



第二百二圖

六段——鎖五ツを編み、次の目より長編三ツ出來ましたら、鎖を十編みまして前段の楓の葉の頭に短編で付け、又鎖十編んで葉の先に短編で付け、これを五回繰り返して長編の所を二ツとんで三ツ目の鎖の中に長編をあみ、これを八回して又鎖十編んで葉に付ける、これを繰り返します。

七段——鎖九ツを編み四ツ目に戻つて短編で付け、鎖五ツを編み、同じ目に短編で付けます。又鎖五ツを編み、同じ目に短編で付け即ち三ツの輪が出來ることになります。鎖四ツを編み、長編の目一ツとばして、短編で付け鎖七ツを編み、前段の鎖十の中央に短編で付け、五ツ編を編んで同じ處に短編で付けます。次は十三鎖を編み、その鎖の六ツ目に短編で付け、五ツ鎖を編み同じ處に短編で付け、五ツ鎖を編み又同じ處に短編で付け、七ツ鎖をし、次の十の鎖の中央に短編で付けます。次は十三鎖を編み、六ツ目に

戻つて短編で付け、次は五ツ鎖を編み同じ處に短編で付ける事を二回致しますと都合三ツの輪になります。かうして三ツの輪の處が四回と一ツの輪の處が五回で一ツの模様が出來ることになります。又鎖七ツを編んで長編を二ツとんで短編で付け、四ツ鎖を編んで長編一ツとばし次の長編の頭に長編を入れ鎖五ツを編み元の處に短編で止める事三回、都合三ツの輪が出來ましたら四ツ鎖をし長編の目を一ツとばして短編で付け、鎖七ツ編んで長編の目を二ツとばして前段の鎖十の中に短編で付ける。これが全部の周圍の飾りになつて終るのであります。（第二百二圖參照）出來上りましたら霧を吹きアイロンを掛けます。

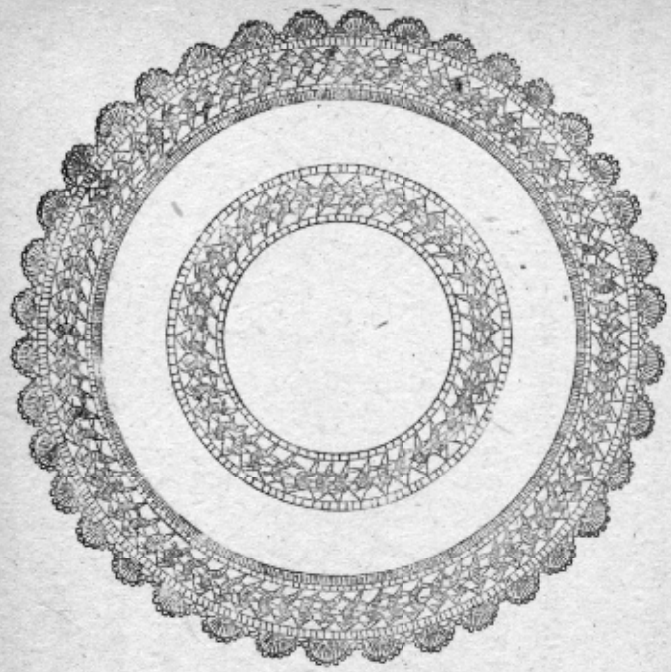
二重丸のテーブル掛

材料　二十番新カタン二把。

用具　レース針一本。

編み方　此テーブル掛は、第二百三圖のやうに、レースと布地とを組合せたもので、レースの編方は中輪と外輪と同じものを用ひました。

輪の編み方　始め鎖を十七あみ、あとに戻つて十一目に長編を一ツ入れ、鎖二ツをあみ、同じ處に長編を一ツ入れます。次に三ツ鎖をして、二目とばして三ツ目に長編を一ツ入れ、鎖二ツして同じ處に長編を一ツ入れます



第二百三圖　出來上り圖

又鎖三ツ編み、三ツ目に長編一ツ、二ツ鎖して同じ處に長編一ツ入れます。

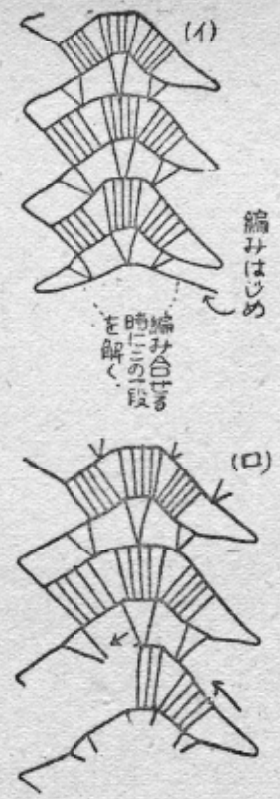
二段——鎖十をあみ、裏に返して前段の「鎖三ツ編んだ中に長々編を五ツ入れ鎖二ツ」「」の中を三回繰返します。

三段——鎖を十あみ、前段の二ツ鎖の中に長編を一ツ入れ、鎖二ツして同じ處に長編を一ツ入れます、三ツ鎖をあみ前段の五ツ長々編んである中央の目に長編一ツ入れ、鎖二ツして同じ處に長編を一ツ入れます。次に又鎖三ツあみ、前段の鎖二ツの中に長編一ツ入れ、鎖二ツあみ同じ處に長編を一ツ入れます。

四段——二段目と同じであります。

五段――三段目と同様に編みます。以下これを繰り返し、布に合せて適當の長さに編みます。

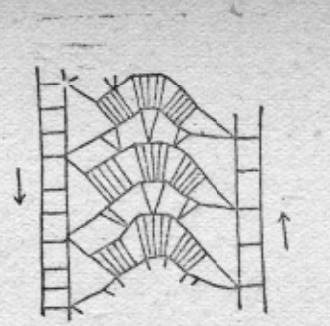
つなぎ合せ方　丸くつなぎ合せますには、編み始めの鎖を解いて、編み終りの長々編をする時、二ツ鎖の一ツだけをあんで針をぬき、編み始めの鎖を解いた處の始めの長編の根元の目に、針を逆に通して今編みつゝある鎖の目を引出します。そして鎖を一ツ編み、又次の長々鎖を二ツあんで針をぬき、中の長編の二ツに逆に針を通して、今あみつゝある目を引出し其の儘長々編を三ツつけます。次は鎖を一ツして針をぬき、次の長編の根元に針を逆に通して一ツ鎖をあみ、それより長々編を五ツ編みます。（始めの鎖を解く時に十七の鎖の內十五迄解いて置きます。）さうして編を十編んで前の解き終りの處に引抜きで付けて置きます。第二百四圖ロ參照。是で全部が丸く輪になつた事になります。

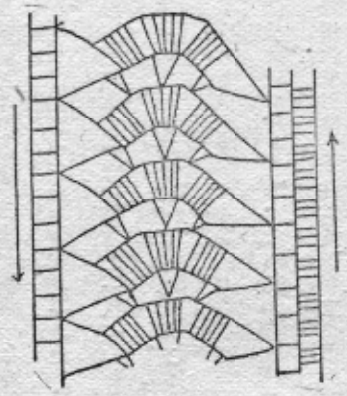


第二百四圖

周圍の飾の編み方　始めに外側になる方の十の鎖に糸を付けて八ツ鎖をあみ、次の十の鎖の中に短編で付けます。是を繰り返して一廻り編んで終りに始めの糸を付けた處に引き抜きで止めます。鎖六ツをあみ、二目とばして三ツ目に長編を一ツ入れ更に鎖三ツして二目とばして長編一ツ。これを繰り返して始めの鎖三ツ目に引き抜き止めにして糸を切ります。（第二百五圖參照）

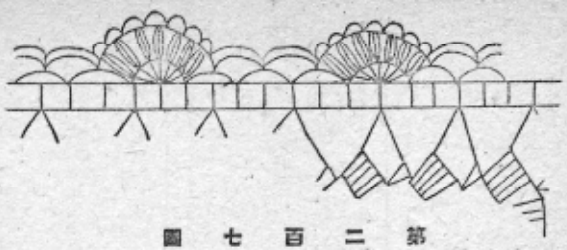
內側の編み方　內側の方は十の鎖の中に糸を付けて六ツ鎖をあみ、次の十の鎖の中に短編で付けます。これを繰り返して始めの糸に付けた處に引抜きで付けるのであります。次は鎖五ツをあみ、二目とばして三ツ目に長編を入れ二ツ鎖をあみます。此の內側の鎖はなるべくかたく編みます。目を二目とばして三ツ目に長編を入れながら一廻り致しまして、終りに始めの糸を付けた處に引抜きで止めに致します。中の輪の方はこれで終りであります。外の大きい輪の方は中の輪と同じ編み方をした上に、更に內側の布をつける方には鎖三ツをあみ、前段の鎖二ツの中に長編三ツづゝを入れて一周りし、始めの三ツ鎖のあたまに引抜きで止めます。（第二百六圖參照）


第二百五圖


第二百六圖

外緣飾の編み方　外輪の外側の長編の頭に糸を付け、次の長編のあたまに長編を七ツ入れて次の長編のあたま

に短編で付けます。鎖五ツをあみ、第二百七圖のやうに次の長編を一ツとばして二ツ目の長編のあたまに短編で付けるのであります。是を三回繰り返して、其の次の長編の頭に長編を七ツ入れます、これを繰り返して一段あみます。



第二百七圖

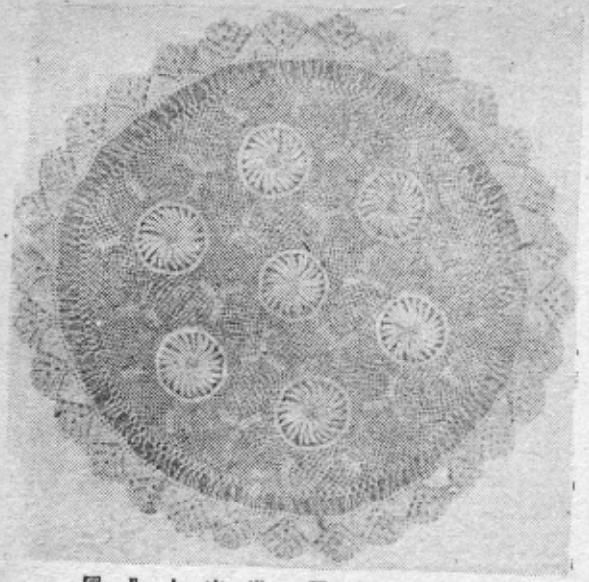
次の段は前段の七ツ長編の手前の鎖五ツの中まであみましたならば鎖二ツをあみ、前段の長編七ツの始めの目に長々編を一目に三ツ入れます。この三ツの長々編みは全部終りまで引き抜かないで、終りの一目づゝを皆殘して針に掛けて置き、三ツの終りに一度に引抜いてしまひます。さうして鎖二ツをあみ、次の目に長々編を三ツ一度に引きぬいたものを入れます。是を七ツの長編の上に全部入れ次の五ツ鎖の中に短編で付けます。次は三ツ鎖をあみ、次の五ツ鎖の中に付けます。又三ツ鎖をあみ、次の五ツ鎖の中に短編で付けます。それより二ツ鎖をあみ、長編七ツの始めより長々編を三ツ一度に引きぬいたものを七ツ入れます。長編七ツの間々には全部鎖を二ツ入れるのであります。是を繰り返して終りは始めの目に引きぬき止めます。

次は鎖五ツをあみ、前段の鎖二ツの中に短編で付けます。花と花の間の處は鎖三ツして、前段の短編で付けた處に同じく短編で付けるのであります。是を繰り返して緣飾りは終ります。

仕上げの仕方

中輪、外輪共に出來上りましたらば、中に付ける布を周圍に合はせて切つて仕上げます。

菊花模様テーブル掛



第二百八圖　出來上り圖

材料　二十番新カタン三ツ位。

用具　レース用鉤針。

編み方　初め菊花模様を中心にした六角形を七枚編み、第二百十一圖(イ)の如くならべてつなぎ合せ圓形にして周圍に飾り編をいたします。

一段——鎖七ツして輪にします。

二段——鎖五ツして輪の中に長編一ツ、鎖二ツして長編一ツ、鎖二ツ、長編一ツ、これを繰りかへして輪の中に初めの鎖五ツの分まで合せて十二の長編が出來ましたら初めの五ツ鎖の三ツ目にとめる。

三段——今度は菊の花瓣にうつります。第二百九圖

戻つて短編一つ
鎖二十



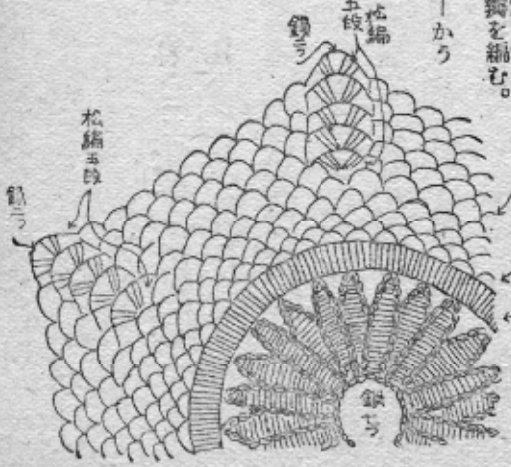
第二百九圖

のやうに鎖二十を編んで一ツ戻つた目に短編を一ツ編み、次から長編を十八編んで、前段の長編の頭へあみとめると、一片の花辨が出來ます。又鎖二十を編んで前と同じやうに長編の花辨を編む。

四段——かう

して一廻りしますと十二の花辨が出來ることになります。この花辨は二重に重ねるのですから、もう一重、十二枚の花辨を作ります。

今度は前段の長編と長編の間の鎖の目に編み止めるやうにして前の花辨と花辨の間に重なるやうに同じ花辨を十二枚編みます。すると二十四枚の花辨が出來る事になります。二十四枚の花辨が編めましたら、この花辨を鎖編と短編とで一まはりしてつなぎ合せます。この時、鎖を六ツ編んで

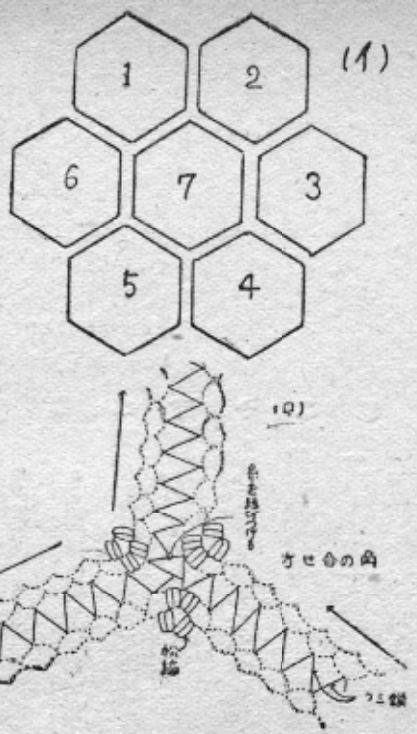


第二百十圖

花辨の頭に短編で止めます。

五段——今短編でつけた所も鎖の所も第二百十圖のやうに、全部長編を入れて一廻りいたします。

六段——次の段からは鎖五ツと短編とで網の目を五段あみます。之は六角にするのですが鎖五ツの目が最初に四十二になりませんと六角になりませんから、若し數の都合が惡くなつて居りましても一目や二目はどうにもなりますから全體が六ツの倍數になるやうに注意して編みます。鎖編の六段目からは寫眞のやうに七ツ目、七ツ目に松編を一ツ宛入れます。そしてこの松編を五段いたしますと六角の形がハツキリと出來てまゐります。

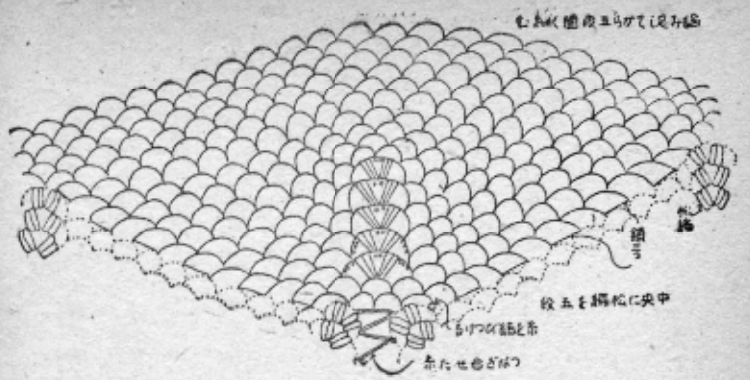


第二百十一圖

これでテーブル掛の一部が出來たことになります。これと同じものを七枚あみます。

つなぎ合せ方

七枚が出來上りましたら第二百十一圖(イ)(ロ)のやうに一枚を中心にして周圍六邊に一枚宛つなぎ



第二百十二圖

合せます。つけ方は、三ツの鎖と、短編とで二枚を代るがはるあみつけて行くのであります。

かうして全部をつけましても正しい六角形にはならず各片の間に三角形に凹んだところが出來ますから、この間をも第二百十二圖のやうな順序に針を運んで鎖と短編との網目で編み足して全體を丸い形にいたします。この時初めの五段だけには中央に松編を編みます。以上のやうにして全體を編み足しましたら周圍を五段ほどぐるぐると波編をあんでから飾編にうつります。

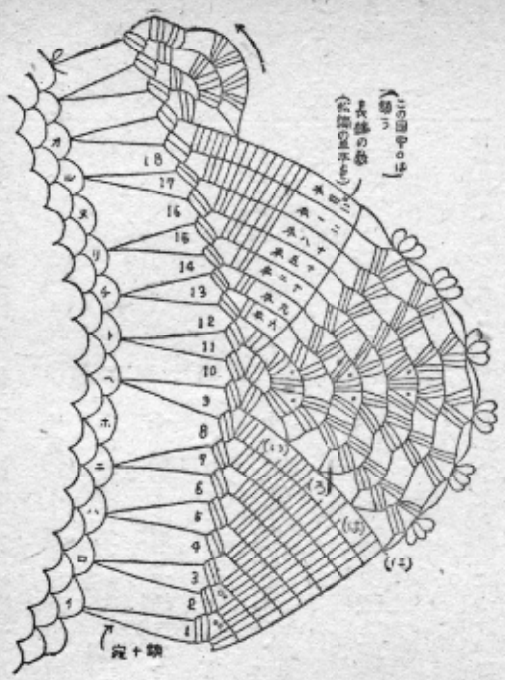
飾の編み方

一段——鎖十を編んで第二百十三圖のやうに(イ)に短編で編み止め、又鎖十を編んで(1)の鎖の端の目に長編三ツを入れ鎖二ツを編み同じところに長編三ツを入れます。

二段——裏返して鎖三ツ、長編三ツ、(前段松編の半分の上に)松編一ツ、鎖十で(ロ)に編み止める。

三段——返して鎖十、松編一ツ、つゞいて長編六ツ。

四段——返して鎖三ツ、長編九ツ、松編一ツ、鎖十で(ハ)に止める。



第二百十三圖

五段——返して鎖十、松編一ツ、長編十二ツ。

六段——返して鎖三ツ、長編十五、松編一ツ、鎖十で(ニ)に止める。

七段——返して鎖十、松編一ツ、長編十八ツ、鎖十で(ヘ)に止める。

八段——返して鎖三ツ、長編二十一、松編一ツ、鎖十で(ト)に止める。

九段——返して鎖十、松編一ツ。

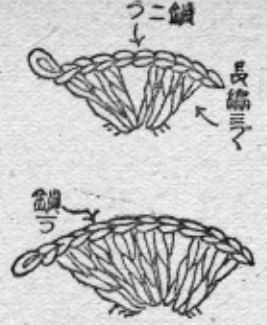
十段——返して鎖三ツ、松編一ツ、鎖十で(チ)に止める。

十一段——返して鎖十、松編一ツ、鎖二ツ編み、次は、鎖三ツの中に長編三ツ、鎖一ツ、長編三ツ、鎖一ツ、長編三ツ入れます。(第二百十四圖參照)、鎖二ツして八段目の長編の(い)の上に止める。

十二段——返して鎖二ツ、松編二ツ、鎖二ツ、長編三ツ、松編一ツ、鎖十でチ）に止める。

十三段——返して鎖十、松編一ツ、長編六ツ、鎖二ツ、松編三ツ、（中の松編は二ツの松編）鎖二ツでろ）に止める。

十四段——返して鎖二ツ、松編四ツ、鎖二ツ、長編九ツ、松編一ツ、鎖十でリ）に止める。



第二百十四圖

十五段——返して鎖十、松編一ツ、長編十二、鎖二ツ、松編五ツ、（中央の松編は二ツ松編）鎖二ツでは）に止める。

十六段——返して鎖二ツ、松編六ツ、鎖二ツ、長編十五、松編一ツ、鎖十でル）に止める。

十七段——返して鎖十、松編一ツ、長編十八、鎖二ツ、松編六ツ、鎖二ツでに）に止める。

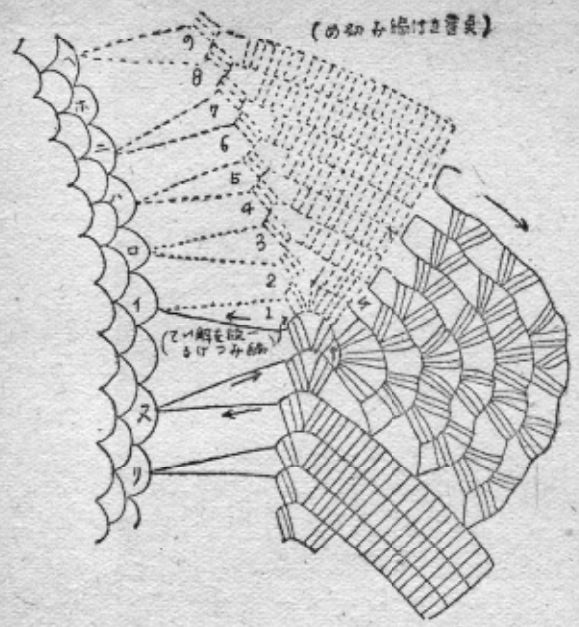
十八段——返して鎖二ツ、丁字編三ツ宛（前段の松編全部の上に丁子編をあむ）長編二十一、松編一ツ、鎖十でオ）に止める。

以上で飾の一ツが出來たので、これを繰りかへして周圍につけ、最後は模樣を編み始めとつなぎ合せます。

接ぎ方　第二百十五圖のやうに矢の方向に編みます。同圖の點線は、編み初めを現はし、實線は最後の編み終りを現はします。

それで實線の下の方から矢の方向に編み上つて、（ヌ）から鎖を十編んで松編一ツ、鎖三ツ編みます。そこで編み初めの點線の長編の根元の鎖編と、（イ）につけてある鎖編十とを解いてそこで前段の松編の中央に長編を一ツ編み、今鎖を解いた長編一ツの根元へ目を通して引き出し、前と同じ處に長編を一ツ編んで、又次の長編の根元へ目を通して又同じ所に長編をいたします。鎖一ツ編んで長編の根元を四ツ通して鎖一ツ編み、殘り三ツの長編の根元を通して同じ所に長編三ツを編みます。鎖十を編んで（イ）の部につけて糸を切ります。

次は長編と長編の間の模樣を編みます。新たに糸を（チ）の處に付けて、鎖二ツあみ、點線と實線の間の鎖二ツの中に長編三ツを入れ、鎖一ツ、長編三ツ、鎖一ツ、長編三ツ、鎖二ツあんで實線の長編に付ける事は第二百十五圖と同じであります。次は鎖二ツあんで前後の鎖二ツの中に松編をあ

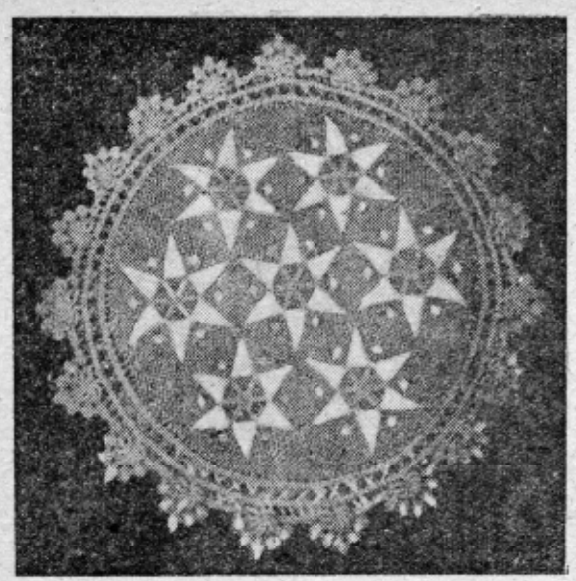


第二百十五圖

み、鎖二ツ編んで次の鎖二ツの中に、松編を編み、鎖二ツしてチの上の段に引ぬきで付け、さらに次の上段まで引抜きで編み上ます。

此の方法で圖の如く、編んで最後の段に丁字編をして編み終ります。

桔梗形テーブル掛



第二百十六圖 出來上り圖

材料 新カタン二十番十把。

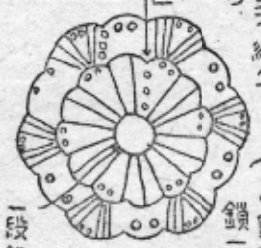
用具 レース用鉤針。

編み方 このテーブル掛は、菊花形テーブル掛と同じく、桔梗模様六角形のものを七枚編んで第二百十六圖のやうに並べてその間を鎖編でつなぎ合せ周圍にかざり編をいたします。

一段——鎖六ツ編んで輪にいたします。

二段——第一段の終りから鎖を三ツ編み、鎖六ツの輪の中に長編を二ツ編みます。次は「鎖二ツめんで同じ穴に長編三ツ編みます」括弧の中を五回繰り返して、全部で六ツの房となり、次は鎖二ツ編み、編み初めの鎖三ツの頭に引きぬきで止めます。更に長編二ツの上に引きぬきで止めます。（第二百十七圖參照）

三段——其處から鎖を三ツ編んで、前段の鎖二ツの中に長編三ツ、鎖二ツ、長編三ツ編みます。次に鎖二ツ編みます。次は「前段の鎖二ツの中央に長編三ツ、鎖二ツ、長編三ツ、編みまして、次に鎖二ツ」を編みます。「」の中を六回繰り返して、編み初めの鎖三ツ目の頭に引きぬきで止めて、更に次の長編二ツの上に引きぬきでとめます。

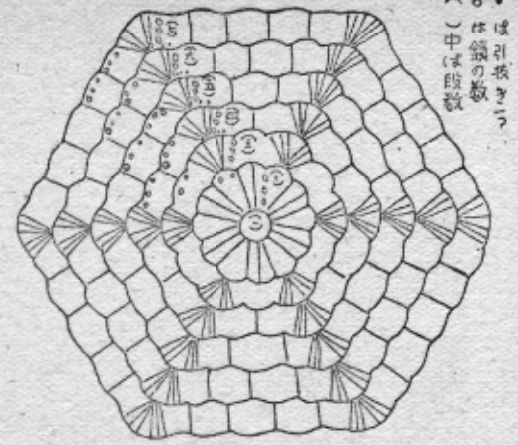


第二百十七圖

四段——其處から鎖三ツ編みまして、前段の松編の中央の鎖二ツの中に長編二ツ、鎖二ツ、長編三ツの松編を編みます。次は「鎖三ツあみまして、前段の松編と松編の間の鎖二ツの處に長編を一ツ編みます。次は鎖三ツ編みまして、松編の中央の鎖二ツの處に松編を編みます。次は鎖三ツ編みまして、松編と松編の間の鎖二ツの處に長編一ツ編みます。次は鎖三ツ編みます。」

「」の中を繰り返し全部で六回編みましたら編初めの鎖三ツ目の頭に引きぬきで止め、更に長編二ツの上に引きぬきをします。（引きぬきの場合は第二百十八圖參照）

五段——鎖三ツ編みまして、前段の長編と長編の間の鎖二ツに松編を編みます。次は鎖三ツあみまして、前段の松編と長編との間に長編一ツ、鎖三ツを編みまして、次は長編と松編との間に長編一ツ、次は鎖三ツ、編みまして、「前段の松編の中央に松編を編みます。次は鎖三ツ編みまして、前段の松編と長編との間に長編一ツ、次は鎖三ツあみまして、長編と松編との間に長編一ツ、次は鎖三ツを編みます。」次は「」の中を繰り返して全部で六回編み、初めの鎖三ツの頭に引きぬきで止めます。更に長編二ツの頭を引きぬきで止めます。

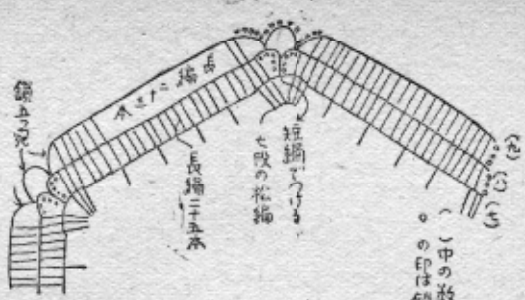


第二百十八圖

六段、七段——は松編と松編の間は鎖三ツ長編一ツを一ツづゝ増して編みます。

八段——第二百十九圖のやうに鎖三ツ編みまして、次は「松編の中央から、次の松編の長編三ツ目まで、長編一目に一ツ、鎖目一目に一ツづゝの長編を編みます。次は鎖五ツ編みまして、前段松編の中央に短編でとめます。次は鎖五ツあみまして」、「」の中を一廻りいたします。

最後は鎖五ツあみ、前段の鎖二ツの中に短編でとめ、鎖五ツ編んでから編み初めの鎖三ツをとばして、次の長編の頭に引きぬきで止めます。



第二百十九圖

九段——次は鎖三ツ編み、前後の長編の上に長編を編みますが、最後は長編一ツ編残します。

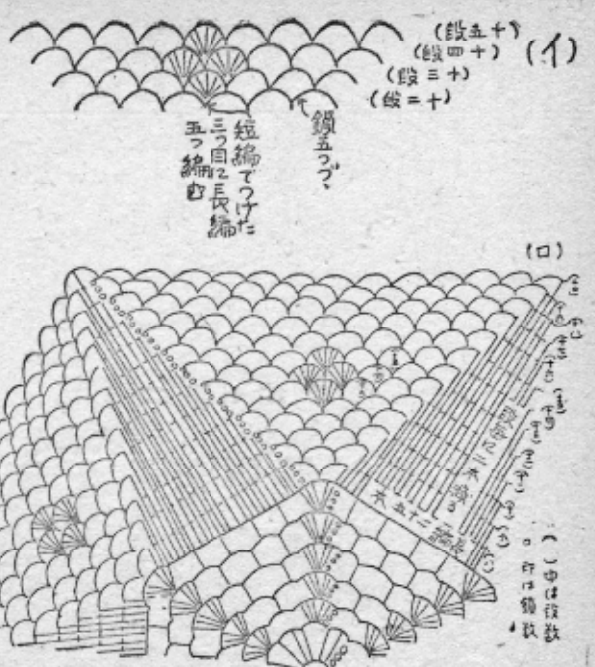
次は鎖五ツ編んで、前段の鎖五ツの中央に短編で止めます。次も鎖五ツ編みまして、前段の鎖五ツの中央に短編で止めます。

次は鎖五ツ編んで「最初の長編一ツとばして二ツ目の長編の上から前段の長編の上に長編を編みます。

最後は長編一ツ編残します。次は鎖五ツ編みまして、前段の鎖五ツの中央に短編で止め、次も鎖五ツ編んで、前段の鎖五ツの中央に短編で止めます。」

次は鎖五ツ編んで、「」の中を一廻り繰り返します。

最後は鎖五ツを二回編んで短編でとめ三回目の五ツ鎖を編んで編初めの鎖三ツをとばして次の長編の上に引きぬきで止めます。



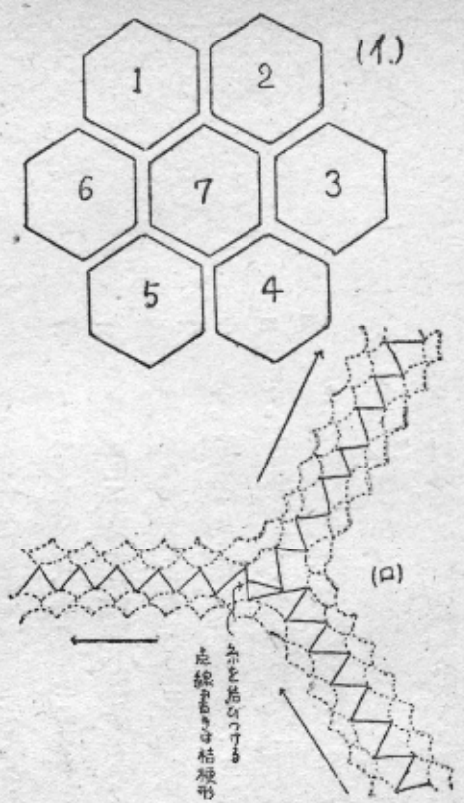
第二百二十圖

十段——鎖三ツ編んで、前段の長編の上に長編をあみますが、編初めと編終りは長編を一ツあみ殘します。次は鎖五ツあみまして、前段の鎖五ツの中央に短編で止めます。

十一段——十二段とも同じ編み方を繰り返しますが、長編が二ツづゝへつて、波編が增す事になります。

十三段より十五段迄は波編の中央に松編を入れます。其の入れ方は、十二段目の波編の中央の短編で付けた處に長編を五ツ入れて、次の鎖の中に短編で付けます。十四段の時は今の松編の隅方の短編の目に入れて、十三段の松編の頭に短編で付ける事になります。十五段の松編は十三段の中央に入れるのであります。（第二百二十圖(イ)(ロ)參照）

十六段より十九段は九段と同じやうにして鎖の處を增して長編をへらします。

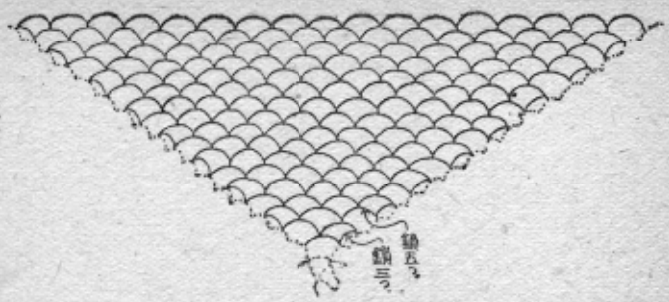


第二百二十一圖

二十段——鎖八ツあんで、前段の鎖五ツの中央に短編で止めます、次から鎖五ツの波編を十四回繰り返して、次は鎖五ツあみ前段の長編三ツの中央に長編一ツあみます。以上を六回繰り返して糸を止めます。これで桔梗形が一枚出來たのであります。これと同じものを七枚作ります。

接ぎ合せ方　桔梗形一ツ〳〵を接ぎ合せるには、第二百二十一圖(イ)の角の部分に糸を付けて、其處から(ロ)圖に示す如く鎖を三ツあみ、第二の桔梗形の同じ部分に短編で止めます。この方法で七ツを(イ)圖のやうな配置に接ぎ

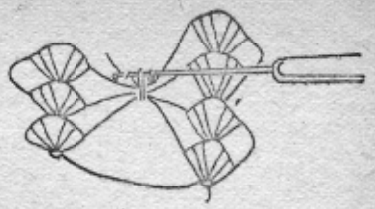
合せます。つなぎ終りますと六角形のものが出来上ります。これから六角のくぼみを鎖で編みながら埋めて行くのであります。其の編み方は六角のつぎ目の終りの目に糸を付け、鎖五ツをあみ、次の目〳〵と五ツ鎖で三回付けてゆきます。次に三ツ鎖をあんで片方の鎖の中に短編で付けまして編み上るのであります。三ツ鎖をあんで付けましたならば、裏に返して五ツ鎖をあみ、今三ツ鎖を編んで付けた處はとばして次の五ツ鎖の中に付けます。これを繰り返して、片方の六角の鎖の中に付けましたならば又三ツ鎖を編んで次の目に編み上るのであります。裏に返して五ツ鎖を編んでは、三ツ鎖の處はいつもとばす事になります。かう致しますと角のくぼみが一段〳〵と編み上りまして、十七段編みますと角のくぼみが平になり全部の角を編んで丸くいたします。（第二百二十二圖參照）



第二百二十二圖

飾りの編み方

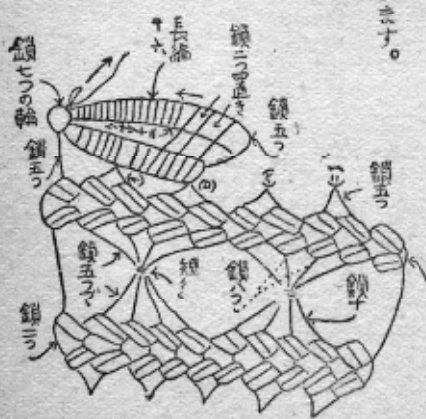
別に鎖十一あみ、更に鎖を三ツあみます。次は三ツ戻つて四ツ目に長編二ツ、鎖二ツ、長編三ツの松編を編みます。次は鎖を十あみまして、最初の鎖十一編みました内の十迄とばして十一目に長編三ツ、鎖二ツ、長編三ツの松編をあみます。


第二百二十三圖

「裏返して鎖五ツあんで前段の松編の中央の鎖二ツの中に、松編を編みます。次は鎖八ツあんで、次の松編の中央の鎖二ツの處に又松編を編みます。次は裏返して鎖五ツ編み、前段の松編の中央に松編をあみ、又八ツ鎖編して次の松編の中央の松編を編む。裏返して、「鎖五ツ編み、前段の松編の中央に松編をあみ次に鎖五ツして、前段の鎖十、八、八、の都合三本の鎖を中に入れて第二百二十三圖のやうに短編を編みます。其處から鎖五ツ編みまして次の松編の中央に松編を編みます。」「」の中をもう一回繰り返して編みます。

次は鎖五ツ編んで、前段の松編の中央に松編を編みます。次は鎖十編みまして、次の松編の中央に松編を編みます。次は第二百二十四圖のやうに鎖を十二編みまして、戻つて七ツ目の鎖目に短編一ツ編みます。

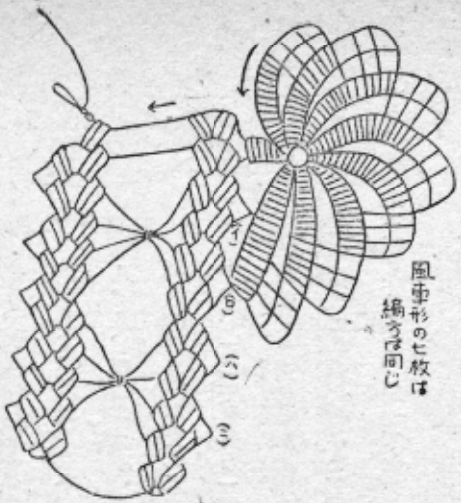
次は其處から鎖を六ツ編んで、前の松編の横（イ）の鎖五ツの中央に短編で止めます。又其處から鎖六ツ編み、次の鎖五ツロの中央に短編で止めます。其處から鎖三ツ編み、裏に返し今編んだ鎖六ツ



第二百二十四圖

の中に長編八ツ、次の鎖六ツの中に長編六ツ編みまして、鎖七ツの輪の中に短編で止めます。

次に其處から「鎖十二編み、前段の長編の十一目に長編一ツ、鎖二ツ編み、前段の長編を一目飛ばして二ツ目に長編を編み、鎖二ツ編んで、長編の終りに長編一ツ編みます。」



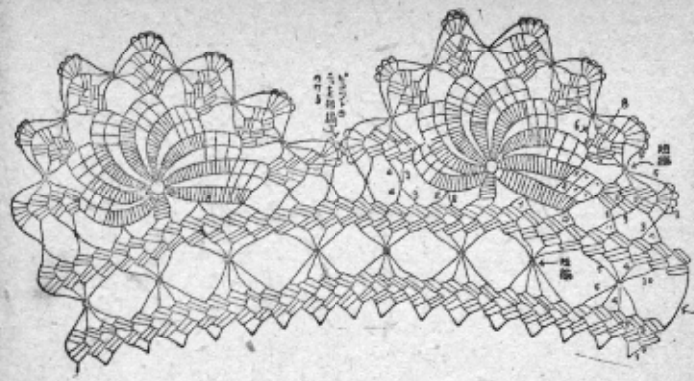
第二百二十五圖

次は裏に返して鎖五ツ編み、前段の二ツ目の長編の上に長編一ツ、鎖二ツ、長編一ツ、鎖二ツ、長編一ツ、鎖二ツを編み、前段の鎖十二の中に長編十六編んで、鎖七ツの輪に短編で止めます。」「　」の中を七回して、次は最初の鎖十二あみ七ツ目を輪にした殘りの五ツの鎖編の中に長編六ツをあみます。（第二百二十五圖參照）

次は前段の松編の中央に松編を編みます。鎖八ツ編んで前段の松編の中央に松編をあみ、裏に返し、鎖五ツ松編の中央へ松編、鎖八ツ編みまして、前段の松編の中央に松編を編み、次は第二百二十六圖のやうに鎖二ツ編み、十六の長編の八ツ目に短編で止めます。其處から鎖二ツあんで裏に返し、前段の松編の中央に松編、次は鎖五ツあみまして、前と同じやうに十、八、八、の三本の鎖を中に入れて短編を編みます。

次は鎖五ツあみまして、前段の松編の中央に松編をあみます。裏にかへし鎖五ツあみ前段の松編の中央へ同様に松編を編み次は鎖十編みまして、前段の松編の中央に松編を編みます。次は鎖六ツあみ、「風車形の角の鎖五ツの中に松編一ツ入れ、次は鎖を六ツ、あみます。」そして次々と風車形の角の鎖五ツの中へ「　」の中を七回繰り返します。但し七回目の鎖六ツは、はじめ二ツあんだ時、前に編みました鎖五ツの(ハ)の中に短編で止めます。其處から裏返して鎖三ツあみ、「前段の松編の中央に松編をあみ、次に鎖八ツ編みます。」「　」の中を七回繰り返しますが、七回目の終りの鎖八ツは鎖四ツ編み、前段の鎖の中央に短編で止めます。次は鎖四ツあんで、前段の松編の中央に松編、次は鎖八ツ編みまして、前段の松編の中央に松編をあみます。裏に返し、鎖五ツあみ、前段松編の中央へ松編をあみます。次に鎖八ツ編み次の松編の中央へ松編をあみ、次は鎖を八ツ編みまして、「風車形の方の前段の松編の中央に松編を編みまして、次に鎖を八ツ編みます。」「　」の中を七回繰り返します。但し七回目は鎖を四ツ編み、鎖五ツ(ニ)の中央に短編で止めます。

次は鎖を三ツあみまして、前段の松編の中央に「長編一ツ、長編の先に鎖二ツのピコット」「　」の中を四回繰り返します。次は同じ穴に長編を一ツ編みまして、其處から鎖五ツ編み、前の鎖三本を中に入れて第二百二十六圖の仕方にて短編を編みます。次は鎖を五ツ編みます。「　」の中を七回繰り返します。但し七回目の終りは鎖



第二百二十六圖

三ツ編み、前段の鎖の中央に短編でとめます。

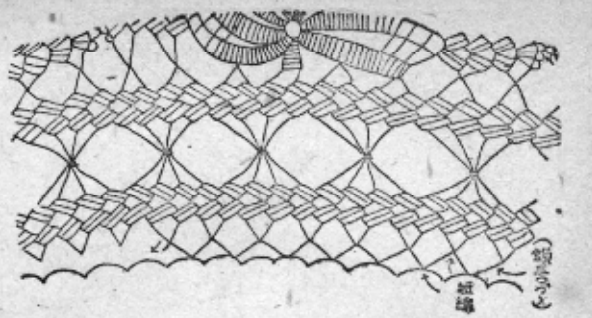
次は鎖を三ツ編みまして、前段の松編の中央に松編をあみます。

「次は鎖を五ツ編みまして、鎖三本を中に入れて、短編を短みます。次は鎖五ツ編みまして、松編の中央に松編を編みます。」以上の飾り編を繰り返して、模様が十六出來るまでいたします。（第二百二十六圖參照）

此の時二ツ目の風車の最初の角の長編みにピコットを付ける時に、二目だけ前に出來た風車の終りのピコットに短編で付けてから先へ編み進みます。此のやうにして二と三、三と四の風車の兩端の角々につなぎ合せて十六の風車を輪にいたします。

十六目の最後の風車形の終りの段が編めましたら鎖三ツあみ前段の鎖八ツの中央に短編で止め鎖三ツ編んで松編の中央に長編三ツ鎖一ツ編みます。

其處で飾編みの、最初の編み初めと接ぎ合せます。



第二百二十七圖

接ぎ合せ方

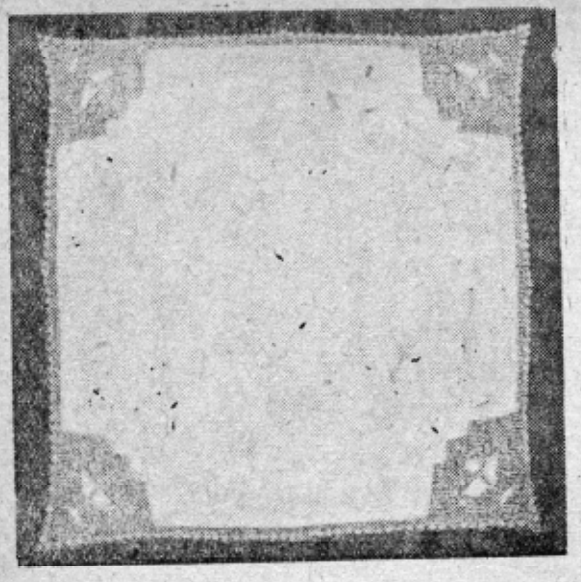
編み初めの鎖を切つて解いてしまひますと松編の根本がバラ〳〵になりますから中側の松編の根元の目を拾つて其の中へ編み續きの鎖の目一ツを通して叉鎖一ツあみ前段の松編の中央へ長編を三ツ入れます。鎖五ツ編んで十、八、八、三本の鎖を中に入れて短編みでとめ叉鎖五ツ編んで、最後の松編みの中央に長編三ツ鎖一ツ編みます。そして叉端の松編の根元のバラ〳〵の目を拾つて其の中の鎖一ツを通し叉鎖一ツを編んで松編の中央に同じ穴に長編を三ツ編み鎖五ツ編んで根本の目を拾つた松編の横角へ引抜で止めます。

飾りの附け方

これで周圍の飾りが出來ましたから前に拵へておきました桔梗形七枚を接ぎ合せた圓の周圍につなぐのであります。その仕方は第二百二十七圖のやうに、飾編みの內側の五ツの鎖の中央に糸をつけて鎖三ツ編み圓の波形の鎖の中央に短編みで止めます。次に鎖編を二ツ編んで飾編みの內側の五ツの鎖に短編で止め鎖三ツ編んで次の波形の鎖に短編みでとめます。これを繰返して一廻り付けるのでありますが飾編みの五ツの鎖の數よりも圓の周圍の波形の鎖の方が數が多くありますから所々で適當に波形の鎖を飛ばせて付けます。

盛花模様テーブル掛

材料　二十番新カタン糸二把。



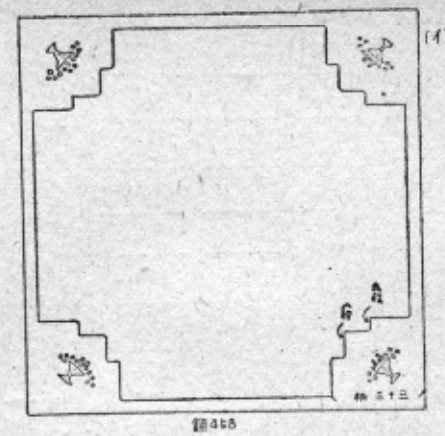
第二百二十八圖出來上り圖

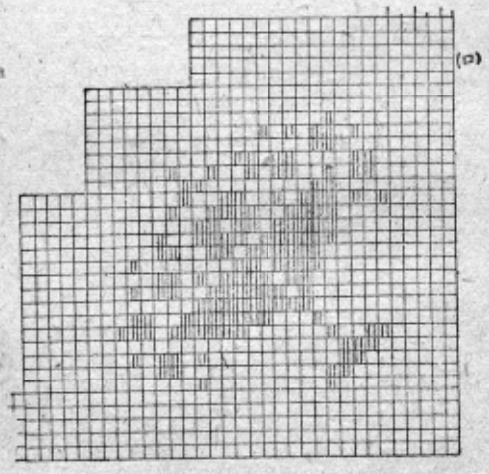
用具　レース用鉤針。

編み方　中央に麻布又はキヤラコのやうな布を入れその周圍につける飾り編でありまして、第二百二十八圖のやうに、四隅に盛花模様をあらはし、その間を桝目編でつなぐのであります。

初め第二百二十九圖(イ)のやうに鎖を四百五十八編み、裏に返して四ツ目に長編を一ツ編み、「鎖二ツを編んで目を二ツとんで、三ツ目に長編一ツ(桝目編)編み」ます。これを繰り返して鎖の終るまで編み、この桝目編を三段編みます。

この三段の桝目はテーブル掛の周圍の緣になつて角の桝目三十三の中に模様編をいたします。(段の變り目ではいつも鎖五ツを編みます。)三、四、五段は三十三だけの桝目を編みます。





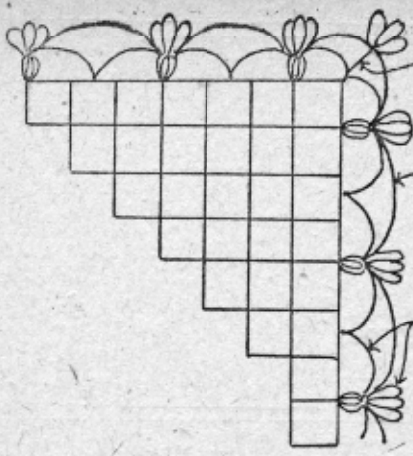
第二百二十九圖

六段——端から桝目九ツ編み、第二百二十九圖(ロ)の圖案にならつて十目の桝の中に長編を二ツ入れますと兩方の長編とで四ツになります。

次は九ツ置いて、長編四ツ編みます。あとは桝目で十三編んで端から丁度三十三桝の處まで編みます。こゝからは一隅だけを編むことになりますから、三十三の桝目に模様を入れながら裏表繰り返してあむことになります。

七段——桝目が十出來ましたら、桝目二ツだけ長編に編みます。

次よりは十一桝目が出來ましたなら、二ツだけ長編を編へ、殘りは八ツの桝目編にします。以下このやうに圖案に合せて、桝目編と長編とで編み上げます。かうして第二百二十九圖ロの一隅の模様編が出來ましたら周りになる細い部分を編みつゞけます。



第二百三十圖

最初周圍の一邊の分に桝目を三段編みましたから、左右の分は縦三目だけ桝目を繰り返して八十四段編んで、次からは最初の隅の模様を逆さに編んで參ります、但し最初の三段手前で留めておいて、左側の二隅と縦の三目の桝目とを編んでから最後に右側と左側とをつなぐ桝目を三段して終りとします。

飾りの編み方　角でない中途の桝目の中程から糸を付けて、四ツ鎖を編み長編一ツとばして次の長編の頭に長編の半分づゝぬいたもの、つまり針に一目づゝ殘したものを二回入れて最後に一度に引きぬきます。

四ツ鎖を編んで長編一ツとばして次の鎖の中に短編で付けます。（第二百三十圖參照）、角の處は長編一ツとばさずに次の五ツ鎖の中に短編で付けます。この段はこれを繰り返して終りに、始めの鎖三ツの元の目に引きぬき止めにいたします。これで飾の一段が終りました。

次は、一段の終りから二段に移る所は、前段の鎖四ツの目を引きぬきにして、前段の長編三ツ一度に引きぬいた處まで編みまして、鎖四ツを編み、長編三ツの上に短編で付けます。鎖四ツ、同じ所に短編でつける、これを三回繰り返しますと一ツの飾編が出來るのであります。

次は五ツ鎖を編んで、次の長編三ツ一度に引きぬいた處に、短編で付けます。又四ツ鎖を編み元の目に三回付けこれを繰り返します。

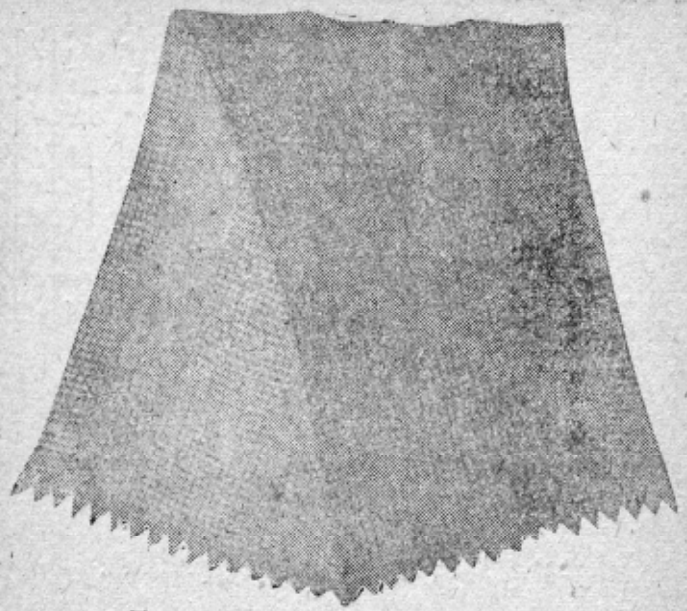
角の處まで編みましたら、前段が短編になつて居りますから、短編の上に長編を一ツして、鎖四ツ編んではこれを前と同じく三回付けます。そうして五ツ鎖を編んで次の長編三ツ一度に引きぬいた處に付けます。

これで飾編全部が出來上ります。出來上りましたら良く四方の寸法を調べてアイロンをかけます。

キヤラコでもポプリンでも好みの布を平に置き、其の上に出來上りのレース飾りをのせて、假りに襞をかけてこの上からミシン又は手縫にいたします。若し汚れた處でもありましたら、一度洗濯をして薄糊を付け半乾きの時にアイロンをかけて使用いたします。

このテーブル掛は、第二百二十九圖ロのやうに基礎目（方眼紙）の中に盛花模様を現はしたものでありますが、こ

の外どんな模様でも好みの図案を方眼紙に書いて、模様の部分を長編にすれば種々の図案が自由に編めます。



第二百三十一圖 出來上り圖

春向ショール

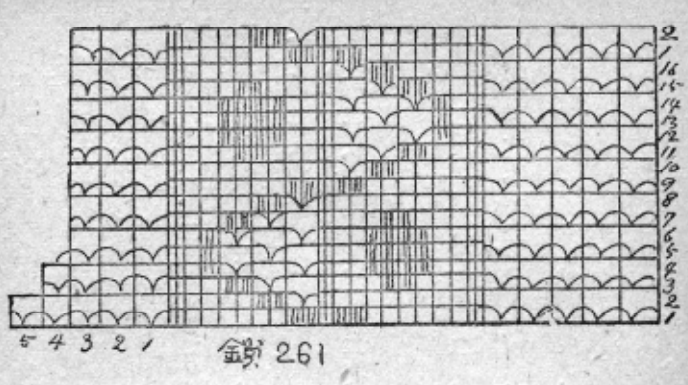
材料 絹レース（アナ糸二百五位。

用具 レース用鉤針。

編み方 全部長編と鎖編の應用であります。

先づ鎖を二百六十一編みます。（内三ツは次段にうつる爲めの分で、以下いつも裏返して戻る時は鎖三ツ編んで次の段にうつるのです。

一段——鎖三ツ戻つて四ツ目に長編一ツ、鎖三ツして下の鎖二目を飛ばして三ツ目に短編一ツ。又鎖四ツして下の鎖二目を飛ばして三ツ目に長編一ツ。これを繰り返し五回、つまり短編が五ツと長編が五ツ出來ます。次は下の



第二百三十二圖

鎖二ツ飛ばして長編を三ツならべ、次に鎖二ツ、長編一ツの拵目編を六回じます。つゞいて長編を十五、拵目編を六回、長編を三ツ編んで、それから初めの編方（鎖三ツして短編、鎖三ツして長編一ツの編方）を十四回繰りかへし、長編三ツ、拵目六ツ、長編十五、拵目六ツ、長編三ツ、して最初の編方五回して二段にうつります。（この模様はすべて初めの模様と同じで向き合ひになるやうに編めば宜しいですから圖は半分省略いたします。（第二百三十二圖參照）

二段——鎖三ツして根元へ長編一ツ、鎖五ツ、長編一ツ。（前段の一ツの長編の上へ）これを繰り返して五回、次に長編三ツ。（この三ツの長編は各段とも同じで、ずつと終りまで通します）拵目八ツ、長編三ツ（一段の長編十五の中央に）を編み、それから鎖三ツして二目とばして短編一ツ、鎖三ツして二目とばして長編七ツ、又拵目四ツして長編三ツ（この長編も各段とも同じにずつと終りまで通します）を編んで、初めと同じ五ツの鎖と一ツの長編を十四回します。これから先は、前の模様と向き合ふやうに編んで

文の段にうつります。（第二百三十二圖寫眞參照）

三段——（以下左右と中央とは終りまで同じ編方を繰り返すのですから　說明を省きまして、模樣の部分だけつまり全體を通す三ツの長編と三ツの長編との間だけの說明になります。）

拼目三ツ、長編七ツ、拼目三ツ、長編三ツ、鎖五ツ、前段長編七ツの初めの目に長編一ツ、鎖三ツ、二目とばして短編で付け鎖三ツ、二目とばして長編七ツ、拼目二ツ。

四段——拼目二ツ、長編十三、拼目二ツ、長編三ツ、鎖三ツ、前段五ツ鎖の中に短編一ツ、鎖三ツ、長編一ツ、鎖五ツ、前段七ツ長編の初めの目に長編一ツ、鎖三ツ、二目とばして短編一ツ、鎖三ツ、長編四ツ、拼目一ツ。

五段——拼目二ツ、長編十三、拼目二ツ、長編三ツ、鎖五ツ、長編一ツ、鎖三ツ、短編一ツ、鎖三ツ、長編一ツ、鎖五ツ、長編四ツ、拼目一ツ。

六段——拼目二ツ、長編十三、拼目二ツ、長編三ツ、鎖三ツ、短編一ツ、鎖三ツ、長編一ツ、鎖五ツ、長編一ツ、鎖三ツ、短編一ツ、鎖三ツ、長編四ツ、拼目一ツ。

七段——拼目三ツ、長編七ツ、拼目三ツ、長編三ツ、鎖五ツ、長編一ツ、鎖三ツ、短編一ツ、鎖三ツ、長編七ツ、拼目二ツ。

八段——拼目八ツ、長編三ツ、鎖三ツ、短編一ツ、鎖三ツ、長編七ツ、拼目四ツ。

九段——拼目六ツ、長編十五、拼目六ツ。

十段——拼目四ツ、長編七ツ、鎖三ツ、短編一ツ、鎖三ツ、長編三ツ、拼目八ツ。

十一段——拼目二ツ、長編七ツ、鎖三ツ、短編一ツ、鎖三ツ、長編一ツ、鎖五ツ、長編三ツ、拼目三ツ、長編七ツ、拼目三ツ。

十二段——拼目一ツ、長編四ツ、鎖三ツ、短編一ツ、鎖三ツ、長編一ツ、鎖五ツ、長編一ツ、鎖三ツ、短編一ツ、鎖三ツ、長編三ツ、拼目二ツ、長編十三、拼目二ツ。

十三段——拼目一ツ、長編四ツ、鎖五ツ、長編一ツ、鎖三ツ、短編一ツ、鎖三ツ、長編一ツ、鎖五ツ、長編三ツ、拼目二ツ、長編十三、拼目二ツ。

十四段——拼目一ツ、長編四ツ、鎖三ツ、短編一ツ、鎖三ツ、長編一ツ、鎖五ツ、長編一ツ、鎖三ツ、短編一ツ、鎖三ツ、長編三ツ、拼目二ツ、長編十三、拼目二ツ。

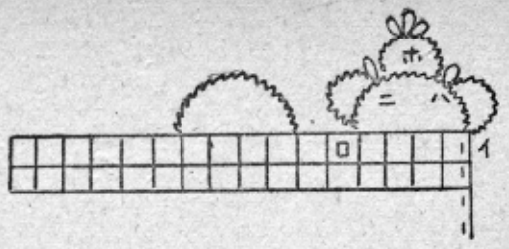
十五段——拼目二ツ、長編七ツ、鎖三ツ、短編一ツ、鎖三ツ、長編一ツ、鎖五ツ、長編三ツ、拼目三ツ、長編七ツ、拼目三ツ。

十六段——拼目四ツ、長編七ツ、鎖三ツ、短編一ツ、鎖三ツ、長編三ツ、拼目八ツ。

十七段——この段から第一段と同じになりますから一段から十六段までを繰り返して、總丈を一米十五糎位編んで

で止めます。

飾の編み方　兩端共桝目編を二三段編み、其の上へ、第二百三十三圖のやうな飾をいたします。

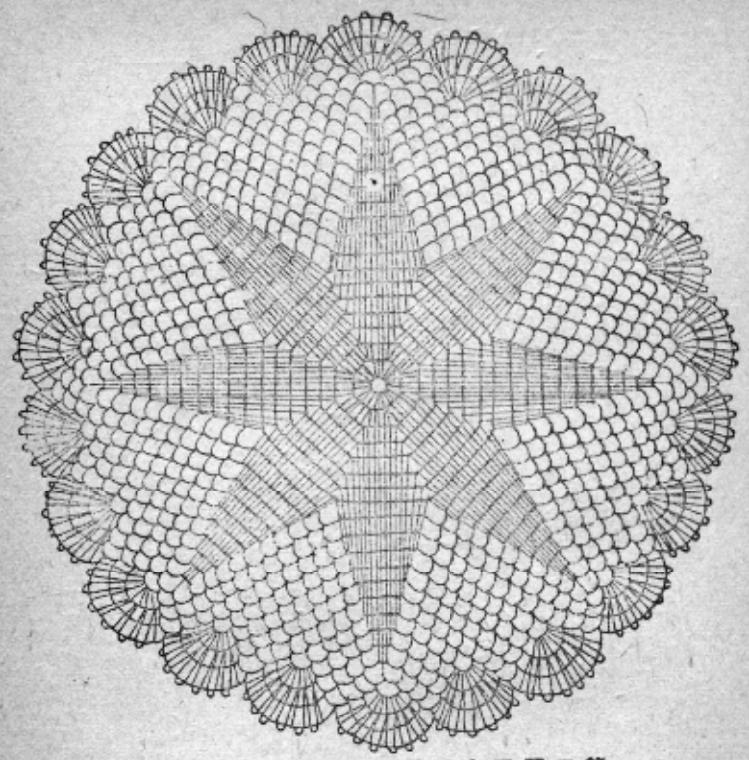


第二百三十三圖

先づ(イ)に糸をつけて(ロ)までの間へ短編を十三編み、そこから鎖十五編んで初めの(イ)に編みつけ、この鎖の上を戻つて(ハ)までの間に短編を五ツ編みます。それから叉鎖を五ツ編んで(イ)に止め、この五ツの鎖の上に五ツの短編を編んで(ハ)にかへります。こゝで鎖四ツでピコットを作り、つゞいて(ニ)までの間に五ツの短編をいたします。今度は(ニ)から鎖七ツを編んで(ハ)に止め、叉短編で戻つて(ホ)(中央)でピコット三ツをつくり、つゞいて(ニ)まで短編をあみ、叉一ツピコットを作り、なほつゞけて短編を五ツして(ロ)にまいります。次に(ロ)から鎖を五ツ編んで(ニ)にかへり、叉この鎖の上に短編をして、(ロ)にかへります。

以上で一ツの飾は出來上るのですから、以下これを繰りかへして幅全體につけます。若し全體の幅で數の具合が悪いやうな場合は適宜目立たないやうに加減いたします。

桔梗形花瓶敷



第二百三十四圖　出來上り圖

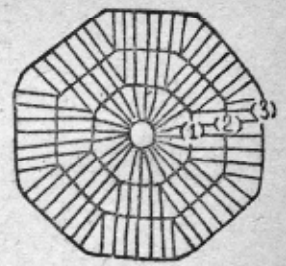
材料　レース糸一玉。

用具　レース針一本。

編み方　中央から丸く編み、編みながら桔梗の花の形を編みまして周圍に簡單な飾りを付けます。

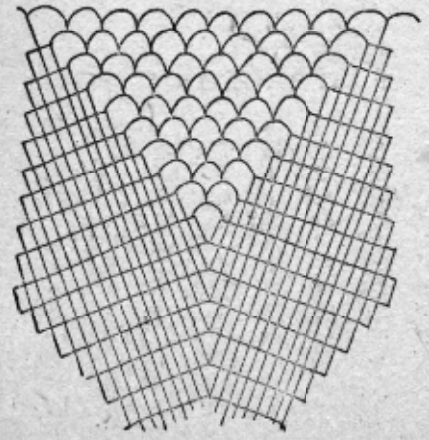
一段——鎖八ツを編み丸くして引抜きで止め、三ツ鎖を編み、今丸くした輪の中に長編二ツ入れ鎖共三ツに致します。鎖二ツして長編を同じ處に三ツ入れます。是を八回繰り返して始めの鎖三ツの頭に引抜きで止めます。

二段——三ツ鎖をなし、前段の長編の上に一目に一ツづゝ長編を入れ

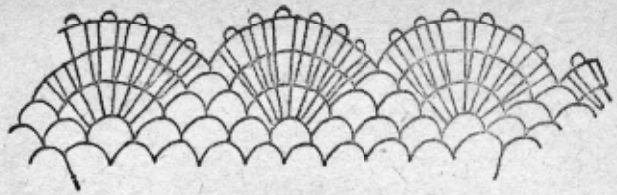


第二百三十五圖

て行きます。其の時長編の頭の向側の糸をすくひ筋編にします。前段の鎖二目の處は長編一ツ、鎖二ツ、長編一ツを入れ次よりは長編一ツづゝ編みこれを繰りかへして終りまで編んで初めの鎖三ツの處まで編みます。終りの所は編み始めが鎖共に四ツしかありませんので、鎖の中に長編を一ツ、鎖二ツして三ツ鎖の頭に止めます。此のやうに致しますと五ツづゝの長編が八ケ所出來ます。（第二百三十五圖參照）、此の編み方を繰り返して第二百三十六圖のやうに、始め輪にした鎖共に十段になるまで增してゆきます。十一段目よりは今迄增した目を二ツづゝ減しながら編みます。其の減し方は增す時と反對に長編の終りの一ツ手前の處で鎖五ツを編み次の鎖の中に短編で付けます。又鎖五ツ編み、次の長編を一ツとばして長編を續けて編み、前段の長編の一ツ手前で鎖五ツを編み、次の二ツ鎖の中に短編で付けます。此の段は是を繰り返すと丁度鎖の處が二ツ出來る事になります。終りに止める處は鎖三ツの頭に引拔き止めに致します。



第二百三十六圖



第二百三十七圖

す。さう致しまして段毎に長編を兩側で減して、波編を一ツづゝ增して行きます。これを繰り返して長編が一ツになるまで減して、減し終りましたらば其の上を一段、五ツ鎖だけで一廻りして飾に移ります。

飾の編み方　五ツ鎖の處が一周出來ましたら第二百三十七圖のやうに次の鎖の中に長編を七ツ入れて次の鎖の中に止めます。又鎖五ツを二回して次の鎖の中に七ツの長編を入れます。これを繰り返して一周します。

次の段は前に長編の時五ツ鎖の中に短編で付けた處の一ツ手前の鎖の頭に短編で付け次に前段の長編七ツの目全部に一目に二ツづゝ長編を入れ前後の波編の頭に短編でとめ、次に波編一ツして又七ツの長編の目に長編を二ツづゝ入れて一廻り編みます。

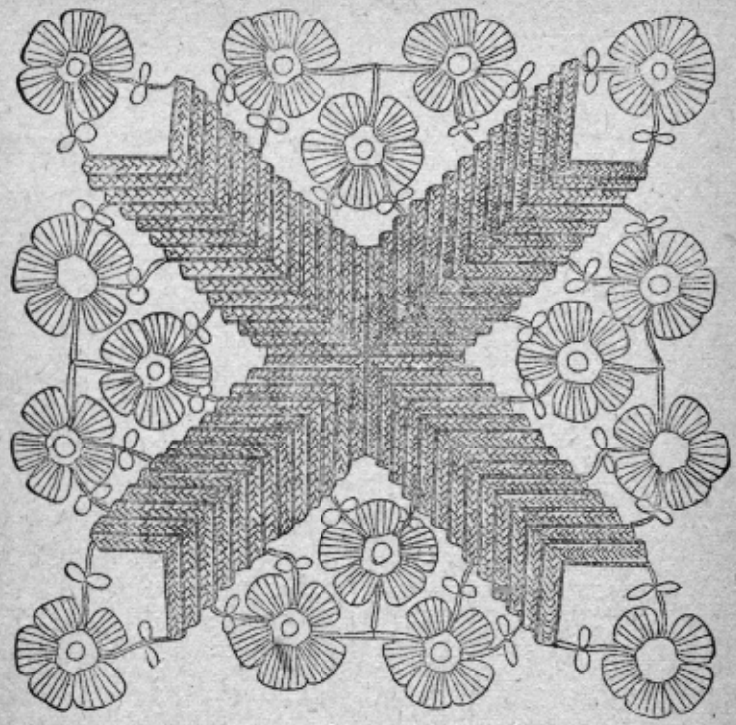
次の段は前段の長編の一目に一ツづゝ二回入れて鎖三ツを編んでピコットを出し、又長編二ツ入れて、三ツ鎖でピコットを出します。是を繰り返しますと六ツのピコットが出來ます。次の鎖の中に付けて是を繰り返して終りに短編の根元に引きぬき止めに致します。

矢筈模様花瓶敷

材料　白レース一玉、時色レース一玉、草色レース少量。

用具　レース編鉤針。

編み方　初め白レースで二十六の鎖をあみ、次の目より短編を一目に一ツづゝ入れて十二目まで編み、第二百三十九圖のやうに十三目に短編を三ツ入れます又次の目より一目に一ツづゝ入れて終りまで編みます。裏に返して鎧編（基礎編參照）をなし、口の向ふ側の目に短編を一目に



第二百二十八圖　山來上り圖



第二百三十九圖

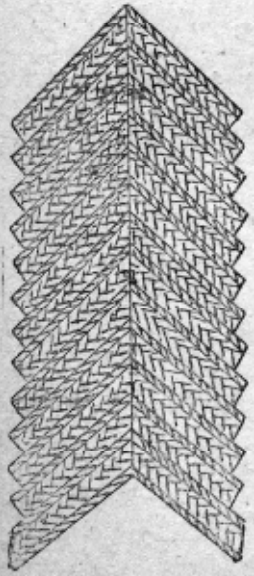
一ツ入れて前段の三ツの中央の目に三ツの短編を入れて、次の目より一目に一ツづゝ入れて終りは一目殘して裏に返し、次の段に移ります。編み方は全部鎧編で、兩側は一目手前で後にもどり次の段に移るのであります。（第二百四十圖參照）是を繰り返して二十六段編みますと十三山出來る事になります。是を四枚編みます。この四枚の先のとがつた處をつき合せにして引ぬきで編み合せるのであります。（第二百四十一圖參照）

このやうにして四枚共接ぎ合せましたらば次は花の編方を致します。

花の編み方　時色のレース糸で第二百四十二圖(イ)のやうに始め鎖六ツをあみ、輪にして其の中に短編を十目入れて、引ぬき止めに致します。

「鎖三ツあみ、(ロ)圖のやうに次の目に長々編を五ツ入れ、鎖三ツあんで次の目に短編で付けます。」「　」の中を五回繰り返しますと一ツの花が出來ますから是を十六枚作つて置きます。

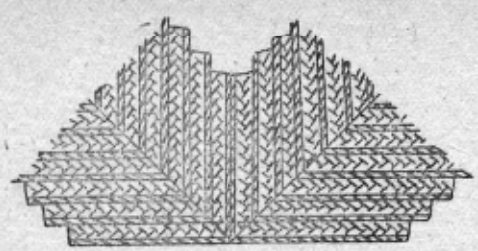
花のつなぎ方　花が十六枚出來ましたらば、



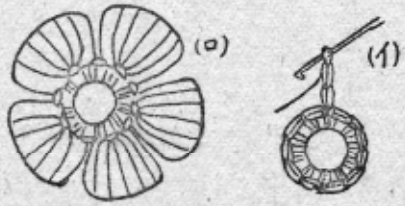
第二百四十圖

第二百三十八圖のやうに前に用意致しました草色の糸を、花瓣のひくい處に付け、鎖十を編み、五ツ目にもどつて短編で付けますとピコットが一ツ出來ます。又鎖五ツをあみ、矢羽の編み初めの處に短編で付け、鎖五ツを編み、前のピコットの根元に短編で付けます。鎖五ツ編んでピコットを一ツ作り又鎖五ツを編み初めにもどつて引ぬきで止めて糸を切ります。次に花瓣を一ツおいて糸を付け前と同じやうに鎖十をあみ、戻つて五ツ目に短編で付けてピコットを作ります。次に五ツ鎖を編み、矢羽の一方の端に短編で付け、鎖五ツを編み、前のピコットの根元に短編で付けて、又鎖五ツを編んでピコットを一ツ作り鎖五ツ編んで編み初めの花瓣の間にもどつて引ぬき止めにして糸を切ります。是を矢の端に四ケ所付けるのであります。

次は矢の内側三角の所に三ツの花を付けるのであります。花瓣のひくい處に草色の糸を付け、鎖十を編み、後にもどつて五ツ目に短編で付けます。五ツ鎖をあみ、矢羽の三角に凹んだ所から三山目に短編で付け、又鎖五ツをあみ、前のピコットの中に付けて、又五ツ鎖をあんで花瓣の編み初めにもどつて引ぬき止めにして糸を切ります。次に花瓣を一ツおいて糸を付け、反對の側の三山目に前と同じ方法で付けるのであります。



第二百四十一圖



第二百四十二圖

次は第二百三十八圖のやうに今の花の兩側に付けるのであります。別の花のひくい處に糸を付けて、前の花の付け方と同じ方法で五山目に付けます。次に花瓣一ツおいて三山目に付けるのであります。これを今片一方も付けますと三枚が離ればなれになつて居りますから、この三枚を丁字形につなぎ合せます。

その仕方は草色の糸で鎖を七ツ編み、中の花の上の二枚の花瓣の間に短編で付け、七ツ鎖を編み、鎖の編始めに短編で付け、花の右の方の花瓣に短編で付け、又鎖七ツを編み前に短編で付けました同じ目に短編で付けます。次は左の方の花瓣に七ツ鎖で付けて、七ツ鎖で元の編み初めにもどります。

風車形花瓶敷

材料　レース糸一玉。

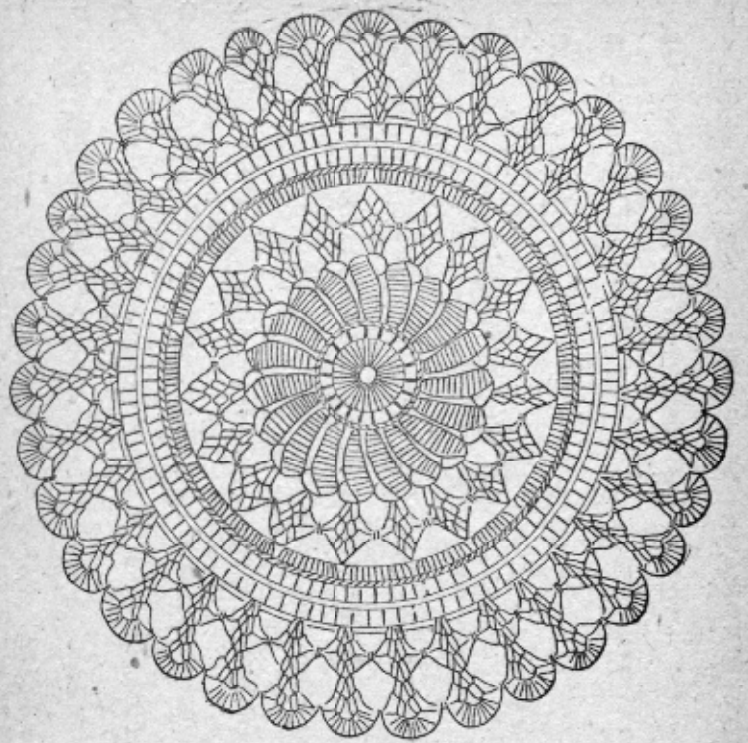
用具　レース針一本。

編み方　始め鎖十を編み、輪にして引きぬき止めに致します。

一段——三ツ鎖を編み、輪の中に長編を三十八入れます。終りに鎖三ツの頭へ引き抜き止めに致します。（第二百四

十四圖(イ)參照)

二段——鎖五ツあみ、前段の目を一目とばして二ツ目に長編を一ツ入れ、次は鎖二ツをあみ、二ツ目に長編を入れます。是を繰返しますと終りまでに長編が十九出來る事になります。終りは始めの五ツ鎖の三ツ目に引抜き止めにして糸を切ります。(第二百四十四圖(ロ)參照)



第二百四十三圖　田來上り圖

三段——鎖七ツを編み、(ロ圖の矢印の處に短編で付け、裏に返して今の鎖の中に短編を一ツなし次は鎖を心にして長編を十二編みますが十二目の最後の長編を一ツだけ鎖の目の中に入れます。鎖五ツを編み、裏に返して長編の目を二目とばして三ツ目に長編を一ツ編み、七ツ鎖を編み、丸の次の長編の目に短編で付けます。又裏に返して今の鎖の中に短編を一ツ入れ、次よりは長編にして十二入れます。又五ツ鎖を編んで裏に返し三ツ目に長編を一ツ入れます。又七ツ鎖を編んで丸の次の長編の目に短編でつけるのであります。是を繰り返して終りに五ツ鎖をして長編の時に編始めの鎖の矢印の處に引抜きで付けて糸を切ります。(第二百四十四圖(ハ)參照)



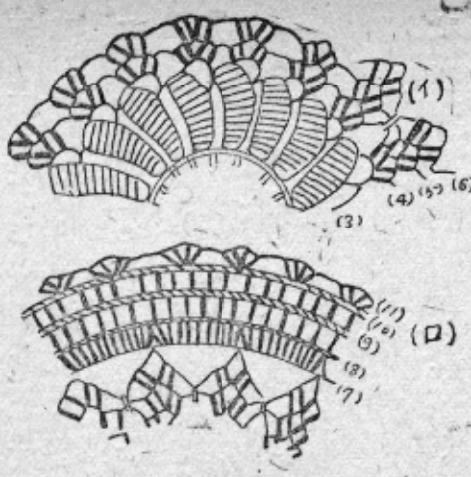
第二百四十四圖

四段——前段の五ツ鎖の中に糸を付け、三ツ鎖を編み、同じ處に長編一ツを入れ、鎖二ツ編み同じ處に長編を二ツ入れます。五ツ鎖を編み、次の五ツ鎖の中に長編を二ツ入れ鎖二ツあみ同じ處に長編二ツ入れます。此の段は是を繰返して終りは始め鎖三ツの頭に引抜き止めにします。

五段——前段から此の段に移る時に、糸を切らずに引抜をしながら長編二ツと二ツの間の鎖二ツの處迄糸を持つて來るのであります。さうして三ツ鎖をなし長編を一ツ入れ、鎖二ツをあみ同じ處に長編を二ツ入れます。四ツ鎖をあみ次の鎖二ツの中に長編を四ツ入れます。いつも四ツの長編の間には鎖二ツを編みます。終りには始めの鎖

三ツの頭に引抜き止めにして、又引ぬきで鎖二ツの所まで糸を持つて行き、次の段にうつるのであります。

六段——三ツ鎖をあみ、長編を一ツ入れて二ツ鎖をあみ同じ處に長編二ツ入れる、二ツ鎖をなし、四段と五段の鎖を一緒にして短編で付けます。鎖二ツを編み、次の松編の中に長編を四ツ入れます。又二ツの鎖を編んで四段と五段の鎖を一ツにまとめて短編で付ける。是を繰り返して終りに鎖三ツの頭に引抜き止めに致します。更に二ツ鎖の處まで引抜きに致します。（第二百四十五圖イ參照）



第二百四十五圖

七段——第二百四十五圖（ロ）のやうに鎖七ツを編み、次の松編の頭に短編で付け、又鎖七ツを編み、次の松編の頭に短編で付けて繰り返します。

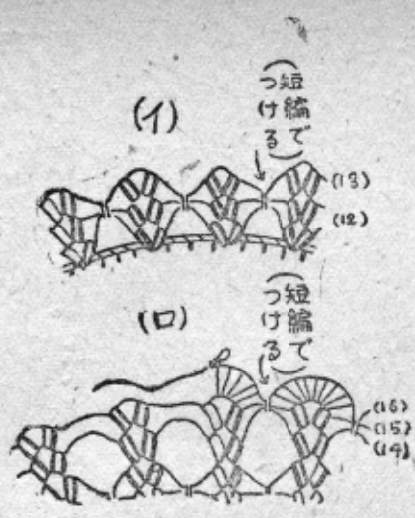
八段——三ツ鎖を編み、前段の七ツ鎖の中に長編を十一ツ入れて一廻り編みます。終りは三ツ鎖の頭に引抜で付ける。

八段——四ツ鎖を編み、一目とばして長編を一ツ入れ、一ツ鎖を編み、一目とばして長編を一ツ入れます。これを繰り返して一周いたします。

十段——前段の長編と長編の間の鎖一ツの處に長編を一ツづゝ入れて、長編と長編の間の處へ一ツ鎖を編みます。

終りは始めの鎖四ツの三ツ目に引抜き止めに致します。

十一段——第二百四十六圖（ロ）のやうに鎖三ツを編み、鎖一ツの中に長編を二ツ入れ、二ツ鎖を編み同じ處に長編を二ツ（松編）入れます。四ツ鎖を編み、長編を三ツとばして一ツ鎖の處に松編を入れます。是を繰り返して終りは三ツ鎖の頭に引抜き止めに致します。



第二百四十六圖

十二段——此の段は前の段の松編の中に長編を四ツ入れまして、長編二ツと二ツの間には鎖を二ツ入れます。松編と松編の間の處には四ツ鎖を編みます。終りは引抜き止めにします。更に又松編の頭に引抜きで糸を持つて來て次の段にうつります。

十三段——鎖三ツを編み長編を一ツ入れ、鎖二ツを編み同じ處に長編を二ツ（松編）入れます。鎖二ツを編み十一段と十二段の鎖を一緒にして短編で付けます。是を繰り返して終りは引抜き止めで付けます。

十四段——十五段は第二百四十六圖（ロ）のやうに十三段の松編に重ねて行きます。

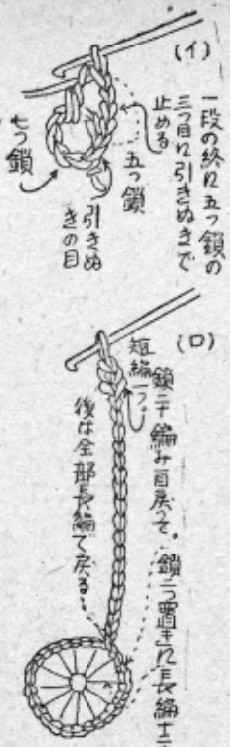
十六段——前段の松編の山に長編を九ツ入れ、鎖一ツして十四段十五段の鎖編を一緒に付けて出來上りとします。

菊形花瓶敷

材料　レース糸一玉。

用具　レース用鈎針。

編み方　中央に菊の花を編んで、周圍に飾り編をつける花瓶敷であります。



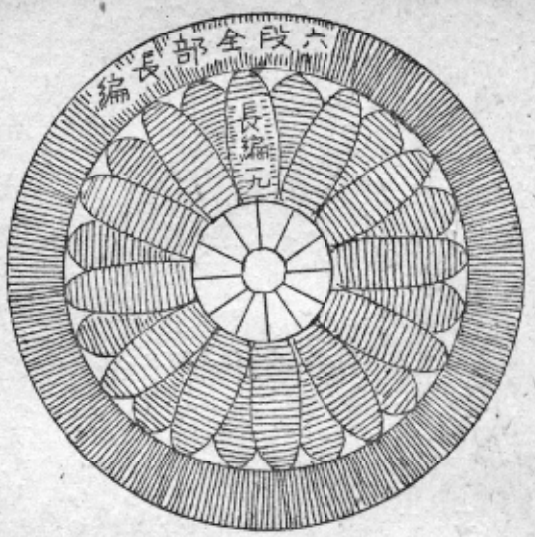
第二百四十七圖

一段——第二百四十七圖(イ)のやうに七ツ鎖を編み、輪にして引きぬき止めにします。

二段——始め五ツ鎖を編み、輪の中に長編を入れ、二ツ鎖を編み、同じ輪に長編を入れる、又鎖二ツを編んで同じ中に入れます。これを繰り返して始めの鎖と共に長編が十二出來るまで入れまして、終りに始めの五ツ鎖の三ツ目に引きぬきで止めます。

三段——第二百四十七圖(ロ)のやうに、鎖二十を編み、その鎖の次の目に短編を一ツ入れ、次よりは長編で終りまで編み、次の長編の頭に短編で付けます。又二十鎖を編み前と同じやうに始めの一ツは短編とし、次からは長編で鎖の終るまで編みます。これを前段の長編の上に全部付けますから、丁度十二枚花辨が出來ることになります。

花辨は前側と後側で二四枚



第二百四十八圖

四段——前段の十二枚の後側に短編で付け、前と同じやうに二十の鎖で花辨を作り、前段の後側に短編でつけて糸を切ります。

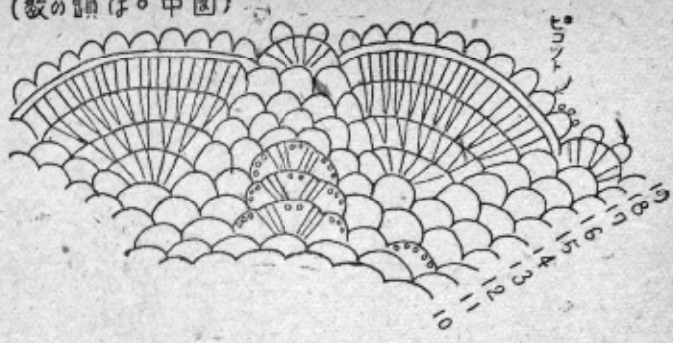
五段——第二百四十八圖のやうに、全部の花辨を良く擴へて、上の花辨の頭に糸を付け、鎖六ツを編み下の花辨に短編で付ける。これを上下に付け乍ら一段廻りまして引きぬき止めにします。

六段——三ツ鎖を編み、前段の六ツ鎖全部と短編で付けた所もみな一目に一ツ宛長編を入れて廻ります。終りに、三ツ鎖の所に引ぬき止めにいたします。

七段——鎖五ツを編み、三目飛して短編で付ける。廻り全部の內二目おきの所を四ケ所程作り、後は皆三ツ置にしますと、丁度鎖の所が四十四出來る樣になります。

八段——以下十一段まで鎖五ツの波編にします。

（圖中○は鎖の數）



第二百四十九圖

十二段——四十四の波編を十一に分けて、四ツ目毎に第二百四十九圖のやうに鎖三ツを編み、長編三ツ、鎖二ツ、長編三ツを同じ所に入れ、三ツ鎖で次の鎖に付ける。長編を初める時と終る時には鎖を三ツいたします。つまり六ツの松編の中に鎖を二ツ入れることになります。この松編の上に十三段、十四段も松編を重ねて編むのであります。

十五段——松編が三段出來ましたら其の松編と松編の中央の鎖編の中に長編を五ツ（松編）編み、松編の兩側は鎖を編んで　短編で付けます。

十六段——次は前段松編の上に長編を一目に二ツづゝ入れます。

十七段——前段の長編十の上に又一目に二ツ宛入れて二十にいたします。

十八段——二十の長編の上は一目に一ツ宛入れて廻ります。

十九段——二十の長編の上には短編を編み、長編と長編の間には圖のやうに松編を編み、次の長編には又短編を編みます。

二十段——鎖三ツのピコットを長編の上にして波編の上には長編二ツ、ピコット一ツ、長編二ツ、ピコット一ツ、長編一ツ、これをくり返し一廻りして出來上りといたします。

タッチング

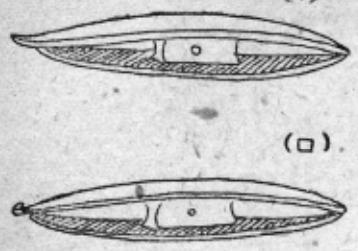
タッチングについて

タッチングは編物の一種でありますが、編針を用ひませんで第二百五十圖のやうなシャッターと云ふ器具で、レース糸、木綿糸、絹レース、穴糸、絽刺糸等を編んで、手提袋、羽織紐、帶留、洋服裝飾等のやうな小物を作ります。

用具

シャッターには、金屬製とセルロイド製とがありまして、金屬製のはネヂ付きになつて居ますから、糸を捲くには便利ですが、重いので編みにくく、セルロイド製は輕くて滑りがよく使ひようございます。

シャッターは兩端の合せ目が、第二百五十圖(イ)のやうにきつちりと合つて居て一方の端が片側だけ尖つて外側にそり返つて居るのがよろしうございます。(ロ)圖のやうに尖端に鉤のついたものもありますが、これはピコットをつなぎ

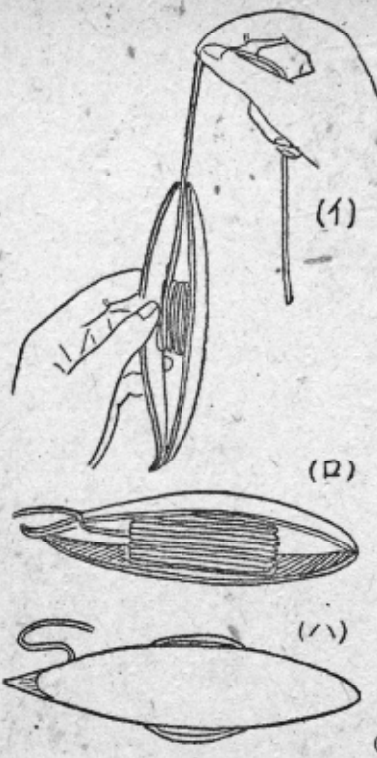


第二百五十圖

合せる時には便利でありますが、編む時に糸が引掛かるので編みにくゝあります。

糸の巻き方

シャツターに糸を巻くには、中央の穴に糸を結び付け、第二百五十一圖(イ)のやうに尖つた方を下向にして左手に持ち、右手の糸を手前から向側にさはして(ロ)圖のやうにかたく上手に揃へて、外れない程度に澤山巻いて置きます。(ハ)圖は横から見たところ。編みますときには、シャツターの糸をあまり長く致しますと、編むのに時間がかゝるばかりでなく、編み目が不揃ひになつて出來上りが惡くなりますから短くして置くやうに注意します。

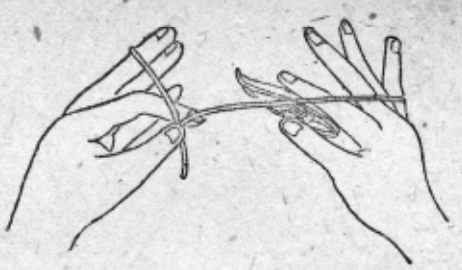


第二百五十一圖　糸の巻き方

シャツターの持ち方と糸の掛け方

シャツターに糸を巻きましたら、第二百五十二圖のやうにシャツターの糸を三十糎位出して置き、シャツターを右手の拇指と人差指との間に、尖端を向側の上にしてはさんで持ち、左手の拇指と人差指とでその糸の先端から四糎位の所を持ち、其の糸を人差指から、中指、藥指、小指をまはつて、元の拇指と人差指との間に、前にはさんである糸とを並べて持ちます。このやうに致しますと糸の大きな輪が出來て輪の中には中指、藥指、小指の三本が入つて居ります。

次に、右手の糸はシャツターから出て、右手の小指、藥指、中指に掛け圖の如くシャツターは其の下をくゞるやうに持ちます。いつも右手の拇指と人差指はシャツターから離れてはいけません。そして左手の人差指と中指との間は、四糎位あけて糸を張り、其の間をシャツターが自由に通れる位にあけて置きます。



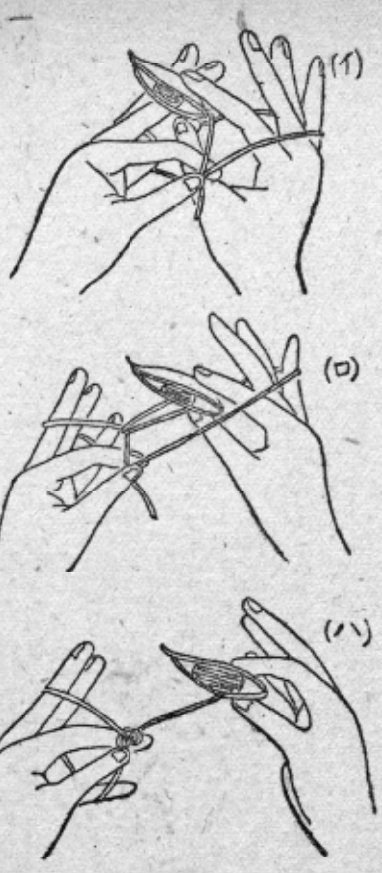
第二百五十二圖　シャツターの持ち方と糸の掛け方

編み方

以上の糸のかけ方が定まりましたらば、シャツターの尖つた方を向側の上にむけて、左手の人差指と中指との間に

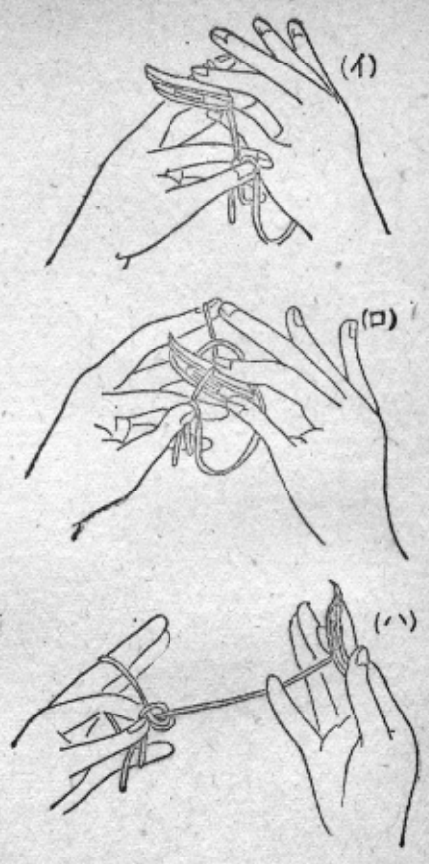
張られて居る糸の下側からシャツターを入れますと、左手の糸は右手のシャツターと人差指との間を通ります。この時シャツターは、右手の人差指と拇指で持たれた儘、第二百五十三圖(イ)のやうに左手の中指と人差指の間に來て居ります。次に左手の糸は、右手の拇指とシャツターの間を通つて元に歸ります。(同ロ圖)、この時シャツターを引張つて引くと同時に左手の糸をゆるめてかるくしめて編みます。即ち右のシャツターの糸は引張られて芯になり、左手の指にかゝつて居る糸が編糸となつて編まれるのであります。(同ハ圖)、此の時は左手の中指で加減して最後の糸の引しめを致します。此所が最もむづかしい處で、きちんと目が揃ふまでには相當の練習を要します。この編方を表編と申します。是で目の半分が出來た事になります。

次に右手の拇指と人差指とで輕くシャツターを持つたまゝで、右手の各指には糸をかけずに下におろしておき、左



第二百五十三圖　表編のしかた

手の中指と人差指との間に張られて居る糸の上から、第二百五十四圖(イ)のやうに、其の糸を右手の拇指とシャツターの間をくゞらせて、又右手の人差指とシャツターの間をくゞらせて、(同ロ圖を參照)元に返してシャツターを引張り、左手の糸をゆるめて左中指で加減を致します。(同ハ圖)これが裏編であります。前の表編とこの裏編とで一目出來た事になります。

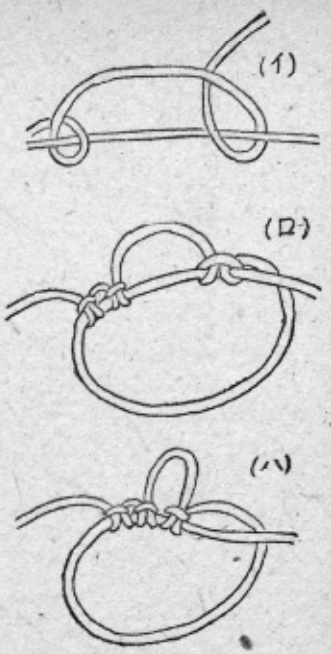


第二百五十四圖　裏編のしかた

ピコットの作り方

普通に一目編み、次の表編を編む時に、前の裏編と次の表編との間を第二百五十五圖(イ)のやうに八粍位離して、つぎいで次の裏編をなし(同ロ圖)裏編の時に引寄せますと一ツのピコットが出來ます。(同ハ圖)、此のピコットは

飾りにもなり又輪と輪をつなぎ合せる時にも必要であります。特に長ピコットと云はない限りは此のピコットを用ひます。



第二百五十五圖　ピコットの作り方

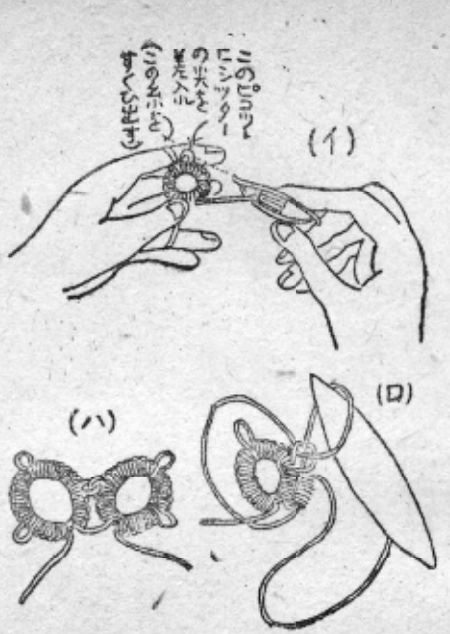
前に說明いたしましたやうに右手のシャツターの糸は引張つて芯となり、左手に張られて居る糸が編糸になるのでありますから右手のシャツターの糸を引くと同時に、左手の糸をゆるめる事を忘れてはなりません是が反對になりますと結ばれて仕舞つて編み續けて行く事が出來なくなります。始めの內は間違ひを知らずに編んで行く事がよく有りますが、右手のシャツターの糸を引いて見るとかたくしまつて動かなくなつてしまひから、すぐわかります。此の點に注意して糸が動くやうになりますまで練習を致します。

輪にする場合の編方

一本糸編と申しましてシャツターを一ツだけ用ひて編みます。一ツのシャツターで編む時には必ず輪にする時です。

ヒコットの接ぎ方

輪と輪をつなぎ合せる時は、多くの場合最初の輪のピコットと次の輪の之れに相當する目に接ぎ合せるのであります。つなぐ時には一ツの接合すべきピコットにシャツターの尖つた部分を差入れ、第二百五十六圖(イ)のやうに左手の人差指と中指との間の糸をすくひ上げて、其の中に右手のシャツターを通して引抜いて仕舞ひます。(同ロ圖)、左手の中指で加減をしながら適度に糸を締めるのであります。此の時も芯糸は動くやうにして左手の糸が結び付かるやうになります。(同ハ圖)、是は容易に出來ます。



第二百五十六圖　ピコットの接ぎ方

タツチング編の糸は、主に絹糸を用ひますので切り口及び接ぎ目の、ほつれないやうに糊を付けて置きます。

基礎編

基礎編（其の一）

一ツのシャツターの糸だけを用ひて編む編方でありまして一本糸編と申します。

シャツターを右手に持ち、糸の端を左手に持つて糸を一巻左手の各指を廻り、初めに糸の端を左手の拇指と人差指とに持つたのと並べて持ち、三目編みます。次にピコット一ツを作り、又三目編むことを三回くり返しますとピコットが三ツ出來まして目數は十二目編めた事になります。編み終りましたら左手に掛つて居る糸を皆はづして、編んだ所を輕くおさへ右手の糸を引き締めますと、丸い輪になります。



第二百五十七圖

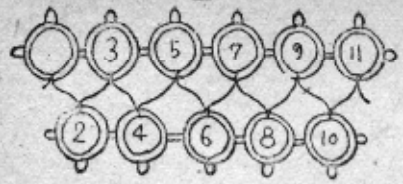
これで第一の輪が出來ましたから次の輪をその隣りに作ります。

今の輪から六粍位離れて前と同じやうに拇指と人差指で糸を持ち、左手を一廻りして同じ所に揃へて持ち前のやうに編みます。初め三目編んでピコットに移る時に、初めの輪の終りのピコットの中に第二百五十六圖(ロ)の仕方でシャッターの尖つた先を差入れて、そこから左手の人差指と中指の間の糸をすくひ上げ、その中にシャッターを通してぬいてしまひます。左手の糸は前と同じやうにゆるめて右手の糸を引張り、左手の糸を適度に締めますと、前に編んだ目と揃つて結び付きます。

そこから又三目編んでピコットを出し、三目編んでピコットを出して三目編み、初めの輪の時のやうに引締めますと同じ輪が二ツ並びます。此のやうにして次々と第二と同じ仕方で第二百五十七圖のやうに第三第四の輪を作ります。以下一本糸編の時はいつもこれと同樣に編んで輪にする事を定めとして、說明をはぶきます。

基礎編（其の二）

前の編方と同じやうにして五目編んでピコットを出し之を三回繰返し終りに五目編んで引締めます。次に今編んだのを裏返して、反對側に最初の輪と同じ輪を作ります。次に裏返して、第一の輪と並べて初め五目編み、第一の輪の終りのピコットに止めます。五目編んでピコット、五目編んでピコット又五目編んで引締めて輪に致します。裏返して第二の輪と並べて初め五目編み、第二の輪の終りのピコットに止めて第三の輪と同樣に編んで行きます。此の樣にして一ツの輪から次の輪に移る時に裏返して反對側の輪につないで編みますと二段の輪つづらなりが第二百五十八圖のやうに出來上ります。



第二百五十八圖　二段の輪のつなぎ方

基礎編（其の三）

是は二本糸を用ひて編みます。一本は必ずシャツターに巻いた糸で、他の一方は糸巻きの儘でも宜しいのですが、シャツターに巻けば更に便利であります。又二色の糸を同時に用ひる場合は、必ず二ツ共シャツターに巻かなければなりません。編み方は一本糸編と同じでありますが、二本の糸の端を一緒に揃へて左手の拇指と人差指とで持ち、一方の糸は中指薬指を通つて小指に来て小指に一ツ巻き付け、その儘下にたらして置きます。他の一方の糸はシャツターに巻いて一本糸の時と同じく右手に持ちます。而して、二本糸の時は輪にする必要がありません。一本糸と同様に編んで行きますが、引締める事はいけませんから一目づゝきち〳〵と目を揃へてすぐ隣りにすき間のないやうに編む事が大切であります。かう致しますとゆるまないで奇麗に出来上ります。此の編み方を練習して第二百五十九圖⑥を編み初めます。



第二百五十九圖

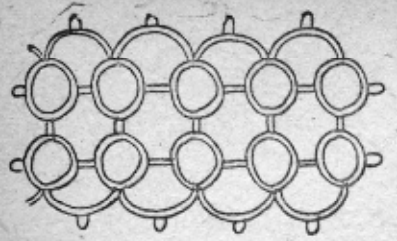
基礎編其の一のやうにして一本糸で輪に致します。三目編んでピコットを出し、三目編んでピコットを出し、三目編んで引締めて輪に致します。裏に返して新しい糸の端と今編んで来た糸とを左手の人差指と拇指とで持ちます。新しい糸はその儘左手の中指薬指にさはし小指に一巻きしておきます。今編んで来たシャツターを右手に持ち、新しい糸が編み糸となり、シャツターの糸が芯になります。四目編んでピコットを出し、四目編んで裏に返します。今度は今芯になつた糸、即ちシャツターの糸を（最初から編んで来た糸）輪にして編みます。つまり最初と同じ一本編をいたします。新しい方の糸は其の儘にして下げて置いて、シャツターの糸だけで三目編み、初めの輪の終りのピコットにつなぎ合せます。三目編んでピコット、三目編んで輪に致します。

次は裏返して又二本糸で前のやうに編みます。是を繰り返すと第二百五十九圖のやうに出来上ります。

基礎編（其の四）

基礎編其の三の編み方を二ツつなぎ合せるのであります。

先づ第の三と同じ物を編んで置きます。次に片方の輪を編みながら中央のピコットを出す時に、一方の中央のピコットにつなぎ合せて行きますと第二百六十圖のやうなものが出来ます。



第二百六十圖

基礎編（其の五）



第二百六十一圖

一本糸で八目編んでピコットを出し、八目編んで引締めます。裏に返して二本の糸で八目編んでピコットを出し、八目編んで裏に返します。一本糸に移つて八目編み、第一の輪のピコットにつなぎ合せ、次に八目編んで引しめて輪に致します。初めからを繰り返しますと第二百六十一圖のやうに出來上ります。

基礎編（其の六）

一本糸で三目編んでピコットを出し、三目編んでピコットを出し、三目編んでピコットを出し、三目編んで引締めます。此の輪の隣りに三目編んで第一の輪の最後のピコットにつなぎます。三目編んでピコット、一ツ編んでピコット、一目編んでピコット、三目編んでピコット、三目編んで引き締めます。次も亦、この輪と竝べて第一の輪と同じやうにして作り、第二の輪の終りのピコットにつなぎ合せます。以下第一の輪と同樣にして編みます。こう致しますと三ツの輪のつながりが出來ます。次に裏に返して二本の糸で編みます。新しい糸を左手に掛けて編み糸とし、今まで編んで來た糸を芯にして鎖を編みます。（二本糸の所を鎖と申します。）五目編んでピコットを出し、二目編んでピコットを出し、二目編んでピコットを出して、次に五目編みます。裏に返して一本の糸で最初の輪と同樣に編んで、二番目のピコットの所で、前の第三の輪の中央のピコットにつなぎ合せます。以上を繰返すと、第二百六十二圖が出來上ります。



第二百六十二圖

應用編

羽織紐

材料　あな糸約二瓦（五分位）、硝子の眞珠玉小二十個、大一個。

用具　シャッター一個。

編み方　糸をシャッターに卷く時に糸に眞珠玉の小粒を十ケ通し、次に大きいのを一ツ通し、又小粒を十ケ都合二十一粒を通しておきます。先づシャッターで二十目を編んで第二百六十四圖(イ)のやうに丸く致します。この丸くして輪の處より又二十目編んで、是も丸くいたしますと同ロ)圖のやうに二ツ出來ます、始めの引しめた口と次の引しめた口を合せて、始めに出來た方を向側にあとの方を手前に持つて、二ツ輪の中から同ハ)圖のやうにシャ

ッターの先で糸を引出し、その糸の中に同ニ圖のやうにシャッターを通して引締めますと、二ツの輪がきちんとつながります。そこで前に通してある小さい眞珠玉を同ホ圖のやうに一ツ入れて次を編むのですが次にうつる時、輪の直徑に合せて、糸をゆるめて次の輪を編むのであります。

第二百六十三圖　羽織紐の出來上り

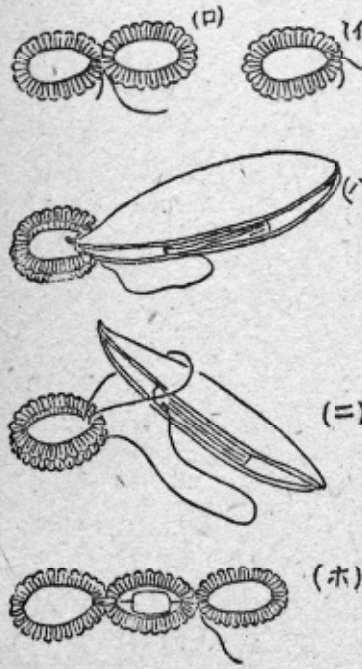
第三の輪が編めましたら、二番目の輪とつなぎ合せる事は、一番目と二番目をつなぎ合せた時と同じであります。

以後は次に移る時は、必ず輪の中に玉を入れて糸は輪に合せてゆるめ、次々と編んで行きます。

これを繰り返して始めの玉のない輪と共に十一になります。十二目の輪には大きい玉が入る事になりますから、三十目編んで大きい輪を作り大きい玉を付けるのは前と同じ事であります。

以下は小粒を入れながら終りに玉のないのと十一輪になるまで編みます。そこで糸を切つて止めます。止めには一寸のりをつけて置きます。この最初と最後の玉の入らない輪が、羽織の乳につく紐の乳になつて、羽織紐は出來上ります。





第二百六十四圖

花瓶敷

材料　あな糸白色六瓦(一匁五分位)、クリーム色二瓦(五分位)

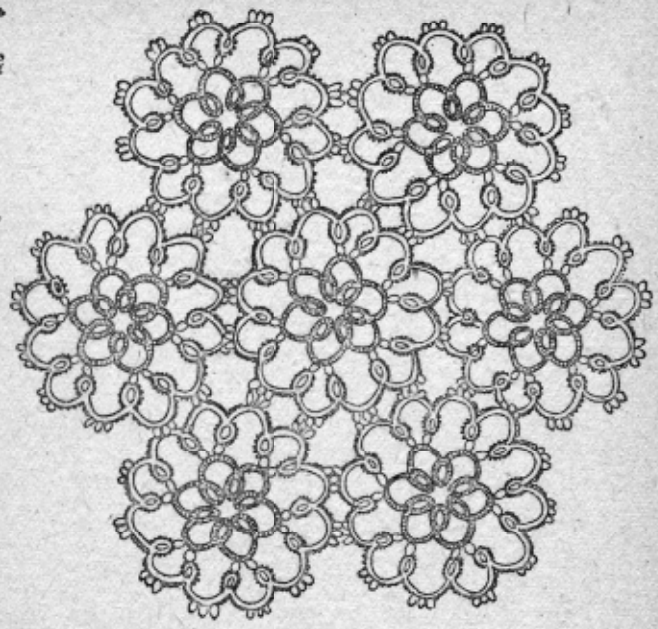
用具　シャッター二個

編み方　此の花瓶敷は二色の糸で花の形を編みながら付けて行くのであります。

始めクリーム色の糸をシャッターに巻き、第二百六十六圖(イ)のやうに一本編を七ツして、ピコットを出します。次は又一本編み七ツして丸く輪に致します。次は丸くした根元から白糸を付けて向きを變へ、鎖(二本糸編)を九ツしてピコットを出し、一目編んで又ピコットを出します。ピコットが二ツ出來ましたらば又鎖を九ツ編みますとシャッターの糸は芯になり、別糸で編んだことになります。

次は白糸は其の儘にしておいて向きをかへ、シャッターの方で一本編を七ツします。さうして始めの一本編のピコ

ットの中に付けます。又七ツして丸い輪を作り、それから又、二本編で鎖九ツ、ピコット一ツ、一日編んでピコット一ツ、鎖九ツして、次は又、一本編で七ツ編み、始めの輪のピコットにつけて七ツ編んで輪にします。

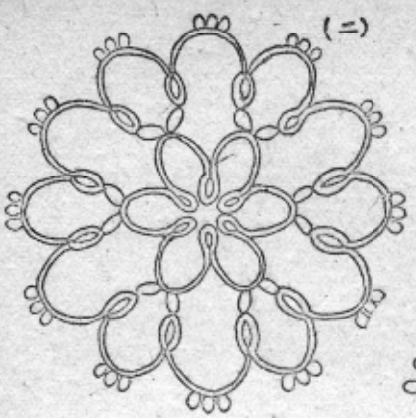


第二百六十五圖

是を同ロ圖のやうに、六回繰り返して編み、始めの糸とつなぎ合せて糸を切り、のりを付けておきます。

田來上り圖

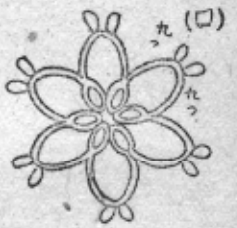
別に同ハ圖のやうに一本編を七ツ編み、前に作つておいた花の一方のピコットに付けて、又七ツ編んで丸くします。向きをかへて別糸をつけて二本編みを七ツしてピコットを三ツ揃へて出します。又二本編を七ツ編んで向きを變へ、一本編でこれを繰り返して同ニ圖のやうに、此の



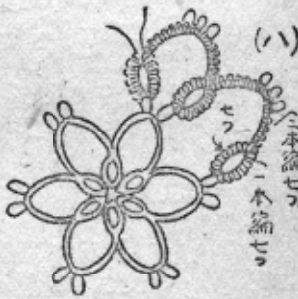
(イ)



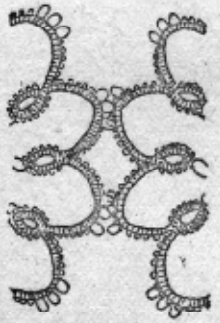
(ロ)



(ハ)



(ホ)



第二百六十六圖

七ツ編み次のピコットに付けます。又七ツ一本編みをして丸くします。これを七枚作りますが、始めの一枚だけは全部作つて、二枚目からは始めの花につなぎ合せますから花の終りから二番目の三ツのピコットの眞中を出さずに、同(ホ)圖のやうに一枚目の花の三ツのピコットの中央に付けるのであります。

花のまはりを全部付けて、始めの糸と結び合せてのりを付けておきます。

これを二枚目の花は二ケ所だけ付けますが、三枚四枚五枚六枚迄は四ケ所付ける事になります。三枚目は二枚の

終りに、終りから二番目の花びらをのこしたやうに、三枚目は終りから四番目の花びらまで殘して、二枚の花びらに二ケ所づゝ付けるのであります。

是を繰り返して七枚目は出來上り圖のやうに六ケ所付けますから、六ツの花びらを殘す事になります。是が終りの花であります。兩側の花と中の花に付けて出來上りであります。

角形手提袋

材料　淡茶色あな糸十五瓦(四匁)、玉虫色ビーズ小三把、つまみ用ちりめん四十糎、新モス三十五糎。

用具　シヤツター二個。

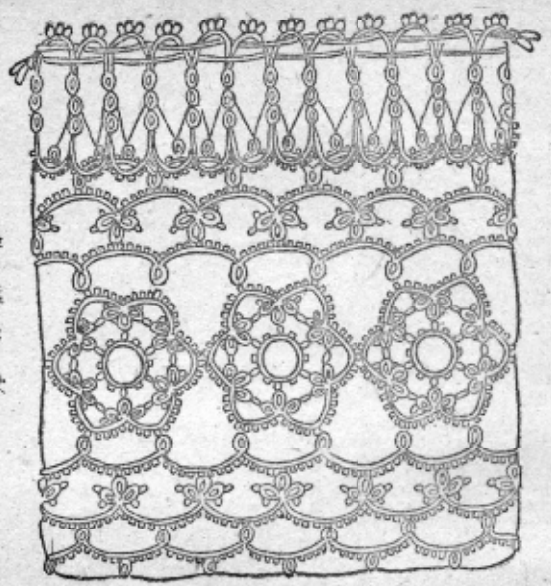
編み方　此の袋は始めに中の花を作り、つなぎ合せてから上下を編むのであります。

始めシヤツターに糸を巻き、其の糸にビーズを六ツ通しておきます。そして左手を一廻りする糸にビーズを六ツ通して置いて一本編を一ツしてピコットを出し、一本編一ツしてビーズを一ツ入れます。これを第二百六十八圖(イ)のやうに六回繰り返して糸を切り、始めと終りの糸を結び、のりを付けて置きます。さう致しますと普通のビコットの間々にビーズを入れたのが六ツ出來ます。

今度は二本編をいたしますが、其の一方(シヤツターでも糸巻でも)にビーズを六ツ通して置きます。

花の作り方

初めに一本編で三ツ編み、ピコットを出し、又三ツ編んでピコットを出します。是を三回編み、終りに三ツ編んで糸を引きしめて輪にいたします。次に三ツ編み、第一の輪の最後のピコットにつけ、又一本編三ツをして第二百六十八圖(ロ)のやうにビーズのないピコットに付けます。次に一本編を三ツしてビコットを出して、三目編んで丸く輪に致します。又丸くした糸をはなれないやうに一本編を三ツして、前の輪の終りのピコットに付け、次は三ツおきにピコットを二ツ出して終りに三ツ編んで丸く致します。



第二百六十七圖　出來上り圖

次に向きを替へて、前にビーズを通しておいた別の糸で編むのであります。此の糸で二本編を三ツ編みビーズのピコットを一ツ出します。又三ツ編みビーズのピコットを出し是を繰り返して九ツのビーズピコットを作りましたら又向をかへ一本編三ツしてピコットを出し、又三ツして前の一本編三ツの輪の内、終りの輪の眞中のピコットに付けます。又三ツしてピコットを

出し三ツ編んで丸く致します。次に又一本編を三ツして今編んだ輪の最後のピコットに付け、又三ツして、中心の輪の次のピコットに付け、又二ツしてピコットを出して丸く致します。今丸くした糸の處から離さずに又一本編三ツして今丸くした終りのピコットに付け、又三ツおきにピコットを二ツ出して丸く致します。さうしますとビーズのピコットが九ツ出來た方が外側に、丸く三ツ付けた方が内側になつて中の輪のピコットに付いた事になります。これから又二本編にうつります。

是を繰り返して第二百六十八圖(ハ)のやうに花形を作つて糸を切り、始めと終りの糸を結んでおきます。此のやうに順に六ツの花をつなぎ合せて丸くするのであります。



第二百六十八圖

花のつなぎ方

花と花のつなぎ合せ方は、一枚を仕上げて、次の花の終りの二本編の時ビーズピコットを四ツ出して五ツ目の時ビーズを入れずに第二百六十九圖(イ)のやうに他の花の五ツ目に付けて、又三ツおきに後四ツのビーズピコットを出して終ります。このやうにして六ツつなぎ合せるのであります。六ツの花びらの内兩側一ツづゝ付けて、上下を二ツづゝ殘しておきます。

上下模様

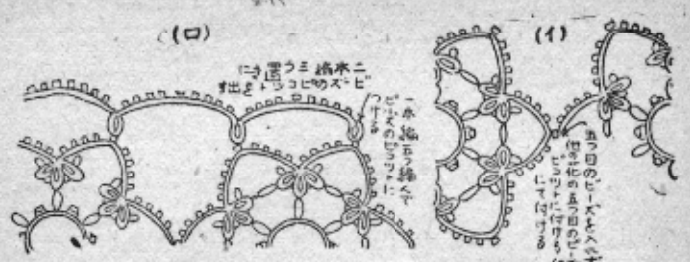
一段——六ツの花を付け終りましたならば、又別に一本編を五ツ編んで同ロ圖(ロ)のやうに前の花の上下二ツづゝ殘しておいた片方九ツピコットの中央のピコットに付けて、又五ツ編んで丸く致します。

次は向きをかへて二本編してビーズピコットを三ツおきに九ツつけます。

又向きを變へて一本編みにして次ぎ〳〵と付ける事、圖のやうにして此の段の終りまで繰り返します。終りに糸を切り始めの糸とつなぎ合せてのりを付けておきます。

是れで花の上を一段終つたわけであります。

六ツの花を合せた時は上下共同じでありますから、終りの編方に依りきして上下が定まる事になります。

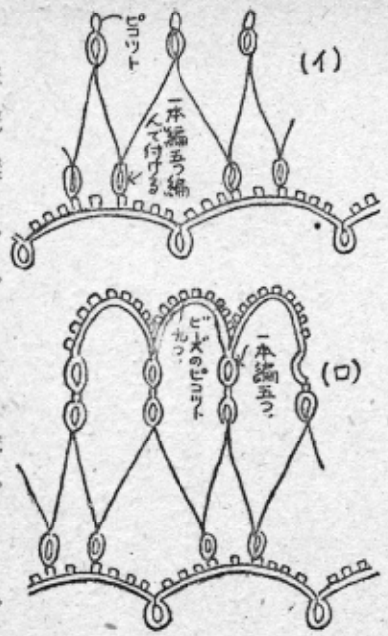


二段——二段目は、最初の花の作り方の時、中の輪の次に編んだ二段目と同じ方法であります。(第二百六十八圖(ロ))

の説明と同じ）これを前段の丸ツピコットの眞中に花の中央を付けます。前向きを變へてビーズのピコットを九ツ出し、これを繰り返して終りに始めの糸に結び付けます。

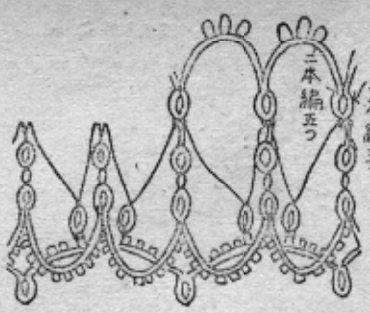
三段――一段目に同じであります。

四段――一本編を五ツ編んで第二百七十圖(イ)のやうに前の丸ツピコットの端から四ツ目に付けて、五ツ編んで丸く致します。次は今丸くした處より二糎位離して一本編を五ツして、ピコットを出し五ツ編んで丸く致します。又これより二糎離して五ツの一本編をして、一ツおいた隣のピコットに付けて、五ツ編んで丸く致します。これを繰り返して此の段は終ります。



第二百七十圖

五段――一本編を五ツして第二百七十圖(ロ)のやうに前の段の離れて居る輪のピコットの中に付け、五ツ編んで丸く致します。それから向きを變へて二本編で三ツ編み、ビーズのピコットを出し、これを三ツおきに丸ツ出して、又向きを變へて一本編みに致します。一本編を五ツして、次のはなれて居る輪のピコットの中に付け、又五ツ編んで丸く致します。これを繰り返してビーズのピコットを出した處を二ケ所、たゞのピコットを出した處を二ケ所作りまして一廻り致します。是が周りに下りまして緣飾りとなります。



第二百七十一圖　紐通しの編み方

紐通しの編み方

第二百七十一圖のやうに一本編で五ツ編みまして四段目の二糎長くなつて居る二本の糸のピコットのない方へ付けるのであります。又五ツ編んで丸く致します。向きを變へて二本編を五ツ編みピコットを出し、これを一ツおきに三回出し、五ツ編んで又向きをかへて一本編を致します。一本編を五ツして次の二本の糸に付け、五ツして丸く致します。これを繰り返して終りに糸を結んで切ります。是で上の方は全部終りました。

下の編み方

下の方の編方は二段迄、上の二段と同じ編み方を致します。三段目のビーズピコットの五ツ目になりましたならば、一本編に歸つて五ツ編んでピコットを出し五ツして丸く致します。これより又ピコットを出します。是を六回繰り返して七回目には第二百七十二圖のやうに、前の中の丸くしたピコットに付けます。これを終りまで繰返して糸を切ります。

中の袋の作り方

中の袋はつまみ絲編で表の袋に合せてそれに總代を入れ、丈の方は紐通しより三糎位長く

して裁切ります。



第二百七十二圖

新モスの方は細編より二糎だけ丈の方をつめて裁ちます。二ツの用布を裏表そろへて四ツ縫に致しますと、新モスの方が短いので縫代は、二糎位中の方にある事になります。底の両角に丸味をつける爲、一糎位摘んで縫ひます。これを編んだ袋に重ねて同色の糸で底をとぢます。口元は紐通しの下の丸い處に縫付けて置くのであります。

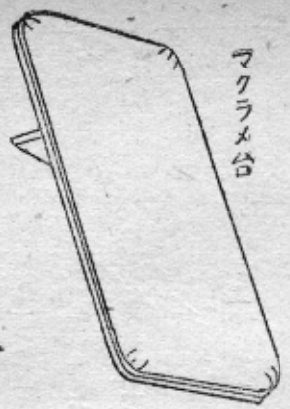
紐の作り方及び通し方　糸を二本にして鈎針で鎖編を三十糎位して後もどりして引ぬき編で、編初めまで致しますと、普通の鎖より丸味が付き太くもたつて形が良くなります。これを二本編みます。紐の端を兩側に向けて通し、先を結んで出來上りと致します。

マクラメレース

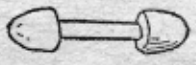
マクラメについて

これは木綿糸、麻糸、リリヤーン、絹糸又は麻などを結び合せて種々の模様を作る手藝でありまして、室内の裝飾品、裝身具又は袋、籠などの實用品にも應用されてをります。

マクラメ台



ボビン



日打

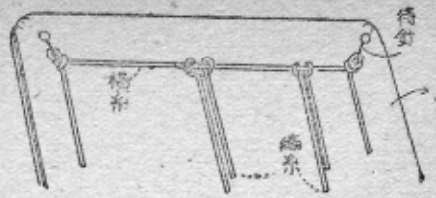


第二百七十三圖

用具

1、マクラメ細紐、（マクラメクツシコン）間に合せの場合は綾板を用ひます。
2、ボビン（細長い糸巻）
3、裝飾用の待針
4、刺繍用の日打。

糸の掛け方

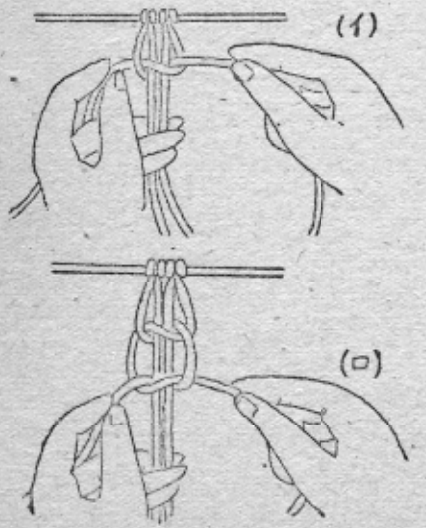


第二百七十四圖

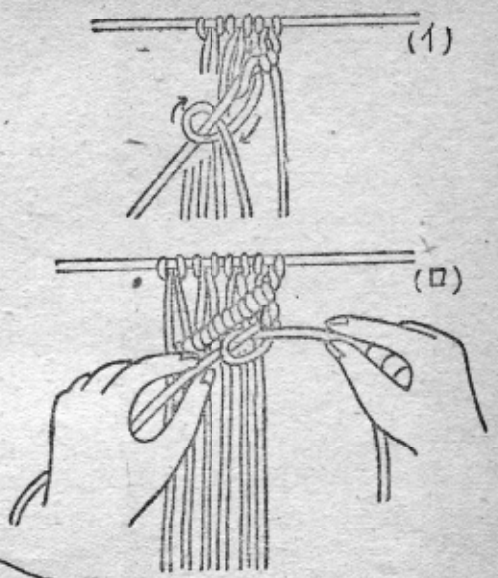
糸は繰りのまゝでぼかしを揃へて、色の調子を見計ひ一ケ所だけ切ります。第二百七十四圖の如くマクラメ編臺に（縦横どちらでも其の時の便利なやうに置く）横糸をわたして兩端を針で止めておき、結び糸を二ツに折つて輪の方を横糸の下から入れ横糸の上を通つて輪の中に二本を入れて下に引きます。

七寶結び

これは掛糸は二本ですが垂れた糸の四本で結びます。初め中央の二本を芯にして左右の糸二本で第二百七十五圖（イ）の如く結び、次に（ロ）圖の如く糸を反對にして結び、糸の締加減は糸が弛まない程度で宜しいのです。



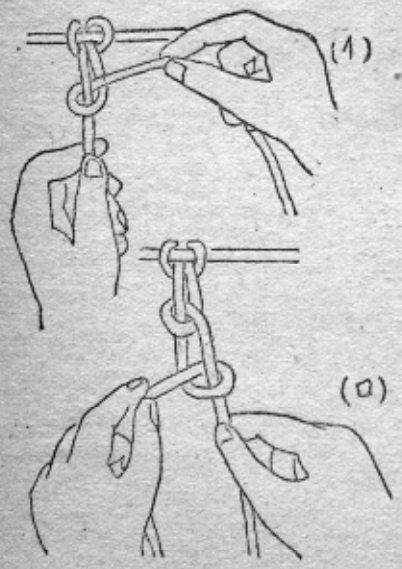
第二百七十五圖



第二百七十六圖

巻き結び

横糸に編む方の糸を全部掛け、次に第二百七十六圖（イ）の如く端の糸一本を斜に持ち（これをコードといふ）其の糸に編む糸（垂れて居る糸）を二度づゝ掛けて巻きながら結んでゆきます。この結び方は縦にも横にも斜にも色々の形に結ばれます。結ぶ時にはいつも芯となる方の糸を引き、巻く方の糸をゆるく致します。



第二百七十七圖

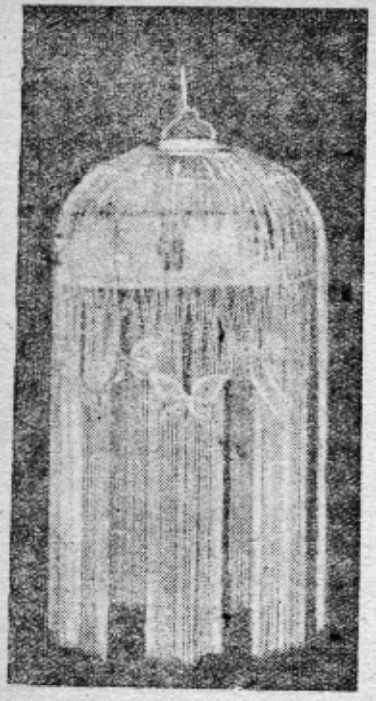
鎖結び

これは二本の糸で結ぶのであつて、はじめに第二百

七十七圖イ）のやうに左の糸を芯にして右の糸で巻き（この時は右を引いて右を弛める）、次は同ロ圖（ロ圖の如く反對に右の糸を芯にして、左の糸を巻きます（この時は右を引いて左を弛めます）これを一組として繰り返しますと鎖結びが出來ます。

應用編

電燈カバー



第二百七十八圖　出來上り圖

材料　リリヤーンぼかし染分け一把（糸數八十四本位）

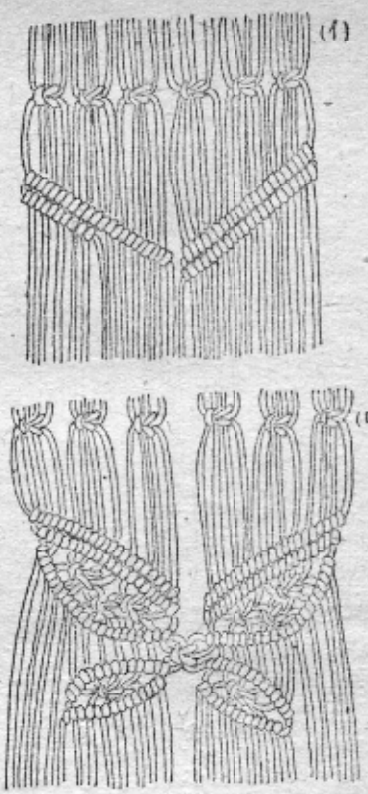
結び方　糸はくりのまゝでぼかしを揃へて電燈カバーの房にする方の色の中央で一ケ所切ります。

糸は横にして横糸を二本（一本でもよし）渡して兩端を針で止めます。

それに八十四本を基本結びの掛方のやうに掛けます。

一段——横糸から三糎下つた所に、七寶結びを一段致します。

二段——前段右側二本左側二本づゝの七寶結びの一組四本の糸を左右に分けて、三糎離して七寶結びをいたします。



第二百七十九圖

と、兩方の端に二本づゝ組み合せる事の出來ない糸が殘りますから横糸を止めておいた針をはづして、横糸の端と端とを結び合せて、殘つた二本づゝを七寶結びをして丸く輪に致します。

蝶の模様結び　七寶結び六段出來ましたら第二百七十九圖（イ）の如く七寶結び六ツを一組として竝べ、針で止めて置きます。

そして七寶結び三ツで片方の上羽を作ります。右から斜に巻き結びを二回して圖の如く羽の中には小さい七寶結びを三ツ入れ、更に右から一回巻き結びを致します。片方の羽は反對に左から斜に巻いて同様に作り二ツの羽を

七寶で結び合せて、兩端を四本づゝ殘し、下羽は上羽と反對に圖の如くそれぞれ卷き結びを致します。下羽の中は小さい七寶を一ツ結んで模樣としします。これで蝶の一模樣出來たのであります。

房は糸を垂らして適當に切ります。最初の横糸の先きは兩方共鎖結びを六回位して止めます。

出來上り寫眞の模樣は蝶の模樣結びでありますが、蜻蛉の模樣結びに替へても宜しいですから次に其れを說明いたします。



第二百八十一圖　出來上り圖

蜻蛉模樣の結び方

前の場合と同じく六段七寶結びをし、其の先を、矢張り蝶と同じく六ツを一組として第二百八十圖の如く頭は七寶結び三回して二ツに折つて結び玉にし、上下の羽は卷き結び　胴は七寶結び三回、尻尾は七寶結び十回して短かく切り絹糸で縛ります。

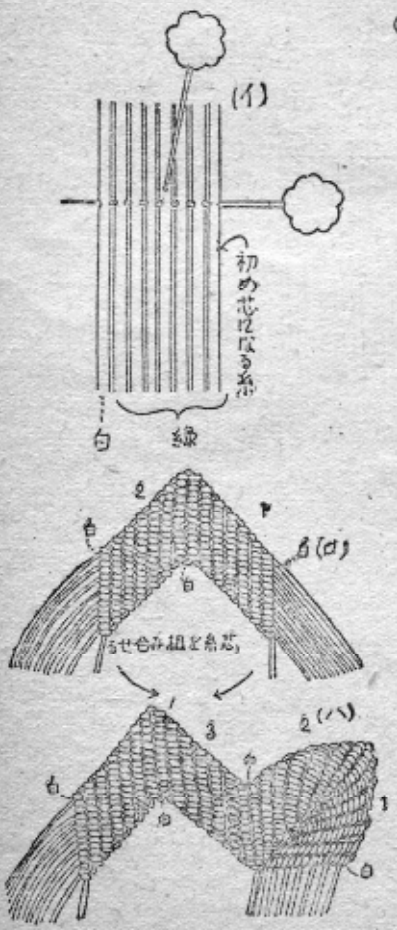
材料

リリーヤーンの綠一米七組

結び方

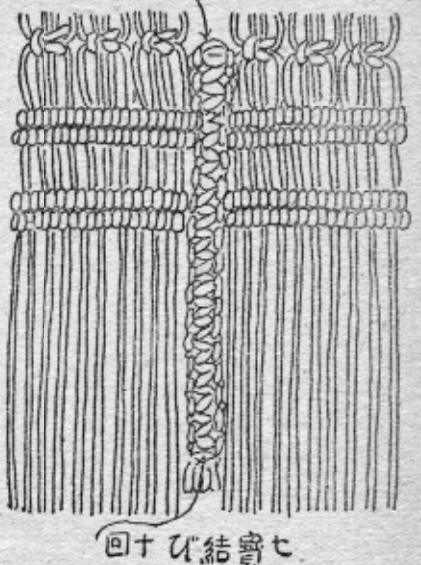
糸はくりのまゝで切り、第二百八十二圖(イ)の如く綠七本と左の端へ白一本と都合八本を竝べて糸の中央に針を横に通して輪の上に別の針で止めます。

次は同ロ圖の如く右の端の綠一本を芯にして卷き結びを一段し次に又、右端の糸を芯にして卷き結びをし、順々に右から左へ



第二百八十二圖

クローバの葉



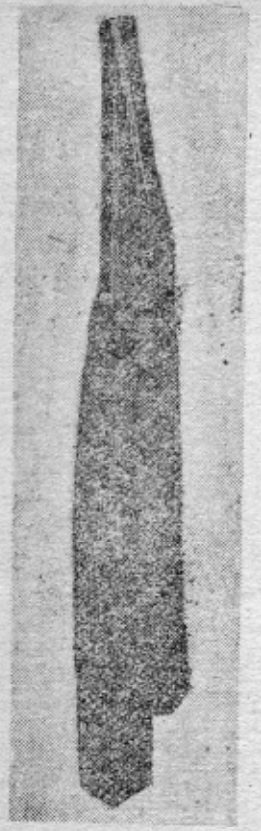
第二百八十圖

巻き結びを七回致しますと、左の端にあつた白が右の端へまゐります。次は反對の側を同樣にして環の形にとゝのへ、矢の方向に左右の糸を組み合せます。

次は同(ハ)圖の如く組み合せた右の糸を芯にして左へ七回巻き白が右端へ出ると左端の緣を芯にして右へ七回巻きますと又一葉出來ます。かうして三葉出來ましたら最後の糸を交互に上の一葉の中に挿て中心で置結びを一ツ致します。集つた十四本は二本の白で七寶結び二三回してあとは房として垂らします。

ネクタイ

材料　リリーヤーン黒小束十把、薄茶二把、白二把。



第二百八十三圖　出來上り圖

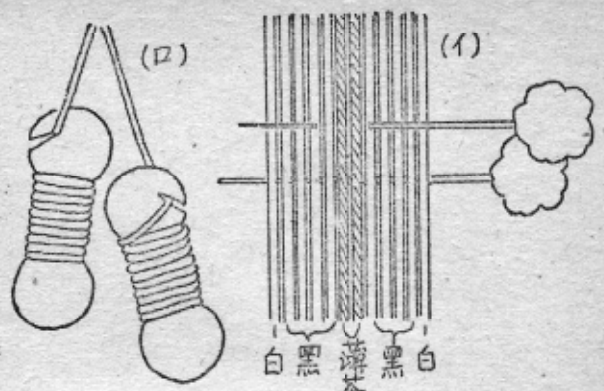
先づ五寸の長さに黒を八本、薄茶と白を各二本切つて、第二百八十四圖(イ)のやうに中央に薄茶二本、その兩脇が黒四本、兩端が白となるやうに並べます。そして兩端の長さに三十糎の差を作つて、それを葉と同樣に横に針で通して、三十糎短い方を手前にして臺に止めます。

この糸は大變長いですからボビンに巻いて置きます。

ボビンは間に合せの場合には厚紙を同(ロ)圖の如く蟹形に切つて片方に少し切り込みを入れておきます。

兩端の白を除く他はボビンに巻き、編むところを二十糎位殘して切り込みにはさんで止めます。

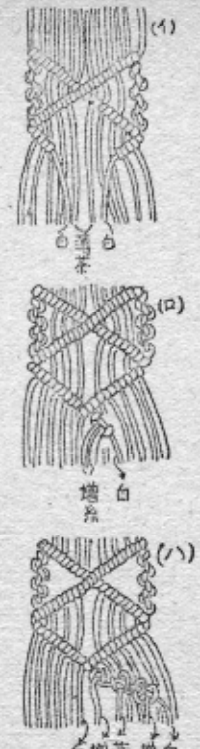
結び方　第二百八十五圖(イ)の如く左端の白を芯にして中央の薄茶の一本まで斜に巻き結びを致します。右端よりも同樣にし左の芯糸の白も巻きます。そして兩端の黒二本で鎖結びを六回して、今度は中央から左右とも斜に巻き結びを致します。これを一模樣として七模樣繰り返し、これでネクタイの首はりの分が出來た事になります。こゝで增し糸をして前の編方にうります。



第二百八十四圖

增し糸の仕方　第二百八十五圖(ロ)の如く、黒リリーヤーンを、今編んで居る糸の二倍の長さに切り、白の芯糸に

掛けます。同(ハ)圖の如く、その掛けた糸の一本と、もとの芯糸の白と二本を芯にして薄茶で巻き結びを一回、次は、白にそへた芯糸の黒で巻き結びを一回、眞中から左右に向つて、二本づゝ糸を取つて巻き結びを五回づゝ致します。

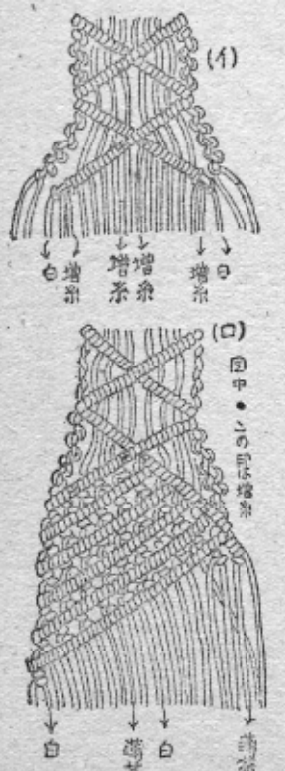


第二百八十五圖

其の時左側の巻き結びは二本のうちの左手の糸を芯に、右側の巻き結びは右手の糸を芯にします。

次は右側の増し糸の次の鼠色の糸を芯にして、左斜に巻き結びを端までいたします。次は今左斜に巻き結びをした糸を、中央から二本づゝ取つて左側を芯にして巻き結びを六ツします。

次は先に左斜に巻き結びをした芯の右一本置いた隣の糸を芯にして、前と同様に左斜に巻き結びをします。



第二百八十六圖

次は又中央から二本づゝ取つて、左側を芯にして巻き結びを七ツします。

このやうにして次々と右側一本置いた糸を芯にしては巻き結びをし、又二本づゝ取つては巻き結びをすることを五回繰り返しますと、右の端へ鼠色の糸が出ますから、其の芯糸を針でとめて左斜に端まで巻き結びをします。

次は又右端から二本づゝ取つて左側を芯にして、左端まで十二巻き結びをします。

かやうにして次々と、右端の糸を芯にしては斜に巻き結びを繰り返して行きますが糸が短かくなつたときには右端で一ツ結んでから増し糸をいたしますと薄茶と白の縞が斜にあらはれてまゐります。(第二百八十三圖參照)

ネクタイの短い方は凡そ三十糎位編みましたら、片方は段毎で一ツづゝ編み減し三角形にして兩方から巻き結び二回して止めます。

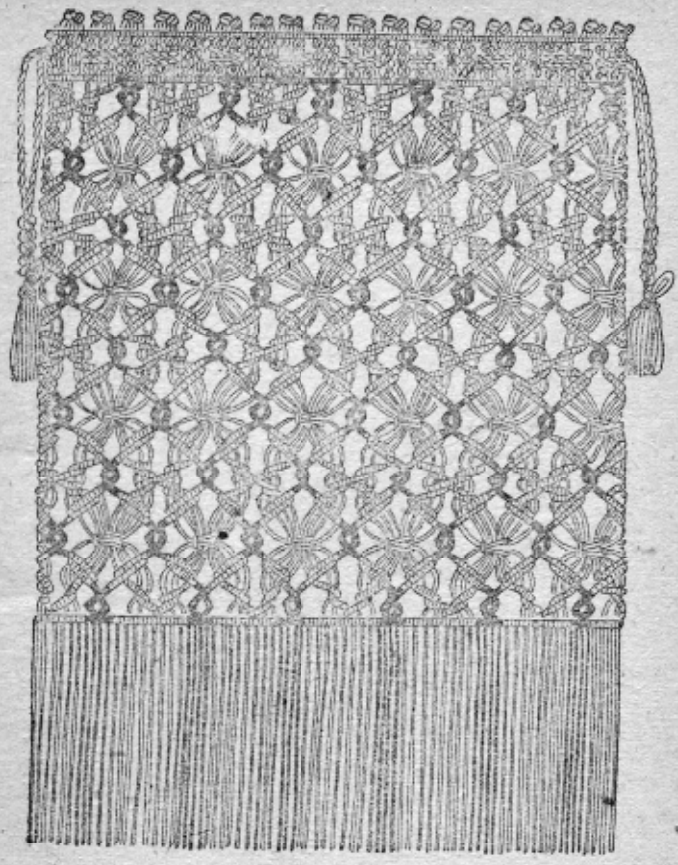
糸の先は一糎位殘して切り、丸くして裏から黒の絹糸でかがり付けます。

次は最初の中央へ戻りまして片方の長い方を編み始めます。背ははりは同じ模様を七度繰り返し前の編方にうつります。(但し長さは四十糎にして糸を止めます。)

手提袋

材料　リリヤーン時色(小束)八把、綠色四把。

糸は二色とも二米十五糎の長さに、時色を四十八本、緑を二十四本切つておきます。別に何色でも、コードに用ひる糸として一米十五糎の長さのものを三本用意します。

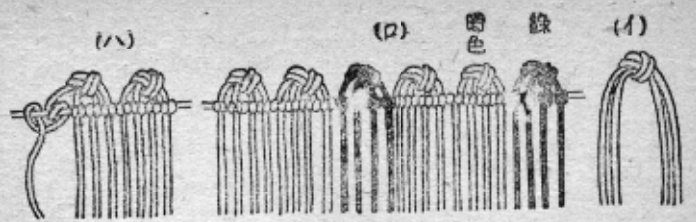


第二百八十七圖　田楽上り圖

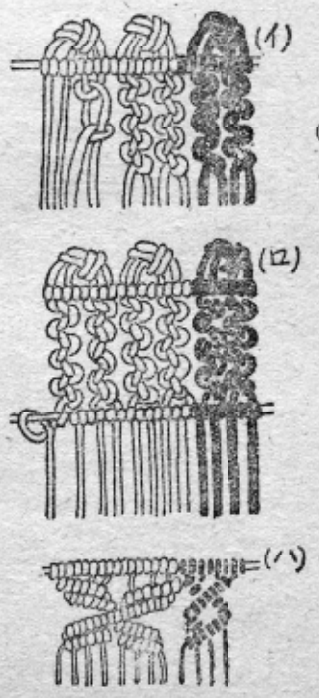
結び方　先づ第二百八十八圖(イ)のやうに、同じ色の糸を二本づゝ揃へ中央で一回結びます。それを同(ロ)圖のやうに緑を一ツ時色を二ツといふ配置にして、同(ハ)圖のやうに一本の糸をコードとして、全部を平に巻き結びをいたします。

次は第二百八十九圖(イ)のやうに鎖結びを八回致しまして同(ロ)圖のやうに別の一本の糸をコードとし、それに巻き結びをいたします。

次には、右端の緑四本で同(ハ)圖のやうな格子に巻き結びを致しますが、それは初めに二本づゝとつて向つて右の二本は左へ左の二本は右へと巻き結びを一回し、次は左を下に右を上に交叉して又再び左右へ一回づゝ巻き、こゝを角にいたしますために待針を打つて角を作り、更に左右から中央に向つて巻き、再び交叉して又それぞれ一回づゝ結んでおきます。



第二百八十八圖



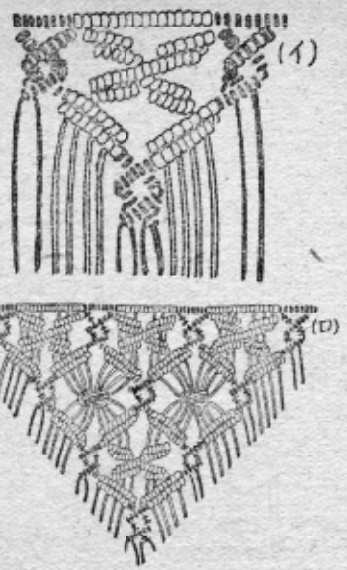
第二百八十九圖

次は第二百八十九圖(ハ)の左端の時色八本をもつて模様を作りますが、それは初め四本づゝとつて左右に分け、左

右とも三回づゝ二段に巻き結びをし、中央で交叉して又再び左右へ分けて三度づゝ二列結んでおきます。

このやうにして同圖の模様を十二回繰り返しましてそれを第一段といたします。

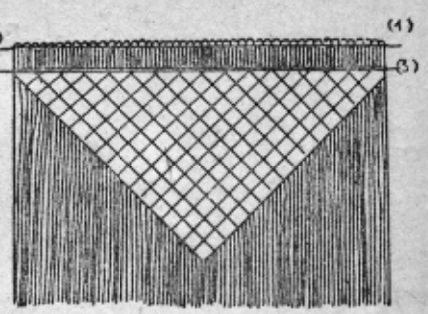
第二段の仕方は第二百九十圖(イ)のやうに第一段で出來た緑四本の格子の二本を殘し、一本づゝを芯にして、時色四本で二列巻き結びを左右共致します。次は芯糸の緑四本をもつて又格子を作る仕方を十二回繰り返しますと緑の格子の間へ時色が八本づゝ集つてまゐりますので、それをもつて第二百九十圖(ロ)の中程に出てゐる模様を作りますが、それは時色八本の中の六本を芯にして兩端の一本で七寶結びを一回いたします。そして前と同じやうに緑の二本を芯にして左右共二列づゝ巻き結びを致します。それを十二回繰り返します。



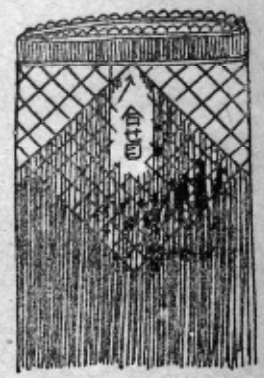
第二百九十圖

第三段は第一段の仕方を致します。以上は一段と二段を交互に編んでまゐりますが、その場合、兩端で同圖のやうに緑が二本、時色が四本といふ順序に糸が殘つてまゐります。

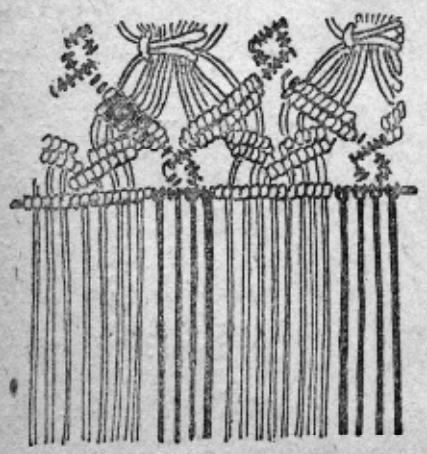
最初の段から數へまして八段編みますと、第二百九十五圖のやうに中央に三角形の模様が出來上ります。それから第二百九十一圖のコードの(イ)と(い)(ロ)と(ろ)とを結び合せまして第二百九十二圖のやうになります。次には兩方の殘つた糸と糸とで二段の仕方から始めて順々に前と同じやうに編んで揃へます。



第二百九十一圖



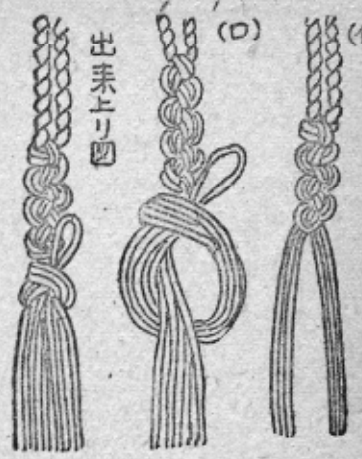
第二百九十二圖



第二百九十三圖

第二百九十三圖のやうにコードを別糸で入れまして一まはり巻き結びをいたします。そしてコードの糸は端と端とをしつかりと結び合せまして房は五糎位殘して糸を切つてしまひます。袋の底は時色の絹糸二本でとぢ合せます。

次は袋の口に付けます紐の作り方を申します。時色の糸を一米三十三糎の長さに四本切り二本合せてゆるく撚りを掛け上の鎖



第二百九十四圖

結びを二本づゝ抄つて互ひ違ひに通します。房の作り方は第二百九十四圖(イ)のやうに兩端を合せて鎖結びを五回して、そのところに同ロ圖(ロ)のやうに別の糸を添へ、かさりとして鎖結びをした糸と共に合せて一度に結びしめ、四糎位房に殘して切ります。最後に、コードに使つた糸の合せ目は同じ色の絹糸でしつかり裏からかゞり付け、さつと湯伸しをして全體の仕上げを致します。

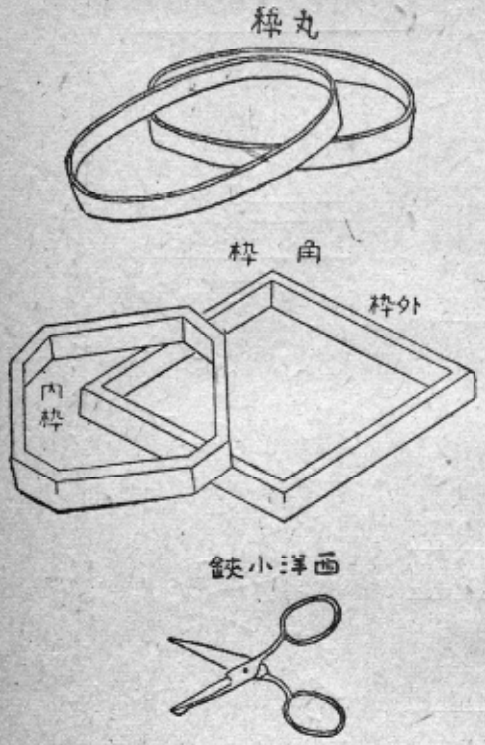
ドロンウオーク

ドロンウオークは布の縦糸又は横糸の一方を抜いて其のあとを別糸で種々の形に飾る手藝であります。

材料

麻布、木綿、絹布、其の他糊氣のない地質のあまり密でないもの、つまり糸を抜きやすいものを用ひ糸はカタン糸、絹糸、D・M・C糸等を用ひます。此の他、洗濯にたえ得る質の糸ならば使はれます。

用具



第二百九十五圖　用具

枠、西洋小鋏、針、目盛定規、等

であります。

枠は丸枠と角枠との二種がありまして、テーブル掛などのやうな大物になりますと、角枠を用ひますが、大抵は丸枠で間に合ひます。

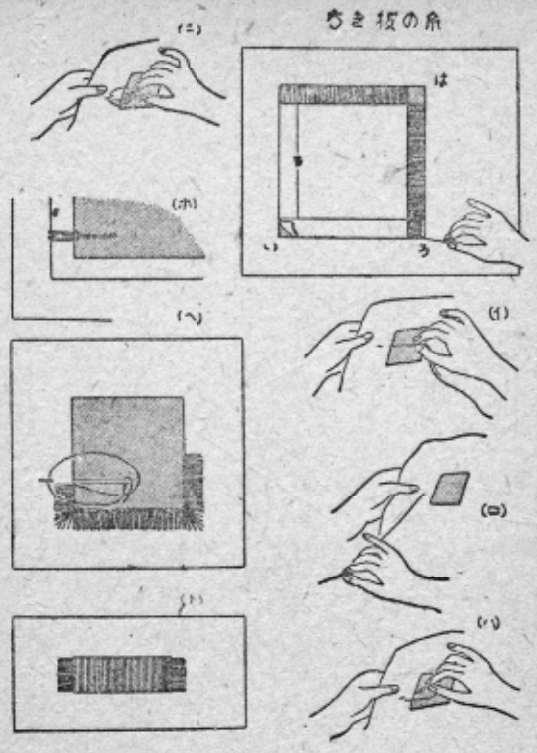
西洋小鉄は先の鋭利なもので、布目を切る時便利に出來て居ります

針は普通の縫針又はメリケン針を用ひます。

定規は目盛りのしてある三角定規を用ひますが、普通尺度でも差支へありません。

糸の抜き方

第二百九十六圖



第二百九十六圖のやうに用布に抜くべき寸法を測つて、(いとろ)のところに印を附けまして、其の印の一番上か下かの糸を一本だけ切り、針の先で一糎位引き出して手に持ち、その一本を終りの印まで完全に抜き取り、これより次々と寸法通りに抜きます。

穴かゞりの仕方

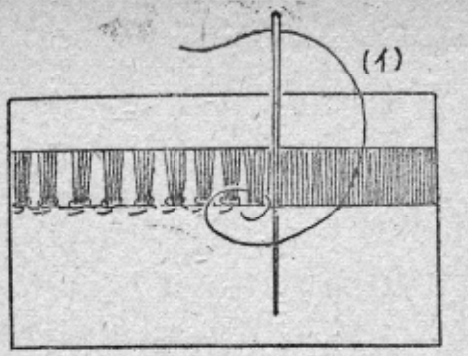
糸の抜き方圖の(は)の部分のやうに縦横の糸を抜きますと、そこに四角の穴が空きます。第二百九十六圖(ト)のやうに縦、又は横の一方の糸だけを抜いた場合は、兩端に切り口が出來ます。此の切り口の糸のほつれを防ぐために、他の縢りをしない前に必ず穴かゞりを致します。

穴かゞりは普通ボタンの穴かゞりと同様でありまして木綿又は麻布の場合は六十番のカタン糸で、先づ同(イ)圖のやうに切り口より凡そ三粍位のところに下から上へ針を出し、同(ロ)圖のやうに針を抜き、(ハ)圖で最初に(イ)圖でさした針目より糸一本おいた次へ又下から上へ刺しまして、次は(ニ)圖のやうに針の先へ「の」の字形に糸を下から上向きに掛けて抜きますと、(ホ)圖のやうに切り口に糸が被さるやうになります。これを次々にして角は(ヘ)圖のやうに自然に丸味を付けて縢つてまゐります。

なほ縢り糸は用布の地質によつて異るもので、例へば絹ハンカチのやうなものには羽二重糸などを使ひますが、大概においては用布の織糸よりもやゝ細い糸を適當と致します。

基礎縢り

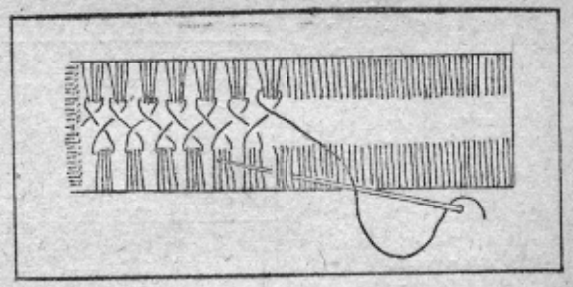
ヘムステッチ（用布キヤラコ、用糸五十番）



第二百九十七圖　ヘムステッチ

布の横糸を凡そ八糎抜き、糸目五六本を抄ひ、針を抜き出し第二百九十七圖(イ)のやうに針を下から上へ抜き、前に抄つた目に戻り下から表へ掛けて針を出して締めます。これは普通「片ヘム」と云ひ「兩ヘム」とはこの仕方を兩側にするのであります。第二百九十七圖(ロ)參照（以下ヘムステッチをヘムと略す場合もあります。）

千鳥ヘムステッチ

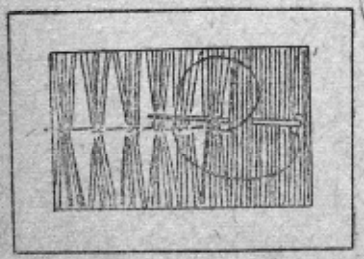


第二百九十八圖　千鳥ヘムステッチ

糸を抜く時、中央をおよそ五糎程殘して中心とし、その兩側を六糎位抜きます。左の中央から針を出し右から左へ糸を四五本抄ひ上下交互にして千鳥掛けのやうに縢ります。（第二百九十八圖參照）

皷形縢り

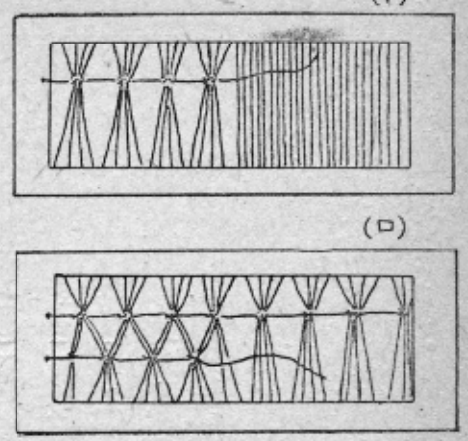
二糎の巾に糸を抜き、兩側を五本づゝ抄つてヘムステッチをします。次に第二百九十九圖の如く左の糸の眞中に糸を結び付け、ヘムステッチを三組抄つて一ツ結びます。結び方は、糸で平假名の「の」の字を書くやうにして、その字の中へ針を出すのであります。糸の引き方は一度左に引き、更に右へ引いてしめます。



第二百九十九圖　皷形縢り

皷形四本結び別け縢り

巾二糎半に糸を抜き兩ヘムを致します。

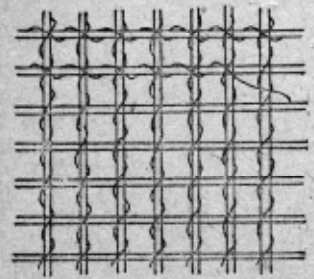


第三百圖　鼓形四本結び縢り

第三百圖(イ)の如く左横三分の一の所に糸を結び付け、ヘムの糸四組抄つて結び、次々と右へかゞります。次は同(ロ)圖の如く殘りの二分の一の所から始めて、前の結び同の半分をとつて、即ち最初の一ツはヘム二組を結び、その次からヘムを四組づゝ結びますと、(ロ)圖のやうに結び目が上と下と交互になつらぶやうになります。

格子縢り

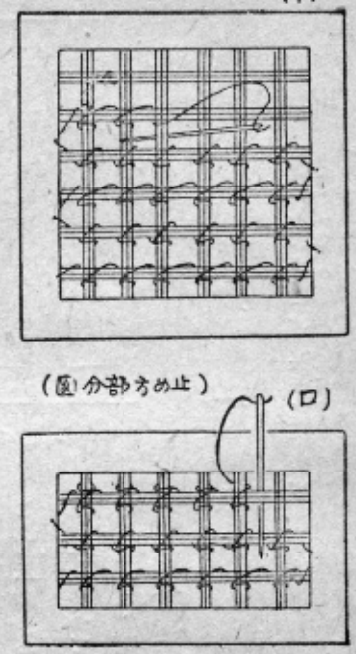
これは縦横の格子に糸を抜き、それを縢るので、糸の抜き方は二本抜いて二本殘し、つまり二本づゝの格子を作ります。格子の糸に一回づゝ縦横に第三百一圖の如く巻いていきます。



第三百一圖　格子縢り

石目縢り

格子縢りの抜き方と同じ仕方で、三本づゝの格子に抜きます。これは裏面を見て縢ります。一番手前の三本の左端に糸を結び附け、一段、「初め上から下へ縦に抄ひ、次に手前の横を右から左へ抄ひ、上から下へ縦を抄ふ。」これを繰り返して終りは右横を一ツからんで、次段の三本の右端へ針を運びます。(第三百二圖(イ)參照)



第三百二圖　石目縢り

二段、先づ左から右へ進むやうに布を持ち變へておきます。上から下へ縦を抄ひ向ふ側の横を右から左へ抄ひます。次は上から下へ縦に抄ふ方法を一段、二段と繰り返します。一番最後の段では手前の横と向ふ側の横を右から左へ兩方を抄つて止めます。(同ロ圖)、この縢方は主に裏の模様などに應用されます。

籠の目縢り

石目縢りと同様に糸を三本づゝの格子に抜き、これは表を見て縢ります。

一、一番手前の格子の右端中央へ糸を結び附け最初の格子は飛ばして糸は裏側を通つて其の次の格子の中へ針先を

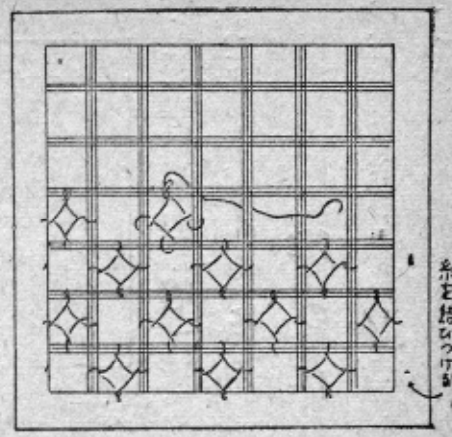
出します。

二、向つて左を左から右へ抄ふ。この時、糸はたゞ抄ふばかりでなく第三百三圖の如く、一ツ撚つて次にうつります。

三、上を、上から下へ抄ひ右から左へ抄ひます。

四、裏側を通つた糸と手前の三本を合せて抄ひ、一回針に糸を巻き付けて抜き糸をしめます。これで一ツの籠の目が出來る。これを一格子おきに致しまして、二段目は一段目の模様のない格子へ嵌つて、交互に模様を入れてまゐります。

この縁りは、多く花などに應用されてゐます。



第三百三圖　籠の目編み

應用編

遠足用手提袋

材料　麻布三十糎巾長さ五十三糎（袋用布）、同八糎巾長さ三十五糎（手の分）、D・M・C の五番白色一把、同二十五番茶色一把。



第三百四圖　遠足用手提袋

糸の抜き方

一、先づ、第三百五圖の如く、袋の口になる方を上から五糎下つて、五本横糸を抜きます。

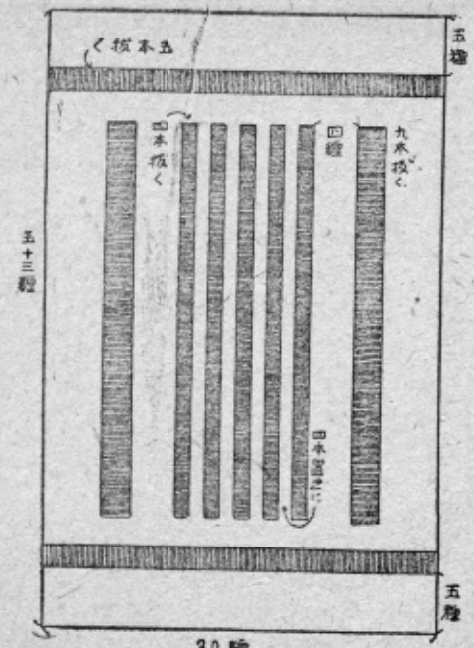
二、次は、この横の抜いた所から八粍位離れた所から中央に五ツの縦縞を作ります。圖の如く、縦糸を四本おきに四本づゝ抜きます。

三、五本の縦が抜けましたら、その兩側へ四糎離して九本づゝ抜きます。

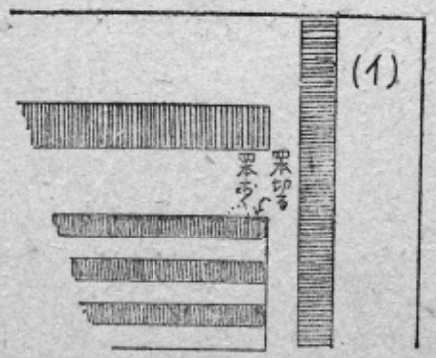
四、第三百六圖（イ）の如く五ツの縦縞を格子縞に致します。それは横糸を四本おきに四本抜きます。横糸を抜く場合は、片側だけ數を間違へぬやうに鉄を入れて「四本は切り、四本はおく」を續けます。そして切つた方の側を同ロ圖（ロ）の如く重しでおさへておき、左

手で切らない側の抜くべき糸の根元を強く持つて針先で一本づゝ引き出して、順々に抜いてゆきます。

五、抜いた横糸が片側へ集まりますから第三百六圖(ハ)の如くその方を眞直に折つて鋏で切り取ります。



第三百五圖　手提袋糸の抜き方



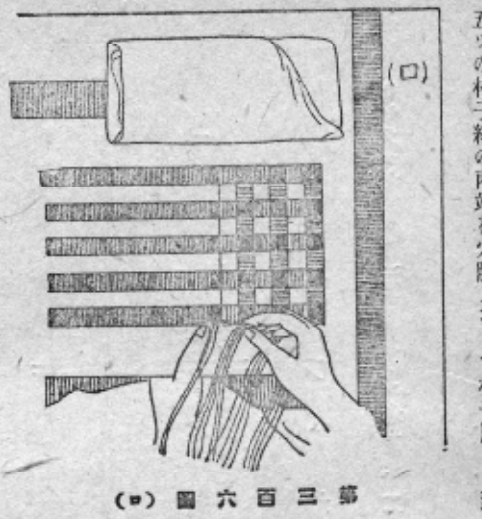
第三百六圖(イ)　手提袋糸の抜き方順序

縢り方

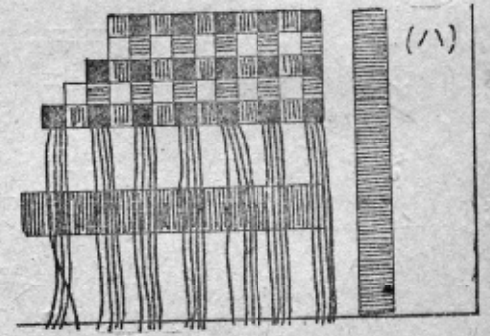
一、口の方を兩側共、四耗に折り、最初の糸を抜いたところへその折目をあてゝ假縫をかけ、茶のD・M・C二十五番糸で片へムステッチを致します。

二、九本抜いた縦縞の兩端に同じ糸で穴縢りをして皺形縢りを致します。(糸は三本抄ふ)

三、五ツの格子縞の兩端を穴縢りをして格子縢りを致します。



第三百六圖(ロ)



第三百六圖(ハ)

四、花は鎖中の格子の上から六ツ目を中心として白のD・M・C五番糸で第三百七圖の(1)より(7)までの順序で縢ります。

袋の縫ひ方

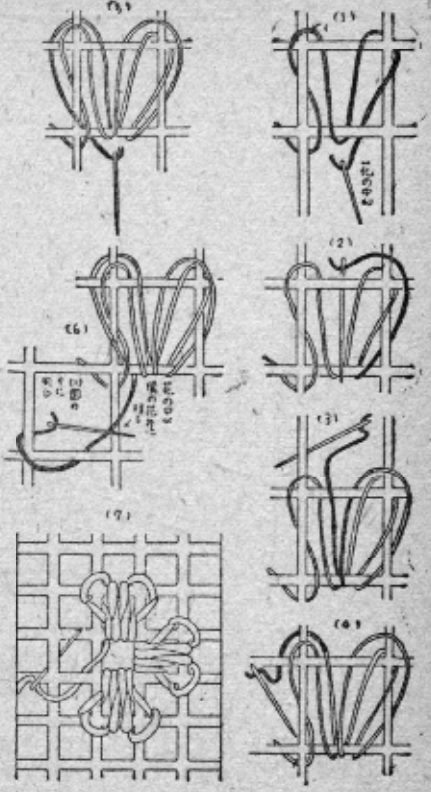
テーブル掛

材料　キヤラコ巾四角、三十番カタン糸一個、二十番新カタン糸少々。

糸の抜き方

第三百九圖の如き寸法に、四方及び内側四隅の糸を抜きます。（糸を抜く目標をするには青花を使用いたします）

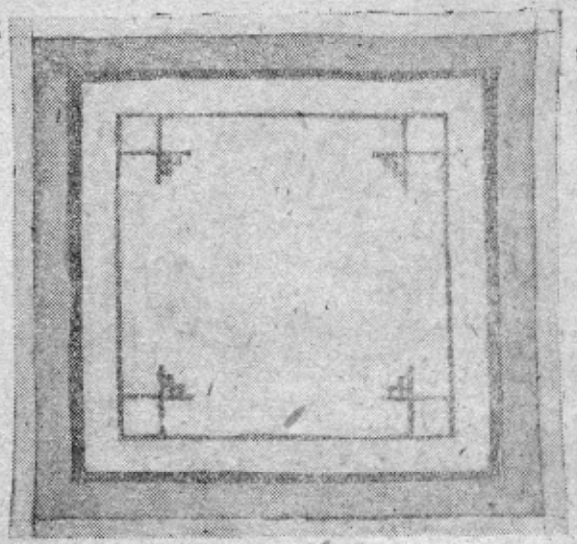
縢り方　（第三百八圖出來上り寫眞參照）



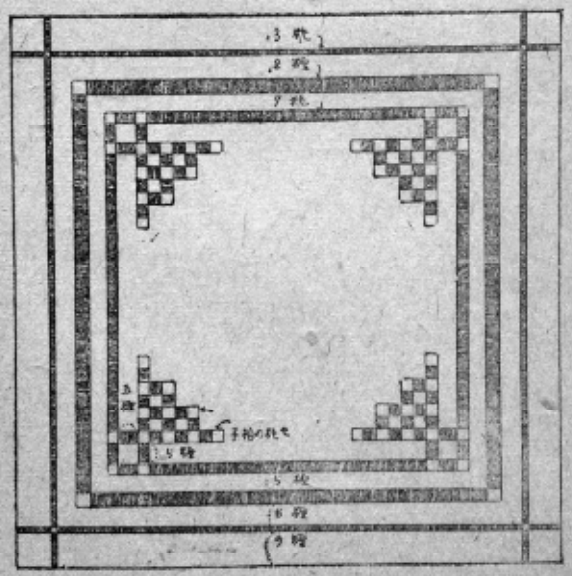
第三百七圖　格子縢り

二八二

兩脇を縫ひ、底の兩角を三糎縫ひ、手の布は丈を二ツに切つて四ツ折に縫ひ、裏側から付けます。用布の地質によつては適當な裏布を用ひます。



第三百八圖　テーブル掛出來上り



第三百九圖　糸の抜き方

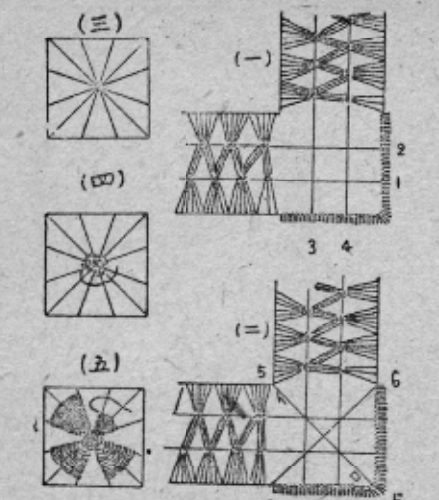
一、最初に外側の九糎を端より一糎に折り、次に四糎に折つて三ツ折とし鋏をかけ、三十番の糸で雨へムステッチを致します。

二、次に内側の二糎に抜いたところは同じ糸で先づ二方に穴隱りをして、第三百十圖(一)の1234の順に糸を付け

鼓形四本結び別け縢りを致します。同(二)圖の５６の糸はあとから別に渡します。

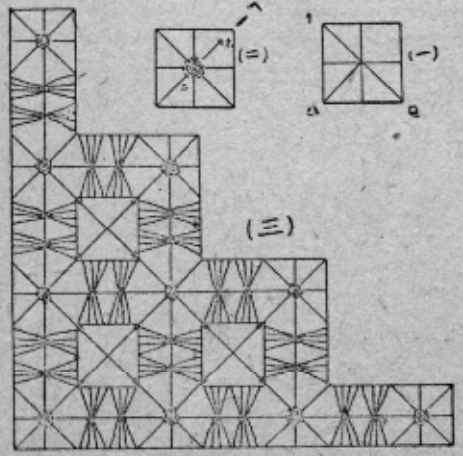
三、同(二)圖のイからロに針を入れて裏から糸をしめますと同(三)圖のやうになります。

四、次は二十番の糸で、中心を二本づゝ抄つて二回織ります。(同(四)圖)



第三百十圖　縢り方

五、同(五)圖の如く隅の一本を中にして三本の糸を抄つて（やはり二十番の糸）織り、裏をくゞらせて中心へ返し又次の三本を織ります。



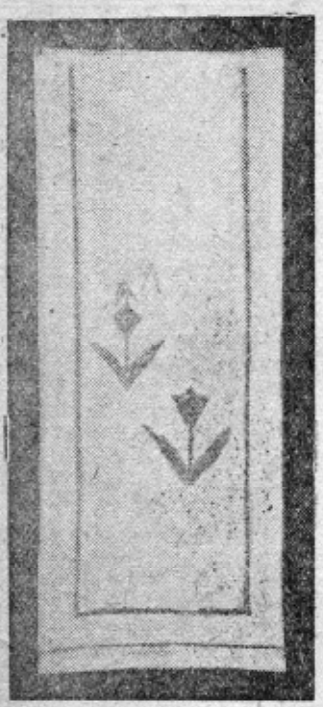
第三百十一圖　鼓形四本結び縢り

六、次の内側七粁抜いたところは三十番で（凡そ三粍半位の巾に抄つて）鼓形縢りをし、格子に明いた個所へは水玉縢りを致します。水玉縢りとは第三百十一圖(一)の如く(イ)から(ロ)、(ロ)から(ハ)に針を出し（但し(ロ)から(ハ)は裏側を通る）中心で一ツ結び一本づゝ抄つて三回織り四回目は同(二)圖(ニ)から(ホ)に針を通して(ヘ)に止めます。

七、四隅の模様は第三百十六圖(三)の如く水玉縢りと鼓形縢りを交互に致します。（但し一格子毎に糸を切らず）その一間々々の殘つた布の上は、端で一ツ結び、斜に渡し乍ら續けて縢ります。

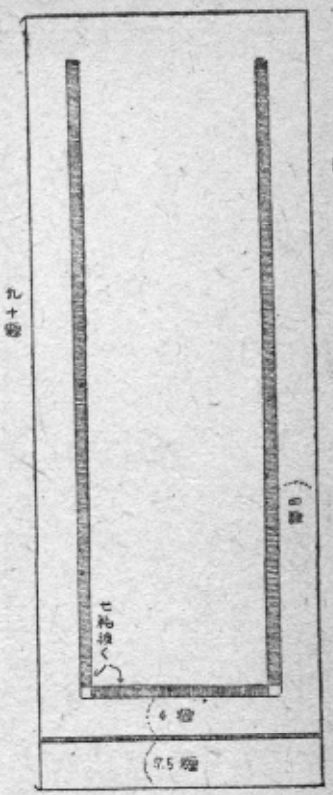
鏡掛け

材料　クリーム色薄地の麻布巾三十四糎、長さ九十糎、四十番及び百番カタン糸一個宛。



第三百十二圖　鏡掛出來上り

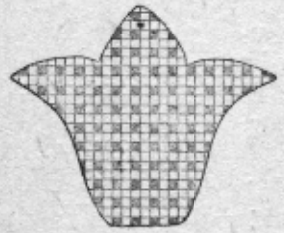
糸の抜き方　第三百十三圖の如く糸を抜き次にチューリップの花と葉の圖案は第三百十四圖、第三百十五圖を參考にして適當に擴大し厚紙に描き、切抜いて用布の上に適宜に配置して周圍を描き寫します。



第三百十三圖

と横にして格子に致します。

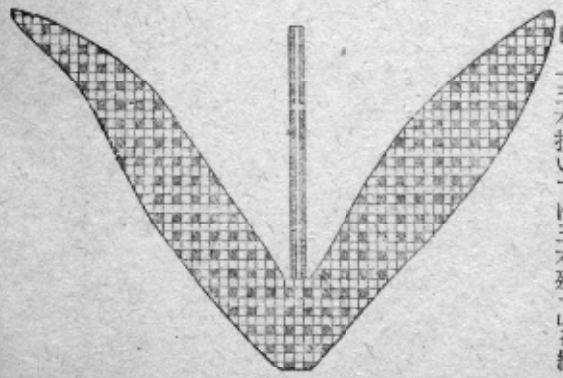
嚢の方の莖は第三百十六圖(イ)のやうに三本抜き、花の方の莖は同口圖のやうに中央に五本殘し、その兩側を三本づゝ抜きます。



第三百十四圖

縢り方　(第三百十二圖出來上り寫眞參照)

一、先づ縦の兩端と鏡掛の裏側に折り返る分の端を六粍に折り、それを三ツ折りにミシンを掛けます。

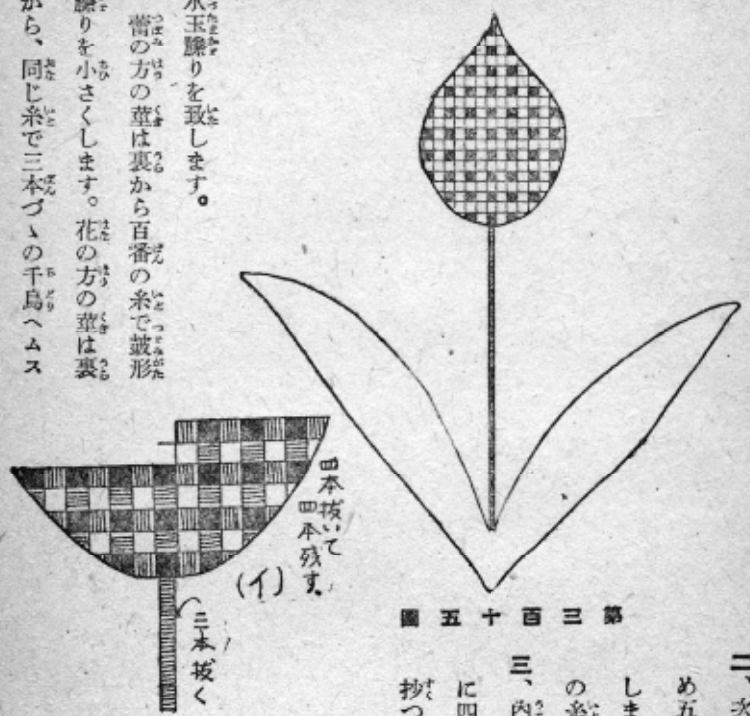


二、次に鏡掛の垂れとなる七糎半殘した方を始め五粍に折り、次に三糎半に折つて前に說明しました手提袋のやうに縫をかけて、四十番の糸で兩へムステッチを致します。

三、內側の七粍抜いたところは、先づ布の裁目に四十番糸で穴縢りを致します。次に、八本抄つて鏡形縢りをし、下の二ケ所の格子には

水玉縢りを致します。

四、嚢の方の莖は裏から百番の糸で鏡形縢りを小さくします。花の方の莖は裏から、同じ糸で三本づゝの千鳥へムス



第三百十五圖

第三百十六圖

テッチを致します。

五、花と當は表から百番の糸で鎖の目勝りをし、葉は全部裏から右目勝り、糸はやはり百番を用ひます。

六、鏡の裏側に折り返る方は、ホツクを附けて合せるやうに致します。

毛絲編物全集　終

現代手藝全書上巻改題
毛絲編物全集
定價金百五拾圓

昭和廿二年十一月五日印刷
昭和廿二年十一月十五日發行

著者　大妻コタカ
東京都千代田區西神田二ノ二

發行者　橋口喜佐子
東京都千代田區神田三崎町一ノ一

印刷者　米倉清
東京都千代田區神田三崎町一ノ一

印刷所　東京印刷工業株式會社

發行所　圖書出版　株式會社　女子教育社
東京都千代田區西神田二ノ二
振替東京七六七四四

不許複製

日本出版配給株式會社　元給配

現代手藝全書

下巻

大妻技藝學校長
大妻高等女學校長
大妻コタカ著

東京 女子教育社

謹啓　長らく廣告宣傳中の當社書籍やうやく全巻出來上りましたから、多少に關らず御註文願ひます。
直接御註文は定價に送料を加へ爲替にて御送金願います。

東京都千代田區西神田二丁目二番地
株式會社 女子教育社
電話九段(33)一八九五番 振替東京七六七四番

大妻女子専門學校洋裁部前主任 東京洋裁實習學院長 加藤雀吉先生著　送料各15圓
最新洋裁全書 上巻 A5版 328頁 定價185圓
最新洋裁全書 下巻 A5版 364頁 定價185圓

大妻コタカ先生著　送料各15圓
現代手藝全書 上巻 編物編 B6版 238頁 定價150圓
現代手藝全書 下巻 刺繍編 造花編 A5版 358頁 定價185圓

大妻コタカ先生著　送料15圓
現代和洋裁縫全書 B6版 880頁 定價285圓

研文書院編輯部編　ペン字草書入　送料10圓
新辭林 三六版 360頁 定價60圓

日本華道普及會編　生花講座池坊編　アートロ綺12頁入
池の坊生花の手ほどき B6版 200頁 定價135圓　送料1圓

榮養と料理の會編　送料15圓
榮養料理の作り方 B6版 620頁 定價185圓

井上千圃編著　二色刷32頁入
圖解式ペン習字 書道寶典 B版 156頁 定價45圓　送料10圓

佐藤榮祐著　送料10圓
幸福なる結婚 B6版 120頁 定價35圓

原麗山編書
ペン習字併用 現代女子手紙文 B6版 184頁 定價45圓　送料10圓

大妻コタカ先生著(中等學校家事科參考書)(拾二月末出來豫定)
家事全書 B6版 600頁 定價250圓

二、刺繍編

刺繍について……二八九

日本刺繍

用具と使用法……二九〇

基礎編

平縫（ひらぬひ）……三〇一
肉入縫（にくいりぬひ）……三〇二
纏縫（まつひぬひ）……三〇三
菅縫（すがぬひ）……三〇三
玉縫（たまぬひ）……三〇四
すから縫……三〇四
星縫（ほしぬひ）……三〇五
絞縫（しぼりぬひ）……三〇五
抑縫（さしぬひ）……三〇六
網代縫（あじろぬひ）……三〇六
金銀糸縫（きんぎんし ぬひ）……三〇七
平埋縫（ひらうめぬひ）……三〇八
友禅縫（いうぜんぬひ）……三〇九
紹縫（ろぬひ）……三一〇
織縫（をりぬひ）……三一〇
紋縫（もんぬひ）……三一一

應用編

額面（櫻の折枝）……三一一
壁掛（百合）……三一五
額面（菊）……三一八
半襟（薔薇）……三二一
額面（牡丹）……三二五
色紙（松に鶯）……三二八
小袱紗（松竹梅）……三三一
額面（竹に雀）……三三四
額面（鶏鳥と雛）……三三九
額面（充線縫の部）……三四四
額面（動物）……三四六
額面（風景）……三四九
紋章縫……三五三

佛蘭西刺繍

佛蘭西刺繍について……三六〇
用具……三六〇
糸の扱ひ方……三六一
用布の張り方……三六一
圖案……三六二
仕上げの方法……三六二

基礎縫

ダーニングステッチ……三六三
アウトラインステッチ……三六三
パックステッチ……三六四
シードステッチ……三六四
フレンチノットステッチ……三六五
レージーデージーステッチ……三六五
サウサンドフラワーステッチ……三六六
エイトストランドステッチ……三六七
チエインステッチ……三六七
ヘムステッチ……三六八
フラットステッチ……三六八
モーニンググローリーステッチ……三六九
オープンチエインステッチ……三六九
クロスステッチ……三七〇
ファースンチエインステッチ……三七一
フレンチローズステッチ……三七一
フエザーステッチ……三七一
コーチングステッチ……三七二
バスケットステッチ……三七二
ジャーマンノットステッチ……三七二
ランプラローズステッチ……三七三
カバーステッチ……三七四
パリオンステッチ……三七四
シャドーステッチ……三七五
ラインステッチ……三七六
ロングエンドショートステッチ……三七六
ネットステッチ……三七七
リーフステッチ……三七七
ボタンホールステッチ……三七八
アイレットステッチ……三七八
パッチドウオークステッチ……三七九
サテンステッチ……三七九
ハネイコームステッチ……三八〇
カットウオークステ

ッチ……三八〇
ロールステッチ……三八一
ケーブルステッチ……三八二

應用縫

肌襦袢の袖口……三八三
花瓶敷……三八四
草履表……三八六
手提袋……三八八
銃掛（動模様）……三九一
クッション（亂菊模様）……三九三
同（魚模様）……三九五
テーブルセンター……三九七
テーブル掛……三九九
机掛……四〇一
テーブル掛……四〇三
アップリケー（壁掛）……四〇五

カットウオーク（小丸卓置）……四〇九

リボン刺繍

リボン刺繍に就て……四一四

基礎縫

點縫……四一五
線縫……四一六
返し縫……四一六
割縫……四一七
一針縫……四一七
片切縫……四一八
鎖縫……四一九
相良縫……四一九
環縫……四一九
流相良縫……四二〇
平縫……四二〇
鎖止縫……四二一
出入縫……四二一
撚掛肉入縫……四二二
十字縫……四二二
松葉掛縫……四二三
斜縫……四二三
撚掛割縫……四二四
籠編縫……四二四
スカラ縫……四二五
縮詰縫……四二六
組縫……四二六
平重縫……四二七
巻重縫……四二七
鹿の子縫……四二八
網代縫……四二八
平縞目縫……四二九
環挿縫……四三〇
挿縫……四三〇
綴附縫……四三一

應用縫

鏡掛（薔薇）……四三三
ハンドバック（月見草）四三三
テーブル掛（ブドウ模様）四三五

三、摘畫編

摘細工について……四五七
摘畫の基礎……四五七
材料の選び方及用途……四五九
布の裁ち方……四六一
布の染め方……四六二
糊の伸べ方……四六二
ゼンセット及鋏の持ち方……四六三

基礎摘

角摘み……四六三
丸摘み……四六五
角摘み及丸摘み裏の切り方……四六六
丸摘み裏返しの折方……四六六
角摘み裏返しの折方……四六八

應用摘

卓上飾（椿）……四六九
柱掛（椿花）……四七二
藥玉（キク花）……四七五
壁掛（雛げし）……四八〇

クッション（椿に小鳥）……四三七
壁掛（ボンボングリヤ）……四三九
額面（松に鷹）……四四一
額面（山水）……四四五

ビーズ刺繍

ビーズ刺繍について……四四八
墓口（バラ）……四四八
手提袋……四五〇
鏡掛（孔雀）……四五一
花瓶敷（金魚）……四五四

四、リボンアート編
リボンアートについて……四八五
バラ……四八五
ダリア……四八八
五、クレープ造花編
クレープ造花について……四九一
カーネーション……四九三
花菖蒲……四九五
白百合……四九八
六、フラワーリリーアート編
フラワーリリーアートに就いて……五〇三
葉玉……五〇四
柿に繍眼児……五一〇
七、縫細工編
縫細工について……五一五
鶏の針差……五一五
内裏雛……五一九
羊人形……五二三
金魚……五四六
ピエロ……五七三
日本人形汐汲……五七六
日本人形猿まわし……五八四
凶事用紙幣包（真結）……五九四
日常用紙幣包（蝶結）……五九七
八、壜細工編
壜細工に就いて……五二九
揚羽蝶小袋……五二九
サンタークロースのお手玉……五三三
桃袋……五三三
蜻蛉……五三五
白鳥袋……五三七
九、人形細工編
人形細工について……五五五
玉子人形福助……五五五
玉子人形玉乗……五五八
クレープ人形……五六一
蠟面壁掛……五六四
西洋人形花賣乙女……五六七
十、贈答用折紙と水引結編
包紙の種類……五九〇
水引の結方……五九〇
水引の種類……五九〇
金銀包（蝶結）……五九一

萬物包ㇵ反物及箱の類等（花結）……五九九

パテンレース編

パテンレースについて……六〇八
基本縢……六〇九
リングの附け方……六一〇
繩縢……六一一
千鳥縢……六一二
龜甲縢……六一二
婚禮用反物包（眞結）……六〇三
胡麻鹽包……六〇三
龍目縢……六一三
格子縢……六一三
疊目縢……六一四
たばね縢……六一四
兩緣縢……六一四
蜘蛛の巢縢……六一五
藤蔓縢……六一五
劈斗……六〇五
寶縢……六一六
圖案と縢り方……六一六
花瓶敷……六一七
型紙のはづし方……六一七
生地の入れ方……六一七
仕上げ方……六一八

文化刺繍編

文化刺繍について……六一八
刺繍針の構造と使用法……六二〇
基本刺……六二一
潰し刺……六二一
斜刺……六二一

肉付刺……六二一
玉刺……六二二
ピロード刺……六二三

絽刺

絽刺に就て……六二四
卷き縫……六二六
飛び縫……六二六

紗刺

紗刺に就て……六二九
斜縫……六三〇

押繪

押繪に就て……六三一
輪刺……六三二
節刺……六三二
環縫……六三二

綴編

絣縫……六二七
鹿子縫……六二七
變り卷縫……六二七
風景の刺し方と圖案に就て……六三三
變り飛び縫……六二八
絽刺墓口の刺し方……六二八
變り縫……六三〇
紗刺應用名刺入……六三一

綴編

絣縫……六三〇
綴縫……六三〇
押繪の基本……六三一

袋物編

袋物に就て……六三二
名刺入の作り方……六三四
墓口の作り方(二種)……六三六

手藝染色編

蔦縞染について……六三八
蠟の溶し方……六三八
筆の使ひ方……六三九
蠟抜……六四〇
着色して染める方法……六四〇
版畫染……六四一
芋版染……六四一
蠟版染……六四二
蓮版染……六四二
木葉染……六四三
摺込染……六四三
霧吹染……六四四

アップリケ編

アップリケに就て……六四五
應用の範圍……六四五
アップリケの基本……六四五

目次(終)

鯨尺をメートル尺に換算した表

	一分	二分	三分	四分	五分	六分	七分	八分	九分	一寸
	0.4	0.8	1.2	1.5	1.9	2.3	2.7	3.	3.4	3.8
一寸一分	4.2	4.5	4.9	5.3	5.7	6.1	6.4	6.8	7.2	7.6
二寸一分	8.	8.3	8.7	9.1	9.5	9.8	10.2	10.6	11.	11.4
三寸一分	11.7	12.1	12.5	12.9	13.3	13.6	14.	14.4	14.8	15.2
四寸一分	15.5	16.	16.3	16.7	17.	17.4	17.8	18.2	18.6	19.
五寸一分	19.3	19.7	20.	20.6	20.8	21.2	21.6	22.	22.3	22.7
六寸一分	23.1	23.5	23.9	24.2	24.6	25.	25.4	25.8	26.1	26.5
七寸一分	26.9	27.3	27.7	28.	28.4	28.8	29.3	29.6	29.9	30.3
八寸一分	30.7	31	31.5	31.8	32.2	32.5	33.	33.3	33.7	34.
九寸一分	34.5	34.8	35.2	35.6	36.	36.4	36.7	37.1	37.5	38
一尺	38.	76.	114.	151.	189.	227.	265.	303.	340.	379
一丈一尺	417.	455.	515	530.	568.	606.	644.	682.	719.	757.

メートルを鯨尺に換算した表

	一厘	二厘	三厘	四厘	五厘	六厘	七厘	八厘	九厘	一分
	0.5分	1.分	1.5分	2.分	2.5分	3.分	3.5分	4.分	4.5分	5.分
一厘	5.5分	6.分	6.5分	7.分	7.5分	8.分	8.5分	9.分	9.5分	10.分
二厘	10.5分	11.分	11.5分	12.分	12.5分	13.分	13.5分	14.分	14.5分	15.分
三厘	15.5分	16.分	16.5分	17.分	17.5分	18.分	18.5分	19.分	19.5分	20.分
四厘	20.5分	21.分	21.5分	22.分	22.5分	23.分	23.5分	24.分	24.5分	25.分
五厘	25.5分	26.分	26.5分	27.分	27.5分	28.分	28.5分	29.分	29.5分	30.分
六厘	30.5分	31.分	31.5分	32.分	32.5分	33.分	33.5分	34.分	34.5分	35.分
七厘	35.5分	36.分	36.5分	37.分	37.5分	38.分	38.5分	39.分	39.5分	40.分
八厘	40.5分	41.分	41.5分	42.分	42.5分	43.分	43.5分	44.分	44.5分	45.分
九厘	45.5分	46.分	46.5分	47.分	47.5分	48.分	48.5分	49.分	49.5分	50.分
一分	50.5分	51.分	51.5分	52.分	52.5分	53.分	53.5分	54.分	54.5分	55.分
一分一厘	55.5分	56.分	56.5分	57.分	57.5分	58.分	58.5分	59.分	59.5分	60.分
一分二厘	60.5分	61.分	61.5分	62.分	62.5分	63.分	63.5分	64.分	64.5分	65.分
一分三厘	65.5分	66.分	66.5分	67.分	67.5分	68.分	68.5分	69.分	69.5分	70.分
一分四厘	70.5分	71.分	71.5分	72.分	72.5分	73.分	73.5分	74.分	74.5分	75.分
一分五厘	75.5分	76.分	76.5分	77.分	77.5分	78.分	78.5分	79.分	79.5分	80.分
一分六厘	80.5分	81.分	81.5分	82.分	82.5分	83.分	83.5分	84.分	84.5分	85.分
一分七厘	85.5分	86.分	86.5分	87.分	87.5分	88.分	88.5分	89.分	89.5分	90.分
一分八厘	90.5分	91.分	91.5分	92.分	92.5分	93.分	93.5分	94.分	94.5分	95.分
一分九厘	95.5分	96.分	96.5分	97.分	97.5分	98.分	98.5分	99.分	99.5分	100.分
二分	100.5分	101.分	101.5分	102.分	102.5分	103.分	103.5分	104.分	104.5分	105.分
二分一厘	105.5分	106.分	106.5分	107.分	107.5分	108.分	108.5分	109.分	109.5分	110.分
二分二厘	110.5分	111.分	111.5分	112.分	112.5分	113.分	113.5分	114.分	114.5分	115.分
二分三厘	115.5分	116.分	116.5分	117.分	117.5分	118.分	118.5分	119.分	119.5分	120.分
二分四厘	120.5分	121.分	121.5分	122.分	122.5分	123.分	123.5分	124.分	124.5分	125.分
二分五厘	125.5分	126.分	126.5分	127.分	127.5分	128.分	128.5分	129.分	129.5分	130.分
二分六厘	130.5分	131.分	131.5分	132.分	132.5分	133.分	133.5分	134.分	134.5分	135.分
二分七厘	135.5分	136.分	136.5分	137.分	137.5分	138.分	138.5分	139.分	139.5分	140.分
二分八厘	140.5分	141.分	141.5分	142.分	142.5分	143.分	143.5分	144.分	144.5分	145.分
二分九厘	145.5分	146.分	146.5分	147.分	147.5分	148.分	148.5分	149.分	149.5分	150.分
三分	150.5分	151.分	151.5分	152.分	152.5分	153.分	153.5分	154.分	154.5分	155.分
三分一厘	155.5分	156.分	156.5分	157.分	157.5分	158.分	158.5分	159.分	159.5分	160.分
三分二厘	160.5分	161.分	161.5分	162.分	162.5分	163.分	163.5分	164.分	164.5分	165.分
三分三厘	165.5分	166.分	166.5分	167.分	167.5分	168.分	168.5分	169.分	169.5分	170.分
三分四厘	170.5分	171.分	171.5分	172.分	172.5分	173.分	173.5分	174.分	174.5分	175.分
三分五厘	175.5分	176.分	176.5分	177.分	177.5分	178.分	178.5分	179.分	179.5分	180.分
三分六厘	180.5分	181.分	181.5分	182.分	182.5分	183.分	183.5分	184.分	184.5分	185.分
三分七厘	185.5分	186.分	186.5分	187.分	187.5分	188.分	188.5分	189.分	189.5分	190.分
三分八厘	190.5分	191.分	191.5分	192.分	192.5分	193.分	193.5分	194.分	194.5分	195.分
三分九厘	195.5分	196.分	196.5分	197.分	197.5分	198.分	198.5分	199.分	199.5分	200.分
四分	200.5分	201.分	201.5分	202.分	202.5分	203.分	203.5分	204.分	204.5分	205.分
四分一厘	205.5分	206.分	206.5分	207.分	207.5分	208.分	208.5分	209.分	209.5分	210.分
四分二厘	210.5分	211.分	211.5分	212.分	212.5分	213.分	213.5分	214.分	214.5分	215.分
四分三厘	215.5分	216.分	216.5分	217.分	217.5分	218.分	218.5分	219.分	219.5分	220.分
四分四厘	220.5分	221.分	221.5分	222.分	222.5分	223.分	223.5分	224.分	224.5分	225.分
四分五厘	225.5分	226.分	226.5分	227.分	227.5分	228.分	228.5分	229.分	229.5分	230.分
四分六厘	230.5分	231.分	231.5分	232.分	232.5分	233.分	233.5分	234.分	234.5分	235.分
四分七厘	235.5分	236.分	236.5分	237.分	237.5分	238.分	238.5分	239.分	239.5分	240.分
四分八厘	240.5分	241.分	241.5分	242.分	242.5分	243.分	243.5分	244.分	244.5分	245.分
四分九厘	245.5分	246.分	246.5分	247.分	247.5分	248.分	248.5分	249.分	249.5分	250.分
五分	250.5分	251.分	251.5分	252.分	252.5分	253.分	253.5分	254.分	254.5分	255.分
五分一厘	255.5分	256.分	256.5分	257.分	257.5分	258.分	258.5分	259.分	259.5分	260.分
五分二厘	260.5分	261.分	261.5分	262.分	262.5分	263.分	263.5分	264.分	264.5分	265.分
五分三厘	265.5分	266.分	266.5分	267.分	267.5分	268.分	268.5分	269.分	269.5分	270.分
五分四厘	270.5分	271.分	271.5分	272.分	272.5分	273.分	273.5分	274.分	274.5分	275.分
五分五厘	275.5分	276.分	276.5分	277.分	277.5分	278.分	278.5分	279.分	279.5分	280.分
五分六厘	280.5分	281.分	281.5分	282.分	282.5分	283.分	283.5分	284.分	284.5分	285.分
五分七厘	285.5分	286.分	286.5分	287.分	287.5分	288.分	288.5分	289.分	289.5分	290.分
五分八厘	290.5分	291.分	291.5分	292.分	292.5分	293.分	293.5分	294.分	294.5分	295.分
五分九厘	295.5分	296.分	296.5分	297.分	297.5分	298.分	298.5分	299.分	299.5分	300.分
六分	300.5分	301.分	301.5分	302.分	302.5分	303.分	303.5分	304.分	304.5分	305.分
六分一厘	305.5分	306.分	306.5分	307.分	307.5分	308.分	308.5分	309.分	309.5分	310.分
六分二厘	310.5分	311.分	311.5分	312.分	312.5分	313.分	313.5分	314.分	314.5分	315.分
六分三厘	315.5分	316.分	316.5分	317.分	317.5分	318.分	318.5分	319.分	319.5分	320.分
六分四厘	320.5分	321.分	321.5分	322.分	322.5分	323.分	323.5分	324.分	324.5分	325.分
六分五厘	325.5分	326.分	326.5分	327.分	327.5分	328.分	328.5分	329.分	329.5分	330.分
六分六厘	330.5分	331.分	331.5分	332.分	332.5分	333.分	333.5分	334.分	334.5分	335.分
六分七厘	335.5分	336.分	336.5分	337.分	337.5分	338.分	338.5分	339.分	339.5分	340.分
六分八厘	340.5分	341.分	341.5分	342.分	342.5分	343.分	343.5分	344.分	344.5分	345.分
六分九厘	345.5分	346.分	346.5分	347.分	347.5分	348.分	348.5分	349.分	349.5分	350.分
七分	350.5分	351.分	351.5分	352.分	352.5分	353.分	353.5分	354.分	354.5分	355.分
七分一厘	355.5分	356.分	356.5分	357.分	357.5分	358.分	358.5分	359.分	359.5分	360.分
七分二厘	360.5分	361.分	361.5分	362.分	362.5分	363.分	363.5分	364.分	364.5分	365.分
七分三厘	365.5分	366.分	366.5分	367.分	367.5分	368.分	368.5分	369.分	369.5分	370.分
七分四厘	370.5分	371.分	371.5分	372.分	372.5分	373.分	373.5分	374.分	374.5分	375.分
七分五厘	375.5分	376.分	376.5分	377.分	377.5分	378.分	378.5分	379.分	379.5分	380.分
七分六厘	380.5分	381.分	381.5分	382.分	382.5分	383.分	383.5分	384.分	384.5分	385.分
七分七厘	385.5分	386.分	386.5分	387.分	387.5分	388.分	388.5分	389.分	389.5分	390.分
七分八厘	390.5分	391.分	391.5分	392.分	392.5分	393.分	393.5分	394.分	394.5分	395.分
七分九厘	395.5分	396.分	396.5分	397.分	397.5分	398.分	398.5分	399.分	399.5分	400.分
八分	400.5分	401.分	401.5分	402.分	402.5分	403.分	403.5分	404.分	404.5分	405.分
八分一厘	405.5分	406.分	406.5分	407.分	407.5分	408.分	408.5分	409.分	409.5分	410.分
八分二厘	410.5分	411.分	411.5分	412.分	412.5分	413.分	413.5分	414.分	414.5分	415.分
八分三厘	415.5分	416.分	416.5分	417.分	417.5分	418.分	418.5分	419.分	419.5分	420.分
八分四厘	420.5分	421.分	421.5分	422.分	422.5分	423.分	423.5分	424.分	424.5分	425.分
八分五厘	425.5分	426.分	426.5分	427.分	427.5分	428.分	428.5分	429.分	429.5分	430.分
八分六厘	430.5分	431.分	431.5分	432.分	432.5分	433.分	433.5分	434.分	434.5分	435.分
八分七厘	435.5分	436.分	436.5分	437.分	437.5分	438.分	438.5分	439.分	439.5分	440.分
八分八厘	440.5分	441.分	441.5分	442.分	442.5分	443.分	443.5分	444.分	444.5分	445.分
八分九厘	445.5分	446.分	446.5分	447.分	447.5分	448.分	448.5分	449.分	449.5分	450.分
九分	450.5分	451.分	451.5分	452.分	452.5分	453.分	453.5分	454.分	454.5分	455.分
九分一厘	455.5分	456.分	456.5分	457.分	457.5分	458.分	458.5分	459.分	459.5分	460.分
九分二厘	460.5分	461.分	461.5分	462.分	462.5分	463.分	463.5分	464.分	464.5分	465.分
九分三厘	465.5分	466.分	466.5分	467.分	467.5分	468.分	468.5分	469.分	469.5分	470.分
九分四厘	470.5分	471.分	471.5分	472.分	472.5分	473.分	473.5分	474.分	474.5分	475.分
九分五厘	475.5分	476.分	476.5分	477.分	477.5分	478.分	478.5分	479.分	479.5分	480.分
九分六厘	480.5分	481.分	481.5分	482.分	482.5分	483.分	483.5分	484.分	484.5分	485.分
九分七厘	485.5分	486.分	486.5分	487.分	487.5分	488.分	488.5分	489.分	489.5分	490.分
九分八厘	490.5分	491.分	491.5分	492.分	492.5分	493.分	493.5分	494.分	494.5分	495.分
九分九厘	495.5分	496.分	496.5分	497.分	497.5分	498.分	498.5分	499.分	499.5分	500.分
一寸	500.5分	501.分	501.5分	502.分	502.5分	503.分	503.5分	504.分	504.5分	505.分
一寸一分	505.5分	506.分	506.5分	507.分	507.5分	508.分	508.5分	509.分	509.5分	510.分
一寸二分	510.5分	511.分	511.5分	512.分	512.5分	513.分	513.5分	514.分	514.5分	515.分
一寸三分	515.5分	516.分	516.5分	517.分	517.5分	518.分	518.5分	519.分	519.5分	520.分
一寸四分	520.5分	521.分	521.5分	522.分	522.5分	523.分	523.5分	524.分	524.5分	525.分
一寸五分	525.5分	526.分	526.5分	527.分	527.5分	528.分	528.5分	529.分	529.5分	530.分
一寸六分	530.5分	531.分	531.5分	532.分	532.5分	533.分	533.5分	534.分	534.5分	535.分
一寸七分	535.5分	536.分	536.5分	537.分	537.5分	538.分	538.5分	539.分	539.5分	540.分
一寸八分	540.5分	541.分	541.5分	542.分	542.5分	543.分	543.5分	544.分	544.5分	545.分
一寸九分	545.5分	546.分	546.5分	547.分	547.5分	548.分	548.5分	549.分	549.5分	550.分
二寸	550.5分	551.分	551.5分	552.分	552.5分	553.分	553.5分	554.分	554.5分	555.分
二寸一分	555.5分	556.分	556.5分	557.分	557.5分	558.分	558.5分	559.分	559.5分	560.分
二寸二分	560.5分	561.分	561.5分	562.分	562.5分	563.分	563.5分	564.分	564.5分	565.分
二寸三分	565.5分	566.分	566.5分	567.分	567.5分	568.分	568.5分	569.分	569.5分	570.分
二寸四分	570.5分	571.分	571.5分	572.分	572.5分	573.分	573.5分	574.分	574.5分	575.分
二寸五分	575.5分	576.分	576.5分	577.分	577.5分	578.分	578.5分	579.分	579.5分	580.分
二寸六分	580.5分	581.分	581.5分	582.分	582.5分	583.分	583.5分	584.分	584.5分	585.分
二寸七分	585.5分	586.分	586.5分	587.分	587.5分	588.分	588.5分	589.分	589.5分	590.分
二寸八分	590.5分	591.分	591.5分	592.分	592.5分	593.分	593.5分	594.分	594.5分	595.分
二寸九分	595.5分	596.分	596.5分	597.分	597.5分	598.分	598.5分	599.分	599.5分	600.分
三寸	600.5分	601.分	601.5分	602.分	602.5分	603.分	603.5分	604.分	604.5分	605.分
三寸一分	605.5分	606.分	606.5分	607.分	607.5分	608.分	608.5分	609.分	609.5分	610.分
三寸二分	610.5分	611.分	611.5分	612.分	612.5分	613.分	613.5分	614.分	614.5分	615.分
三寸三分	615.5分	616.分	616.5分	617.分	617.5分	618.分	618.5分	619.分	619.5分	620.分
三寸四分	620.5分	621.分	621.5分	622.分	622.5分	623.分	623.5分	624.分	624.5分	625.分
三寸五分	625.5分	626.分	626.5分	627.分	627.5分	628.分	628.5分	629.分	629.5分	630.分
三寸六分	630.5分	631.分	631.5分	632.分	632.5分	633.分	633.5分	634.分	634.5分	635.分
三寸七分	635.5分	636.分	636.5分	637.分	637.5分	638.分	638.5分	639.分	639.5分	640.分
三寸八分	640.5分	641.分	641.5分	642.分	642.5分	643.分	643.5分	644.分	644.5分	645.分
三寸九分	645.5分	646.分	646.5分	647.分	647.5分	648.分	648.5分	649.分	649.5分	650.分
四寸	650.5分	651.分	651.5分	652.分	652.5分	653.分	653.5分	654.分	654.5分	655.分
四寸一分	655.5分	656.分	656.5分	657.分	657.5分	658.分	658.5分	659.分	659.5分	660.分
四寸二分	660.5分	661.分	661.5分	662.分	662.5分	663.分	663.5分	664.分	664.5分	665.分
四寸三分	665.5分	666.分	666.5分	667.分	667.5分	668.分	668.5分	669.分	669.5分	670.分
四寸四分	670.5分	671.分	671.5分	672.分	672.5分	673.分	673.5分	674.分	674.5分	675.分
四寸五分	675.5分	676.分	676.5分	677.分	677.5分	678.分	678.5分	679.分	679.5分	680.分
四寸六分	680.5分	681.分	681.5分	682.分	682.5分	683.分	683.5分	684.分	684.5分	685.分
四寸七分	685.5分	686.分	686.5分	687.分	687.5分	688.分	688.5分	689.分	689.5分	690.分
四寸八分	690.5分	691.分	691.5分	692.分	692.5分	693.分	693.5分	694.分	694.5分	695.分
四寸九分	695.5分	696.分	696.5分	697.分	697.5分	698.分	698.5分	699.分	699.5分	700.分
五寸	700.5分	701.分	701.5分	702.分	702.5分	703.分	703.5分	704.分	704.5分	705.分
五寸一分	705.5分	706.分	706.5分	707.分	707.5分	708.分	708.5分	709.分	709.5分	710.分
五寸二分	710.5分	711.分	711.5分	712.分	712.5分	713.分	713.5分	714.分	714.5分	715.分
五寸三分	715.5分	716.分	716.5分	717.分	717.5分	718.分	718.5分	719.分	719.5分	720.分
五寸四分	720.5分	721.分	721.5分	722.分	722.5分	723.分	723.5分	724.分	724.5分	725.分
五寸五分	725.5分	726.分	726.5分	727.分	727.5分	728.分	728.5分	729.分	729.5分	730.分
五寸六分	730.5分	731.分	731.5分	732.分	732.5分	733.分	733.5分	734.分	734.5分	735.分
五寸七分	735.5分	736.分	736.5分	737.分	737.5分	738.分	738.5分	739.分	739.5分	740.分
五寸八分	740.5分	741.分	741.5分	742.分	742.5分	743.分	743.5分	744.分	744.5分	745.分
五寸九分	745.5分	746.分	746.5分	747.分	747.5分	748.分	748.5分	749.分	749.5分	750.分
六寸	750.5分	751.分	751.5分	752.分	752.5分	753.分	753.5分	754.分	754.5分	755.分
六寸一分	755.5分	756.分	756.5分	757.分	757.5分	758.分	758.5分	759.分	759.5分	760.分
六寸二分	760.5分	761.分	761.5分	762.分	762.5分	763.分	763.5分	764.分	764.5分	765.分
六寸三分	765.5分	766.分	766.5分	767.分	767.5分	768.分	768.5分	769.分	769.5分	770.分
六寸四分	770.5分	771.分	771.5分	772.分	772.5分	773.分	773.5分	774.分	774.5分	775.分
六寸五分	775.5分	776.分	776.5分	777.分	777.5分	778.分	778.5分	779.分	779.5分	780.分
六寸六分	780.5分	781.分	781.5分	782.分	782.5分	783.分	783.5分	784.分	784.5分	785.分
六寸七分	785.5分	786.分	786.5分	787.分	787.5分	788.分	788.5分	789.分	789.5分	790.分
六寸八分	790.5分	791.分	791.5分	792.分	792.5分	793.分	793.5分	794.分	794.5分	795.分
六寸九分	795.5分	796.分	796.5分	797.分	797.5分	798.分	798.5分	799.分	799.5分	800.分
七寸	800.5分	801.分	801.5分	802.分	802.5分	803.分	803.5分	804.分	804.5分	805.分
七寸一分	805.5分	806.分	806.5分	807.分	807.5分	808.分	808.5分	809.分	809.5分	810.分
七寸二分	810.5分	811.分	811.5分	812.分	812.5分	813.分	813.5分	814.分	814.5分	815.分
七寸三分	815.5分	816.分	816.5分	817.分	817.5分	818.分	818.5分	819.分	819.5分	820.分
七寸四分	820.5分	821.分	821.5分	822.分	822.5分	823.分	823.5分	824.分	824.5分	825.分
七寸五分	825.5分	826.分	826.5分	827.分	827.5分	828.分	828.5分	829.分	829.5分	830.分
七寸六分	830.5分	831.分	831.5分	832.分	832.5分	833.分	833.5分	834.分	834.5分	835.分
七寸七分	835.5分	836.分	836.5分	837.分	837.5分	838.分	838.5分	839.分	839.5分	840.分
七寸八分	840.5分	841.分	841.5分	842.分	842.5分	843.分	843.5分	844.分	844.5分	845.分
七寸九分	845.5分	846.分	846.5分	847.分	847.5分	848.分	848.5分	849.分	849.5分	850.分
八寸	850.5分	851.分	851.5分	852.分	852.5分	853.分	853.5分	854.分	854.5分	855.分
八寸一分	855.5分	856.分	856.5分	857.分	857.5分	858.分	858.5分	859.分	859.5分	860.分
八寸二分	860.5分	861.分	861.5分	862.分	862.5分	863.分	863.5分	864.分	864.5分	865.分
八寸三分	865.5分	866.分	866.5分	867.分	867.5分	868.分	868.5分	869.分	869.5分	870.分
八寸四分	870.5分	871.分	871.5分	872.分	872.5分	873.分	873.5分	874.分	874.5分	875.分
八寸五分	875.5分	876.分	876.5分	877.分	877.5分	878.分	878.5分	879.分	879.5分	880.分
八寸六分	880.5分	881.分	881.5分	882.分	882.5分	883.分	883.5分	884.分	884.5分	885.分
八寸七分	885.5分	886.分	886.5分	887.分	887.5分	888.分	888.5分	889.分	889.5分	890.分
八寸八分	890.5分	891.分	891.5分	892.分	892.5分	893.分	893.5分	894.分	894.5分	895.分
八寸九分	895.5分	896.分	896.5分	897.分	897.5分	898.分	898.5分	899.分	899.5分	900.分
九寸	900.5分	901.分	901.5分	902.分	902.5分	903.分	903.5分	904.分	904.5分	905.分
九寸一分	905.5分	906.分	906.5分	907.分	907.5分	908.分	908.5分	909.分	909.5分	910.分
九寸二分	910.5分	911.分	911.5分	912.分	912.5分	913.分	913.5分	914.分	914.5分	915.分
九寸三分	915.5分	916.分	916.5分	917.分	917.5分	918.分	918.5分	919.分	919.5分	920.分
九寸四分	920.5分	921.分	921.5分	922.分	922.5分	923.分	923.5分	924.分	924.5分	925.分
九寸五分	925.5分	926.分	926.5分	927.分	927.5分	928.分	928.5分	929.分	929.5分	930.分
九寸六分	930.5分	931.分	931.5分	932.分	932.5分	933.分	933.5分	934.分	934.5分	935.分
九寸七分	935.5分	936.分	936.5分	937.分	937.5分	938.分	938.5分	939.分	939.5分	940.分
九寸八分	940.5分	941.分	941.5分	942.分	942.5分	943.分	943.5分	944.分	944.5分	945.分
九寸九分	945.5分	946.分	946.5分	947.分	947.5分	948.分	948.5分	949.分	949.5分	950.分
一尺	950.5分	951.分	951.5分	952.分	952.5分	953.分	953.5分	954.分	954.5分	955.分
一尺一分	955.5分	956.分	956.5分	957.分	957.5分	958.分	958.5分	959.分	959.5分	960.分
一尺二分	960.5分	961.分	961.5分	962.分	962.5分	963.分	963.5分	964.分	964.5分	965.分
一尺三分	965.5分	966.分	966.5分	967.分	967.5分	968.分	968.5分	969.分	969.5分	970.分
一尺四分	970.5分	971.分	971.5分	972.分	972.5分	973.分	973.5分	974.分	974.5分	975.分
一尺五分	975.5分	976.分	976.5分	977.分	977.5分	978.分	978.5分	979.分	979.5分	980.分
一尺六分	980.5分	981.分	981.5分	982.分	982.5分	983.分	983.5分	984.分	984.5分	985.分
一尺七分	985.5分	986.分	986.5分	987.分	987.5分	988.分	988.5分	989.分	989.5分	990.分
一尺八分	990.5分	991.分	991.5分	992.分	992.5分	993.分	993.5分	994.分	994.5分	995.分
一尺九分	995.5分	996.分	996.5分	997.分	997.5分	998.分	998.5分	999.分	999.5分	1000.分
二尺	1000.5分	1001.分	1001.5分	1002.分	1002.5分	1003.分	1003.5分	1004.分	1004.5分	1005.分
二尺一分	1005.5分